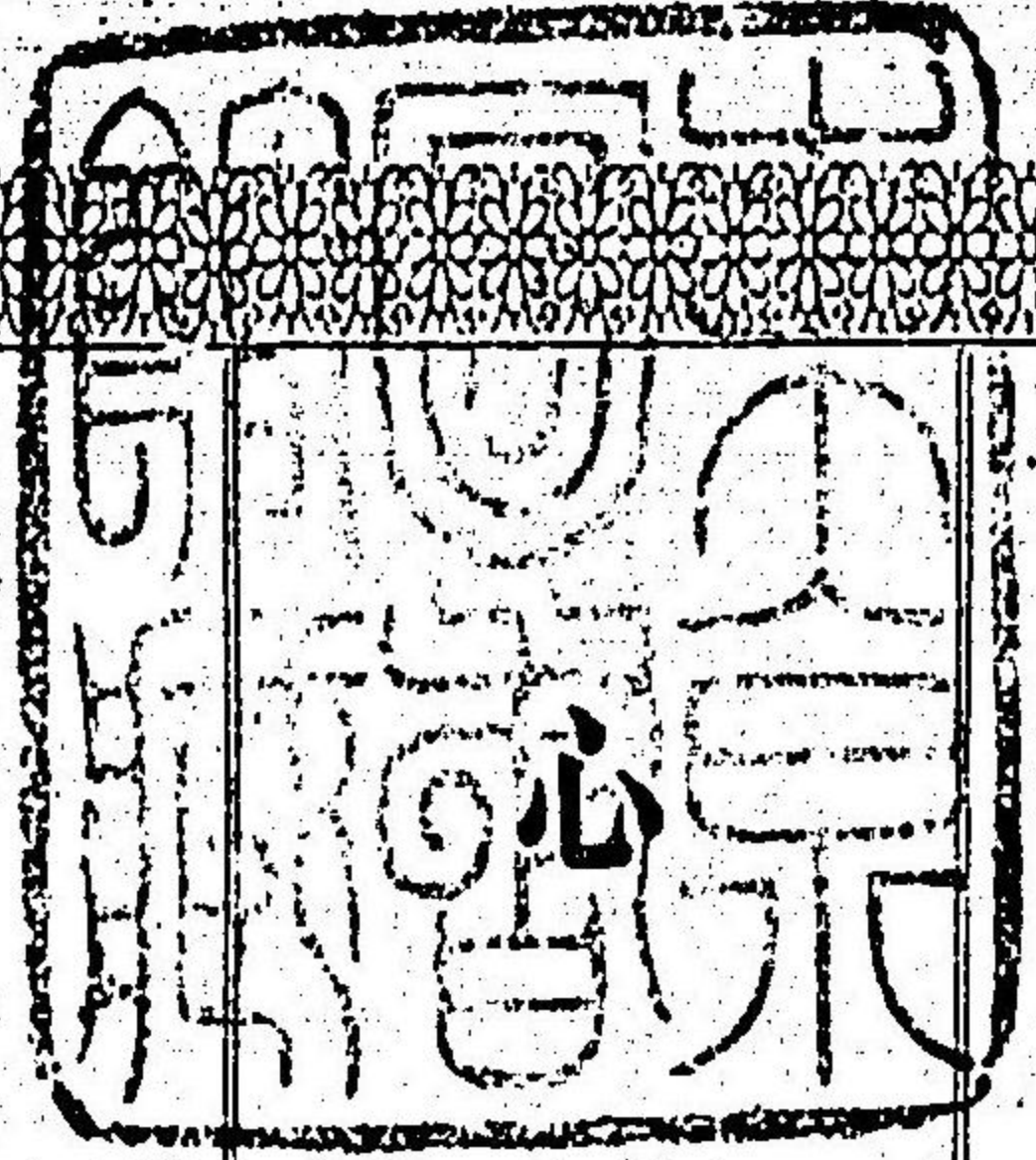


普

49381/100



教

文 科 大 學 教 授 元 良 勇 次 郎 著



理 學 全

金 港 堂 藏 版

育

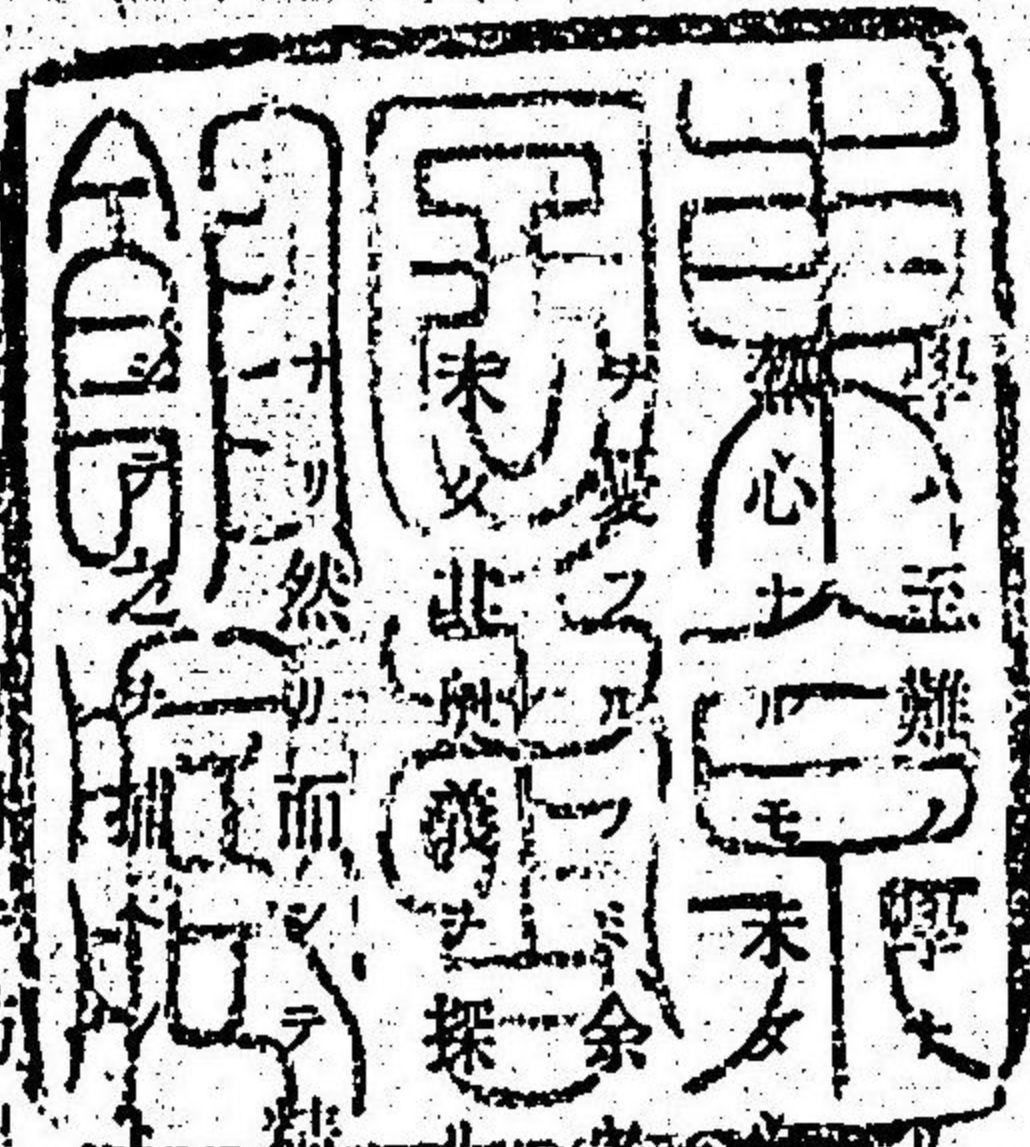
通

1889

# 心理學

緒言

米國 哲學博士 元良勇次郎



夫レ心理學ハ人間ニ直接ノ關係ヲ有スル須要ノ學ナリ、世人或ハ謂ヘラク心理學ハ至難ノ學ナリト、左レハ稗史小説ヲ愛讀スルモ心理ノ書ヲ繙カズ、政治ニハ無心ナルモ未ダ心理ノ研究ヲ好マザルモノ多シ、余ハ之ヲ咎メズ、唯其良書ナキ不肖ナリト雖モ心理ノ研究ニ意ヲ注クコト既ニ多年、而シテ得ズ、恰モ獵師ノ獲物ヲ追ヒ狙フ如ク心理ノ奧義ヲ狙フモノナリ、然リ而シテ精神ノ眞理ナルモノハ之ヲ遠望スレバ眼前ニ現ハル、モ接近欲セバ得ヘカラサル者ナリ、惟フニ往々世ノ心理學者ガ或ハ夢想ノ深林ニ彷徨シ、或ハ架空ノ樓閣ヲ畫キ、木ニ縁テ魚ヲ求ムルノ觀ヲ呈スルハ蓋シ之ヲ捕ヘント欲スルニ由リテナラン、是レ世人ヲシテ此學ハ玄妙不可思議ナルモノナリトノ思想ヲ抱カシメタル所以ナル乎。

心理ノ奧義ハ人智ノ到達スベカラサル所ニ隱蔽スルモノニ非ズ、我等ハ日常眼  
 普通教育 第壹册 心理學

前ノ事實ニ於テ心理ノ現ハル、ヲ見ルベシ、夫ノ詩歌ニ、宗教ニ、風俗ニ、政治ニ、商賣ニ心理ノ現ハル、コト多シ、何ツ殊更ラニ難澁信僞ノ科語ヲ用ヒ奧行敷ク論スルノ必要アラン、今ヤ我邦ノ文學ハ日ニ月ニ駭々乎トシテ歩ヲ進メ教育學ノ如キハ特ニ世人ノ注意ヲ促シ教育ノ良方ヲ知ランガ爲メ從テ良書ヲ求ムルノ人多キニ至レリ、然ルニ心理ノ書ハ遺憾ニモ僅々二三ノ譯書アルノミニシテ未ダ曾テ日本國ニ現ハレタル事實ヲ蒐集シテ著述サレタル書ノ出テザルハ何ツヤ果シテ需用ナキニ由ル乎、否ナ需用アリト雖モ供給者ナカリシナリ、是レ唯ダ時期ノ至ラザリシノミ、今ヤ既ニ時期至レリ、此時ニ當リテ余不肖ヲ顧ミズ可成的、我邦ノ事實ヲ蒐集シテ之ヲ材料トシ平易ノ語ヲ用ヒ以テ需用ノ幾分ヲ満足セシメント欲ス、是レ本書ヲ著述スル所以ナリ。

明治廿二年十一月

著者識

總論

心理學ノ研究

心理學ノ研究スル物ハ何ツヤ——心理學ハ人ヲ研究スルモノナリ、夫レ人ハ身體ト精神ト有スルモノニシテ、精神ハ恰モ孤島ノ如ク、其作用ハ獨リ心中ニ現ハルル

研究トセシヤ

者ナレバ、直接ニ其感覺ヲ他人ニ知ラシムル能ハズ、唯外面ニ現ハルル徵號ニ依テ其一部分ヲ知ラシムルノミ、左レハ顔色ノ如何ヲ見テ其人ノ喜怒哀樂ヲ知ルハ直接ニ精神ノ有様ヲ知リタルニ非ズシテ、唯推理ニ依リ内界ノ心象ヲ察知セルノミ、此事タル他人ノ精神界ヲ察知スルコトナリ、之ニ反シテ、單ニ身體ノミヲ他人ヨリ見ルトキハ、只一ノ動物ニ過ギザルナリ、故ニ人ハ外物ノ刺激ヲ受ケテ之ニ反動スルノミ、而シテ身體ト精神ハ互ニ密着ノ關係ヲ有シ相分離ス可カラズト雖ドモ、説明チ易カラシメン爲メ、今假リニ二者ヲ區別シテ論ゼザルヲ得ズ、故ニ先ヅ精神性質ト身體ノ性質ヲ區別シテ論シ、而シテ後チ兩者ノ關係ヲ説明セン。

意識中ノ現象

抑モ精神ノ現象ハ種類ノ如何ヲ問ハズ、總ベテ意識中ニ存在スルモノナリ、猶ホ物質ノ現象ハ悉ク空間ニ包含セララルガ如シ、然レドモ意識ナル者ハ、絶ヘズ存在スルコアラズ、睡眠中ノ如キハ存在スルコトナシ、又存在スルトキト雖トモ精神活潑ナルトキアリ、或ハ衰弱スルトキアルヲ以テ、常ニ其働キニ變動アルヲ記セザルベカラズ、而シテ精神ノ現象ニ種種アリ、即チ苦樂ノ感、物ヲ慾望スルノ情慾、物ノ道理ヲ考究スル理性等是レナリ、是等ノ現象互ニ時チ異ニシテ現ハルルトキハ相衝突

スルコトナカル可シト雖モ事實上屢諸種ノ現象同時ニ現ハルルコトアルガ故ニ  
 互ニ衝突ヲ來スコト少ナカラズ、何トナレバ意識中ニ活動セントスル無數ノ觀念  
 アリト雖モ意識ハ同時ニ唯僅少ノ觀念ヲノミ活動セシムルヲ得ルモノナレバナ  
 リ、故ニ甲ノ觀念意識中ニ現ハルルコト最モ明白ナルトキハ乙ノ觀念亦現ハルル  
 ト雖モ其明白ナルコト甲ノ觀念ニ若カザルナリ、其他丙丁ノ觀念亦現ハルルモ漸  
 次ニ微少トナルヤ言ヲ俟タズシテ知ルベシ、又時トシテ乙ノ觀念最モ明白ニシテ  
 其他ノ觀念之ニ若カザルアリ、斯クノ如ク一ノ觀念ハ明カニシテ其他ノモノハ稍稍  
 微カナルハ意識中ニ無數ノ觀念現ハレントスルモ意識ハ同時ニ之ヲ受クル能ハ  
 ザルニヨル、然リ而シテ無數ノ觀念中何レガ最モ明白ニ現ハルルヤハ人ノ選擇ニ  
 ヨリテ定マルコトアリ、又然ラザルコトアリ、而シテ各人自由ニ甲或ハ乙ヲ擇ビテ意  
 識ノ焦點ニ集合セシムルヲ得ル精神ノ力ヲ有意注意力ト云フ、又偶々一ノ觀念ガ  
 意識中ニ現ハレ活潑ノ運動ヲナシ他ノ觀念ノ現ハルルヲ防グコトアリ、之ヲ偶然  
 ノ注意ト云フ、然レバ觀念ナル者ハ無數ニシテ或ハ意識中ニ存シ或ハ意識外ニ存  
 スルコトアルヲ知ルベシ、故ニ吾人ハ過去ノ事實ヲ腦中ニ貯フルト雖モ一時回想

シ得ザルコト往々之レアリ、然レドモ其觀念ヲ消失シタルニ非ズ唯一時障礙ノ爲  
 メニ意識中ニ現ハレザルノミ、而シテ意識中ニ存在スル觀念ハ意識外ニ存在スル  
 モノニ比スレバ其數僅少ニシテ是等ハ一定ノ法則ニ從ヒ新陳代謝シテ意識中ニ  
 現ハル、モノナリ、而シテ其一定ノ法則ヲ稱シテ觀念同伴ノ法ト云フ、今仮リニ人  
 ノ五官ヲ閉ヂテ外物ヨリ刺激ヲ受クルコトナシトスルトキハ精神世界ハ外界ト  
 其緣故ヲ絶チ甲ノ觀念ハ乙ノ觀念ヲ惹キ起シ、又乙ハ丙ヲ惹キ起シ、觀念ヨリ觀念  
 ニ遷リテ人生恰モ夢ノ如ク、波ニ漂フ小舟風ニ吹カル、浮雲ト均ク自ラ其方向  
 ヲ定ムル能ハズシテ唯同伴ノ法則ニ其運命ヲ任スニ至ラン、斯クノ如ク外界ノ形  
 狀ニ關スルコトナク唯意識中ニ顯ハル、處ノ觀念ヲ稱シテ視觀的或ハ内界ノ現  
 象ト云フ、

○  
 身體ノ反動力

抑動物ノ身體ハ神經ト筋骨ヨリ成ル者ニシテ其他ノ消化機、肺臟、血液、脂肪等ハ此  
 ノ三者ヲ助クル爲メニ存スルガ如シ、而シテ神經ナル者ハ智力及ビ感覺ノ器械ニ  
 シテ筋ト骨トハ觀念ヲ外面ニ表出スルノ器械ナリ、左レバ動かカント欲スルモ手足  
 ナケレバ動ク能ハズ、又心ニ喜悅ノ情感アルモ面部ノ筋ナケレバ笑フコト得ザル

ナリ、夫レ下等動物ハ單ニ外物ノ身體ニ觸接スル者アリテ此レニ刺激ヲ與フレバ神經ハ之ニ反動シテ身體ノ運動ヲナサシムト雖モ、漸次高等ニ進ムニ從ヒ身體ノ運動ハ唯ニ外物ノ刺激ニ反動シテ生ズルノミナラズ、意識中ノ觀念モ亦動神經ヲ刺激シ筋骨ノ運動ヲ惹キ起スコアルナリ、故ニ意識ノ發達スルコト大ナルニ從ヒ觀念ハ益益外物ノ刺激ト筋骨ノ運動トノ中間ニ挾マリ大ニ二者ノ關係ヲ複雑タラシムル者ナリ、特ニ人類ニ至リテハ此等ノ關係甚々複雑ヲ極メ其間ニ直接ノ關係ヲ發見シ能ハザルコト往往コレアリ、其故ハ人類ニ於テハ意識ノ働キ最モ大ナレハ假令外物ノ刺激腦中ニ傳ハルト雖モ直ニ之ニ反動スルコトナク腦中ニ於テ其刺激ヲ吸收スレバナリ、抑モ腦中ノ吸收トハ何ツヤ、試ミコト小蛙ノ腦ヲ取り出し之レニ何物ヲモ觸接セシメズノ置クキハ少シモ運動スルコトナシト雖モ、若シ外物ノ刺激ヲ與ヘン平直ニ之レニ反動シテ手足ノ運動ヲ爲ス可シ、之ニ反シテ腦ヲ有スル蛙ハ其反動シテ運動スルコト前者ノ如ク著シキモノニ非ルナリ、又人類ノ睡眠シ腦髓働カザルトキ、若シハ脊髓ノ一部麻痺シテ外物ノ刺激ヲ腦髓ニ傳ヘザルトキハ、僅カコ外面ヲ刺激スルモ直チニ反動ヲ生シテ屢、痙攣ヲ來スコトアルナリ、

然ルニ麻痺スルコトナク、又睡眠セザルトキハ腦髓活潑ニシテ外物ノ刺激アリト雖モ、直ニ反動スルコトナク、忽チ其刺激ハ腦中ニ消失スル如ク見ユルモノナリ、左レハ腦髓ニシテ働カザルトキハ刺激ト反動トノ關係單一ニシテ明カナリト雖モ、之ニ反シテ腦髓働クトキハ外物ヨリ刺激ヲ受クルト雖モ、之ヲ吸收スルモノノ如シ、此ノ現象ヲ稱シテ腦髓ノ吸收力ト云フ。

身體ト精神ト  
一致  
前述セル所ハ精神ト身體トヲ假リニ區分シテ見タルモノナリト雖モ、其實斯ク區分セラルルモノニ非ザレバ一步ヲ進メテ人類全體ニ於ケル其活動ノ有様ヲ述ベザルヲ得ズ、然レドモ精神ノ説明ハ後章ニ譲リ、心理學ニ密着ノ關係ヲ有スル左ノ四點ニ就キテ其大意ヲ陳述セントス、即チ五官腦髓意識及ヒ筋骨是レナリ、夫レ身體ハ精神ノ器械ナリトハ普ク稱スル所ナリト雖モ、此說タル一方ニ偏スルノ嫌ナキ能ハズ、何トナレバ他ノ一方ヨリ觀察スレバ精神ナルモノハ又身體ノ附屬物ナリト云フモ不可ナケレバナリ、換言スレバ精神ト身體トハ相須ツテ始メテ完全ナルモノナリ、故ニ精神ト身體トハ如何ニ相助ケ合フヤノ理ヲ知ルハ人ノ人タル所以ヲ知ルモノト云フ可シ。

單一ナル身體ノ構造ハ總テ細小ノ細胞ヨリ成ル如ク精神ノ組織ハ最モ單一ノ感覺ヨリ成ルモノナリ例ヘハ一點ノ光線眼中ニ入ルトハ光ノ感覺ヲ生マ又一ノ木片ヲ以テ體ノ表面ヲ刺激スルトキハ一ノ感覺ヲ惹キ起スガ如シ此ノ單一ナル感覺ハ物理的ニ云ヘハ外物ノ刺激ナリト雖モ精神的ニ云ヘハ感覺トナル故ニ外物ノ五官ニ觸ルルト云フモ又精神中ニ感覺ヲ惹キ起スト云フモ畢竟同一物ノ兩端ヲ云フノミ其ノ同一物トハ何ツヤ神經ノ働キ是レナリ外物ノ五官ニ接觸スルトキハ神經ハ其ノ爲メニ刺激ヲ受ケ又神經ノ刺激サルトキハ精神ノ感覺ヲ生ズルナリ故ニ神經ノ刺激ハ一方ニ於テハ外物ノ接觸ト直接ノ關係ヲ有シ他ノ一方ニ於テハ精神ノ感覺ト直接ノ關係ヲ有ス是レ神經ノ働キハ精神活動ノ基礎タル所以ナリ然シテ外物トノ關係ハ後篇ニ譲リ今神經ノ働キト精神現象トノ關係ニ就キ少シク左ニ説明セシ

印象及腦ノ變  
神經ハ一度刺激サルルヤ其刺激ヲ腦髓ニ傳ヘ腦髓ハ直チニ是レニ反動シテ筋ノ運動ヲ生ゼシムルコトアリ或ハ其刺激ヲ吸收スルコトアリ而シテ其反動スル更ト吸收スルトナ問ハズ神經ヨリ來レル刺激一度腦髓ニ傳ハルトキハ細胞ノ組織

ニ於テ變更ヲ生ズルナリ例ヘハ山上ニ雨降り山腹ニ添フテ流下スルトキハ山腹中最モ低キ所ニ流ル故ニ低キ所ハ益低クナリ斯クノ如クスルコト數度ニ及ビ終ニハ谷川トナルナリ是レ其雨水ノ一度流下スル毎ニ山腹ノ表面ニ些細ノ變更ヲ生ズルコト屢ナリシニ由ル之レト同シ次第ニテ腦髓ハ神經ノ刺激ヲ受ケテ其組織中ニ變更ヲ生ズルナリ而シテ其變更或ハ永久腦中ニ存在スルコトアリ或ハ直チニ腦中ニ於テ消滅スルコトアリ其永久腦中ニ存在スルトキハ即チ記憶トナルナリ斯クノ如クシテ單一ナル神經ノ刺激ガ單一ナル精神ノ感覺ヲ惹キ起シ或ハ其記憶ヲ蓄フル如キコトハ下等ノ動物若クハ小兒ノ生活ニ於テモ存在スルコトニシテ實ニ精神活動ノ元始ナリト云フベシ然リ而シテ神經ノ刺激ヲ受クルコト數度ニ及ベハ腦中ノ變更ハ漸次ニ複雜トナリ隨テ精神ノ活動モ亦大ニ複雜トナルナリ其時ニ至リ腦中ニ生ジタル變更ハ單一ナル刺激ノ印象相重ナリテ成リタルモノナレバ既ニ複雜ナリト雖モ其各個ノ印象ガ元來ノ形ヲ失フコト甚ダ稀ナリ故ニ此點ヨリ言ヘバ白紙ノ上ニ文字或ハ繪畫ヲ重テ印刷シタルト大ニ異ナリテ幾度其神經ノ印象ヲ重マルモ互ニ區別スルコトヲ得ルナリ夫レ然リ而シテ

數多ノ印象ハ互ニ連絡シテ存シ、若シ其内ノ一ツノ印象ヲ刺激シテ活動セシムルトキハ其他ノ印象モ亦引キ續キテ活動スルモノナリ、試ミニ一個人アリテ其人ノ腦髓ハ既ニ述ベタル如キ複雑ナル印象ニヨリテ充滿セリト假定セヨ、今其人ノ耳目ヨリ單一ナル刺激ヲ受クルトキハ管ニ其刺激ニ對スル單一ナル感覺ヲ生ズルノミナラズ共ニ連絡スル數多ノ印象モ亦同時ニ活動シテ此等ノ印象ニ對スル感覺ヲ惹キ起シ複雑ナル精神ノ活動ヲ生ズルナリ、例ヘバ鐘ノ音ハ單一ナル聽神經ノ刺激ヲ惹キ起スト雖モ、一度其音ノ耳中ニ達スルヤ管ニ音響ノ感覺ヲ生ズルノミナラズ火事ハ何處ニアルヤ、其邊ニハ我が友人ナキヤ、何某ノ家屋ハ安全ナルヤ等其他種々ノ感覺ヲ惹キ起シ人ナシテ活動セシムルニ至ル、上ニ述ブル處ヲ以テ見レバ始メ生活ノ極メテ單一ナルトキハ一ツノ刺激アレバ必ズ其レニ對スル單一ナル感覺アリト雖モ、生活ノ益複雑ナルニ從ヒ印象相重ナルコト多クナリ、隨テ些少ナル活動ノ爲メニ複雑ナル精神ノ活動ヲ惹キ起スニ至ルモノナリ。

刺激ト反動トハ相分離スベカラザルモノナリト雖モ、腦髓ニ吸收力アルガ故ニ假令刺激アルモ直チニ反動ノ顯ハレザルコトアリ、斯クノ如キ場合ニ於テハ彼ノ

在競

刺激ノ腦髓ニ達スルヤ精神中種々ノ觀念ヲ惹キ起シ此等ノ觀念ハ互ニ生存競争ヲ始ムルナリ、其生存競争トハ所謂思慮スルコトニシテ彼レ是レ思ヒ廻スチ云フ、試ミニ或ル人父母ノ家ヲ離レ遠國ニアリテ商業ニ從事スルト假定セヨ、一日故郷ヨリ電報來リ報ヲテ曰ク、父大病ナリ早ク歸レト、此ノ電報ヲ一讀スルヤ眼ヨリ入り來ル刺激ハ僅カニ十五字ノ假名ニ過キスト雖モ、其報知一度精神ニ達スルヤ俄カニ種々ノ觀念ヲ惹キ起シ、一方ニ於テハ直チニ父ノ許ニ歸ラントスルノ觀念ハ動神經ノ助ケニヨリテ手足ヲ動かシメ歸國スルノ用意ヲナサントス、其時又他ノ一方ニ於テハ若シ今直チニ歸國セバ商法上大ニ損失ヲ來スノ恐アリ、故ニ今日ヲ猶豫セントノ觀念起リテ歸國スルコトニ反對ス、又他ノ一方ヨリ損失ノ如何ニ大ナルニモ拘ラズ一時モ速カニ父ノ許ニ歸ルベシトノ觀念起リテ競争ヲ試ム、斯クノ如ク競争スルコト數分或ハ數時間ニシテ此等ノ觀念中一ツノ觀念ハ其他ノ觀念ニ打チ勝チ爰ニ於テカ競争終リ思想定マルナリ。

有意ノ運

抑モ觀念ハ活動ニシテ絶エズ意識中ニ新陳代謝スルモノナリ、而シテ此レニ一定ノ法則アリ、觀念ヲ意識中ニ呼び起スニ二様ノ方法アリ、則チ同伴ノ法ニヨリテ

他ノ概念ノ爲メニ惹キ起サルルコトアリ、又新ニ五官ヨリ來レル神經ノ刺激ニヨリテ惹キ起サルルコトアリ、然リト雖モ其惹キ起サルルノ方法何レニアルモ既ニ意識中ニ顯ハレタルトキハ其性質ニ於テ違フ處ナシ、概念ノ一度意識中ニ顯ハレ出ヅルヤ既ニ論ヲタル如ク種々ノ概念互ニ競争ヲナシテ後一ツノ概念他ノ概念ニ打チ勝ツナリ、是レヲ決心ト云フ、故ニ心中意ヲ決スルヤ唯一ツノ概念意識中ニ存在ス、此ノ概念ノ働キニ二様アリ、即チ同伴ノ法ニヨリテ他ノ概念ヲ惹キ起スコトアリ、又其概念直チニ動神經ニ働キテ身體ノ運動ヲナサシムルコトアリ、斯クノ如ク概念ノ刺激ニヨリテ身體ノ運動ヲ生ズルトキハ是レヲ有意ノ運動ト云フ。

上ニ述ブルハ心理學全體ヲ簡單ニ陳述シタルモノニシテ本書ニ於テ論セントスルノ範圍ト其趣旨ノ大體ヲ示シタルモノナレバ尙ホ本書ノ全章ニ於テ其詳細ヲ論述セントス。

觀念ノ定義——概念トハ意識中ニ顯ハレタル諸現象ヲ云フ、而シテ概念ニ單一ナルアリ又複雜ナルアリ、感覺ノ如キハ最モ單一ナルモノニシテ五官ニ觸ルルモノチ其儘意識中ニ受ケ入レタルモノナリ、情緒ノ如キハ複雜ナル概念ナリ、例ハ

花月ヲ見テ心中愉快ヲ感ズルハ嚴冬ニ火ヲ以テ體ヲ暖ムルノ感覺トハ大ニ違フモノナリ、蓋シ花月ニヨリテ得タル感覺ハ必ズシモ多クノ快樂ヲ生ズルニ非ズト雖モ、此ノ感覺ハ雷ニ花月ニ止マラズ同伴法ニヨリ其他多クノ概念ヲ惹キ起スガ故ニ大ニ複雜トナルナリ、彼ノ安倍仲磨紀元一千三百六十八年生ガ唐ニ在リテ月ヲ眺メタリシトキハ其心中雷ニ月ヲ知覺セシノミナラズ、其月ニヨリ春日ナル三笠ノ山ヲ思ヒ出シ夫レヨリ我が家ノコト迄モ思ヒ出スニヨリテ終ニ彼ノ天ノ原入りさけ見れば春日なる三笠の山出でし月かもノ歌ヲ讀ムニ至リシコトナラン、然リ而シテ物質世界ハ千變萬化セル物質的現象ヨリ成ル如ク精神ハ千種萬様ノ概念ヨリ成ルモノナリ。

同伴法トハ種々ナル概念相互ニ聯合スル法ニシテ即チ多數ノ概念意識中ニ新陳代謝スルノ順序ヲ整フルノ法ヲ云フ。

意識トハ一種ノ能力ニ非ズ、精神界ノ現象ヲ總括シタルモノナリ、譬ヘバ空間ハ物質ノ現象ヲ含有スルモノナルガ如ク、意識ハ精神ノ現象ヲ含有スルモノナリ、精神トハ英語ノ「めんたる」或ハ「エンサック」ナル語ト同意ニシテ物質的現象ニアラ



ザルモノノ總名ナリ、而シテ通常活潑ナル人ヲ指シテ精神ノアル人ト云ヒ、或ハ議論ノ勢及ビ方針ヲ指シテ議論ノ精神ト云フト雖モ、本書ニ於テ用フル精神トハ此等ノ義ニアラザルナリ。

義ノ感覺

感覺トハ外物ノ五官ニ接觸シ或ハ筋ノ收縮ニヨリテ惹キ起サレタル神經ノ動作ヲ云フコトアリ、又其神經ノ動作ニヨリテ惹キ起サレタル精神ノ動作即チ單純ナル觀念ヲ云フコトアリ、本書ニ於テ用フル所ハ第二ノ意味即チ外物ヨリ惹キ起サレタル單純ノ觀念ヲ顯ハスモノナリ。

義ノ智力

智力トハ複雜ナル觀念相互ノ比較及ビ關係ヲ示スモノニシテ別ニ一種ノ勢力アルニアラズ、唯觀念ノ現ハルル一種ノ形狀ニ過ギザルナリ。

義ノ情緒

情緒トハ複雜ナル觀念ノ動作ヨリ起レル苦或ハ樂ノ感ヲ云フ。

義ノ意志

意志トハ一種ノ勢力ニアラズ、唯種々ノ觀念ガ生存競争シテ終ニ一ツノ觀念其他ニ打テ勝ツトキ其觀念ガ動神經ニ刺激ヲ與ヘ筋骨ノ運動ヲ生ズ、斯クノ如キ動神經ニ於ケル觀念ノ作用ヲ意志ト云フ。

義ノ五官

抑モ五官ナル語ハ昔時人智開發セザルトキニ於テ耳、目、鼻、口、皮膚ノ五官ノミガ

外物ヨリ腦ヲ刺激スル門戸ノ如ク思フヨリ終ニ五官ノ名ヲ下シタルモノナラン、然レドモ其他ニ筋肉收縮ノ感飢渴ノ感、疲勞ノ感等ノ如キハ皆神經ノ周圍ヲ刺激スルヨリ起ルモノナレバ本書ニ於テハ五官トハ管ニ彼ノ耳、目、鼻、口、皮膚ノミニ限ラズ總テ神經ノ周圍ヲ含有スル總名トシテ用フルモノナリ。

義ノ心理學及哲學

心理學ト諸學トノ關係——心理學ト哲學トハ大ニ異ナルモノナリ、心理學ハ人ヲ研究スル學ニシテ哲學ハ萬有神靈及ビ人間ノ存在スル根元ヲ研究スル奧妙ノ學ナリ、然リト雖モ此等ノ二學屢同一視サレタルハ其理ナキニアラズ、心理學研究ノ方法明カナラザルトキハ世人心理ヲ研究スルニ外界ノ事實ヲ利用スルコトナク自己ノ想像ヲノミ重ナル基本トナセリ、故ニ世人ハ哲學ト同ク心理學ヲシテ形而上ノ學ニ位セシメ此等二學ヲ同一類ノモノナリト見做スニ至リタルナリ、然レドモ心理學ハ全ク形而上ノモノニアラズ、鑿口形而上ノ學即チ哲學ト形而下ノ學即チ科學トノ間ニ跨リテ二者ノ關係ヲ定ムルモノナリト云フベシ。

義ノ心理學及科學

心理學ト科學トハ密ナル關係アリ、佛國ノ碩學ユン・ド・トス・此レヲ簡單ヨリ始メ複雜ニ移ルノ順序ニ數フレバ即チ數學、星學、物理學、化學

學、生物學、社會學是レナリ、而シテ氏ハ心理學ヲ生物學ノ一部トナシタリ、故ニ氏ノ  
 說ニ因レバ心理學ハ生物學ト直接ノ關係ヲ有シ該學中最モ高尚ナルモノナリ、氏  
 ガ心理學ト哲學ノ關係ヲ説カザルハ少シク偏スルノ傾キアリト雖モ、心理學ト科  
 學トノ關係ニ至リテハ氏ノ解説明白ニシテ著者ノ大ニ感服スル所ナリ。

心理學ハ生物學中最モ複雑ナリト雖モ、社會學ニ比スレバ稍々單ナルモノナリ、  
 夫レ一己人ハ社會ヲ組織スル元素ナリ、去レバ元素ノ性質ヲ知ラズシテ全體ノ組  
 織ヲ了解スル能ハザルヤ明カナリ、世人心理學ヲ知ラズシテハ、社會ノ運動ヲ研究  
 シ或ハ之ヲ改良スル能ハズ、社會ノ組織ハ人間ノ性質ニ適セザルベカラズ、然ラザ  
 レバ如何ニシテ良好ナル社會ヲ組織シ得ルノ理アランヤ。

### 感覺

#### 第一章 五官

吾人ノ身體ヲ組織スルニハ種々ノ細胞アリ、又纖維アリト雖モ其中精神ニ直接  
 ノ關係ヲ有スルハ神經ノ系統是レナリ、神經系統ナルモノハ腦髓、脊髓及ビ其他ノ  
 神經ヨリ成ルモノニシテ腦髓ト脊髓トヲ合シテ之ヲ腦脊髓或ハ神經系統ノ中央  
 ト云フ而シテ神經ノ脊髓ヨリ出テ身體ノ所々ニ配布スルモノヲ脊髓神經ト云ヒ、  
 又面部及ビ頭部ノ神經ハ腦髓ヨリ直接ニ出デ來ルモノナレバ腦神經ト云フ、腦神  
 經ト脊髓神經トハ神經系統ノ中央ヨリ起リ耳、目、鼻、口、皮膚及ビ筋肉ニ至リテ終ル  
 モノナリ、之ヲ車輪ニ譬フレバ腦脊髓ハ恰モ轂ニシテ神經ハ猶ホ輻ノ如シ、故ニ神  
 經ノ耳、目、鼻、口等ニ於テ終ル處ノ邊端ヲ稱シテ神經ノ周圍ト云フモ敢テ不可ナカ  
 ルベシ。

神經ニ二種ノ區別アリ、感神經反ビ動神經是レナリ、感神經トハ神經ノ周圍ニ受  
 ケタル刺激ヲ中央ニ傳フルノ機關ニシテ動神經ハ中央ニ於テ受ケタル神經ノ刺  
 激ヲ筋肉ニ傳ヘ、其收縮ヲ惹キ起ス爲メノ機關ナリ、去レバ感神經ハ外物ノ五官ニ

接觸シテ之ヲ刺激シ精神ノ働キヲ惹キ起スノ道路ニシテ動神經ハ內心ノ觀念ヲ外ニ顯ハスノ機關ナリト云フ可シ。

刺激ノ種類

抑モ外物ノ神經ヲ刺激スルヤ種々ノ方アリ、光線ノ身體ニ觸レテ神經ヲ刺激スルヤ、聽神經又ハ臭神經ヲ刺激スルコトナク唯視神經ヲ刺激シテ精神中光リノ感覺ヲ生ゼシム、又音響ノ神經ヲ刺激スルヤ、唯耳ノ機關ニ由リテ其目的ヲ達スルヲ得ルノミ、瓦斯體ノ物質直接ニ身體ニ觸レテ神經ヲ刺激スルヤ、唯臭神經ヲ刺激スルコトヲ得ルノミ、化學的ノ作用ニ由リテ神經ヲ刺激スルハ舌ノ機關ニ由リテ之ヲ爲スコトヲ得ルナリ、斯クノ如ク五官中ニ各分業ノ法アリテ各神經ハ其特性ニ從フテ外物ノ刺激ヲ受クルモノナリ、然リト雖モ、熱或ハ接觸ヨリ惹キ起サル所ノ刺激ヲ受クル如キハ神經一般ノ通有性ナルガ如シ、蓋シ身體ノ如何ナル部分ニ於テモ熱ニ感ゼザル所ナク、又外物之ニ觸ルルトキハ感覺ヲ生ゼザルコトナケレバナリ、而シテ又筋肉ト神經トノ關係ハ二様ニ區別セザル可カラズ、其一ハ筋肉ト動神經トノ關係ニシテ筋肉ノ收縮スルニ於テハ缺クベカラザルモノナリ、其二ハ筋肉ト感神經トノ關係ニシテ筋肉ハ動神經ノ刺激ヲ受ケテ收縮シ、又其收縮ニ由

リテ感神經ニ刺激ヲ與ヘ、而シテ筋肉ノ感ト稱スル一種ノ感覺ヲ惹キ起スモノナリ。

腦髓研究ノ困難

諸種ノ感覺ヲ惹キ起スニ就テ何レノ神經ガ何レノ感覺ヲ惹キ起スヤノ問題ニ至リテハ説明スルコト容易ナラズ、今日腦脊髓ノ解剖日々ニ進ミ腦ト精神トノ關係ヲ研究スル人少ナカラズト雖モ、解剖ニ用フル腦ハ既ニ死シタルモノナレバ素ヨリ其作用ヲ十分ニ知ルコト能ハザルヤ明カナリ、又下等動物ノ腦ヲ試驗ニ用フルコトアリト雖モ、素ヨリ下等動物ノ腦ハ人間ノ腦ト等シカラザルノミナラズ、殊ニ腦ト精神トノ關係ニ至リテハ大ニ異ナルモノナレバ下等動物ニ於ケル腦ノ作用ヲ視テ人間ノ精神ヲ察知スルハ十分ノ論法ニアラズ斯クノ如ク其等ノ關係ヲ研究スルコト甚ダ困難ナルニモ拘ハラズ既ニ種々ノ研究アリテ發明サレタルコト少ナカラズ、然リト雖モ是等ノ研究ハ生理學ノ一部若シハ生理的心理學ニ屬スルモノナレバ本書ニ於テハ委シク之ヲ論ズルヲ好マズ、唯二三ノ要點ヲ示スノミ、凡テ神經ハ二種ノ物質ヨリ成ル、即チ灰白質及ビ白質是レナリ、腦神經、脊髓神經及ビ脊髓ニ於テハ白質外面ニ有リテ灰白質内部ニ有リ(第一及ビ第二圖ヲ見ヨ)之

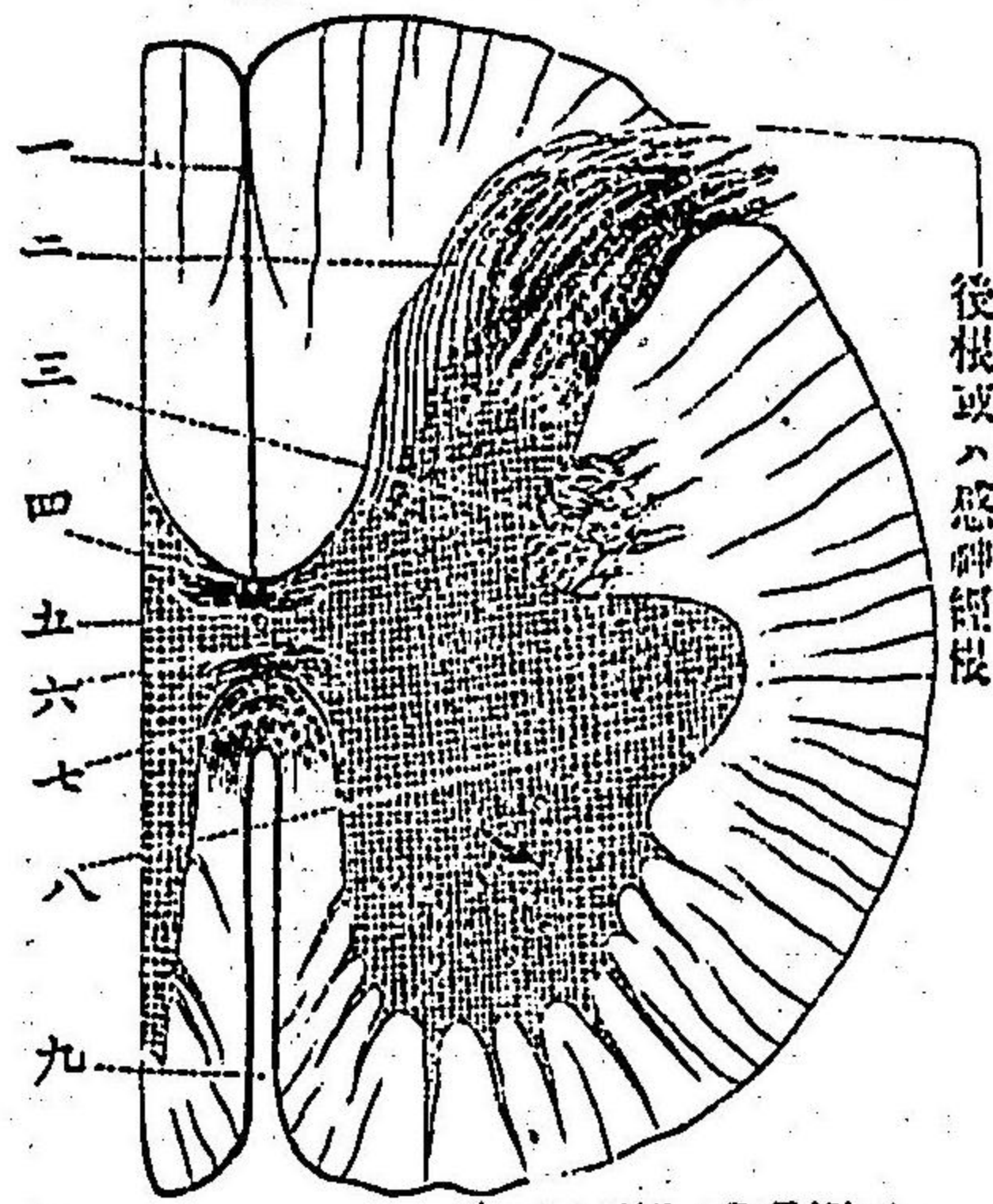
第一圖



一、後中央解裂  
二、ロラント膠質  
三、網狀質  
四、後縫  
五、中央溝  
六、前縫  
七、同  
八、側角  
九、前中央解裂

ニ反シテ腦ニ於テハ、  
灰白質ハ外部ニアリ  
白質ハ内部ニアリ

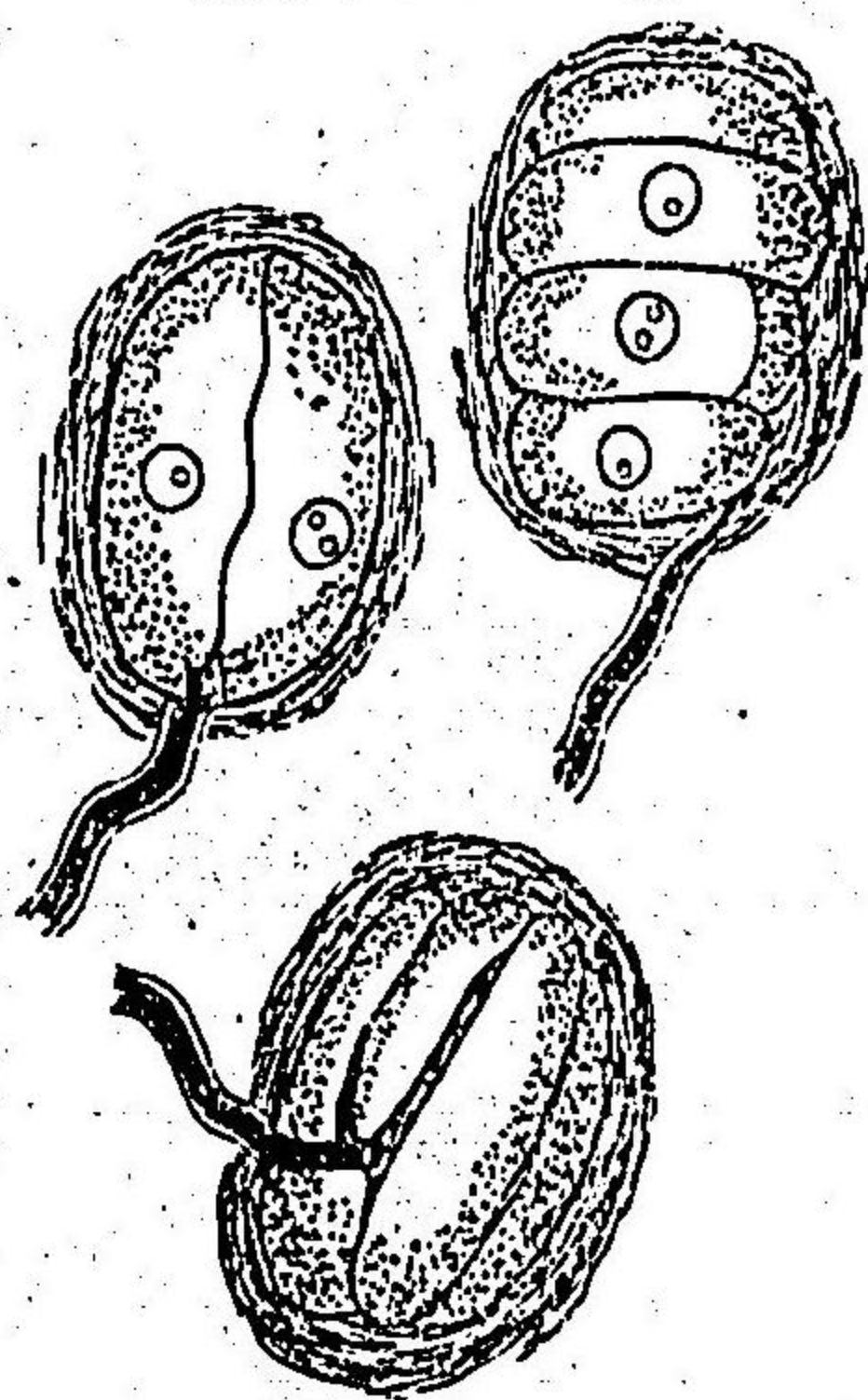
第二圖



一、後中央解裂  
二、ロラント膠質  
三、網狀質  
四、後縫  
五、中央溝  
六、前縫  
七、同  
八、側角  
九、前中央解裂

ナリ、腦ノ迂回ハ即チ灰白質  
ヨリ成レリ(第七圖ヲ見ヨ)然  
シテ之ヲ其ノ性質ヨリ區別  
スレバ白質ハ重モニ纖維ヨ  
リ成ルモノニシテ灰白質ハ  
重モニ細胞ヨリ成ルモノナ  
リ、實ニ精神ノ働キニ直接ノ  
關係ヲ有スルモノハ此灰白  
質中ノ細胞ナリ、而シテ是等  
細胞ノ形狀一定ナラズ、腦中  
ニ存スルモノハ脊髓中ニ存

第三圖



スルモノト自ラ其ノ形狀ヲ異ニス、又脊髓中  
ト雖トモ所ノ異ナルニ從ヒ又其ノ形狀ヲ變  
ズルナリ、今細胞トハ如何ナルモノナルヤヲ  
明カニセン爲メ種種ナル神經細胞ノ圖ヲ左  
ニ示サントス。

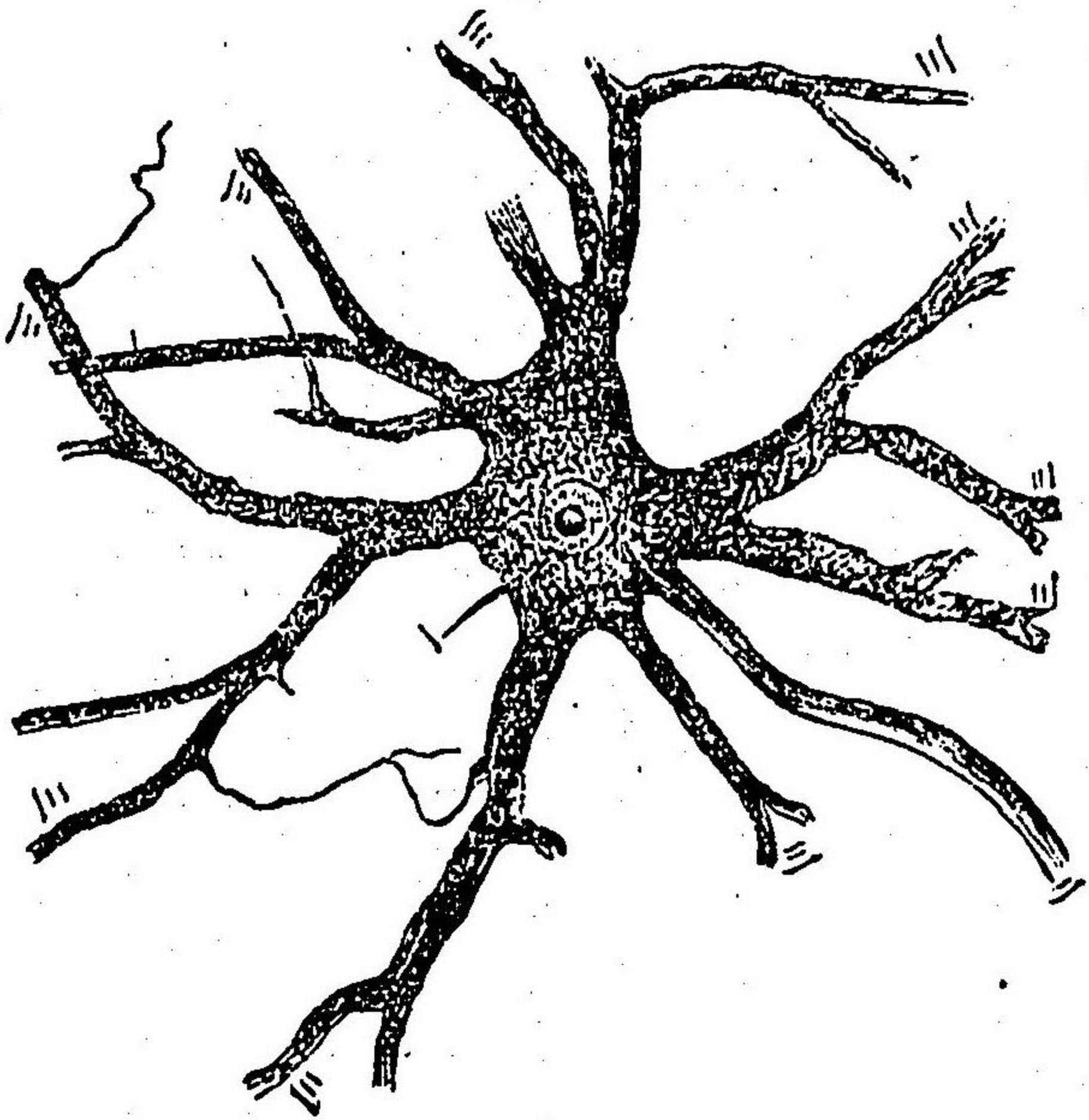
第三圖ハ鷲ノ嘴ヨリ取リタル細胞ナリ、第  
四圖ハ牛ノ脊髓ヨリ取リタルモノナリ、第五

圖ハ觸覺神經ノ周圍ニアルモノナリ、第六圖ハ網膜ノ細胞ナリ。

細胞ノ活  
動ノ如ク其ノ形狀種種ナリト雖ドモ總テ刺激ニ感シ易キ通有性ヲ有スルモノナ  
リ、故ニ外物ノ五官ニ觸ルルヤ先ツ五官中ノ細胞ニ刺激ヲ與ヘ、次ニ神經ヲ傳フテ

腦中ノ細胞ニ刺激ヲ與フルナリ、而シテ腦ノ細胞一度刺激ヲ受クルトキハ此ニ二様  
ノ反動アルヲ知ル、其一ハ今受ケタル刺激ヲ次ノ細胞ニ傳ヘ、夫ヨリ又次ニ傳ヘ終  
ニハ動神經ノ中央ヲ刺激シテ筋骨ノ運動ヲ生ズルコト、其ノ二ハ細胞ノ刺激ヲ吸  
收スルコトニシテ外ヨリ受ケタル刺激ヲ又他ニ傳フルコトナク細胞中ニ於テ其

圖 四 第

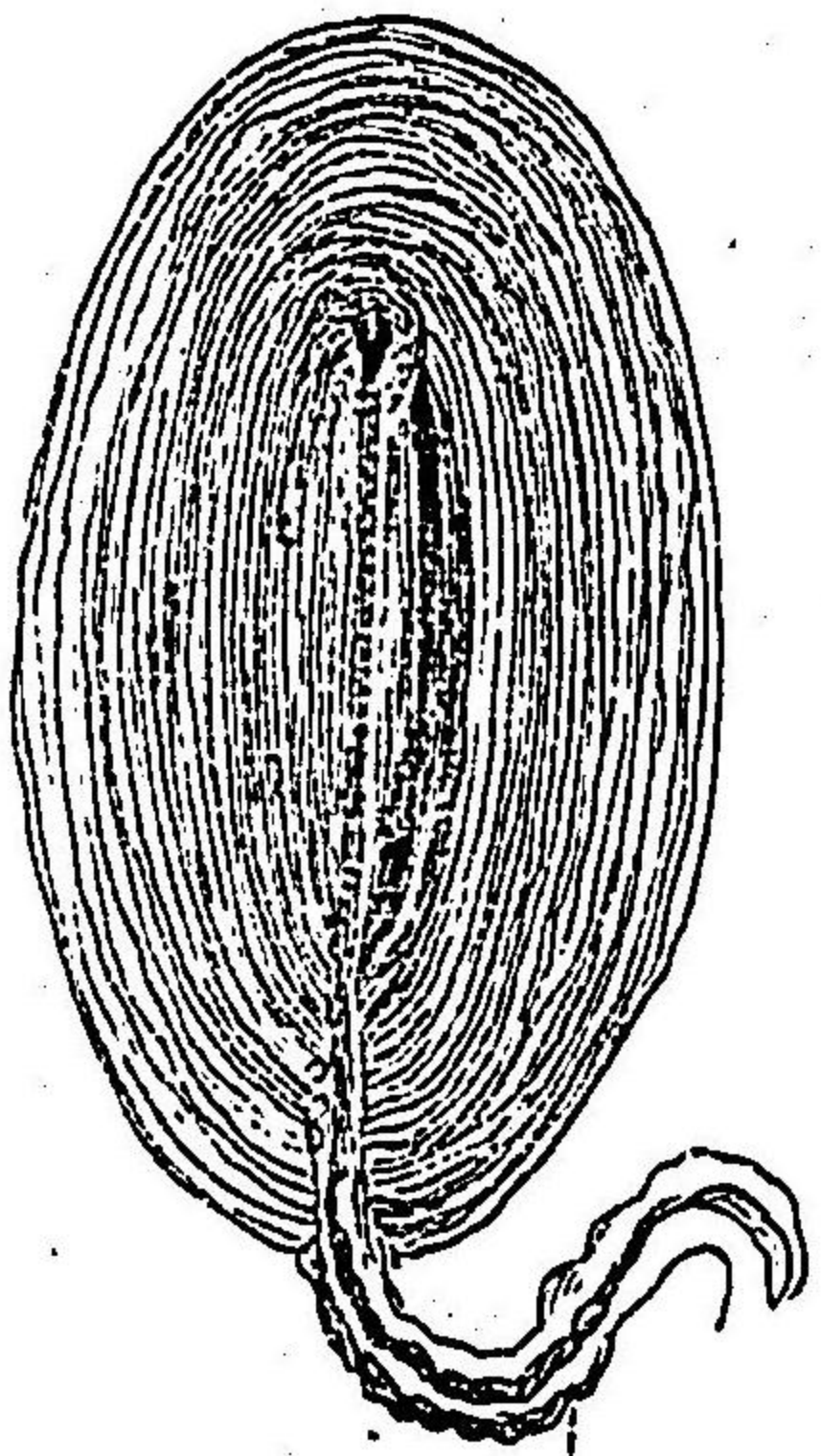


- 一、核
- 二、神經軸
- 三、細胞枝

スルモノナリ、斯クノ如ク五官ヨリ刺激ヲ受ケ又同時ニ其多分ハ皆消滅スルモノ

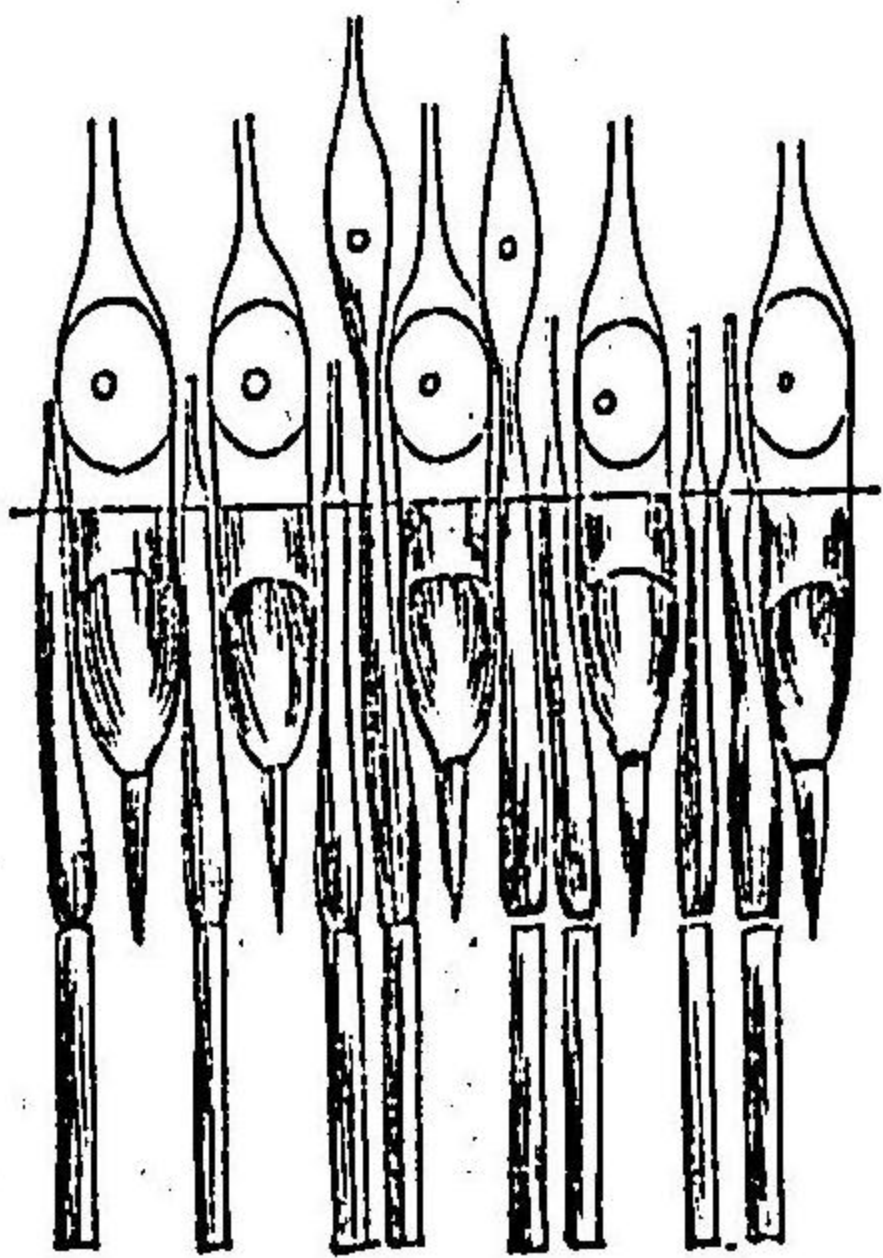
ノ刺激ヲ消滅スルコトナリ、熟ラ腦中ノ有様ヲ想像スルニ五官ハ絶エズ多少ノ刺激ヲ腦中ニ與フルコトナレバ所所ノ神經ヨリ刺激ヲ受クルコト恰モ多數ノ小流ノ諸方ヨリ絶エズ湖水ニ注入スルガ如シ、然リ而シテ其ノ刺激ノ小部分ハ直チニ腦ノ細胞ノ反動ニ由リテ動神經ノ刺激トナリ、他ノ部分ハ細胞ニ吸收セラレ其所ニ消滅

圖 五 第



神經

圖 六 第

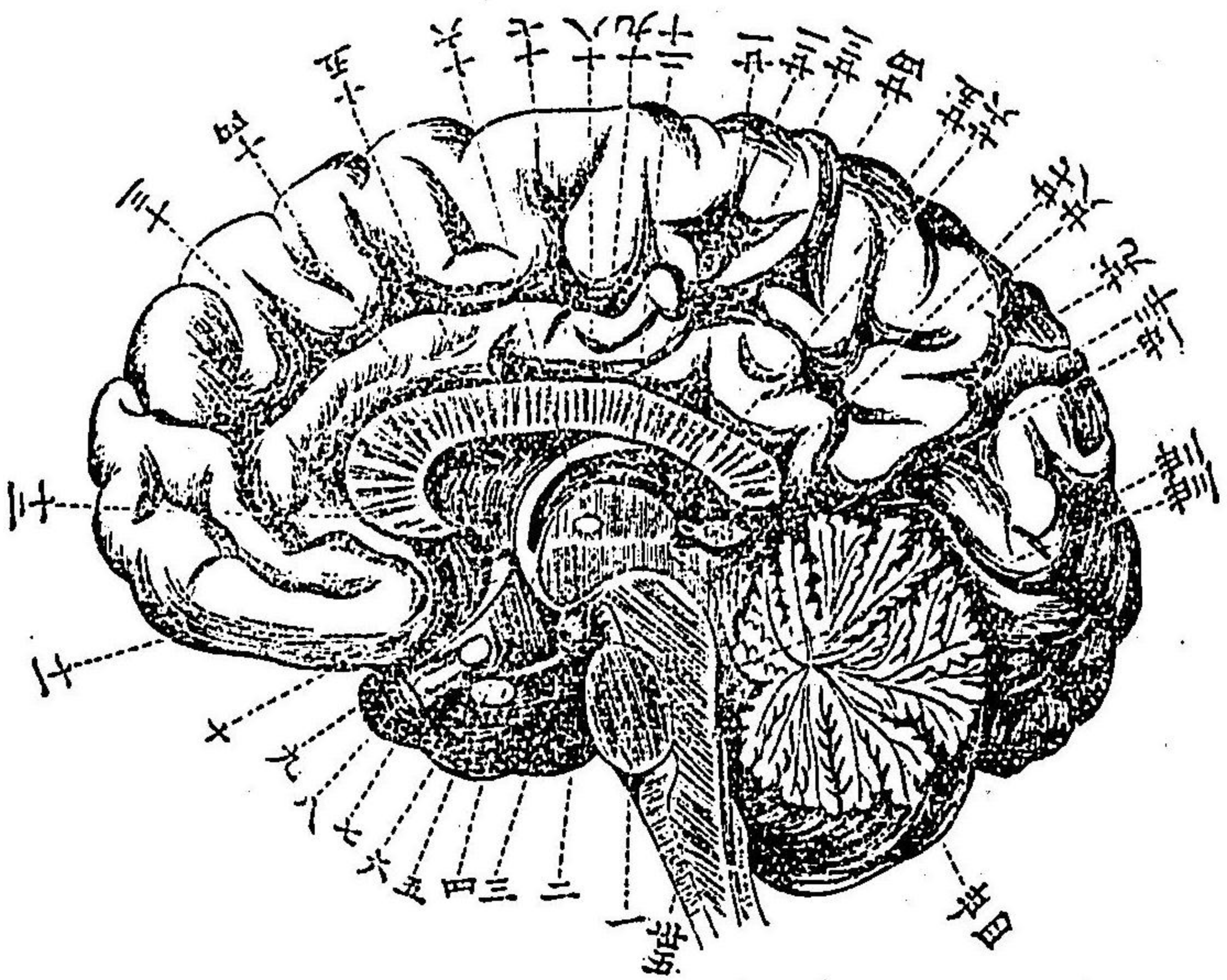


ナレバ腦中ハ恰モ絶エザル波瀾ノ動搖スル海面

ノ如ク常ニ活動スルモノナリ、蓋シ腦髓ハ精神活動ノ基本ナレバ其ノ細胞ノ激動スル毎ニ必ズ精神ニ多少ノ感覺ナキ能ハザルナリ、夫レ然リ然リト雖トモ無數ノ小感覺ハ或ハ激シ或ハ滅シテ瞬間モ確固タルコトナシ、故ニ我等ノ精神中一一夫等ノ感覺ヲ認識スルコト能ハズト雖トモ是等無數ノ感覺存在シテ精神現象ノ基本ヲ爲スコトハ確乎トシテ疑フ可ラザル事實ナリ、尙ホ詳ニ其理ヲ説明セン。

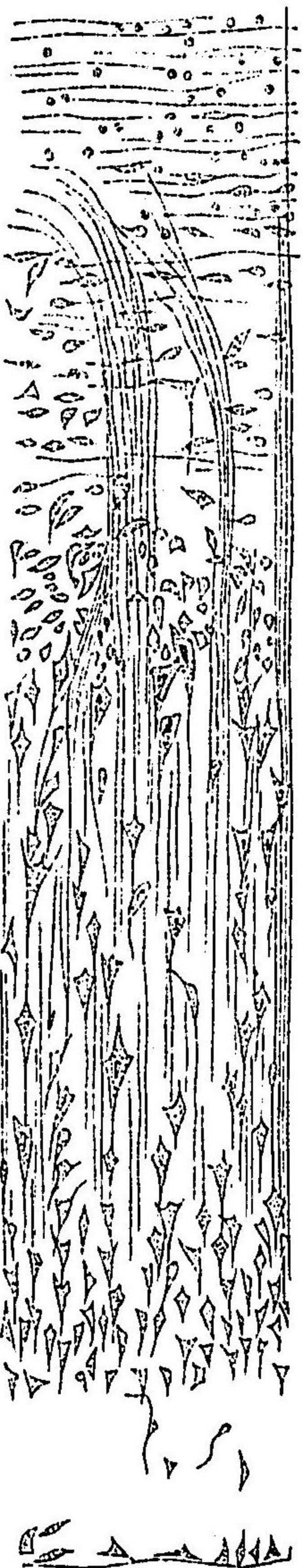
些細ナル無數ノ感覺等ハ皆絶エズ、我等ノ五官ニ觸レザルコトナシ、又身體ノ外部ニ接近スル衣服ア

リ内部ニ血  
液等アリテ  
此等ハ絶エ  
ズ五官ヲ刺  
激スルハ物  
理學上ノ事  
實ナリト云  
フ可シ、而シ  
テ音響ノ如  
キハ絶エズ  
聽神經ヲ刺  
激スルモノ  
ナリト雖ド  
モ高キ音響



- 二十四
- 一、パロリ橋
  - 二、
  - 三、精液腺
  - 四、内障眼
  - 五、
  - 六、海馬片
  - 七、鈎迂回
  - 八、視神經
  - 九、パイフ縫
  - 十、前縫
  - 十一、前縫迂回
  - 十二、モンロー孔三十、
  - 十三、前縫迂回
  - 十四、胼胝體
  - 十五、莖隔
  - 十六、中縫
  - 十七、橋腦
  - 十八、穹隆體
  - 十九、胼胝體邊解裂
  - 二十、視神經床
  - 廿一、後縫
  - 廿二、
  - 廿三、前中央迂回
  - 廿四、ローランド解裂
  - 廿五、後中央迂回
  - 廿六、
  - 廿七、松葉腺
  - 廿八、
  - 廿九、
  - 卅一、四疊體
  - 卅二、
  - 卅三、前腦蓋
  - 卅四、小腦
  - 卅五、第四室

第八圖



ナルカ若クハ格別ノ注意ヲ用フルニ非レバ認識ノ範圍内ニ來ラズシテ腦中ニ消滅スルモノ甚ダ多シ、又光線ハ絶エズ我等ノ視神經ヲ刺激スト雖モ小數ノ物ニ注意シテ之ヲ認識スルノミ眼ニ觸ルルモノ悉ク認識スルニ非ルナリ、又衣服ノ如キハ身體ニ觸レテ絶エズ刺激ヲ與フルト雖ドモ之ヲ認識スルコト甚ダ少シ、時ニ新タナル衣服ヲ着シ或ハ禮服ヲ着シタルトキ等ハ殊ニ衣服ノ感覺ナルモノヲ覺ユルナリ、此衣服ノ感覺ハ些細ナルガ如クニ見ユルト雖ドモ教育上大ニ緊要ノ關係ヲ有スルモノナリ、若シ身體ヲ纏フ衣服至リテ粗糞ナルトキハ其精神モ亦自ラ懶惰ニシテ徳義ヲ守リ森嚴正格タル能ハズ、之ニ反シテ衣服正シク身體ノ舉動モ亦嚴格ナルトキハ精神自ラ義ニ適フモノナリ、佛國ノ一詩人机上ニ對スルトキハ常

ニ正服ヲ着シ舉動ヲ嚴格ニシテ詩ヲ書クコトヲ務メタリト聞ケリ、又米國ノ一婦人「こるせつど」ノ事ヲ論フテ云ヘリ「こるせつど」ハ世人ノ云ヘル如ク、或ハ身體ヲ害スルコトアラソ、然レドモ本國婦人ノ精神ヲ活潑ナラシムルニハ腰ニ「こるせつど」ヲ附ケ體ヲ能ク縛リ舉動ヲシテ嚴格ナラシムルハ大ニ望マシキコトナリト、夫レ或ハ然ラソ、又身體中臟腑ノ感覺アリ、養分ハ皆腹部ヨリ來ルモノナレバ腹部ハ猶ホ草木ニ於ケル根本ノ如シ、故ニ腹部ヨリ來ル感覺ハ精神活動ノ基本タルナリ、老子モ人腹ヲ滿タセバ惡心ヲ生ゼザルベシト説ケリ、蓋シ腹部ニ苦痛アルトキハ自然精神ヲ苦シメ平穩ノ運動ヲ妨グルコト其ノ例少ナカラズ、又身體壯健ナルトキハ全體ニ快樂ノ感覺其ノ他種種ノ感覺アリト雖ドモ之ヲ一一認識スルコトナシ、タダ感覺非常ニ強勢ナルトキ若クハ身體中病アルトキハ所所ニ苦痛ヲ覺ユルナリ、即チ頭痛ノ如キ腹痛ノ如キ是レナリ、是レ決シテ壯健ナル中ニ於テ感覺ナキニ非ズ、唯壯健ナルトキニハ快樂ノ感ハ苦痛ノトキノ如ク明カナラザルガ故ニ之ヲ認識セザルノミ、斯クノ如ク我等ノ認識セザル無數ノ感覺ハ絶エズ腦中ニ起ルト雖ドモ又漸ク吸收セラレ消滅スルモノナリ。

第二章 感覺ノ結合

知覺ノ時

前章ニ於テ感覺ハ精神活動ノ基本ニシテ無數ノ感覺ハ恰モ蒼海ノ波濤ノ如ク、漸ク起リテ漸ク消エ、腦中絶エズ不穩ノ状態ナルコトヲ述ベタリ、更ラニ進ンデ本章ニ於テハ其ノ感覺ノ互ニ結合シテ尙ホ複雜ナル精神活動ヲ生ズルノ方法ヲ述ベントス、比喩ヲ以テ之ヲ説明センニ通常ノ乾板ヲ用ヒ寫眞ヲ寫サントシテ數秒時間之ヲ光線ニ晒スニ、種種様樣ノ形象絶エズ、新陳代謝シテ其板面ニ寫ルトキハ乾板ヲ發表スルニ當リ何ノ象ヲモ寫シ取り得ザルコトナラン、是レ其ノ影象多クアリタリト雖モ一トシテ乾板ノ藥品ニ充分化學的變化ヲ生ズルノ時間ナカリシガ故ナリ、之レニ反シテ或ル一物ヲ取り其ノ影象ヲ寫スコト數秒時間ニシテ後チ其ノ乾板ヲ發表スルトキハ明カニ其ノ物體ノ象ヲ板面ニ見ルヲ得ルコトナラン、是レ彼ノ物體ヨリ來ル影象ガ乾板ノ藥品ニ充分ノ化學的變化ヲ生シタレバナリ、光線ガ乾板ノ藥品ニ些少ナル化學的作用ヲ生シ其レヲ積ンテ終ニ物體ノ象ヲ板面ニ寫スニハ數秒ノ時間ヲ要ス、夫レ光線ガ乾板ニ於テ爲ス所ノ作用ハ亦光線ガ眼ノ網膜ニ於テ爲ス所ノ作用ト何ノ異ナルアラソヤ、光線眼中ニ入り網膜上ニ外

物ノ影象ヲ寫スト雖ドモ始メ網膜ノ細胞(第六圖ヲ見ヨ)ニ些細ノ變化ヲ生シ精神ハ之ヲ認識スル能ハズ然ルトキ其ノ象去リ新ナル影象ガ網膜ニ來リ又漸ク去リテ次ギノ影象此ニ來ル斯ノ如ク暫時ニシテ種種ノ影象交代シテ網膜ニ寫ルトキハ到底其ノ一ヲモ認識スル能ハザルナリ然リト雖ドモ同影象ガ網膜ニ寫リ細胞ニ些少ノ變更ヲ生シ暫ク之ヲ重ヌレハ終ニ認識スルコトヲ得ルニ至ルモノナリ左レハ物ヲ見テ之ヲ認識スルハ一瞬間ノコトニ非ズ始メ先ツ細胞ノ變更アリ又隨テ小感覺アリ之ヲ積ミ重テテ認識サルルニ至ルモノナリ著者ノ實驗ニヨレハ西洋文字中讀ミ易キハ(O)ノ如シ一秒ノ一千分ノ五位ニシテ認識スルヲ得ベシト雖ドモ讀ミ難キハ(A或ハZ)ノ如シ一秒ノ一千分ノ十五位ヲ經ルニ非レハ認識スル能ハザルナリ是レ最小ノ極端ニシテ文字ガ網膜ヲ刺激スル時間之ヨリ短カキトキハ精神之ヲ認識スル能ハザルナリ又漢字ヲ以テ試ムルニ一字ヲ一秒時ノ十分ノ一ツツ見ルノ割合ニテ引續キテ種種ノ文字ヲ讀マシムルニ漸ク二字位ヲ讀ミ能フモノアリ又認識速カナル人ハ三字若クハ四字位ヲ讀ミ能フト雖ドモ尙ホ其ノ上ハ讀ミ能ハザルモノナリ一秒時ニ四字位ナレハ一區別シテ讀ミ續ク

認識ノ觀念

心理學之目的

觀念ノ性質

ルコトヲ得ルナリ是ニヨリテ之ヲ見レハ眼ニヨリ文字ヲ認識スルニ若干ノ時間ヲ要ス其ノ他ノ物體ヲ認識スルニモ亦若干時ヲ要スル推シテ知ル可キナリ  
 斯ノ如ク眼ニヨリテ外物ヲ認識スルハ小感覺ノ積ミ重ナリテ始メテ成ルモノナリ其ノ他ノ五官ニヨリテ外物ヲ認識スルモ亦然リ左レハ今物ヲ認識スルコトニ於テ必要ナルモノヲ問フニ認識サルル外物及び之ヲ認識スル精神此レナリ然ルニ前者ニ就キテハ今著者ノ論ズル處ニ非ズト雖ドモ後者ニ就キテハ尙ホ細密ニ之ヲ研究セザルヲ得ズ物ヲ認識スルニ當リ精神ノ形狀ヲ問フニ既ニ論シタル如ク感覺ノ積ミ重ナリヲ要ス換言スレハ感覺ノ結合シテ成リタル複雜ナル觀念ノ存在ヲ要スルナリ故ニ我等ハ先ツ觀念ノ性質ヲ究メザル可カラズ  
 夫レ觀念ハ精神現象ノ本體ナリ心理學者ノ目的ハ即チ觀念ノ性質起源及び其ノ活動スル法則ヲ研究スルニ外ナラズ而シテ感覺ノ結合ヲ尙詳細ニ論セントセバ先ツ左ノ三者ヲ區別シ本書ノ許ス丈ハ細密ニ之ヲ説明セントスルナリ  
 第一觀念ノ性質—觀念ノ性質ヲ論シ其ノ理ヲ詳ニセントスルハ哲學ノ範圍ニ屬スルモノナリ心理學ハ唯其ノ全性質ノ一片ヲ論ズルニミ其ノ一片トハ何ゾヤ



觀念ノ物質世界ニ關スル性質即チ是ナリ、而シテ之ヲ論ズルニ當リ歴史ニ立チ戻リ之ヲ論セントスルトキハ勢ヒ哲學ノ範圍ニ立入り細論セザルヲ得ズト雖ドモ是レ本書ノ許ス所ニ非ズ、故ニ著者ハ簡單ニ此問題ニ關スル種々ノ論旨ヲ左ニ掲ゲ後其ノ自ラ取ル所ノ説ヲ述ベントス。

唯心論及唯物論

抑モ哲學ニ二派ノ別アルハ世人ノ熟知スル所ナリト信ズ、唯物論及ヒ唯心論是ナリ、前者ノ主唱スル所ハ萬有ノ本質ハ皆物質ニ有リト斷言スルモノナリ、之ヲ歴史ニ徵スレバ紀元前四九〇年ギリヤノでもくりたす紀元前四九〇年生ルニ始マリ紀元前四九〇年えびきゆいらす紀元前七〇〇年及ビ紀元前七〇〇年ろーまノるくれちやす紀元前五五〇年等ヲ經テ當時ノ物理學ニ基本ヲ置キタルナリ、之ニ反シテ後者即チ唯心論者ノ主唱スル所ハ萬有ノ本質ハ精神ノ觀念ナリト言フニアリ、而シテ紀元前四二九ハ實ニ其ノ論ノ祖先ト言フモ誤リナキヲ信ズ紀元前四二九れと一ノ學派ハ基督教ト合シテ歐洲人ノ思想ヲ多年支配シタルコトハ歴史上ニ於テ明ナリ、又支那ニ於テハ孟子ノ「萬物皆備於我」ノ語ヲ以テ考フルトキハ氏ノ如キハ即チ此派ニ屬スルモノナラン、古代ニ於テ二派ノ分ルルコト斯ノ如シ、近世ニ至リテ紀元前一六三二ニ紀元前一六三二アムテルダム紀元一六七七ヘーグニ死ス、世

心理學

ニ出テ大ニ思想界ニ變動ヲ與ヘリ、氏ノ説ニヨレバ物質モ精神モ皆本質ニ非ズ其ノ他ニ本質タル一物アリテ其ノ物が二様ニ現ハレテ物質トナリ又精神トナルモノナリト説ケリ、此一物トハ即チすべんさ一ノ所謂不可思議物ナリ。

又一種ノ説アリ、精神トハ物質ニ對シタルモノナリ、又物質トハ精神ニ對シタルモノナリ、恰モ上下相對シ又左右相對シタルガ如シ、精神ナクシテ獨リ物質存在スルコト能ハズ、又物質ナクシテ獨リ精神存在スル能ハズト、夫レ然リ精神モ物質モ畢竟唯見様ノ異ナルニヨリテ然ルノミ、此ノ説ノ意最モ深シ、著者ハ此説ヲ取ルモノナリ、精神モ見様ニヨリテハ客觀的トナリ又外物モ見様ニヨリテハ主觀的トナルモノナリ、彼ノ大江ノ千里ノ歌ニ「月みればちぢに物こそ悲しけれわが身一つの秋にわらねど」トアリ、月ガ何ゾ悲ミヲ惹キ起ス理アランヤ、是レ唯月ヲ主觀的ニ見テ心中ニ存スル悲ミヲ月ニ歸シタルコトナラン、之ニ反シテ主觀的ノ觀念ヲ客觀的ニ見ルコトアリ、古今集ニ「山たかみ雲井に見ゆる櫻花心の行きてねらぬ日ぞなき」トアリ、又胡蝶物語ニ「鹿を透ふ獵師ハ山を見ず、その心鹿にありて山にあらざればなり」トアルナリ、斯ノ如ク歌人ノ觀念ハ全ク櫻花ニ、獵師ノ觀念ハ全ク鹿ニア

レハ是レ觀念ヲ客觀的ニ見タルモノナリ、是レニヨリテ之ヲ見レハ主觀ト云ヒ又客觀ト云フハ絶對的ノモノニ非ズ寧ロ相對的ノモノナルヤ知ルベキナリ。

觀念ノ起原

第二觀念ノ起原—觀念ハ總テ經驗ヨリ來リシモノナリ、而シテ其ノ單一ナルト複雑ナルトヲ問ハズ觀念ハ皆前ニ論述シタル如ク小感覺ノ集合ニヨリテ成リタルモノナリ、然リト雖ドモ我等ノ觀念ハ悉ク一身ノ生涯中ニ得タル者ニ非ズ、我等ノ祖先ガ數萬年來漸次ニ積ミ重テタル者ヲ代代遺傳シテ終ニ今日ニ至リタルナリ、サレバ觀念發達ノ歴史ヲ研究スルハ心理學中別ニ一科ヲ爲スモノナリト雖ドモ、本書ニ於テハ之ヲ論ズル能ハザルナリ、夫レ小兒始メテ慈母ノ胎内ヲ辞スルヤ當時其ノ外貌ノ動作ニ於テハ下等動物ト異ナルコトナシト雖ドモ、腦中既ニ祖先ヨリ遺傳サレタル經驗アルガ故ニ小兒漸ク生長シテ事物ヲ學ブニ當リテハ精神ノ開發スルコト速カコシテ一二年ヲ經過セバ下等動物ヨリ遙カニ隔絶スル甚ダシキモノナリ、其ノ有様奧妙ニシテ恰モ神靈ノ體中ニ存スルガ如ク見ユルナリ、故ニふれど一ハ其奧義ヲ説明セントテ一種ノ想像說ヲナセリ、氏ノ說ニヨレバ人ノ靈魂ハ人體ニ入ル前ニ天ニ遊ビ其ノ知識殆ンド神ニ等シ、然ルニ人體ニ入ルニ及

ンデ肉ノ爲メニ智力ノ活動ヲ妨ゲラル、而シテ經驗ハ其ノ妨ヲ除去シ智力ノ活動ヲ漸漸ニ恢復スルナリ、故ニ小兒ハ既ニ天ニ於テ有シタル前世ノ智識ヲ恢復スルコトナレバ些カノ經驗ニヨリテ速カニ精神ノ開發スルモ亦理ナラント、近來ニ至リテモ尙ホ本能及ビ直覺力等ハ天ヨリ與ヘラレタル性ニシテ經驗ヨリ來リシニ非ズト説ク人往往是アルナリ、著者ハ其ノ天ヨリ賦與サレシヤ否ヤニ付テハ措テ之ヲ論セズ、唯世人ノ先天ト稱スル本能及ビ直覺力モ皆祖先ノ經驗セシコトガ遺傳サレタルモノナレバ精神現象中一トシテ經驗ヨリ來ラザリシハ無シト斷言スルモノナリ。

觀念ノ聯合

抑モ經驗ヲ重テテ觀念ノ集合スルニ於テハ一定ノ法則ニヨリ秩序ヲ正シテ聯合スルモノナリ、而シテ其後甲ノ觀念ヲ惹キ起ストキハ自然ト乙ノ觀念モ共ニ現ハレ出ヅルナリ、例ヘバ「いかゞ山ぬべよさきたるはぎ見れば君が家なる尾花しおもはゆ」(萬葉集卷) 杯ハ此理ヲ含有スルモノニシテ萩ノ花ヲ見レバ直ニ友ガ家ナル花ヲ思ヒ出セシナリ、夫レ花ハ萩ニモ亦尾花ニモ通シ而シテ尾花ノ觀念ト其ノ花ノ在ル場所即チ友ガ家ノ觀念ト聯合シテ離ス可ラザルモノナレバ萩ノ花ヲ見

レハ直ニ尾花ヲ思ヒ出シ又友ガ家ヲモ思ヒ出セシコトナラン是レ觀念同伴ノ法  
ニシテ尙ホ後章ニ於テ詳カニ論セントス。

偶然  
ト法  
別

第三觀念活動ノ法則—夫レ觀念ノ活動スルヤ天然ノ現象ト等シク偶然ナルモ  
ノアリ又法則ニ隨ツテ活動スルモノアリ何ヲカ偶然ト云フヤ又何ヲカ法則ト云  
フヤ此ノ區別ヲ説明セシメテ爲メニ觀念ヲ分ツテ二種トス第一ハ外物ノ五官ニ觸レ  
其ノ刺激ニヨリテ惹キ起サレタル觀念ニシテ之ヲ外物ノ知覺ト云フ第二ハ外物  
ノ知覺ト同伴法トノ働キニヨリ腦ヲ刺激シ惹キ起シタル觀念ニシテ之ヲ主觀的  
ノ觀念ト云フ此ノ二ツノ者實際上合結シテ見ハルルト雖モ心理研究ノ爲メニ假  
リニ區別シタルナリ小説ヨリ一例ヲ舉ゲンニ虎ハ此畫を見るに付ても愈愈春枝  
ガ悪くなり……春枝の姿が唇を動かして悪くさげに笑ひかかる様見え何う見  
ても生たる春枝としか思はれず云云(谷間ノ題百全 卷二ノ二十二頁)夫レ畫ヲ見テ之ヲ認識シタルハ  
知覺ナリト雖ドモ春枝ノ姿ガ生タル如クニ思ヒシハ全ク主觀的ノ觀念ナリト云  
フ可シ又「うちなひくはるきたるらしやまのまのどほきこぬれのさきぬる見れば  
(萬葉集 尾張ノ連)ナル歌モ此理ヲ含有スルナリこぬれノ咲クヲ見ルハ知覺ナリト雖ドモ

之ニヨリテ春ノ來リタルヲ知ルハ即チ單一ナル推理ニシテ主觀的ノ觀念ト云ハ  
ザルヲ得ズ觀念ヲ大別スル斯ノ如シ然シテ主觀的ノ觀念ノミヲ取リテ論ズルト  
キハ即チ既ニ同伴法ノ秩序ニ從フテ腦中ニ入りタル觀念ナレバ又活動スルニ於  
テモ同伴法ニ從フテ活動スルコトナリト雖ドモ知覺ニ至リテハ同伴法ノ支配ス  
ル所ニ非ルナリ夫レ我等ノ身體ヲ取り回リタル千種萬様ノ物體ガ絶エズ五官ヲ  
刺激シテ數フ能ハサル多クノ知覺ヲ惹キ起シ其知覺ハ新觀念トナリテ日日我等  
ノ精神ニ増加スルコトナリ而シテ其ノ知覺ノ現ハルル順序ニ至テハ一定ノ法則  
ナク偶然外物ガ五官ニ接觸スルヨリ起リタル感覺ノ積ミ重ナリテ成リタルモノ  
ナルガ如シ然レバ主觀的ノ觀念ハ同伴ノ法ニ從ヒ知覺ハ偶然ニ來ルモノナリ是  
レ偶然ト法則トノ區別ナリ。

外感  
及内  
感

斯ク論シ來レバ觀念ノ性質起源及ビ活動ノ法則トハ果シテ如何ナルモノナル  
ヤ讀者ハ之ヲ解セラルルコトナラン故ニ今ヨリ感覺ノ結合シテ複雜ナル觀念ト  
ナルノ方法ヲ少シク左ニ論セントス既ニ論シタル如ク外物ノ五官ヲ刺激スルヤ  
多クノ混雜シタル小激動ガ腦ヲ刺激スルトキハ精神ハ之ヲ認識セズ漸クシテ感

覺ハ消滅スルナリト雖モ、彼ノ小激動ガ混雜スルコトナシテ適當ノ秩序ヲ以テ暫時續キテ腦ヲ刺激スルトキハ小激動ハ重ナリテ一ツノ複雜ナル觀念トナリ認識サルルニ至ラン、之ヲ知覺ト云フ、夫レ然リ而シテ知覺ノ種類一ニシテ足ラズ、神經ノ周圍ヨリ來ル知覺ノ類ヲ分ツテ五トシ五官ト稱スルハ不可ナリトハ既ニ論シタル所ナリ、蓋シ知覺ノ數尙ホ多クハナリ、此等ノ知覺ヲ總括シテ外官ノ知覺ト云フ、之ニ加フルニ遺傳ニヨリテ受ケ得タル祖先ノ經驗ハ腦ノ組織中ニ存在シテ種々ナル知覺ヲ生ズ、此等ヲ總括シテ内官ノ知覺ト云フ、以後言語ノ重複ヲ避ケンガ爲メ外官ノ知覺ヲ外感ト云ヒ、内官ノ知覺ヲ内感ト云ハントス、我等ガ五官ヲ以テ外物ノ知覺ヲ得ル其方法複雜ナルモノナリ、今之ヲ分解シテ其性質ヲ究メントス。

眼ノ代官  
表ノ代官  
トシテ  
テトシ  
覺テト  
性ノ代  
メテ論

抑モ五官ニテ外物ノ知覺ヲ得ルノ方法ハ其外官ノ形ノ異ナルニヨリテ又異ナルモノナリ、耳ハ物ノ音響ノミチ感シ眼ハ光線ノミチ感シ鼻ハ臭氣ノミチ感ズルガ如シ、而シテ眼ハ外物ノ知覺ヲ得ルニ最モ適當ナル外官ナレバ眼ハ五官ノ知覺ヲ代表スルモノナリト云フモ可ナリ、故ニ今知覺ノ性質ヲ定マン爲メニ眼ノ外物ヲ認識スルノ方法ヲ分解セン、夫レ眼ノ外物ヲ見ルヤ必ず其物體ノ「すべし」ニ存在スルヲ見ルナリ、而シテ「すべし」ハ上下左右前後ノ六合ニ廣ガルモノナレバ其内ニ存在スル物體ニモ亦長、幅、厚ノ三「だめんしよん」アリ、左レハ眼ガ物ヲ見テ之ヲ認識スルニハ其三「だめんしよん」ヲ認識セザルヲ得ズ、然リト雖ドモ又生理的ニ之ヲ見ルトキハ外物ノ形體眼ノ網膜ニ寫リ之ヲ刺激スルヨリ知覺ヲ惹キ起スモノナリ、左レハ網膜上ニアリテ直接ニ神經ヲ刺激スルモノハ物體ニ非ズ唯其ノ影象ノミ、而シテ影象ニハ長ト幅トノミ有リテ厚アルコトナシ、然レバ斯ノ如キモノガ神經ヲ刺激シテ如何ニシテ長、幅、厚ヲ有スル實體ノ認識ヲ能クズルヲ得ルヤ、此ノ疑問ヲ解セン爲メ新説ヲ世ニ出セシハ「すこ」とらんぞノ監督はるくりー

（一）七五八三四死（生）其人ナリ、氏ハ千七百九年ニ視覺論ト稱スル一書ヲ著ハシ眼ヨリ得

タル知覺ノ性質ヲ論ジタリ、氏ノ說ニヨレハ眼ニテ外物ヲ見ルトキ網膜ニハ物ノ長幅ヲ認識スルノ力アリ、而シテ其物ノ厚ヲ認識スルハ網膜ノ力ニ非ズ寧ロ推理ニヨリテ之ヲ定ムルナリト今眼ノ中心ヨリ物體ノ中心ニ至ル迄一ツノ想像ヲ通シテ體ノ大サヲ引キ之ヲ乙線ト名ケ又前ノ兩線ニ直角ニ上ニ物體ノ中心ヲ通リテ厚ト云フ以下準之然レハ物體ノ表面ノ長幅ヲ認識スルハ網膜ノ作用ニヨルガ故ニ之レヲ眼ノ知覺ト稱スルヲ得ルト雖モ其厚及ビ其體ノ遠近ヲ認識スルハ網膜ノ力ニ非ズ種種ノ經驗ヨリ推理シテ定ムルモノナレハ之ヲ知覺ト稱スル能ハズ所謂理會ノ然ラシムル所ナリ、氏ノ說固ヨリ完全ナルニ非ズト雖モ當時ニアリテハ大ニ新說ニシテ人ヲ驚カシ且ツ尙精密ニ之ヲ研究ナサシムルノ刺激ヲ與ヘタルコトハ疑フ可ラザルコトナリ、千八百三十八年ニ至リテ英國ノ科學家はいとすとん(一八七〇年死)ハ實體鏡ヲ造レリ、氏ノ之ヲ工夫シタリシ由來ヲ問フニ眼ノ知覺ニ關シばるくりーノ說ヲ容レズ自ラ謂ヘラク物體ノ厚及遠近ヲ認識スルハ理會ニ非ズ矢張網膜ノ作用ナリト雖モ一眼ノ能ク爲シ能フ所ニ非ズ兩眼ノ必要爰ニアルナリト、氏ノ考ヘタル所ハ我等兩眼ヲ以テ物體ヲ見ルトキハ左右ノ

眼ニ寫ル所ノ影象全ク相等シキコト能ハズ、右ノ眼ニハ右ノ側多ク見エ左ノ眼ニハ左ノ側多ク見ユルハ明カナル理ナリ、故ニ此兩眼ニ寫リタル二個ノ小差アル影象ガ精神中ニ結合スルコトニヨリテ厚及ビ遠近ノ認識ヲ能クナサシムルモノナリト確信シ、夫ヨリ氏ハ同一物ヨリ少シク方向ヲ違ヘテ二個ノ寫眞ヲ取り之ヲ左右ニ並べ置キ右ノ畫ハ右ノ眼ノミニ見エテ左ニ見エズ又左ノ畫ハ左ノミニ見エテ右ニ見エザル様ナセリ、而シテ又凸鏡ヲ用ヒ光線ノ屈曲ニヨリテ此ノ二個ノ畫ハ一物ノ如ク見ユル様ナセリ、爰ニ於テ紙ノ表面ノ平ナル寫眞畫ハ恰モ魔術ノ如ク眼ヲ欺キ物體ハ高低遠近ヲ違ヘテ實體ノ如クニ現ハレタリ、是レ氏ノ大發明ニシテ實體鏡ノ起リシ根本ナリト云フ可シ、其後視學ノ研究ヲ爲セシ人少ナカラズ、殊トニ獨逸ノへるむはるつ、へりりん及ビヴンとノ如キハ現今世ニ在リテ有名ナル學士ニシテ視學ヲ研究シ其レニヨリテ得タル所ノ知識亦少カラズ、故ニ今はるくりーノ說ト今日既ニ得タル視學ノ知識ト對照シ此ノ知覺ノ性質ヲ定タメントス。

はるくりーハ眼ヨリ得タル知覺ヲ二別シ長幅ハ網膜ニテ認識シ厚ハ理會ニテ

平面  
ノ知  
覺  
ズ

認識スルモノト爲セリ、左レハ先ヅ我等長幅ノ認識如何ヲ精密ニ研究シテ其性質ヲ究メントス、夫レ長幅ノ認識ハ物體ノ表面ガ網膜ニ寫リ網膜ノ作用コヨリテ之ヲ認識ストハばるくりノ説ナリ、然リト雖モ網膜ノ果シテ斯ノ如キ力ヲ有スルヤ否ヤハ是レ解説ヲ要スル問題ナリ、面シテ其論ノ詳カナルヲ欲セバ先ヅ網膜ノ性質ヲ精密ニ研究セザル可ラズ、網膜ナルモノハ視神經ノ外端ニシテ視神經ノ眼球ニ入ルヤ直チニ眼球ノ裏面ニ薄ク廣ガリテ之ヲ覆ヒ其内面ヲ形ヲ造ルモノナリ、其構造ハ第六圖ニ示シタル如キ二種ノ細胞及ビ其他ノ細胞及ビ纖維ヨリ成ルモノナリト雖モ此ノ二種ノ細胞ノミガ網膜ノ心理的作用ニ直接ノ關係ヲ有スルモノナリ、此ノ二種ノ細胞ヲ稱シテ長圓形及ビ圓錐形ノ細胞ト云フ、而シテ長圓形ノ細胞ハ長サ二「いんち」ノ三百五十分ノ一直徑一万四千分ノ一ニシテ圓錐形ナルモノハ長圓形ナルモノヨリハ稍短クシテ直徑ハ最小ナルモノヲ以テ量ルニ殆ソド「いんち」ノ一万分ノ一ナリト云フ、其配布ノ方法ニ至リテハ此ノ二種ノ細胞ハ網膜ノ全體ニ配布スト雖モ其配布ノ分量ニ至リテハ等シカカズ、今眼ノ結晶樣體ノ中心ト眼球ノ中心トヲ通ホシテ想像線ヲ引キ之ヲ延バシテ網膜ニ達セシムル

トキ其線ノ網膜ニ觸ルル點ヲ稱シテ中央小窩ト云フ、此點ハ稍凹ニシテ圓錐形ノ細胞此ノ所ニ密ニ集リ殆ソド此ノ細胞ノミニテ成レリ、其點ヨリ四方ニ隔ルニ從ヒ此ノ二種ノ細胞ノ配布粗ナリト云フベシ、此ノ中央小窩ハ亦視覺ノ燒點ト云フモ可ナリ、外物ノ影象細膜ニ寫ルトキハ此ノ小點ニ寫ルモノノミ明瞭ニシテ此ノ點ヨリ隔ルニ從ヒ漸ク明瞭ノ度ヲ減ズルガ如シ、是ヲ以テ之ヲ見レハ網膜ノ心理作用ハ全面ニ等シカラザルコト明カナリ、故ニ網膜ハ不完全ナル精神ノ器械ナリト云フ可シ、然ルニ斯ノ如キ不完全ナル器械ヲ以テ大ナル物體ノ全面ヲ隔ヨリ隔ニ至ル迄明瞭ニ認識スルコトヲ得ルハ不思議ト云フ可キナリ、ばるくりノ論ズル如ク網膜ハ物ノ長幅ヲ認識スルノ力ヲ有ストスルトキハ素ヨリ物體影象ノ此ノ小窩ニ寫ル一點ノミハ明瞭ニ認識セラルト雖モ其他ノ諸點ハ明瞭ナラザルヤ必セリ、氏ノ説ハ此ノ難問ヲ説明スル能ハズ、近世ノ視學者ハ之ヲ説明スルニ眼球ノ運動ヲ以テス、夫レ眼球ニハ六個ノ筋肉アリテ其運動ヲ上下左右ニ自由ナラシム、眼ニヨリテ物體ヲ認識スルトキ眼ハ常ニ動キテ止マズ、從テ彼ノ中央小窩モ亦常ニ動キテ物體全面ノ各點ヲシテ交代シテ此ノ燒點ニ來ラシメソトヲ務ム、是

レ此ノ六個ノ筋肉自働ノ作用ナリ、爰ニ於テ彼ノ一燒點ハ所所ニ働キテ止マザレ  
 一燒點ニシテ無數ノ燒點網膜ノ表面ニ相列スルガ如キ作用ヲ爲シテ以テ網膜構  
 造ノ缺點ヲ補フモノトス、而シテ眼ヲシテ斯ノ如キ運動ヲ爲サシムルニハ彼ノ六  
 個ノ筋肉絶エズ活動スルモノナレバ亦從テ絶エズ精神中ニ筋肉收縮ノ感覺ヲ惹  
 キ起サザル可ラズ、左レバ網膜ノ感覺ト筋肉收縮ノ感覺トハ常ニ相伴フテ離ル可  
 ラザルモノナリ、尙ホ精密ニ之ヲ説明セン爲メ今眼前ニ(イ)(ロ)(ハ)(ニ)ナル符號ヲ有シ  
 タル長方形アリト假定センニ(イ)(ロ)ノ長サハ一尺ニシテ(ロ)(ハ)ノ長サハ五寸ナリト  
 ス、而シテ其長方形中ノ(イ)點中央小窩ニアルトキハ(ロ)ノ點ハ小窩ヨリ多少隔リ居  
 レリ、其時眼ヲ動カサズ網膜ノ働キノミニヨリテ(イ)ヨリ(ロ)迄若干ノ隔リアルチ知  
 ルト雖モ之ヲ明瞭ニ認識スル能ハズ、然リト雖モ今眼ヲ動カシ小窩ヲシテ(イ)ヨリ  
 (ロ)ニ至ラシムルトキハ始メテ其長サヲ明瞭ニ知ルコトヲ得ルナリ、左レバ眼球ヲ  
 動カスニ筋肉ノ收縮ヲ要ス其收縮ノ感覺ハ網膜ノ感覺ト合シテ(イ)(ロ)ノ長サヲ明  
 瞭ニ認識スルヲ得セシムルモノナリ、誰レニテモ之ヲ實驗セント欲セバ壁ニ長サ  
 凡ソ一尺ノ線ヲ引キ壁ヨリ凡ソ一尺ヲ隔テ立テ一限ヲ閉テ彼ノ線ヲ見ルトキハ

眼ノ運動ナクシテ其長サヲ明瞭ニ認識スルノ難キヲ明カニ實驗スルコトナラン、  
 左レバ物體ノ長幅ヲ認識スルハ管ニ網膜ノ作用ノミニ非ズ筋肉收縮ノ感覺之ト  
 合シテ始メテ完全ナル知覺トナルコト朋カナリ、長幅ノ知覺ニ於テ筋肉ノ感覺ト  
 網膜ノ感覺ト結合スルコト斯ノ如シ、今一步ヲ進メ物體ノ厚及ビ遠近ノ知覺ニ論  
 及セン。

物體ノ厚及  
 遠近ノ知覺  
 及ニテ論ズ

ぼるくりノ説ニヨレバ物體ノ厚及遠近ノ認識ハ網膜ノ作用ニ非ズ所謂理會  
 ノ然ラシムル所ナリ、ボイトスビーンノ説ニヨレバ彼ノ實體鏡ノ理ニシテ兩眼ニ  
 寫リタル異形ノ合スルヨリ來ルモノナリト云ヘリ、然ルニ前者ハ唯理會トノミ論  
 シテ其細密ノ性質ヲ論セザリシ、後者ハ左ノ二問題ヲ説明スル能ハズ、第一兩眼ニ  
 寫リタル影象ハ果シテ結合スルヤ、第二我等一限ヲ以テ物體ノ厚及遠近ヲ認識シ  
 能フハ何ツヤ、左ニ一々之ヲ説明セントス、先ヅ第二ノ問題ヨリ始メ、一限ヲ以  
 テ物體ノ遠近ヲ認識スルニハ眼、球構造ノ然ラシムル所ナリ、夫レ眼球ノ構造ハ寫  
 眞器械ノ如シ、球中ニ於テ前面ニ近キ所ニ結晶樣體アリテ光線ヲ屈曲セシメ網膜  
 上ニ外物ノ影象ヲ寫スノ媒介トナル、然ルニ光線學ノ規則ニヨレバ外物ヨリ此ノ

眼ノ遠近  
 力合

結晶樣體マデノ距離及結晶樣體ヨリ網膜マデノ距離及結晶樣體表面曲リノ度此ノ三者相互ニ其權衡ヲ保タザル可ラズ、而シテ眼球中ニ數多ノ小筋肉アリテ各自動力ヲ有ス、故ニ外物ノ遠近ニ應ジテ結晶樣體表面ノ曲リヲ變ジ又結晶樣體ト網膜トノ間ノ距離ヲモ變シテ外物ヲシテ網膜ノ表面ニ明瞭ナル影象ノ寫ルニ適セシム、之ヲ眼ノ適合力ト云フ、適合力ハ眼中ニ存スル小筋肉ノ收縮ニヨリテ成ルモノナリ、左レハ外物ノ遠近ニ應ジテ眼ヲ適合サスルトキハ其レト相伴フテ又筋肉收縮ノ感覺ナカル可ラズ、此ノ感覺ハ一眼ニヨリテ物體ノ遠近ヲ判斷スルノ基礎トスルモノナリ。

兩眼視線ノ角度

第一ノ問題ニ就テ著者ハ答ヘテ兩眼ノ影象結合スルコトナシト云ハン、而シテ兩眼ニヨリテ物體ノ厚及遠近ヲ判斷スルニハ其ノ他ノ理由アルナリ、夫レ兩眼ハ若干所ヲ異ニシテアルモノナレバ兩眼ヲ以テ一物ヲ見ントスルトキ兩眼ノ視線（眼ノ中心ヨリ物體マデ引キタル想像線ヲ云フ）若干ノ銳角ヲナシテ聚ラザルベカラズ、物體遠ケレバ其角益銳、物體近ケレバ之ニ及ス、然ルトキハ物體ノ遠近ニヨリテ視角ノ度同シカラザレバ視線ノ角度ノ差ニヨリテ眼球ノ位置同シカラズ、故

小兒ノ視覺

ニ眼球ヲシテ運轉セシムル所ノ筋肉收縮ノ感覺モ亦同シカラズ、此ノ感覺ハ兩眼ヲ以テ物體ノ厚及遠近ヲ判斷スルニ大ニ力アルモノナリ。  
斯ク論シ來レバ筋肉收縮ノ感覺ハ視覺上大ニ力アルコト明カナリ、然リト雖モ上ニ述べタルハ些カニはいとすべし、一ノ缺點ヲ補ヒタルニ過ギズ、其他物體ノ大小、明瞭不明瞭及色等ハ物體ノ厚及遠近ヲ判斷スルニ大ニ力アリ、其理ヲ少シク説明セン、例ハ眼前ニ一冊ノ書アルヲ假定センニ其人謂ヘラク此書ハ我身ヨリ凡ソ六尺程隔ルナラント、然ルニ又一人ノ小兒アリ未ダ尺寸ノ何物タルヲ辨セズ此人ト共ニ立チ此書ヲ見テ謂ヘラク此ノ書ト自身ノ間ニ若干ノ距離アリト、小兒ハ之ヲ何尺トモ又何ヤ！ト下モ云フ能ハズ、然レバ此ノ小兒ハ何ヲ以テ其距離ヲ測リ得ルヤ、小兒ハ之ニ答フルコト能ハズ、唯其距離ノ大ナラザルヲ知ルノミ、尙ホ測リテ質サンニ小兒ハ生レナガラ距離ヲ判斷シ得ルヤ、否ナ然ラズ、小兒ノ生レシトキハ外物悉ク平面ナル圖書ノ如クニ見ユルナリ、是レ生レナガラ旨ニシテ成長後視力ヲ得クシシモノノ物語リニヨリテ證セラルルナリ、然ラバ物體ノ厚及遠近ヲ認識スルハ經驗ヲ積ンデ後始メテ能ク之ヲ爲スコトヲ得ルモノナリ、其經驗トハ



何グヤ、小兒漸ク自體ノ運動ヲ爲シ得ルニ及ンデ種々様々ニ手足及ビ身體ヲ動カシ物ニ觸レ或ハ身體ヲ動カシ物體ニ近ヅキ或ハ之ヨリ遠カルト共ニ眼ニ見タル物體ノ大サニ又變化アルヲ經驗スル等ノコトナリ、斯ノ如キ經驗積ミ重サナリテ心中ニ存在シ後日物體ヲ見ルトキハ恰モ天性ノ如ク又直覺ノ如ク之ヲ見テ忽チ其厚及遠近ヲ判斷スルヲ得ルナリ、然レバ小兒ガ距離ヲ判斷スルニハ尺度ヲ以テスルニ非ズ唯知ラズ識ラズ判斷スルト雖モ其實ハ觸感及ビ筋肉收縮ノ感等ヲ以テ遠近ヲ判斷スルモノナリ、身體ノ運動ト網膜ノ感覺ト結合シテ物體ノ厚及ビ遠近ノ知覺ヲ得ルコト斯ノ如シ、ぼるくりーガ所謂理會ノ判斷トハ此ノ事ナリ、左レバ物體ノ長、幅、厚ヲ認識スルニ關シテ筋肉收縮ノ感覺ト網膜ノ感覺トハ結合シテ離ス可ラザルヤ明カナリ。

上ニ述ベタル如キ結合ハ管ニ網膜ト筋肉トノ關係ニノミ止マルニ非ズ又接觸ノ感覺ト網膜ノ感覺トノ間ニモ存スルナリ。

視覚ト結合ノ

之ヲ例セシニ一人ノ少年アリ、生レナガラ盲目ナリシモ十二三歳ノトキ始メテ視力ヲ得ルニ至レリ、其時外物悉ク平坦ナル圖書ノ如クニ見エタリシガ、數日經驗ヲ積ミ始メテ物體ヲ實體ノ儘ニ見ルヲ得ルニ至レリ、又一日此ノ少年ガ猫ト犬ト居タリシヲ見タレドモ、前ニ眼ヲ以テ之ヲ見シコトナカリシガ故ニ、其何レガ猫ニシテ何レガ犬ナルカヲ判斷シ能ハザリシガ、暫クシテ手ヲ伸バシ猫ヲ抱キ之ヲ撫テ綿密ニ其感覺如何ヲ試ミタリ、斯ノ如クシテ少年ハ眼ノ感覺ト手ノ感覺トヲシテ能ク結合セシメタルナリ、其後猫ヲ放チテ曰ク「猫ヨ、今ヨリ後余ハ汝ヲ知ルナラント」(カーペンター) 精神生理學一八八) 又一人ノ少女アリ、生レナガラ盲目ナリシモ成長ノ後チ視力ヲ得タリ、一日鉄ヲ見シガマヘニハ觸覺ノミヲ以テ之ヲ認識シタルガ故ニ今眼ヲ以テ之ヲ見ルニ其何物ナルヤヲ知ルニ苦メリ、然ルニ一度指尖ヲ以テ之ニ觸レシガ直チニ其缺ナルコトヲ知レリ、爰ニ於テ彼ノ少女ハ(ア、愚ナリ、斯クナセバ直チニ知リ得ルモノナト云フ如キ顔色ヲ以テ失笑セリ。(カーペンター) 精神生理學一八九)

音響ト感

又音響ハ耳ニノミ感覺ヲ與フルモノニシテ精神中ニ音樂ノ感ト稱スル高尙ナ

結合ノ 概念ヲ供給スルモノナリト雖ドモ、外物ノ性質ヲ認識スルニ關シテハ遙カニ眼ノ感覺ニ劣ルモノナリ、耳ノ感覺ニヨリテ外物ノ性質ヲ認識スルハ唯前ニ經驗シタルコトヲ記憶シテ之ヲ知ルノミ、例ヘバ親子或ハ兄弟等ノ如ク常ニ言語ヲ交ヘ或ハ互ニ其容貌ヲ見知ルモノハ自然眼ノ感覺ト耳ノ感覺ト互ニ結合ナシタルガ故ニ其聲ヲ聞クトキハ直チニ其朋友或ハ兄弟ノ全体ヲ知り得ルモノナリ、聲ヲ聞キテ其人ヲ察シ、或ハ甲人ヨリ乙人迄感情ヲ遷ス如キコトハ世間ニ於テ少ナカラズ、近松ノ著作ヨリ一例ヲ舉ゲン、……内ニ伯父、姪くどき泣き、外ニ二人(おさん、茂兵衛)が立ち聞て涙をもらす戸のすきま、聲なき冬のきりり、す、壁又すがりて泣き居たり……戀八卦柱曆斯ノ如キハ能ク此理ヲ示スモノナリ、其他味感、臭感等種々ニ結合スルモノナリト雖ドモ、詳細ニ之ヲ論ズルハ本書ノ許ス處ニ非レバ略ス、既ニ述べタルハ我等ノ五官ニ經驗シタル種々ナル感覺ノ互ニ結合シタルモノナリト雖ドモ、我等ノ經驗シタル感覺ノ外ニ祖先ヨリ遺傳サレタル印象腦中ニ備ハリテ外感ノ發スルトキ之ト同伴シテ種々ノ内感ヲモ發スルナリ、感覺ノ結合シテ精神活動ノ基本トナルコト斯ノ如シ。

諸種ノ結合

概念的及観念的

左レバ外官ヨリ得タル感覺數多クシテ甚ダ繁雜ナリト雖ドモ、腦中ニ於テ同種ノ感覺ハ皆互ニ結合スルガ故ニ感覺ノ數ヲ大ニ減シ、且ツ繁雜ヲ省クモノナリ、爰ニ於テ始メテ概念ヲ生ズルナリ。

夫レ概念ハ抽象的精神現象ナリ、故ニ先ヅ抽象的ナル語ヲ明カニ了解セザルヲ得ズ、孟子既ニ此意ヲ詳カニセリ、曰ク、生之謂性也、猶白之謂白與、曰然、白羽之白也、猶白雪之白、白雪之白、猶白玉之白與、曰然、然則犬之性、猶牛之性、猶人之性、與、ト、左レバ白ハ白羽ニモ亦白雪ニモ通ズ、又生ハ即チ知覺運動スル所以ノ者ニテ牛ノ性ニモ亦人ノ性ニモ通シテ必要ナルモノナリ、而シテ告子ハ相通ズルノ故ヲ以テ白ハ白ニシテ即チ何レノ白モ皆同一ナリ、又生ハ性ニシテ何レノ性モ皆同一ナリト斷言セリ、然ルニ孟子ハ之ヲ否トシ人ノ性ハ牛ノ性ト全ク隔絶シタルコトヲ斷言スルガ如シ、蓋シ孟子ハ人間全体ノ實形ヲ論シ、告子ハ人間中ノ一部分即チ動物の性質ヲノミ論シタルガ故ニ、斯ノ如ク說ノ分離スルニ至リシナリ、而シテ動物の性質ハ人間ト牛馬トニ普通ノモノナリ、然リト雖ドモ動物の性質トハ一種ノ實體ニ非ズ、唯活動物ニ就テ現ル、一種ノ性質ニシテ管ニ人間及ビ牛馬ニ限ラズ諸動物

普通ノモノナリ、此動物の性質ナル觀念ヲ抽象的ノ觀念ト云フ、抽象的の觀念ハ知覺ニ對スル語ナリ、兩者ノ差違ヲ述ベシ、知覺ハ外物ノ實形ヲ其ノ儘ニ認識シ得タルモノナリ、故ニ其起原外ニアリ、抽象的の觀念ハ外物ノ實形ヨリ得タル心像ニ非ズ、外物ノ知覺ヲ數多集メ其等ニ普通ナル一ツノ觀念ヲ精神中ニ於テ選擇シ其ニヨリテ形ヲ造リタル觀念ナリ、故ニ其起原外ニ非ズシテ内ニアリ、斯ノ如ク抽象的の觀念ハ外物ヨリ得タル知覺ニ對シ精神ニ起リタルモノニシテ一ツノ觀念中數多ノ實物ヲ含有ス、例ヘバ動物の性質ナル觀念ハ一ツノ觀念ニシテ世界ノ諸動物ヲ含有ス、又人間ナル觀念ハ一ツニシテアテニル人間ヲ含有ス此ノ點ヨリ之ヲ見ル時ハ抽象的の觀念ヲ稱シテ概念ト云フ、抽象的の觀念トハ同意ニシテ唯其見様ノ異ナルノミ、前者ハ實形ニ對シテ云ヒ、後者ハ其數多ヲ含有スル性質ニ就テ云フ者ナリ、既ニ論シタル如ク外物五官ヲ刺激シテ單一ナル感覺ヲ生シ、感覺結合シテ知覺トナル、故ニ知覺ノ數ハ其ヲ惹キ起ス物體ノ數ノ如ク千差万別ナリト雖ドモ、其知覺各々全ク互ニ異ナリタルニ非ズ、之ヲ言語ニ比スルニ一ツ國語中ニ含有サレタル言語ノ數甚ダ多シト雖ドモ、之ヲ其單一ナル發育ニ分解スルトキハ日本語ノ如

概念ト曰フ  
比擬ノ

キハ綴カニ五十餘ノ音ニ過ギズ、尙ホ單一ニ分解スルトキハ英語ノ如キハ二十六文字ニ過ギズ、之ト同理ニテ知覺ノ數多シト雖ドモ之ヲ抽象的ノ觀念即チ概念トナストキハ綴カノ單一ナル觀念トナル。

### 第三章 意識ノ性質

意識ノ能  
量ノ

抑モ意識ナルモノハ精神現象ヲ總括シタルノ謂ニシテ別ニ一種ノ觀念アルニ非ズ、寧ロ精神現象ノ要素ト云フベキナリ、甲ハ心意ト云ヒ、乙ハ精神ト云ヒ、丙ハ靈魂ト稱スル所ノ一種ノ現象ハ其根原及ビ性質ノ如何ヲ問ハズ物質的現象ニ非ズシテ、意識的現象ナルコトハ疑フ可ラザル事實ナリ、而シテ心理學者ハ靈魂ノ有無(若シ在リトスレバ)其ノ永久不滅ナルヤ否ヤ等ノコトハ措イテ論セス、唯意識中ニ出デタル現象ヲ觀察シ其法則ヲ論究スルヲ以テ目的トス、故ニ心理學者ニシテ意識ノ性質ヲ研究スルハ猶ホ物理學者ニシテ「すべし」ノ性質ヲ研究スルガ如シ、斯ノ如ク意識ハ實ニ精神現象ノ要素ナリト雖ドモ、其容量ハ其中ニ含有ス可キ觀念ノ數ニ比シテ大ナラズ、恰モ小器ニ多量ノ水ヲ入ル、トキハ水ノ多分ハ器外ニ溢ル、如ク腦中ノ印象中多數ハ意識外ニアルナリ、而シテ是等ハ新陳代謝シテ漸ク

意識の性質

意識中ニ現ハレ得ルモノナリ。  
 晴天白日仰テ天ヲ眺ムレハ唯太陽ノ輝々タルヲ見ル而已、太陽既ニ没スレバ衆星ノ天ニ滿ツルヲ見ル、日中ト雖モ衆星ナキニ非ズ、之ヲ認識シ能ハザル而已、又晝間物騒ガシキガ爲メ遠方ノ市街ニ於テ發スル音聲ハ耳朶ニ觸ルルモ之ヲ認識セズ、夜更々四隣寂漠ナル時ハ是等ノ音聲恰モ群蜂ノ唸ルガ如クニ聞ユ、是等ノ現象ハ世人ノ經驗シテ親シク知ル所ナリト雖モ其説明ナキヲ如何ニセン、是レ物理學ノ研究スベキ事柄ニ非ズ又生理學ニ依リテ説明ヲ試ムベキ事ニ非ズ、唯心理學ニ依リテ始メテ其説明ヲ詳ニスル得ル者ナリ、前述セル如ク腦中ニハ種々ナル感覺外官ヨリ起リ又漸ク消滅シ大ニ混雜シ居ル者ナリ、而シテ其中感覺ノ度強キ者ハ意識中ニ於テ明白ニ現ハル、ト雖モ感覺ノ度弱キ者ハ知レズシテ消滅シ、又意識中ニ明白ニ現ハレ居ル感覺ト雖モ尙ホ一層強キ感覺起ル時ハ元ノ感覺ハ意識外ニ出テ識ラレザルニ至ル者ナリ、又人ノ情感盛ナル時ハ之レガ爲メニ多數ノ觀念ハ意識外ニ驅逐セラル、ガ故ニ斯ノ如キ場合ニ於テハ事物ノ判斷ヲスルニ最モ不適當ナル者ナリ、又一ツノ觀念意識中ニ在リテ精神ノ苦痛ヲ覺ユル時ハ他ノ觀念

入り來リテ快樂ヲ與ヘントスルヲ妨グルハ左ノ例ニヨリテ明カナリ、岩間ニ逆る水の音ハ天女の樂を奏づるかと思はれ、樹間ニ囀る鳥の聲ハ美人の歌を學ぶかと思はれ、實ニ面白き景色あれども親子の鬱陶として打ち萎れ、鳥の音も花の香も少しも心を慰めず云々(谷間の姫百合)又樂からぬ心の中には繪の如き景色を見るも面白からず(民太利物語)之レニ反シテ腦髓ノ活動弱ク且ツ靜ナル時ハ前ニ意識中ニ現ハレザル者モ忽焉トシテ現ハレ出ル者ナリ、心ヲ靜ニシ思フ平ニシ能ク事物ノ理法ヲ考察スル時ハ公平無私ナル判斷ヲ爲シ得ル事ハ我等ノ日日ニ經驗スル所ナリ、是レ前ニ他ノ感覺ノ爲メニ掩ハレ爲メニ識ラレズシテ消滅シタル腦ノ微弱ナル感覺ハ多ク意識中ニ現出シテ判斷ノ材料トナルニ由ルナリ、又病ノ爲メ或ハ他ノ原因ニヨリテ身体ノ衰弱セル時通常覺エザル感覺ノ現出スルヲアルハ其例又少シトセズ、夫ノ大岡越前守ノ計畧ニ富ミタリシコトハ世人ノ能ク知ル所ナリ、一日人殺シノ件起レリ、然ルニ罪人民五郎ハ強情ヲ張り白狀セザレバ大岡氏ハ之ヲ現責ニ爲セリ、今其子細ヲ尋ヌルニ氏ハ役人ニ言付ク、魚類其外旨き者よて十分に飯を喰せ、晝夜ども眠るなと申渡し、眠り氣の生ずる時の起し、又のくすぐり咄を

仕かけ、或のこみの先よて鼻をせゝり耳を引なせして少しも眠らせず、サア／＼寐  
 度くば白狀せよトテ責ムルコト三日爰ニ於テ流石の民五郎も正体なく夢中の体  
 よて身心勞れ囁言を云ふやうにありタリ、而シテ大岡氏ハ袴モナク着流ニテ來  
 リ、オイ其所ニ居るの民五郎かと申されければ民五郎ハ鐵公かと云ふを際さず、  
 大岡殿神田のお祭りの時、昌平橋の所で見掛たが、能く見ねへ體をしたなを申さる  
 之ヨリ大岡氏ハ民五郎ノ友人ノ如クニ話シタレバ同類ノ者トヤ思ヒケン被害  
 者於花ナ人ナキ場所ニ連レ行キテ殺シ金子ヲ奪ヒシコ迄委シク話シタリ、其後能  
 シ熟眠サセ三時間ヲ經テ起コシ前ノ始末ヲ語リタレバ大ニ驚駭シ恐縮ノ至リト  
 閉口セリ(以上大岡政談拾川源十郎ノ是等事柄ノ眞偽ハ著者ノ之ヲ知ラズト雖是レ  
 件原版人及ビ編集者不詳トモ好適例ナレバ之ヲ掲ケ、讀者諒セヨ)是レ  
 身體疲勞シテ掩ハント欲スル觀念モ掩フ能ハズ夢中ニテ其秘密ヲ言ヒ出スニ至  
 リシナリ、又病ノ爲メニ身體衰弱スル時ハ久シク用ヒズシテ既ニ忘レタル國語ヲ  
 思ヒ出スコトアリ、嘗テ一ノ伊太利人米國ニ移住シ紐育ニ於テ熱病ニ罹リ死セシコ  
 アリ、此人病ニ罹リシ初メハ英語ヲ話セシガ身體衰弱スルニ從ヒ佛語ヲ話シ最後  
 ノ日ニ於テハ伊語ノミヲ話シタリト云ヘリ、爰ニ又最モ奇談ト云フ可キハ獨逸ニ

於テ天主教ノ盛ナル都府アリ、一ノ若キ婦人熱病ニ罹リシ時其無學文盲ナルニモ  
 拘ハラズ熱ニ浮カサレ羅旬希臘及ビ希伯來話ヲ話シ初メタレバ僧侶ハ之ヲ以テ  
 惡魔ノ所爲ナリト云ヘリ、兎ニ角其語ヲ筆記ノ之ヲ閱スルニ言葉ハ以テ解ス可ク  
 モ其談話ノ主意ニ至リテハ一モ解スルヲ得ズ、左レバ人皆之ヲ不思議ニ思ヒ種々  
 詮索ヲ爲セシガ終ニ此婦人ガ以前或ル説教師ノ家ニ在リシコトヲ發見セリ、然リ而  
 ノ此説教師ノ習慣トシテ廊下ヲ運動シナガラ常ニ音聲ヲ揚ケテ羅旬希臘ノ書ヲ  
 朗讀セシコトアリシヲ知レリ、且ツ夫ノ前ニ筆記シタル言語ヲ以テ説教師ノ常ニ朗  
 讀セシ者ニ比スルニ兩者相似タルコトヲ發見シタルガ故ニ爰ニ於テカ始メテ是  
 レ惡魔ノ所爲ニ非ズ、知ラズ識ラズ夫ノ説教師ノ語ヲ聞キ其印象ノ腦中ニ遺存シ  
 居テ今身體ノ衰弱スルト共ニ彼ノ印象ノ再生シタル者ナルコトヲ了解セリト云  
 フ、其他之レニ類似シタル例少カラズ、夫ノ惡人が最後ノ時ニ至リ身體衰弱スルト  
 キハ自分ノ殺セシ人ノ幽靈ハ眼前ニ顯ハレテ其人ヲ苦ムルコト往々之レアルナ  
 リ、又夢ニ病氣ノ徵候ヲ見テ果シテ其病氣ノ發スルコトアリ、是レ其病氣既ニ休中  
 ニ發シテ未ダ外ニ現ハレズト雖モ、睡眠スルトキハ身體ノ活動至テ弱キガ故ニ夢

トナリテ現レ、漸ク病氣熟ク後外面ニ現ル、コナラン、是ヲ以テ之ヲ觀レバ觀念ノ意識中ニ現出スルハ相對的ノ者ナリ、即チ種々ノ觀念ヲ(イ)(ロ)(ハ)(ニ)ナル文字ニテ顯シ、又(イ)ハ意識中最モ活潑ナル觀念ニ(ロ)(ハ)(ニ)ハ之ニ次ク者ナリト假定スレバ(イ)(ロ)ノ觀念活潑ニ活動スル時ハ(ハ)(ニ)ハ自ラ無意識トナルモ(イ)(ロ)ノ勢ヒ漸ク衰弱スルニ及デ(ハ)(ニ)ハ意識中ニ出現シ、又(ハ)(ニ)衰弱スレバ(ホ)(ヘ)ハ意識中ニ現ル者ナリ、著者ハ之ヲ稱シテ意識ノ相對的性質ト云ハン、然リ而シテ意識ノ性質ニ付キ尙ホ讀者ノ注意ヲ促ス可キ一點アリ、意識ノ結合的性質即チ是ナリ、何チカ結合的性質ト云フヤ、夫レ千差万別ナル感覺ノ自ラ合メ一人ノ精神トナルヤ眼ノ感覺アリ、耳ノ感覺アリ、手ノ感覺アリ、各繁雜ナル者ニシテ全ク通有性ナル者ナキガ如シト雖モ、意識ノ結合的性質ハ之ヲ能ク結合セシメ以テ我ガ眼ノ感覺我ガ耳ノ感覺我ガ手ノ感覺ト爲サシムルナリ、而シテ我トハ意識ノ核ト云フモ可ナリ、是レ結合的性質ノ現レタル者ナリ、且け登る麓の道ハ多ければ同じ高根の月を見るかなトハ歌人ノ意果ノ何所ニアルヤ知ラズト雖モ著者ノ解ニヨレバ「且け登るふもとの道」ハ繁雜ナル五官ヲ示ス者ナリトシ「同じ高根の月」トハ即チ我ヲ顯ス者ナリトス。

然リト雖モ爰ニ一ノ問題アリ、蓋ハ我アリテ後チ五官ノ感覺發スル耶、或ハ五官ノ感覺アリテ後チ我ナルモノ生ズル耶、之ニ對スル心理學者ノ說一定セズ、一說ニ由レバ我トハ即チ靈魂ニシテ先天的ニ存在スル者ナリ、我ハ五官ノ管理者ニシテ五官ハ我ノ器械ニ過ギズト云ヒ、他ノ一說ニ由レバ我ナル者ハ五官ノ感覺ヲ離レテ別ニ存在スル者ニ非ズ恰モ重量ヲ有スル物体ヲ離レテ別ニ重力ノ中心存在シ能ハザルガ如シト云フ、此ノ說ニ由レバ我トハ千差万別ナル感覺ノ結合シタル中央ヲ示ス者ニシテ物体ニ重力ノ中心アルガ如シ、著者ハ此ノ說ヲ可トスルモノナリ、夫レ太陽系統ニハ重力ノ中心アリテ遊星其位置ヲ變ズルト共ニ中心モ亦絶エズ其位置ヲ變更スルモノナリ、之レト同ジク人間精神中ニ於テ感覺ノ狀態ハ常ニ同シカラズ、人間万事塞翁馬ニテ我ノ狀態ハ感覺ト共ニ變更スルモノナリ、之ニ反シテ晴てよし曇りてもよし富士の山もどの姿ハ變らざりけり杯ヲ以テ我ト感覺トニ比スル如キハ心理學者ニ容レザル所ナリ、故ニ我トハ先天的ニ存在スルニ非ズ又別ニ感覺ヲ隔離ノ存在スルニモ非ズ唯感覺ノ結合スル中心ノ謂ナルノミ、意識ノ性質ノ相對的ト結合的ト二性質ヨリ成ルコト凡ソ斯ノ如シ。

主觀的觀念

第四章 觀念ノ再生

以上ノ三章ニ於テハ外物ノ五官ヲ刺激シテ單一ナル感覺ヲ惹キ起コシ、又其單一ナル感覺ノ結合シテ複雜ナル觀念ヲ生ズルコトヲ論述セリ、今一步ヲ進メテ其觀念ノ活動スル方法ヲ論セントス。

抑モ觀念トハ一般ノ精神現象ヲ含有スルモノナリ、然リト雖モ其活動ノ方法ヲ論ズルニ當リ假リニ之ヲ分類シテ知覺、心像、及ヒ抽象的觀念ノ三トス、而シテ此三者ハ各些少ノ差異ヲ有スルモノナリ、今知覺ト心像ノ差異ヲ比スレバ前者ハ存在スル外物ヲ認識シ、後者ハ外物ノ存在ヨリ得タルモノノ精神中ニ現ハレタル影象ヲ云フ、比喻ヲ以テ之ヲ云ヘバ心像ハ繪畫ニシテ知覺ハ其實形ナリ、又心像ト抽象的觀念ノ差異ヲ比スレバ前者ハ實形ノ影象ニシテ後者ハ其影象ヲ組織スル材料ナリ、比喻ヲ以テ之ヲ云ヘバ心像ハ繪畫ノ如ク、抽象的觀念ハ下繪或ハ繪ノ具ノ如キモノナリ、三者ノ區別大凡ソ斯ノ如シ。

後像ノ解

夫レ外物ノ五官ヲ刺激スルヤ精神ノ活動ヲ惹キ起コシ感覺ヲ結合セシメ、以テ

知覺及心像  
ノ觀念的抽象

知覺ヲ生セシムルモノナリ、而シテ神經ハ外物ノ刺激ヲ受ケテ感覺ヲ生ズルトキハ刺激力ノ引キ去リシ後暫時其感覺ハ腦中ニ存スルナリ、眼ノ感覺ニ於テ此理最モ明カナリ、例ヘバ太陽或ハ燭ノ如キモノヲ視ツメテ後眼ヲ閉ヅルトキハ眼中ニ其光ノ存スルヲ見ルナリ、之レヲ後像ト云フ、にゆいどんハ既ニ此事實ヲ知レリ、日没前ニ太陽ヲ見ルコト暫時ニシテ後チ白壁ヲ見ルトキハ壁面ニ綠色ノ太陽顯ハルルト、氏ノ云ヘルコトアリ、實ニ此感覺ノ後像ハ記憶ノ始メアリ、知覺ニ於テモ亦之レニ類スル後像アリ、即チ友人ノ顔ヲ記憶シテ殆ド眼前ニ現ルル如キコトアルハ世人ノ往々經驗スル所ナリ、唯太陽ノ後像ノ如ク明カナラザルノミ、然リト雖モ感覺ノ後像ニ比スレバ久シクシテ數日或ハ數年間腦中ニ存在ス、之ヲ以テ小説家ハ此ノ理ヲ利用シテ云ヘリ、ト云ふ中にも前方のことが目先にちらつき春枝の物に動せぬ顔つきや成人の恐れる顔色までも今眼のあたりに見える心地して云々

(谷間の題百合卷)愛ニ於テカ知覺ハ變ジテ心像トナルナリ。

知覺ノ種類一ナラズ是レ其ノ起因スル五官ノ差ニ由リテ異ナルナリ、而シテ心像ハ知覺ヨリ來ルモノナルガ故ニ、從テ其種類ノ巨多ナルコト知覺ト異ナルナシ、

眼ヨリ來ル心像アリ、耳ヨリ來ル心像アリ、又觸覺ヨリ來ル心像アリ、其種類ノ異ナルコト斯ノ如シ、異種ナル心像ニ於ケル互ノ關係ニ就テ論ズルコトハ之ヲ後ニ讓リ先ヅ是レ等ノ心像ノ腦中ニ組織スルコトヲ左ニ論ゼントス。

記憶ノ幻影像

心像ノ現出スルコト三ツノ異形アリ、記憶、幻影、想像是レナリ、知覺ノ其形ヲ變更セズシテ後日意識中ニ現ハルルトキハ之ヲ記憶ト云フ、一ツノ知覺他ノ知覺ト混合シテ現ハレ人ヲシテ屢事實ニ非ル者ヲ事實ノ如ク思ハシムルコトアリ、斯ク混合シタル心像ヲ稱シテ幻影ト云フ、又先キニ得タル知覺ヲ腦中ニ消化シ是レ等ヲ材料トシテ主觀的ニ心像ヲ造ルコトアリ、之ヲ想像ト云フ、順ニ從ヒ先ヅ記憶ヲ論ゼン。

記憶ノ要素

記憶—記憶ヲ分解スレバ三ツノ要點アルガ如シ、第一知覺ノ印象ヲ蓄フルコト、第二此印象ノ意識中ニ現出スルコト、第三前ニ其知覺ヲ得タルハ何時ナルヤヲ定ムルコト是レナリ、凡ソ確乎タル記憶ヲ得ルニハ此三者中一ツモ缺クコト能ハズト雖モ第三ノ要素ハ往々缺乏スルコトアルナリ、第一知覺ノ印象ヲ蓄フルコトニ關シテハ心理學者ノ爲メニ一ノ難問アリ、即チ其印象ヲ何所ニ蓄フルヤノ問題是

レナリ前章ニ於テ既ニ論端ヲ開キシ如ク把住力ナルモノハ一説ニヨレバ靈魂ノ

能力ナリト云ヒ他ノ一説ニヨレバ腦髓ノ物理的性質ナリト云フ、著者ハ後説ヲ可トスルモノナリ、然リ而シテ其印象ノ起因スルコト同ジカラズ、一己人ノ生涯ニ於テ起因スルコトアリ、又祖先ノ經驗ニ起因シテ遺傳シタルモノアリ、斯ノ如キハ自ラ經驗セシニ非レバ記憶ノ三要點中第三ノ要素ヲ供フル能ハザルヤ明カナリ、又第二祖先ヨリ遺傳サレタルカ或ハ一身ノ生涯ニ於テ經驗シタルカ其孰レナルニ拘ハラズ既ニ腦ノ組織中ニ蓄ヘタルモノハ意識中ニ現ルルノ機會ヲ待ツニ似タリ、故ニ外物ノ刺激ニヨリテ知覺ヲ惹キ起コストキハ過去ニ得タル心像モ共ニ之レト同伴シテ現ハルルモノナリ、例ヘバ古歌ニ「ふりさけて、みかづきみれば、ひとめみし、ひとのまよびさ、たもぢゆるかな」(萬葉集卷之六、大伴宿禰家持)トアルハ是レ眉ト三日月ト其形殆ド同シキガ故ニ月ヲ見レバ眉ノ觀念モ同伴スルナリ、第三觀念ノ現ハル、トキ何時ニ於テ經驗セシヤヲ明カニ知ルトハ完全ナル記憶ナリ、然リト雖モ上ニ述ベタル理由ニヨリテ何時何所ニテ經驗セシヤヲ知ラズシテ唯突然抽象的觀念ガ意識中ニ現出スルコトアリ、爰ニ於テ直覺、本能、早熟等ノ現象起ルナリ、是レ等ヲ



不完全ナル記憶ト云フ、是レ第三ノ要素ヲ缺クガ故ナリ、先ヅ不完全ナル記憶ヲ論  
 シ後チ完全ナル記憶ニ論及セン、而シテ不完全ナル記憶ヲ論セント欲セバ勢ヒ遺  
 傳ノコトヲ論ゼザルヲ得ズト雖モ是レ本書ノ許ス處ニ非レバ遺傳論者ノ得タル  
 結果ヲ少シク利用セントスルノミ。

遺傳

倍テ遺傳ノ詳論ハ之ヲ生物學者ニ譲リ唯一二ノ點ニ於テ讀者ノ注意ヲ促サシ  
 トス、遺傳ナルモノニ就キ博士ジョン・ホプキンス氏ノ説ニヨレバ銳敏ナル  
 親必ズシモ銳敏ナル子ヲ生ムニ非ラズ、又穎才ナルニ非ズシテ穎才ヲ生ムコトア  
 リ、是レ其兩親ノ性質混合ノ宜シキヲ得ルト否トニ關スルナリ、又數理ヲ應用シテ  
 兩親ノ銳敏ノ度ヲ加ヘ之ヲ二分スレバトテ必ズシモ子供ノ銳敏ノ度ヲ得ルニモ  
 非ズ左レバ遺傳スルニ如何ナル法則アルヤ、今日學者ノ答ヘ能ハザル所ナリト雖  
 モ亞兒哥爾的ノ飲量ト白痴ニ關シテハ恐ルベキ結果アルヲ知レリ、北米合衆國モ  
 ンす  
 といんノ大醫はを氏ノ經驗ニヨレバますさつちゆーせつ州ニ於テ三百ノ白痴  
 中百四十五ハ亞兒哥爾ヲ飲用スル者ノ子ナリ、又兩親共ニ酒ヲ好ミシ者ガ七人ノ  
 白痴ヲ生メリト云ヘリ、醫師だをん氏ノ經驗ニヨレバ白痴ナル子供ノ多分ハ飲酒

家ノ子ナリト云ヘリ、斯ノ如キ例枚舉スルニ遑アラズ。

本能及直覺ノ別

倍テ本能ト直覺トハ太ダ似タルモノナリト雖モ、亦少シク異ナル所アリ、兩者等  
 シク祖先ノ經驗ニヨリテ起リ、腦ノ組織中ニ在リテ遺傳シ、後突然意識中ニ現ハレ  
 テ精神現象ノ多分ヲ組織セシモノナリ、而シテ其現ハレタル觀念ノ活動スル方法  
 一ナラズ、理性的ノ活動ヲ多分ニスルコトアリ、又感情的及ビ意志的ノ活動ヲ多分  
 ニスルコトアリ、前者ヲ直覺ト云ヒ、後者ヲ本能ト云フ、例ヘバ二點ノ間ノ最モ短キ  
 線ハ直線ナリト云ヘバ人人其理如何ヲ問ハズシテ直チニ了解スルナリ、之ヲ直覺  
 ト云フ、西行法師ハ伊勢ノ大廟ニ詣テ感情ノ發スル餘リ、何者のわしませすかは  
 知らぬども有りがたさよなみだこぼるゝト詠ヲタルハ是レ感情アルモ其依テ  
 來ル所ヲ知ラザルナリ、之ヲ本能的感情ト云フ、又赤子ノ生レテ直チニ乳ヲ吸ヒ、鳥  
 類ノ學ハズシテ巢ヲ營ム如キハ稱シテ本能的運動ト云フ、本能ノコトハ之ヲ後章  
 ニ譲リ左ニ直覺ヲ論ゼン。

直覺ノ性質

直覺ノ性質及ビ起因既ニ斯ノ如シ、是ヲ以テ之ヲ觀レバ祖先ノ經驗セシコトガ  
 子孫ノ爲メニハ直覺ナルガ故ニ、今日世人ノ直覺ト稱スルモノハ必ズシモ萬古

不易ノモノニ非ズ、今日我等ガ直覺ヲ以テ知り能フ事柄ト雖モ先キニハ多年ノ經驗ヲ積ミテ漸ク知り得タルコトナラン、同シ理ニ由リテ今日我等經驗シテ得ル所ノ知識ハ末ノ世ニ至リテ直覺トナルコトナラン、例ヘバ地球ノ圓形ノ如キこと、ふすノ時ニアリテハ學者ト雖モ之ヲ了解シ能ハザリシモ今日ニ於テハ七八歳ノ童子ト雖モ一度地球ノ圓形ナルコトヲ聞ケバ了解スルニ非ズヤ、又だるういんノ進化説ノ如キハ今日尙ホ未ダ充分其理ノ眞ナルヲ容レザル人アリト雖モ十年前ニ比スレバ斯ノ如キ人大ニ其數ヲ減シタリ、此ノ比例ヲ以テ推ストキハ世人舉テ進化説ヲ直覺的ニ了解シ得ルノ時蓋シ遠キニ非ザルベシ、バイノミアル、セフレムノ如キ今日之ヲ學ブ者ハ一度其理ヲ解スルヤ明瞭ニシテ殆ド直覺的ナルガ如シト雖モにゆーどんノ之ヲ發見スルニ費シタル勞力又少シトセズ、直角三角形ノ弦ノ二乗ハ他ノ二線ヲ別ニ二乗シテ加ヘタルモノニ等シトハ、我等ハ明瞭ニ了解シ得ルト雖モ、古人ハ試験ヲ積ミテ後チ發見シタルナリ、數學ノ原理殆ド皆斯ノ如シ、世人往々數學ヲ以テ先天的演繹法ノ學ナリト思フニ拘ラズ、數學ハ物理學又ハ化學ト等シク實驗的歸納法ノ學ナリトハ今日學者ノ容レル所ナリ、又國民ノ權利及

自由ナル語ハ先天的ニ備ハリタル知識ノ如ク思ヒ、本邦人民此語ヲ聞クヤ否ヤ萬古不易ノ眞理ト見做シ、一時ニ國中ニ傳聲シタルハ世人ノ能ク知ル處ナリ、然ルト雖モ退テ熟考スルニ國民ノ權利或ハ自由ト云フコトハ古代ヨリ存在シタル觀念ニ非ズシテ開化ノ進歩ト共ニ進化シタルモノナルコトハ今日社會學者ノ信ズル所ナリ、實ニ法律、經濟、政治、宗教等ノ眞理ト認ムルモノモ皆過去ノ實驗ニ基キテ數多ノ星霜ヲ經過シ後チ漸ク先天的ノ觀念トナリタルモノナリ、之レニ加フルニ直覺ハ嘗ニ遺傳ニノミ由ルニ非ズ、一生涯ニ於テ少年ノ時ニ學習シ得タル知識ハ成長ノ後チ直覺トナルコト少ナカラズ、例ヘバ世人呼デ實際家ト稱スル人ハ事物ニ當リ其理由ヲ説明スルニ疎キモノナリト雖モ之ヲ判斷スルコト速カニシテ直覺的ナリ、是レ決シテ其人ノ智力少ナキニ非ズ、唯學者ノ智力ト類ヲ異スルノミ、學者ハ之ニ反シテ判斷スルコト速カナラザレドモ其理由ニ至テハ速カニ説明シ能フモノナリ、是等ノ兩性ヲ一人ニ具有スルモノ往々之レアリト雖モ意識ノ能量大ナラザルガ故ニ其中孰レカ一方ニ偏スルノ傾向アルハ勢ノ止ム能ハザル處ナリ、又婦人ノ智力ハ男子ノ智力ニ比スレバ直覺的ナリトノ説アリ、之ヲ證スルニ學

校ニ於テ教師ノ生徒ニ就テ實驗セシコトヲ引用シ且ツ世人一般ノ經驗ニ訴フルヲ得ト雖モ此ノ區別ノ果シテ事實ナルヤ否ヤハ尙ホ後日ノ經驗ヲ待テ明カニセシノミ、此ノ外直覺ニ關シ哲學上ノ論說及ビ昔時ヨリ諸種ノ學者ノ意見ヲ異ニセシコトノ歴史等ハ爰ニ畧ス。

早熟 爰ニ又直覺ノ一種ニシテ早熟ト稱スル現象アリ、即チ小兒成長スルニ從ヒ自ラ經驗ヲ積ミ重スルト共ニ親ヨリ遺傳サレタル印象現出シテ智力ノ發達ヲ助クルモノ是レナリ、然リ而シテ往々此ノ遺傳サレタル印象ノ出現スルコト非常ニ迅速ニ且ツ多クシテ往々世人ヲ驚カセシコトアルナリ、俗ノ所謂神童是ナリ、本邦ニ於テ神童ノ例少ナカラズト雖モ確乎タル歴史ナキヲ以テ事實ヲ引用スルニ難シ、唯ダ二三ノ傳説ヲ引キテ之ヲ示サン、事實ノ眞偽ハ著者之ヲ知ラズ、夫ノ親鸞上人一八九三、三三死、九歳ノトキ、一あすありと思ふ心の八重櫻今よひあらしの吹かぬものかは、又菅原道實十一歳ノトキ、月輝如晴雪、梅花似照星、可憐金鏡轉、庭上玉芳馨、又由井正雪十一歳ノトキ、徳川家康ト秀頼トノ間ニ戰爭起リシトキ、其戰爭ノ顛末ヲ語リシガ果シテ氏ノ言ヒシ如ク、徳川氏勝利ヲ得タリト云フ、又英國ノヒュンズチゆある

と、みる一八七〇、三六死ハ稀有ノ早熟ナリト云フベシ、氏ハ千八百六年ニ生レ、父ノ最モ嚴重ナル教育ヲ受ケタリ、而シテ其教育ノ結果ト氏ノ早熟ト相符合シタルナランカ、齡僅カニ八歳ノトキ希臘語ニテいそつぶ物語せのふをん、あなばしす、及ビいくるびしやへらどたす、るしあん、いそくらちす、ふれどら等ノ著書ヲ讀ミ、又八歳ノトキ羅旬語ヲ學ビ始メタリ、之レト同時ニ英語ニテるべろどそん、ひゆーむ、ぎつぼん、わどそん、ふーく、ろりん、らんごるん、ぼるねつど、もさいいむ、まくりー等ノ著書及ビ年報三十冊ヲ讀ミタリト云フ、氏ハ是レ等ノ書ヲ了解シ得シヤ、又了解セシモ之ヲ記憶セシヤ、ノ點ニ至リテハ著者之ヲ知ラズト雖モ其孰レヲ問ハズ實ニ稀有ノ早熟ト云ハザルヲ得ズ、又もぎーど一七九一、五死ハ高名ナル獨逸ノ音樂者ナリ、其ノ父モ亦音樂者ナリシカバ幼時ヨリ音樂ノ中ニ成長シ三歳ノ頃ヨリ其ノ姉ノ側ニ坐シ樂ヲ聞ケバ喜ビノ色ヲ呈シ、又時トシテ樂器ニ觸ルレバ音樂ノ天才アルコトヲ現ハセリト云フ、又四歳ノ時常ニ聞ク所ノ一詩ヲ暗ンジテ之ヲ朗吟シ、其年ニ一詩ヲ作り、其齡未ダ八歳ニ滿ラズシテわつせんばるぐニ於テ風琴ヲ奏シ衆人ヲ驚カシシコトアリ、年長ズルニ及デ才能益々發達シ、二十四歳ニ至リテ一ノ戯曲ヲ

著ハセリ、此ノ曲ヅル非常ノ傑作ニシテ近世ニ至ル迄大ニ影響ヲ及ボセシモノナリ、又一種ノ早熟アリ、米國一農家ノ子ニせらかるぼるんナル者アリ、ふらんしす、へいりーノ記ニヨレバ此ノ子齡僅カニ八歳ナリシ時十以下ノ數ヲ一乗ヨリ十乗ニ至ル迄容易ニ且ツ速カニ暗算スルヲ得タリ、是レ前ニ記憶セシニ非ズ、其時ニ當リテ數フルナリ、八ノ十六乗ニ至ル迄ヲ暗算スルニ少シモ誤ルコトナカリシガ、大數ヲ數フルニハ少シク困難ノ色見エタリ、一〇六九二九ノ平方根ヲ問ヒシニ傍ラノ人其原數字ヲ書キ終ル前ニ三二七ナリト答ヘ、二六八三三六一二五ノ立方根ヲ問ヒシニ速カニ六四五ト答ヘ、四十年間ニ幾分時間アリヤト問ヒシニ二五二二八八〇〇ナリト答ヘタリト云フ、其他早熟ノ例枚舉スルニ追アラズ左レバ早熟ナルモノハ果シテ非凡ナルヤ否ヤ、少年ノトキ早熟ニシテ成長スルト共ニ其性質ヲ失フコト屢アリ又非凡ナル人ハ果シテ早熟ナルヤヲ尋ヌルニ先年さーりー氏ノ研究シタル所ニヨレバ非凡ナル人ノ過半ハ早熟ナリト云ヘリ。

一  
種  
ノ  
記  
憶

上ニ述ベシハ祖先ノ經驗ガ遺傳シテ再生シタルモノニ過ギズト雖モ、其他之レニ類似シタルモノアリ、即チ自分ノ生涯中ニ經驗セシコトガ其後再生スルニ當リ

直覺ト等シク記憶第三ノ要素ヲ缺クコト是ナリ、例センニ或ル婦人ノ病ニ罹リろんぞんヨリ田舎ニ遷リシトキ二三歳ノ小女アリケルガ、母ノ死スル二三日其所ニ伴ハレ行キ、其後益々成長セシガ、母ノ顔ヲモ明カニ覺エザリシ、成長ノ後偶々其母ノ死シタル家ニ行キ母ノ臥シ居タル部屋ニ入レリ、元ヨリ其所ハ母ノ死シタル部屋ナルコトハ夢ニモ知ラザルナリ然ルニ太マ驚キタル有様ナレバ傍ノ人々其故ヲ問ヒシニ彼ノ婦人答ヘテ曰ク、余ハ前ニ此ノ部屋ニ在リテ彼ノ隅ニ居タル病ミシ婦人ノ余ニ凭レテ泣キシコトアリシト「カーペンター精神生理學四三〇頁又之レニ類スル奇談アリ、英國べんさる、ぐりーん寺院ノ住職はんさる、教師生レテ十八ヶ月ノ時其母ハ友人ト共ニ城廓ヲ見物ニ行キシ時、其小兒モ共ニ連レラレタリ、母ハ此ノ事ヲ知ラズ成長ノ後一日其城廓ヲ見物ニ行キシガ城門ニ近ヅキシトキ慥カニ以前此ノ門ヲ一見セシコトアルヲ覺リ大ニ不思議ノ念ヲ生ジ歸リシ後母ニ尋テシニ果シテ生レテ十八ヶ月ノトキ之ヲ見シコトアルヲ發見セリト云フ、(同上四三〇—三一頁)又佛人もうれー氏曰ク、余ハ其何故ナルヲ知ラズト雖モ、不思議ニモ屢々三人ノ姓名ト其人々ノ住居スル市名ト共ニ心中ニ浮ビシコトアリ、余

ハ元ヨリ其人ノ誰ナルヤヲ知ラザリシ、一日偶々新聞紙ヲ取り廣告欄内ヲ見居タルトキ佛國ノ大市町ニ於テ礦水ヲ賣買スル者ノ人名表ヲ見タリシニ其中ニ自ラ不思議ニ思ヘル彼ノ人名及ビ住所ノアルヲ見タリ、然レドモ是レ決シテ驚クニ足ラズ、何トナレバ二ヶ月程以前礦水ノ廣告ニ注意セシコトアリ、而シテ余ハ言語ヲ記憶スルニ長ズルガ故ニ以前ニ見シトキ知ラズ識ラズ眼ニ觸レテ記憶シ居タリシナリト、テインインテリョエンス英譯七六頁此ノ三例ニ由テ之ヲ觀レバ自分ノ生涯ニ經驗セシコトハ直覺ト異ナリテ彼ノ記憶ノ第三ノ要素ヲ缺クニモ拘ラズ再生スル處ノ觀念ハ明瞭ニシテ直覺ノ如ク抽象的ノモノナラズ實形ノ心像ヲ現ハスナリ、以上ハ不完全ナル記憶ノ概論ナリ、左ニ完全ナル記憶ヲ論述セン。

記憶

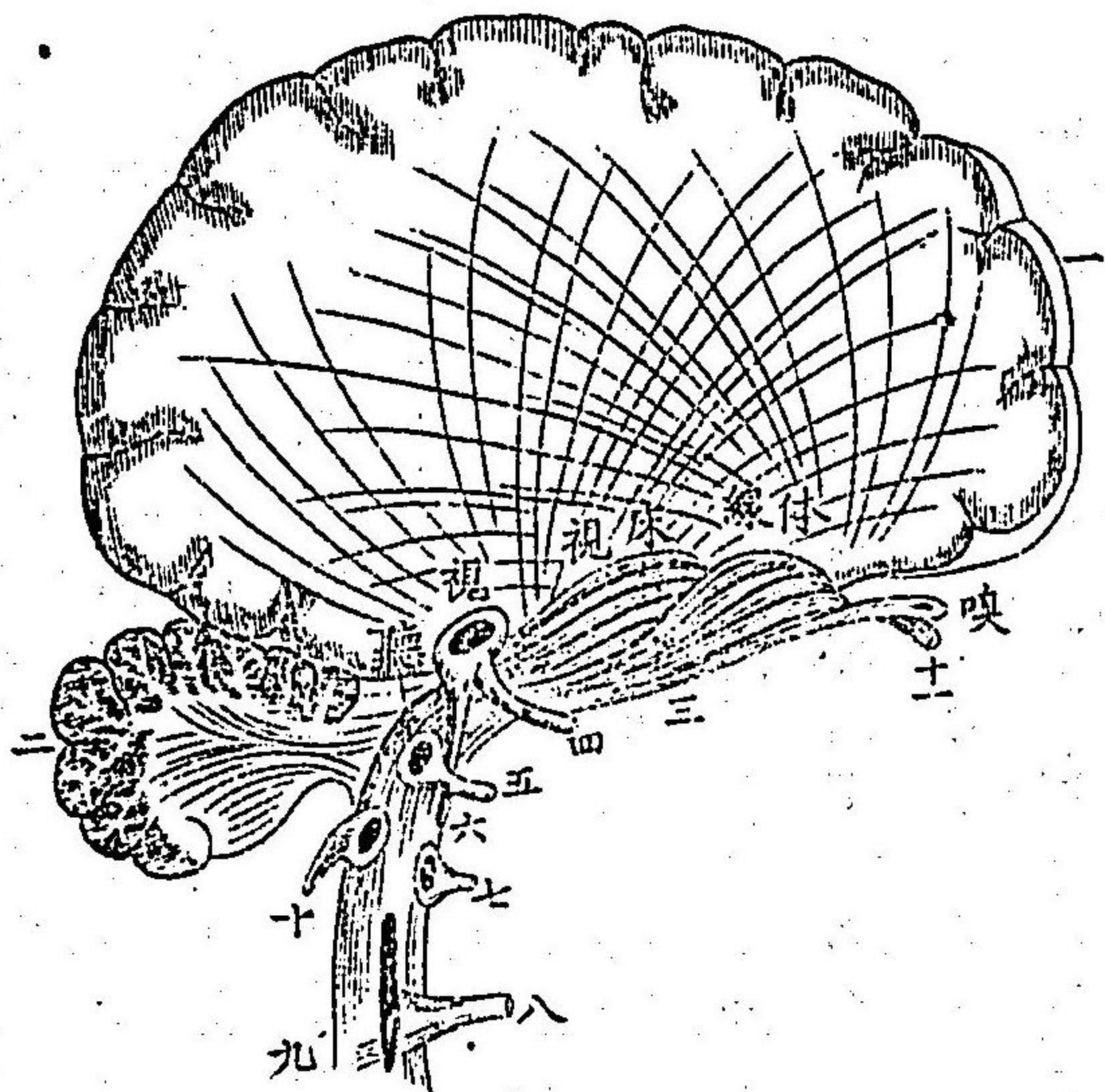
記憶ハ精神界ニ於テ必要ノ位置ヲ占ムルモノナリ、而シテ外物が五官ヲ刺激シテ惹キ起シタル感覺ヲ以テ精神現象ノ第一ノ基礎ト爲ストキハ記憶ハ即チ第二ノ基礎ト云フモ不可ナカルベシ。

抑モ記憶ナルモノハ一種ノ力ニ非ズシテ印象ガ腦髓ニ粘着スル性質ナリ、恰モ疵ガ皮膚ノ表面ニ其印象ヲ殘シ又光リタル物體ノ形ガ目ノ網膜上ニ印象ヲ殘シテ後像ヲ造ルト等シク外物ノ刺激ガ腦髓ノ細胞及ビ纖維ニ生ジタル變更ヲ保存シテ後日再生スルモノナルガ故ニ記憶ノ性質ヲ學ハントスルニハ大畧腦髓ノ活動スル理ヲ知ラザル可ラズ、先ヅ始メニ印象保存ノ理ヲ論ジ次ニ印象再生ノ法ヲ論ジ後チ再生シタル印象ノ性質ヲ論セントス。

腦髓

既ニ論ジタル如ク腦髓ハ灰白質ト白質トノ二質ヨリ成リ灰白質ハ重モニ細胞ヨリ成立スルモノニシテ腦髓ノ外面ニ廣布シアルモノナリ、第八圖ハ灰白質ノ細胞及ビ纖維ヲ示シタルモノナリ、然ルニ白質ハ腦髓ノ内部ニ在リテ重モニ纖維ヨリ成立ス、其他腦髓ノ内部ニハ種々ノ小機關アリ、第七圖ハ即チ其小機關ノ位置ヲ大體ニ示シタルモノナリ、第九圖ハ其小機關ト外官トノ關係ヲ示シタルモノナリ、之ヲ以テ視神經或ハ聽神經等ノ中央ノ如キハ大畧其位置ヲ知り得ルモノナリ、第十圖ハ腦髓中運動神經ノ中央ヲ示シタル者ニシテ身體ノ運動ト腦髓トノ關係ヲ知ルニ足ル可シ、然リト雖モ腦髓ノ灰白質ノ各部分ハ必ず特別ノ活動ヲ爲スヤ、或

第九圖



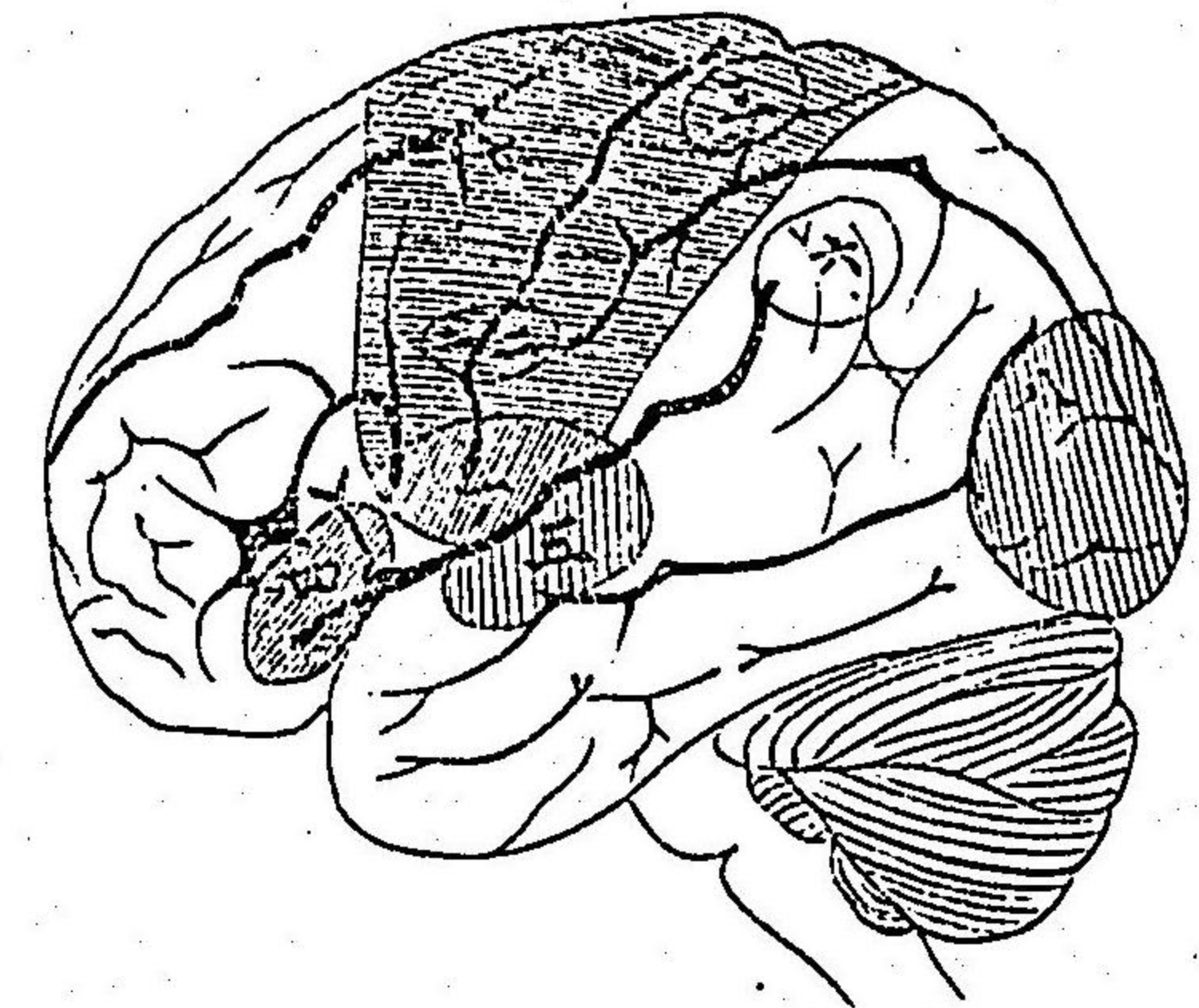
- (一) 大腦、(二) 小腦、(三) 感動神經纖維、(四) 嗅神經節、(五) 視神經、(六) 聽神經、(七) 聽神經、(八) 視神經床、(九) 線狀體、(十) 線體、等ヲ含ム
- (四) 視神經、(五) 聽神經、(六) 延髓、(七) 舌ノ下面ノ神經、(八) 脊髓神經、(九) 脊髓、(十) 肺胃神經、(十一) 嗅神經

ハ腦髓ノ全部共ニ活動ヲ爲スモノナルヤ心理學者ノ明白ニ答フル能ハザル所ナリ、一方ヨリ觀察スルトキハ腦髓ノ各部分ハ夫々特別ノ活動ヲ有スルガ如シ、何トナレバ第十圖ニ

示シタル各部分ニ電氣ヲ用ヒテ刺激スルトキハ必ズ定マリタル運動ヲ爲セバナリ、然レドモ是レ決シテ五官ガ各々其特性ヲ有スルト同シキモノニ非ズ、之ヲ以テ眼ヲ失フタル人ハ其ノ爲メニ耳ヲ以テ代用スルコト能ハズ、又聾ハ鼻ヲ以テ耳ニ

代用スルコト能ハズト雖モ腦髓ノ灰白質ニ於テハ之レト異ナリ、甲ヲ以テ乙ノ爲

人ノ腦髓左ノ表面ニ於テ動神經部及發音メニ代用シ乙ヲ



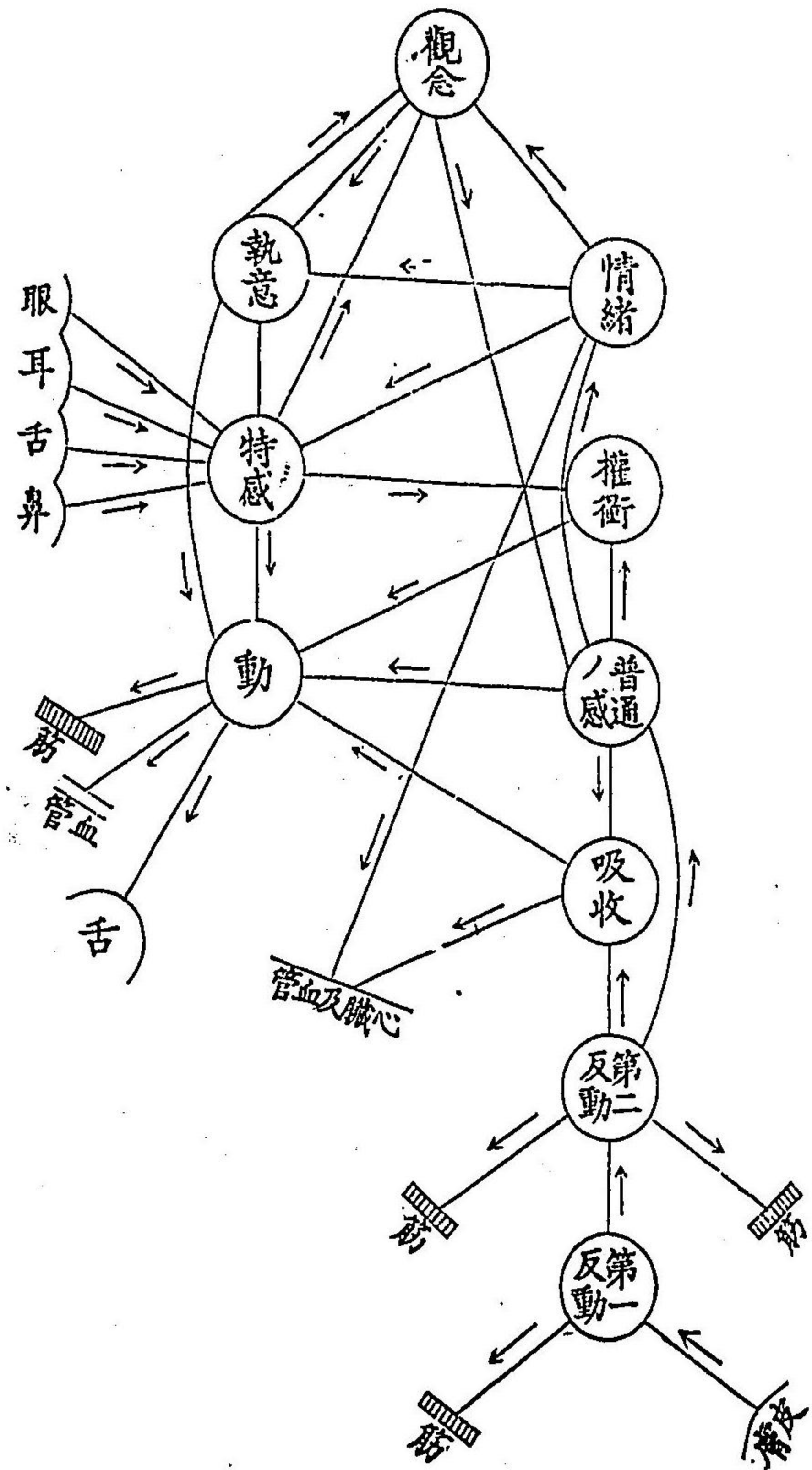
第十圖

- 神經部ヲ示シタルモノナリ
- (一) 舌ノ下面及ビ顔ノ神經部、代用スルコトヲ得ルナリ、故ニ此點ヨリ觀察スルトキハ灰白質ノ各部分ハ五官ノ如ク互ニ應雜ナルモノニ非ズ、又各部分ノ區域ハ耳目鼻口ノ如ク
- (二) 手ノ筋肉神經部、
- (三) 脚ノ筋肉神經部、
- (四) 動神經發音神經部、
- (五) 感神經發音神經部、
- (六) 眼ノ中央、
- (七) 此ノ所ヲ害スレバ手足ヲ麻痺サスルナリ、
- (八) 視神經部、

分明ナラザルヤ明カナリ、是ヲ以テ之ヲ觀レバ腦髓ノ灰白質及ビ内部ノ小機關ハ特別ノ活動ヲ爲シ又全體ノ活動ヲモ爲スガ如シト雖モ其兩者ノ區域ヲ定ムルコ

ト甚ク難シ、左レハ細密ニ各機關ト精神活動トノ關係ヲ一々定メントスルハ現今ノ學識ヲ以テ望ム可ラザルコトナリ、故ニ著者ハわいど氏ノ作ナル第十一圖ニヨリ精神活動相關ノ理ヲ示サントス、初メ

第十圖



トス、初メ

外物ノ刺激五官ヨリ入り來ルヤ直チニ反射シ筋肉ノ收縮ヲ惹キ起スモノアリ、或ハ吸收ノ點ニ達シテ吸收サル、モノアリ、或ハ直チニ情緒ヲ惹キ起スコトアリ、或ハ思想ヲ惹キ起スコトアリ、其有様種々ニシテ複雑ナルモノナリ、斯ノ如ク様々ナル現象起ルトキハ必ズヤ腦髓ノ組織中ニ於テモ亦變更ヲ生ズルナリ、然レドモ其變更ノ性質ニ至リテハ之ヲ定ムル能ハズ、唯知ル其變更些細ナルトキハ直チニ平癒シテ其跟跡ヲ失シ其變更大ナルトキハ長ク其跟跡腦中ニ存シテ記憶ノ基礎ヲ形ヲ造ルモノナルコトヲ。

印象ノ種類

夫レ疵ナルモノハ其大小ニ應ジテ或ハ久シク或ハ暫時ノ間皮膚ノ表面ニアリテ其跡形ヲ残スモノナリ、之ニ加フルニ若シ外物ガ其疵ニ觸ル、トキハ元ノ如キ痛ミヲ生ズルナリ、故ニ切り疵、火傷、及ビ瘡ノ痛ニ等ハ夫々特質ノ痛ミヲ再生スルモノナリ、之レト同ジク腦髓ニ受ケタル印象ハ腦中ニ存シテ其細胞ガ再ビ外ヨリ刺激サル、トキハ其刺激ノ種類如何ニ拘ラズ細胞ハ活動シテ前ニ受ケタル印象ヲ再生スルモノナリ、實ニ幻影ノ起原爰ニ有リト云フ可シ、後チニ於テ之ヲ細論スベシ。

細胞  
ノ  
相  
理

次ニ細胞相關ノ理ヲ述ベシニ細胞ハ互ニ神經纖維ニヨリテ鎖ガレタルモノナ  
リ、而シテ各細胞ハ他ノ細胞ト連絡スルコト多キモノアリ或ハ少ナキモノアリ、比  
喩ヲ以テ之レヲ説明センニ人ハ社會的動物ナリ故ニ誰ニテモ多少他人ト交通ス  
ルニ非レバ精神ノ社會的慾望ヲ満足セシムル能ハズト雖モ交際ノ廣キ人アリ又  
交際ノ廣カラザルモ善良ナル朋友ヲ撰ンテ交際スル人アリ、又實ニ交際ノ少ナキ  
人アルナリ、然リ而シテ人間ノ社會的性質ハ元ヨリ其人ノ精神的發達及ビ其人ガ  
社會ニ對シテ爲ス處ノ事業ニ由リテ之ヲ發達セシムルヲ得ルト雖モ尙ホ其上他  
人トノ交際ニ由リテ之ヲ助クルハ疑フ可ラザル事實ナリ、各因相助密而精、大業自  
成大發明、每見智人新智德、憐他孤陋鈍斯生(ホーマー)交際ナルモノハ彼我互ヒノ連  
絡ヲ通ズルモノナレハ管ニ朋友ノ善良ナルヲ求ムルノミナラズ種々ノ人物ト交  
際スルコトニ由リテ互ニ利スルコト又大ナリト云フ可シ、故ニ一個人ヲ以テ一個  
ノ觀念ト見做ストキハ觀念ノ互ニ聯絡スルハ恰モ一個人ガ互ニ交際スルニ等シ  
ト云フ可シ、又觀念互ノ聯絡ガ記憶及ビ其他ノ精神活動ニ影響スルハ恰モ社會ノ  
交際ガ人間ノ生活ニ影響スルド同一理ナリト云フ可キナリ。

因ニ云フ、學識ニ普通ト專門ノ二種アリ、普通ノ學識ニ能ク通ゼズノ一科ノ專  
門ニノミ長ズル人ハ是レ其ノ觀念一方ニノミ長シ、腦中ニ存スル觀念ハ其數ノ  
多少ニ關セズ、種類至テ少ナク所謂純一ナル者ニシテ觀念ハ屢々聯絡スルモ同  
類中ノ聯絡ニ過ギザルナリ、恰モ商人ハ商人トノミ交際シ政治家ハ政治家トノ  
ミ交際シ教育家ハ教育家トノミ交際スルナレハ互ニ智識ヲ交換スルモ其益ス  
ルコト實ニ少ナシト云フ可シ、何トナレバ交換ノ利益ハ異種ノ間ニ於テ最モ著  
シキモノナレバナリ、故ニ普通ノ教育ヲ以テ人心ヲ練習スルニハ一般ノ學理ニ  
通ゼザル可ラズ、而シテ一科ヲ專門トスルト同時ニ異種ノ學ヲ研究シ腦髓ヲシ  
テ千種万別ナル學識ノ住所ト爲シ腦ノ纖維ヲシテ異種ナル觀念ノ互ニ聯絡ス  
ル媒介ト爲サシム可シ、是レ大發明スルノ秘密ト云フ可シ、レオナルダ、ルン、マ  
ルン、ルン、ルン等ノ如キハ皆一科ノミヲ學ビタル人ニ非ズ、種々ノ學ヲ學  
ビ一方ニハ未ダ人ノ知ラザル事實ヲ多ク發見シ、又他ノ一方ニハ形而上ナル哲  
理ト形而下ナル事實ノ關係ニ就テ未ダ世人ノ知ラザル聯絡ヲ發見シタルナリ、  
例ヘバルンノ進化論ノ如キハ形而上ヨリ云ヘバ既ニ數百年ノ昔日ニ



くれちやす及ビ印度ノ哲學者ノ如キ其理ヲ考へタル者ナキニ非ズト雖モ是レ唯形而上ニ止マリタルナリ、又形而下ヨリ云へバヒキビヤノ如キハ互多ノ事實ヲ蒐集シタリト雖モ其事實中ニ高尙ナル哲理ノ存スルヲ知ラザリシ、爰ニ於テカるるゝゐんハ生物學上緊要ナル事實ヲ多ク發見シ又他ノ一方ニハ形而上ノ哲理ト形而下ナル事實トノ間ニ存スル大關係ヲ發見シタルナリ、殊ニ後者ハ氏ノ名ヲシテ高ク秀デシメタル所以ナリ、

此觀念ノ聯絡ヲ能ク爲サシムルモノハ腦中ニ在ル神經纖維ナリトス、纖維ハ猶ホ道路ノ如シ道路緊半ナレバ交通モ亦自ラ繁ク社會ノ益々榮ユル如ク腦中ノ纖維壯健ニシテ活動スルトキハ精神ハ益々熾ナリ、而シテ此纖維ヲシテ活潑ナラシムルモノハ習練ニ外ナラズ習練ヲ以テ觀念互ノ聯絡ヲ生ゼシメ且ツ其聯絡ヲ確乎タラシムルコトハ後チ習慣ノ章ニ於テ細論スレバ爰ニ畧ス、外物ノ印象ヲ腦中ニ入レ之ヲ保存スルノ理大凡ソ斯ノ如シ、

一聯合  
一般  
觀念

左レバ今ヨリ一步ヲ進メ觀念聯絡ノ性質ヲ論ゼン、觀念ノ聯絡トハ同伴ノ基礎ト云フ可シ、即チ甲乙丙…ノ觀念互ニ聯絡シテ若シ其中甲ノ觀念外ヨリ刺激ヲ受

同時  
ニ入  
リタ  
ルニ  
合ノ  
聯念

ケ活動スルトキハ乙丙ノ觀念ハ甲ノ爲メニ刺激セラレ甲乙丙同時ニ活動スルモノナリ、斯ノ如ク聯絡シタル甲乙丙…ノ觀念中ニ如何ナル法則アリテ活動スルヤ、心理學者ノ說一定セズト雖モ諸說又互ニ矛盾スルコトナシ、唯少シク見様ノ異ナルノミ、著者ハ其中ヲ取りテ觀念ノ聯絡ニ二種ノ法アルヲ見ルナリ、第一、時間ノ聯絡法、第二、種類ノ聯絡法是レナリ、抑モ時間ノ聯絡法トハ如何之ヲ小分シテ二トス

(イ) 同時ニ腦中ニ入り來リタル印象ハ互ニ聯絡シテ腦中ニ存シ其一ツガ刺激サルルトキハ他ノモノモ亦同伴シテ再生スルモノナリ、(ロ) 觀念ガ前後接近シテ入り來タルモノヲ例セシニ彼ノ梅ヲ見レバ先ヅ視覺ヨリ其刺激ヲ味覺ニ及ボシ以テ酸キ感覺ヲ惹キ起シ其レヨリ唾液腺ヲ刺激シテ唾液ヲ口ニ出スコトノ事實ニ由リテ明カナリ、又海上ニ於テ難ニ逢ヒタル人或ハ船暈ノ爲メニ困ミタル人ハ海上ノ浪ヲ見レバ直チニ頭痛ヲ病ムコトアルヲ以テ知ルベシ、著者モ亦此事實ヲ經驗セシコトアルナリ、是レ海面ノ知覺ト頭痛トハ互ニ聯絡スルニ由リテ同伴シテ再生スルガ故ナリ、又昆コウ太利タイリガ繼母ニ伴ハレ其親戚ニ行キ庭園ノ景色ヲ眺メテ遊ビ居

タルトキフト何ヤラ思ヒ付キ、ア、併し此庭も私を憎がる母親との、伯父の所有  
 うサウ考へると否になる面白うも無い居たうも無い云々(昆太利物語 十四頁)  
 是レ亦同伴ノ一例ナリトス、彼ノ、田子の浦にうち出て見れば白たへの富士の高嶺  
 に雪と降りつゝ、(山邊赤人)ノ如キ富士ノ山ト田子ノ浦ト雪トノ三者ハ同伴法ニヨ  
 リテ是非相伴ハザルヲ得ザルナリ、又彼ノ雲耶山耶吳耶越、水天髣髴青一髮、萬里泊  
 舟天草洋、烟横蓬窓日漸沒、瞥見大魚波間跳、太白常船明似月、(泊天草洋、頼山陽)ノ如キ  
 ハ麗詞ヲ以テ景色ヲ畫キタルモノト云フ可シ、是レ景色ヲ見テ同時ニ認識シ得ベ  
 キモノヲ此詩ニヨリテ同伴シ一時ニ想像ニ現ハシ得タルナリ、故ニ記事文或ハ景  
 色ニ關シタル詩歌等ハ總テ此同伴法ノ應用ト云フモ不可ナカル可シ、又繪畫ニ於  
 テ此理最モ明カナリ、夫レ繪畫ハ幻影ノ一種ニシテ平面ナルモノヲ以テ實體ナル  
 如キ視覺ヲ惹キ起スモノナリ、之ヲ以テ外ヨリ入り來リテ網膜ヲ刺激スルモノハ  
 些カノ要點ニシテ其足ラザル所ハ同伴ニヨリテ精神中ニ惹キ起サレタル概念之  
 ヲ補ヒ以テ完全ナル實體ノ如キ思ヲ生ゼシムルナリ、詳論ハ之ヲ幻影ノ章ニ讓ル  
 故ニ知ル可シ概念ハ同伴法ニ任シテ各自ノ精神中ニ現ハレシムルモノナルヲ同

時ニ腦中ニ入りタル概念ノ同伴スルコト大凡ソ斯ノ如シ。

前後  
 接近  
 シテ  
 入リ  
 タル  
 観念  
 ノ  
 合  
 合

然リ而シテ前後接近シテ現ハル、モノ、概念ハ又互ニ同伴スルモノナリ、故ニ  
 曉ト云へハ必ズ晝ノ概念同伴シ秋ト云へハ必ズ冬ノ概念同伴ス、又花ノ咲クヲ見  
 レバ春ノ概念ヲ同伴スルナリ、あきとぎはさきぬべからしわがやどのあさぢがと  
 なのちりぬるみれば(萬葉集、穗積皇子)、洛陽城東桃李花、飛來飛去落誰家、洛陽女兒惜  
 顔色、行逢落花長歎息、今年花落顔色改、明年花開復誰在、己見松柏摧爲薪、更聞桑田變  
 成海、古人無復洛城東、今人還對落花風、年々歳々花相似、歳々年々人不同、云々(唐詩選  
 劉廷芝)あけぬればくるゝものどいしりながらなやうらめしきあさばらけかな(百  
 人一首、藤原道信朝臣)かすがぬにしぐれふるみゆあすよりのもみぢかざさんたか  
 まとのやま(萬葉集、藤原朝臣八束時)前後ニヨリテ概念ノ互ニ同伴スルコト斯ノ  
 如シ。

種類  
 ニ  
 ヲ  
 類  
 別  
 合  
 合

以上ニ於テ時間ノ聯絡法ヲ略述シタレバ今ヨリ種類ノ聯絡法ヲ論セントス、即  
 チ時間ノ前後ヲ問ハズ場所ノ遠近ヲ論ゼズ腦中ニ入りタル多數ノ印象中同種類  
 ノ概念ヲ互ニ同伴スルモノナリ、例へハ、咲きにけりしが山さどのうの花のかきぬ

にきぬし雪とみるまで三十六歌仙、藤原元興、たてもなくぬきもさだめず乙女らが  
 おるもみちばに霜なふりをね(萬葉集、大津皇子)門松や冥途の旅の一里塚目出度も  
 おり目出度もなし(二休和尚)是等ハ皆能ク同伴法ヲ示スモノナリ、卯ノ花ト雪トハ  
 兩者共ニ白シ、故ニ同伴ス、又紅葉ハ錦ニ似タリ故ニ錦ヲ織ルコトニ比シタレドモ  
 錦ヲ畧シテ乙女らが織る紅葉ト云ヘルナラン、又門松ハ大ナル時計ノ如ク一年ノ  
 初旅ナルヲ示スナリ、蓋シ時ノ經過スルハ旅人ノ道ヲ經過スルニ似タルモノナレ  
 バ門松ヲ以テ一里塚ニ比シタルナラン、之レ皆同伴法ノ現表シタルモノニ非ズシ  
 テ何ツヤ。

兩極  
互伴ノ

此同伴法ニ種々ノ差別アリ、第一ハ兩極端者互ニ同伴スルヲ、即チ黑白、長短、上下、  
 大小ノ如シ、是レ兩極端同一物ナレバナリ、老子云ヘルコトアリ曰ク「道可道非常道、名  
 可名非常名」此兩者同出而異名、天下皆知美之爲美、斯惡已、皆知善之爲善、斯不善  
 已、云々、又變化ハ不變化ニ對シテ存ス、故ニ「くれて行く春と残りもなきものをおし  
 む心のつきせざるらん」千載和歌集、大納言隆季ハ春ノ變リ行クモ之ヲ惜ム所ノ人  
 心ノ變テザルヲ云フナリ、之ニ反シテ、人心あらずなれども住吉の松の影色は變ら

相似  
物ノ

さりけり(千載和歌集、津守泰基)又人ト花トヲ、比較シテ云ヘルコトアリ、曰ク「今年花似  
 去年好、去年人到今年老、始知人老不如花、可惜落花君莫掃」云々(唐詩選、岑參)斯ノ如ク  
 兩極端ノ互ニ同伴スルハ老子ノ云ヘル如ク兩端必ズ符合スル所アルヲ以テナリ、  
 第二相似タル物ノ觀念ハ互ニ同伴スルヲ即チ肖像ヲ見テ其人ヲ思ヒ出シ、櫻花ヲ  
 見テ雪ヲ思ヒ出シ、又山頂ニ青草ノ在ルヲ見テ敷物ヲ思ヒ出ス等ノコトアルナリ、今  
 二三ノ例ヲ擧ゲンニ、櫻ちる木の下風ハ寒からで雲に知られぬ白雪をふる(藤原高  
 光)みよしぬのあをねがみぬのこけむしろたれかをりけんたてぬきなしに(萬葉集、  
 讀人不詳)等ハ能ク其類似セル觀念ノ同伴法ヲ説明スル者ト云フ可シ、第三、二三ノ  
 事實ヲ見テ其レヨリ一般ノ理ヲ同伴スルコト之レナリ、例へバ、世の中を常るさきもの  
 と今ぞ知るならの都のうつろふ見れば(萬葉集、讀人不知)是レ實ニ歸納法ノ單一ナ  
 ル者ナリ、第四、之レニ反シテ一般ノ理ヲ考へ事實ヲ同伴スルコトアルナリ、世の中も  
 常にしあらねばやどにある櫻の花の散れる頃かも(萬葉集、久米女郎)世ノ無常ヲ感  
 シ以テ櫻花ノ飛散スルヲ思ヒタルナリ、是レ實ニ演繹法ノ端緒ト云フ可シ、第五、一  
 ツノ事實ヲ見テ一般ノ理ヲ想ヒ其レヨリ直チニ又其理ヲ推シテ他ノ事實ヲ思フ

事實  
ヨリ  
事推

トル  
心理學

「アリ、其時ハ恰モ一ツノ事實ヨリ直チニ他ノ事實ヲ同伴スルガ如シ、ヒよん、すち、あるとみる氏ハ實際上ニ於テハ推想法ヲ演繹法ヨリモ尙ホ大切ナリト云ヘリ、例センニ「かさゝぎのわたせる橋にわく霜の白さをみれば夜ぞふけにける」中納言家持又「かすみたつのゝへのかたにゆきしかばうくひすなきつゝなるになるらし」萬葉集、丹比真人乙鷹、前者ハ橋上ノ降霜ヲ見テ深夜ナルヲ知リ、後者ハ鶯ノ囀ルヲ聞テ春ノ時候ヲ知リタルナリ、種類ノ同伴法大凡斯ノ如シ。

復雜  
ナレ  
同伴  
法

前述セル所ハ其原理ヲ示シタルニ過ギズ、是等ノ同伴ハ又互ニ合シテ復雜ナル同伴ヲ生ズルヲアルナリ、例ヘバ「消かへり思ひもかなし立ちのぼる夜の煙のすゑの白雲」扶桑拾遺集、後小松天皇登遐、ぬばたまのよるさりくればまさむくのかわとたかしもあらしかもとき、萬葉集、柿本朝臣人麿、秋こぬと目にのさやかに見えねとも風の音にぞ驚かれぬる、藤原敏行朝臣、霜雪も未だ過ぎぬば思ひぬに春日の里に梅の花みつ、萬葉集、大伴宿禰、夕されば小倉の山に鳴く鹿のこよひは鳴すいねにけらしも、萬葉集、舒明天皇是等ハ皆々ナル觀念ノ同伴ヲ挑ム者ナリ、細密ニ之ヲ説明スルニ違アラズ、故ニ讀者自ラ自由ニ試ラレンコトヲ望ム、同伴ノ法大凡斯ノ如シ。

再生  
シタ  
ル心  
像

左レハ今ヨリ再生シタル心像ニ就テ論セントス、前ニ言ヘル如ク再生シタル心像ノ形質ハ元ノ知覺ノ形質ニ類似シタルモノナリ、唯知覺ノ如ク明瞭ニ現ハレザルノミ、故ニ眼前ニ景色ヲ見ルコト、其後之ヲ記憶スルコトヲ比スレバ其精神活動ノ形質ニ於テ差違アルコトナシト雖モ唯後者ハ前者ノ如ク明瞭ナラザルナリ、再生シタル觀念ニモ亦元ノ知覺ノ如ク其種類甚ダ多シトス、然リ而シテ各印象ハ既ニ論シタル如ク決シテ孤立スルモノニアラズ互ニ聯合スルモノナレバ再生スルニ當リテ亦互ニ同伴スルモノナリ、視覺ノ心像ガ他ノ視覺ノ心像ト同伴スルコトアリ、或ハ音響ノ心像ガ視覺ノ心像ト同伴スルコトアリ、或ハ味覺カ視覺ノ心像ト同伴スルコトアリ、夫レ斯ノ如シト雖モ心像ナル語ハ素ヨリ視覺ノ再生ヲ現ハスニ最モ適シタル語ニシテ音樂ノ心像又ハ臭味ノ心像等ノ如キハ視覺ノ比喩ヲ以テ稱シタルモノナリ、是等諸種ノ心像ハ互ニ聯絡シテ種々ナル現象ヲ生ズ、其中讀者ノ注意ヲ乞ハントスル處ノ一點アリ、即チ記號ニヨリテ物ノ知識ヲ得ルコト是レナリ。

符合

抑モ我等ノ物ヲ知ルニ二種ノ方法アリ、即チ五官ニ觸レテ直接ニ之ヲ知ルコト

ト知  
關係ノ

アリ、或ハ記號ヲ以テ間接ニ之ヲ知ルコトアリ。眼ニ景色ヲ見テ其知覺ヲ得ルハ直接ノ知識ナリ。又詩人が墨ト紙トナリ以テ景色ヲ眼前ニ見ユルガ如ク書クハ之レ記號(言語)ヲ以テ間接ニ其景色ヲ知ルコトナリ。然リ而シテ記號ノ類其數多シト雖モ最モ要用ニシテ且ツ多數ナルモノハ言語ノ右ニ出ルモノアラザルナリ。言語ハ最モ發達シタル記號ナリ。左レハ今言語ノ發達ヲ以テ記號ノ性質ヲ説明セントス。夫レ言語ノ起原タル一ニシテ足ラズ模擬ヨリ來ルモノアリ或ハ偶然ナルモノアリ。例ヘバ鳥ヲ見テ幼兒ニ教フルニ「カ」ナル音ヲ以テスルハ之レ其鳴キ聲ヲ模擬シタルモノナリ。之ヲ分解スレバ鳥ト其鳴キ聲トハ常ニ同伴ナルモノナリ。之ヲ以テ小兒ニ教フルニ鳥ヲ指シテ「カ」ト云フトキハ二者ノ觀念ハ小兒ノ精神中ニ於テ互ニ聯絡スルガ故ニ其後此小兒ガ「カ」ナル音響ヲ聞クトキハ同伴法ニヨリテ彼ノ鳥ノ心像腦中ニ現ハル、ナリ。又「マ」ナル音響ハ最モ發シ易キモノナリ。左レバニヤ英語及ビ獨逸語ニテハ母ノコトヲ「マ」ト言ヒ佛語ニテハ「マ」ト云フ。米國ニテハ小兒ガ猶之ヲ略シテ「マ」ト云フ。我邦ニテハ小兒ガ母ヲ「カ」ト云フ。又著者ノ故郷(攝州三田)ニ於テハ小兒ガ乳母或ハ中年ナル下婢ヲ「マ」ト呼フナリ。是ヲ以テ之レヲ視レバ前述セル處ノ模擬ノ例トハ少シク異ナリ。借母ハ小兒ノ最モ愛スルモノナレバ最モ呼ビ易キ名ヲ以テ之レヲ呼フハ自然ノ勢ナリ。其ノ音響ト其ノ實物トハ少シモ關係ナク唯ダ最モ親シキモノト最モ發シ易キ音響ガ偶然互ニ聯絡シタルモノナリ。而シテ小兒ノ心中ニハ其「マ」或ハ「カ」ナル語ト同伴シテ母ノ顔ヲ思ヒ出スノミナラズ母ヲ愛スルノ情ハ全ク此些少ノ音響ニ同伴スルモノナリ。其他言語ナルモノハ諸テ音響ト其レニ同伴スルモノトノ聯絡ヨリ成ルモノナリ。左レバ音響或ハ言語ハ間接ニ物ヲ知ルノ中間ニ止ルノミナレバ音響或ハ言語ノ心像ハ實物ノ心像ノ如ク實在スルモノニアラズトノ感ナキ能ハス。然リト雖モ之レ決シテ然ラズ唯是等ハ心像ノ種類ヲ異ニスルノミ。言語ノ心像ハ尙ホ實物ノ心像ノ如ク實在スルモノナリ。之ヲ貨幣ニ比センニ貨幣ハ物品交換ノ中間ヲナスニ止ムルト雖モ亦貨幣ハ其レ自ラ實價ヲ有スルガ如シ。故ニ五官ノ感覺ハ其類ノ異ナルニ拘ハラズ各其心像ヲ有スルモノナリ。實ニ斯ノ如キ複雜ナル心像ガ互ニ聯合シテ精神界ヲ形テ造ルモノナリ。而シテ如何ニ複雜ナルコトモ拘ハラズ一人ノ精神中ニアル現象ハ悉ク之ヲ結合サスルモノナリ。然リト雖トモ甲ノ人ノ觀念ト

テ之レヲ視レバ前述セル處ノ模擬ノ例トハ少シク異ナリ。借母ハ小兒ノ最モ愛スルモノナレバ最モ呼ビ易キ名ヲ以テ之レヲ呼フハ自然ノ勢ナリ。其ノ音響ト其ノ實物トハ少シモ關係ナク唯ダ最モ親シキモノト最モ發シ易キ音響ガ偶然互ニ聯絡シタルモノナリ。而シテ小兒ノ心中ニハ其「マ」或ハ「カ」ナル語ト同伴シテ母ノ顔ヲ思ヒ出スノミナラズ母ヲ愛スルノ情ハ全ク此些少ノ音響ニ同伴スルモノナリ。其他言語ナルモノハ諸テ音響ト其レニ同伴スルモノトノ聯絡ヨリ成ルモノナリ。左レバ音響或ハ言語ハ間接ニ物ヲ知ルノ中間ニ止ルノミナレバ音響或ハ言語ノ心像ハ實物ノ心像ノ如ク實在スルモノニアラズトノ感ナキ能ハス。然リト雖モ之レ決シテ然ラズ唯是等ハ心像ノ種類ヲ異ニスルノミ。言語ノ心像ハ尙ホ實物ノ心像ノ如ク實在スルモノナリ。之ヲ貨幣ニ比センニ貨幣ハ物品交換ノ中間ヲナスニ止ムルト雖モ亦貨幣ハ其レ自ラ實價ヲ有スルガ如シ。故ニ五官ノ感覺ハ其類ノ異ナルニ拘ハラズ各其心像ヲ有スルモノナリ。實ニ斯ノ如キ複雜ナル心像ガ互ニ聯合シテ精神界ヲ形テ造ルモノナリ。而シテ如何ニ複雜ナルコトモ拘ハラズ一人ノ精神中ニアル現象ハ悉ク之ヲ結合サスルモノナリ。然リト雖トモ甲ノ人ノ觀念ト

乙ノ人ノ觀念トハ互ニ扞雜ナルモノニシテ微頭微尾之ヲ結合サスルコト能ハサルモノナリ。唯記號ノ助ケヲ以テ甲ノ觀念ヲ乙ニ通スルヲ得ルノミ。而シテ視覺ヲ以テ記號ニ利用スルコトアリ。例ヘバ身振<sup>ビクヤ</sup>ノ如シ。昔シ未開時代ニ於テハ互ノ觀念ヲ通ズルニ重ニ身振ヲ以テナセシコトハ當時人類學者ノ我等ニ證示スル所ナリ。然レトモ世ノ開化スルト共ニ觀念ヲ相通スルノ方法モ亦進歩シタリ。素ヨリ太古ヨリ記號ヲ書キテ觀念ヲ通スルノ法存セリト雖モ其始メハ不完全ナルモノニシテ漸々進歩シテ遂ニ今日ノ有様トナリ身振リノ代リニ重モニ言語ヲ用フルニ至レリ。左レハ今日ニアリテ我等ガ觀念ヲ通ズルノ機關ハ言語、書、及ビ身振ノ三種ニ止マルガ如シ。抑モ此三者ハ心像ヲ外形ニ現ハスノ方法ナリ。故ニ心像ト之ヲ外形ニ現ハスノ關係ニ就テ我等ノ注意スベキ點ニアリ。第一心像ガ天然ニ具ハリタル外形ノ現ハシ方ヲ有スルヤ否ヤ。第二、心像ノ種類多シト雖モ何故ニ此三者ガ觀念交通ノ機關トナリタルヤノ二問題即チ是レナリ。

第一ノ問題ニ就テハ之ヲ三ツニ分チ言語、書、及ビ身振リニ就テ論セントス。(イ)心像ト其心像トチ言ヒ現ハス所ノ言語ハ互ニ天然ノ關係ヲ有スルモノアリ。即チ前

述セル如ク音響ヲ模擬シテ之ヲ現ハストキノ如シ。然リト雖モ斯ノ如キハ古代ニ於テ或ハ小兒ニ於テ言語發達ノ始メニノミ僅カニ存スルモノニシテ多クハ心像ト其心像ヲ言ヒ現ハス處ノ言語トハ天然ノ關係ナク偶然ノ習慣ニ依テ之ヲ現ハスモノナルガ如シ。故ニ同一ノ心像ヲ言ヒ現ハス爲メニ國々ニ於テ異ナリタル言語ヲ用フルハ是レ即チ國々ノ習慣之異ナルヲ證スルノミ。(ロ)心像ト書(記號)トノ關係ニ至リテハ天然ノ關係ヲ有スルモノアリ。或ハ偶然ナルモノアリ。漢字ノ如キハ物ノ形チニ像リテ記號ヲ作りタルモノ甚タ多シト雖モ英文ノ如キニ至リテハ之レト異ナリ記號ノ形ハ殆ド全ク偶然ナルガ如シ。(ハ)心像ト身振ノ關係ニ至リテハ天然ノ關係ヲ存スルモノ甚ダ多キニ似タリ。而シテ面部ノ筋肉ヲ二様ニ別チ之ヲ縱横ト假定スルトキハ精神中快樂ノ情アルトキハ縦ノ筋肉ハ收縮シ横ノ筋肉ハ緩ムガ如シ。俗ニ前者ヲ笑ヒ顔ト云ヒ後者ヲ憂ヒ顔ト云フ。斯ノ如キハ萬國普通ニシテ殆ド天然ニ具ハリタルモノ、如シト雖モダルトゾカノ氏ノ說ニヨレバ是レ又進化ノ結果ニシテ天然定リタルモノアラズト云フ。其他身振リヲ以テ觀念ヲ通ズルコト多シト雖モ其身振リノ仕方ニ至リテハ悉ク習慣ノ然ラシムルモノト云フ。

〜キナリ。是ヲ以テ之ヲ觀レバ心像ト符號(言語、書、身振)トハ固ヨリ其根原ニ於テ自然ノ關係ナキニアラズト雖モ今日ノ開化國ニ於テハ殆ト其關係ナク唯習慣ニヨリテ定マリタルモノナルガ如シ。第二、何故ニ此三者ガ觀念交通ノ機械トナリシヤ會テ米國博言學士ホイトニー氏言語ノコトニ關シテ言ヘルコトアリ曰ク言語ガ觀念交通ノ機械トナリシハ別ニ深キ理ノ存スルニ非ズ所謂生存競争ノ理ニ基キ言語ハ觀念ヲ通ズルニ最モ便利ナルモノナルガ故ニ斯クナリシナリト。左レバ上ノ三者ハ觀念ヲ通スルニ便利ナルガ故ニ觀念交通ノ機關トシテ生存シタルモノナリ。此理ヲ廣ク推及スルトキハ符號ノ要素タルヤ其心像ト天然ニ關係ノ有無ヲ問ハズ唯交通ニ便利ナルモノハ尙々生存シテ進歩シ不便ナルモノ亡ブルハ理ノ當然ト云フベシ。喩ヘハ金銀ハ賣買スル物品ノ性質ニ關係スルコトナク唯流通ニ便ナルヲ以テ世界普通ノ貨幣トナリタルカ如シ。

因ニ云フ貨幣ノ流通ヲ便ナラシムルハ國家ノ繁榮ニ大關係ヲ有スル如ク容易ナル言語ヲ以テ觀念交換ノ自由ヲ計ルハ國家教育ニ於テ缺クベカラザルコトナリ。我國現今ノ如ク漢語アリ、英語アリ、國語アリ、其他種々ナル外國語アリ。此時ニ際シ我等本邦人ニ通シ易キモノヲ撰ンテ大ニ日本將來ノ教育ヲ始メテ隆ニスルヲ得ヘシ。然ラサレバ甚タ失フ所アルヤ明カナリ。豈注意セスシテ可ナランヤ。

前時ノ  
後定ル  
ハムル  
念ハル  
性ノ質  
ニア

抑モ心像トハ先キニ五官ヨリ得タル印象ノ再生シタルモノナレバ其性質ニ於テハ元ノ知覺ト少シモ異ナルコトナシト雖モ其明瞭ナルコトノ度ニ於テハ屢々元ノ知覺ニ太ニ劣ルモノナリ。而シテ此心像ノ再生スルヤ其數ノ大小ヲ問ハス各々ガ前ニ知覺トナリテ意識中ニアリシ其時日ヲ現ハスモノナリ。故ニ完全ナル記憶ニ於テハ昨日經驗セシコトハ必ズ其前日ニ於テ經驗セシモノト混雜スルコトナク又一ケ月前ニ經驗セシコトハ二ケ月前ニ於テ經驗シタルモノト混雜スルコトナシ。茲ニ於テ始メテ時ノ觀念ヲ生ズルナリ。倍如何ニシテ昨日ノ經驗ト其前日ノ經驗トハ混雜スルコトナキヤ。古代ニアリテハ之ヲ説明スルニ記憶力ナル一種ノ能力ヲ以テシタリ。即チ靈魂ガ其力ヲ以テ時ノ前後ヲ區別スル如ク云ヘリ。左レト已ニ云ヘル如ク記憶ハ一種ノ力ニ非ズ腦中ニ殘リタル印象カ再生スルノ事實ヲ概シテ記憶ト稱スルモノナレバ記憶ハ印象ノ一ノ性質ナルノミ。故ニ再生シテ

シ故ニ其夫ト小兒ハ自分ニハ關係ナキ者ト思ヘリ、其友人ヨリ婚姻ノコトヤ出產ノコトヲ話スト雖モ決シテ之ヲ信セズ生涯此記憶ヲ恢復スルコトヲ得ザリシト云フ、又一例ヲ舉ケンニ年齢三十二ニシテ博學多才ナル一紳士大病ニ罹リシガ殆ンド快愈セントスルニ當リ日々耳目ニ觸ル、所ノ諸物ノ名迄モ之ヲ忘レタリ、全愈ノ後チ兒童ノ如ク勉強シ始メニ物ノ名ヲ習ヒ次ニ書籍ヲ學ビ次ニ羅旬語ヲ習ヒシカ其進歩甚タ速カナリシ、然ルニ一日勉強シ居リシトキニ讀書ヲ止メ手ヲ頭上ニ置キシガ其有様常ニ異ナルヲ以テ教師其故ヲ問ヘリ紳士曰ク余ハ頭中ニ奇異ナル感覺ヲ有ス今余カ學ビ居リシコトハ先キニ知リ居リシコトナルヲ感スト云ヘリ、其時ヨリ紳士ハ突然前ノ記憶ヲ回復セリト云フ、斯ノ如キ適例枚舉スルニ違アラズ、

### 第五章 幻影

幻影論

前章ニ於テハ五官ヨリ得タル知覺ガ腦中ニ存シテ意識中ニ再生スルノ理ヲ論シタリ本章ニ於テハ再生シタル心像ト知覺トノ關係ヨリ生ズル一種ノ現象ヲ論セントス之ヲ稱シテ幻影ト云フ、抑モ幻影トハ實在ニ對シタル語ニシテ物體ヲ有リノ儘ニ見誤マリタル觀念ヲ心中ニ有スルコトナリ、然リト雖モ必スシモ幻影ハ神經ノ病氣ヨリ發スルモノニアラズ人間ノ精神現象中ニハ多クノ幻影アリテ日々我等之ヲ利用スルコト又少ナカラザルナリ。

知覺ノ要素

既ニ論シタル如ク腦中ニハ過古ノ經驗ヨリ得タル數多ノ印象ヲ有シテ時々之ヲ再生スルモノナリ、而シテ我等五官ヲ以テ外物ノ存在ヲ認識スルトキニハ之ニ二種ノ要素アルヲ知ル、即チ五官ヲ刺激シタル外物及ビ其刺激ニヨリテ意識中ニ再生シタル心像是レナリ、例ヘハ景色ノ繪畫ヲ見テ其意味ヲ理會スルニハ既ニ以前ニ於テ經驗シタル景色ノ心像ガ意識中ニ存在スルモノト今外ヨリ入り來タル繪畫ノ刺激ト相合スルニ於テ始メテ繪畫ノ繪畫タルヲ了解スルモノナリ、故ニ未タ曾テ西洋ノ市中ヲ決シテ見タルコトナキ人が西洋ノ都府ノ繪畫ヲ見ルト雖モ



充分ニ之ヲ了解シ得サルナリ、之レ繪畫アリテ視覺ヲ惹キ起スニモ拘ハラズ内部ニアリテ之ニ符合スベキ心像ナキガ故ナリ、此心像ト外部ノ實體トノ關係ヲ論ズルハ本章ノ目的ナリトス。

ノ幻影ノ別類ノ第一ノ説明

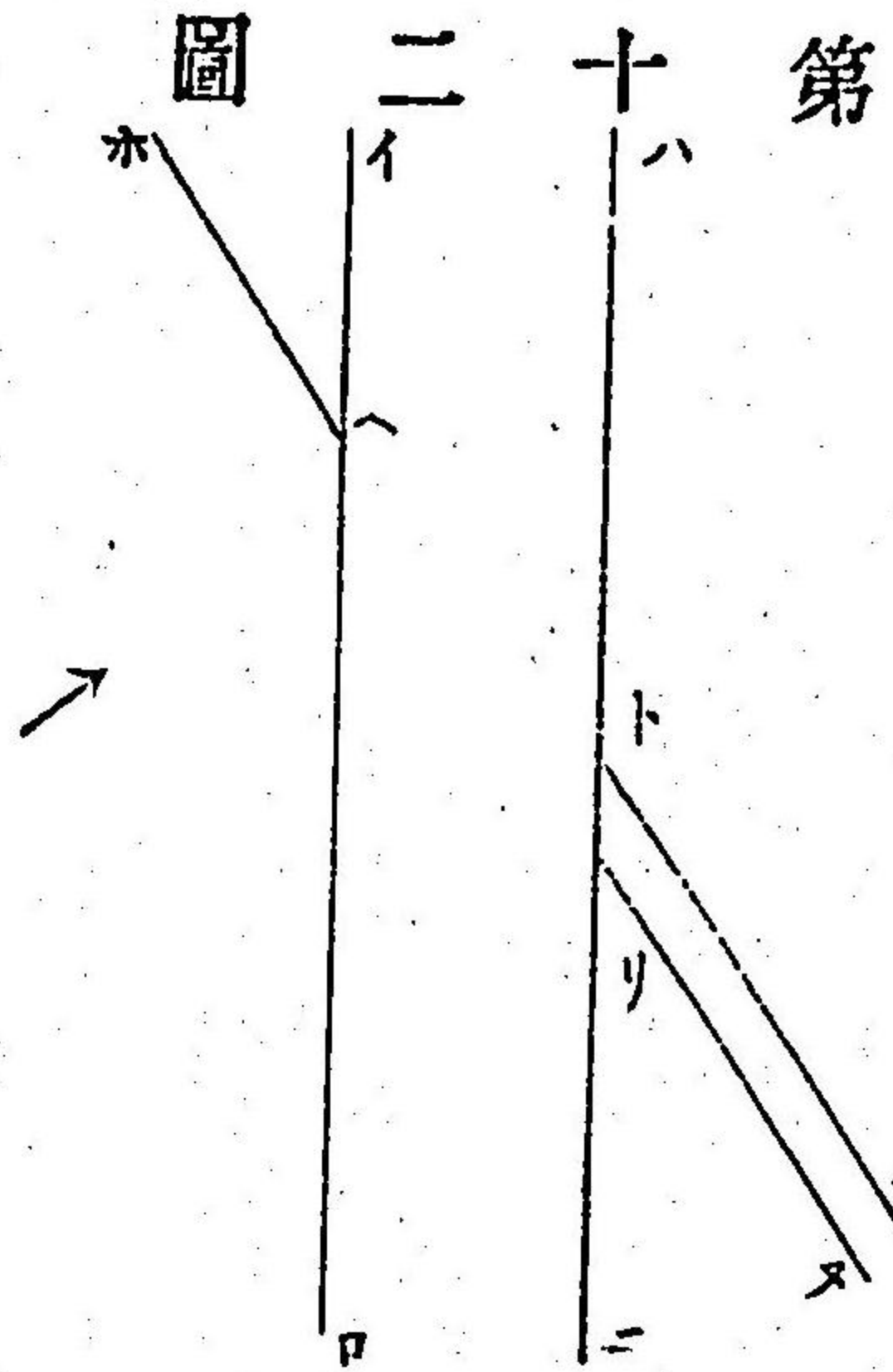
幻影ニ種々ノ類アリト雖、凡著者ハ之ヲ大別シテ二種トス第一ハ外物ノ存在セザルトキニ存在スルガ如キ感覺ヲ生スルモノナリ、第二ハ外物存在シテ其物が形ヲ曲テ現ハル、ナリ、第一種ヲ説明セン、例ヘハ「さー」を叫びたり、すこつとハ其友人「ばいろん氏ノ死後ばいろん氏ノ事ニ關シ深ク考ヘ居リシガ一日氏ハ一室ヨリ他室ヘ行カントスルニ當リ彼ノばいろん氏が眼前ニ立ツヲ見タリ、依テ暫時其處ニ止マリ其容貌及ビ衣服等ニ至ル迄熟視セリ、氏ハ素ヨリ其幻影ナルコトヲ知リシト雖、凡暫時茫然タリ、而シテ之ニ近カ寄リシニ忽チ消失シテ以前其先キニばいろんト認メシハ其邊ニ懸リタル衣類ナルヲ知レリ、故ニ再ビ元ノ所ニ返ヘリ之ヲ見シト雖モばいろんハ決シテ現ハレザリシト云フ、又近松門左衛門著作中ニ云ヘルコトアリ、なふ、こはや、すさまじや、何のしらす家内より人大せい、みちく、て、あるひの、やつこの形も有又の若衆女も有、人間斗か猿猪のし、わし、くま、たか、爪をどぎ

第二ノ類ノ説明

たて眼をいゝらしよるつゝ、こゝでなし……人三人ともすまれぬあばら屋何もの有りべきぞ、さつする所みせまはりたる三文繪をいさものと見ちがへしかこはいと思ふ心からまなこ、が、くらんだ、こしぬけ共云々けいせい反魂香又一例ヲ擧ケンニ英國ニ於テ若キ一婦人噴水器ノコトヲ考ヘ居リシガ一日道ヲ通ルトキ噴水器アリシヲ見タリ、其表面ニ「渴スルモノハ來リテ飲メ」トノ語ヲモ記サレシヲ認メタリト思ヘリ、其後婦人ハ友人ニ彼ノ噴水器ノ事ヲ話セシニ斯ノ如キモノハ決シテ無キコトヲ聞キ大ニ驚キ怪ミテ前ニ之ヲ見シ處ニ再ビ行キ見レバ豈計ラシヤ砂小石ノ散在スル外ハ何モアラザリシト云フ、又我邦ニ於テモ種々奇妙ナル者ヲ見タル人アリ、俗ニ稱シテ怪物ト云フモノ是ナリ、凡テ以上ノ如キモノハ過度ナル妄想ノ爲メニ意識中ニアル種々ノ心像中一ノ心像ガ他ノ心像ト平均ヲ失ヒ過度ナル活動ヲナスガ故ニ外物アリテ僅カニ刺激ヲ與フルトキハ直ニ其心像發出シテ外物ノ存在スルガ如キ感覺ヲ與フルモノナリ、而シテ第二種ハ第一種ト少シク異リ即チ内部ノ心像ノ所爲ニ非ズシテ寧ロ判斷ノ誤謬ヨリ來ルモノナリ、我等ガ物ヲ判斷スルニハ通例我等ノ經驗シ慣ル、モノヲ以テ標準トスルガ故ニ

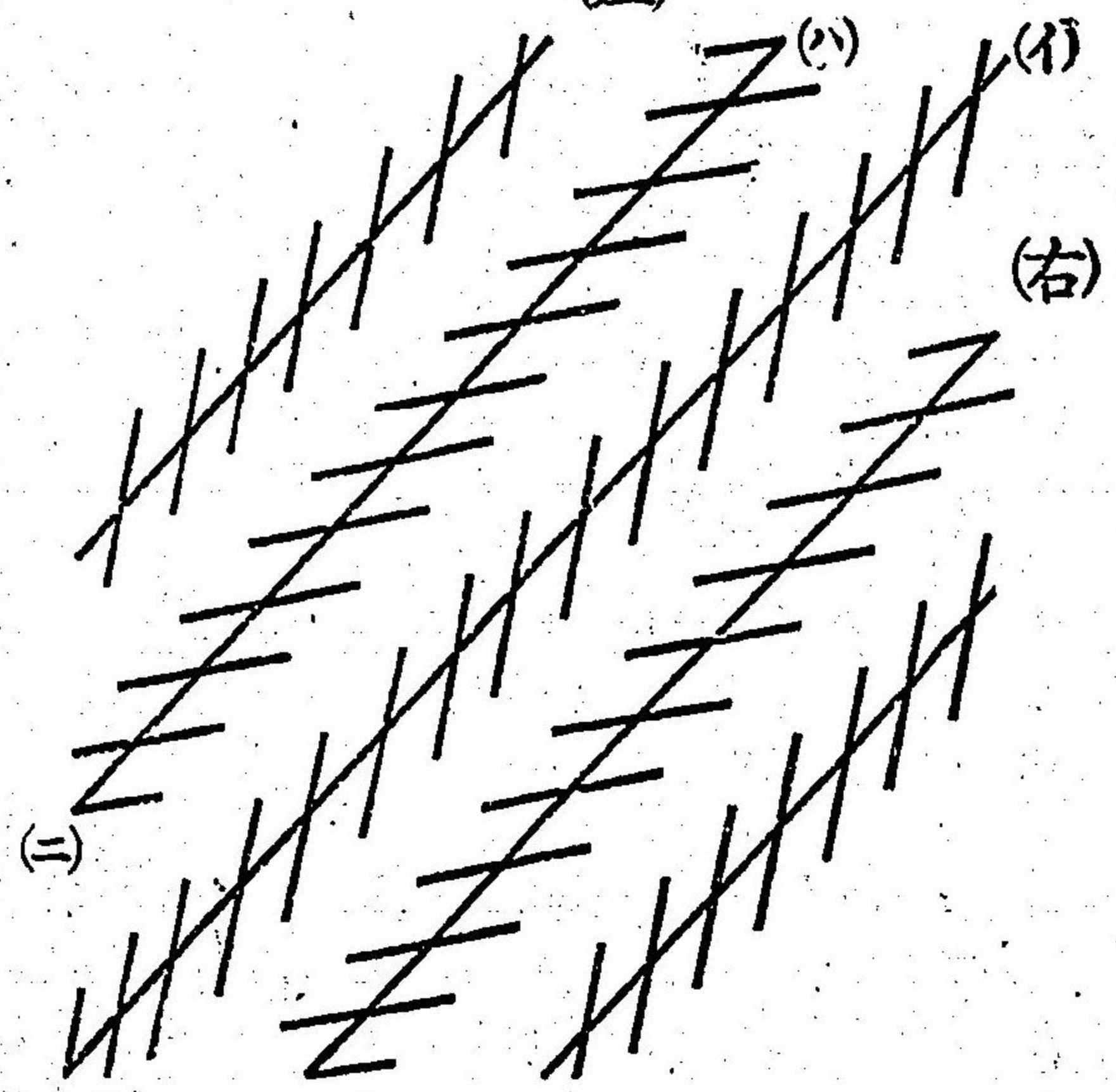
若シ我等ノ思ハザル原因ノ存スルトキハ必ず判断ニ誤謬ヲ生ズルナリ例ハ英  
 國人ガすえつるらんどニ行クトキハ山ノ距離ヲ判断スルニ常ニ誤リヲ來スト云  
 フ蓋シ英國ニ於テハ遠方ノ山ヲ明白ニ見ルハ甚々難シト雖モすえつるらんどニ  
 於テハ空氣ノ潔白ナルガ爲メ之ヲ明白ニ見ルコトヲ得ルガ故ニ誤リテ遠方ノ山  
 ヲ近方ノ山ノ如ク思フナルベシ以下種々ノ例ヲ擧ケテ説明セシ例ハ大ナル鏡  
 ノ前ニ立テ其鏡ノアルコトヲ知ルトキハ遙カニ見ユル物體ハ反射ニヨリテ斯ク  
 見ユルヲ知ル然リト雖モ若シ鏡ノ存在スルヲ知ラザルトキハ即チ判断ヲ誤リテ  
 向フニ物體ノ存在スル如ク想像スルコトアルナリ又光線ノ屈曲ニヨリテ我等ノ  
 判断ヲ誤ルコトアリプリズムヲ通過シテ物ヲ見ルトキハ物ノ位置ヲ大ニ誤ルコ  
 トアルナリ

又第十二圖ノ如キハ(ホ)(ヘ)(リ)(ヌ)ハ直線ナレモ(ホ)(ヘ)(ト)(チ)ガ直線ノ如ク見ユナリ其誤  
 リ自然ニ存スルカ如シト雖モ尙之ヲ精密ニ質ストキハ判断ノ誤リヨリ來ルヲ知  
 ルベシ眼ガ物ヲ見ルニハ同時ニ廣キ面ヲ見ズ絶ヘズ諸方ニ運動シテ始メテ物ヲ  
 認識スルコトハ既ニ論シタルガ如シ故ニ今此圖ヲ認識スルニハ眼ハ絶ヘズ此線



ニ添フテ動クモノナリ而シテ(ホ)(ヘ)ノ線トリ(ヌ)ノ線ヲ鎖クニハ眼ハ(ヘ)ヨリ(ヌ)迄飛  
 ビ越サバルヲ得ズ然ルニ(イ)(ロ)ノ線ハ之ヲ妨ケテ(ヘ)ヨリ(ヌ)ニ飛バントスルトキニ  
 (ヘ)(ロ)ノ線ニ添フテ少シク眼ヲ引キ下ケントスルガ故ニ矢ニヨリテ示シタル如キ  
 方向ニ眼ヲ動かスノ筋力ナカルベカラズ而シテ眼ハ(ヘ)ヨリ(リ)ニ至ラズシテ(ト)ニ  
 至ルナリ去レド此運動我等ノ意識外ニ存スルガ故ニ其感覺ニ於テハ(ホ)(ヘ)ノ直線  
 ニ添フテ直チニ飛ビタリト思ヒ此ノ如キ誤リタル感覺ヲ生ズルモノナリ第十二

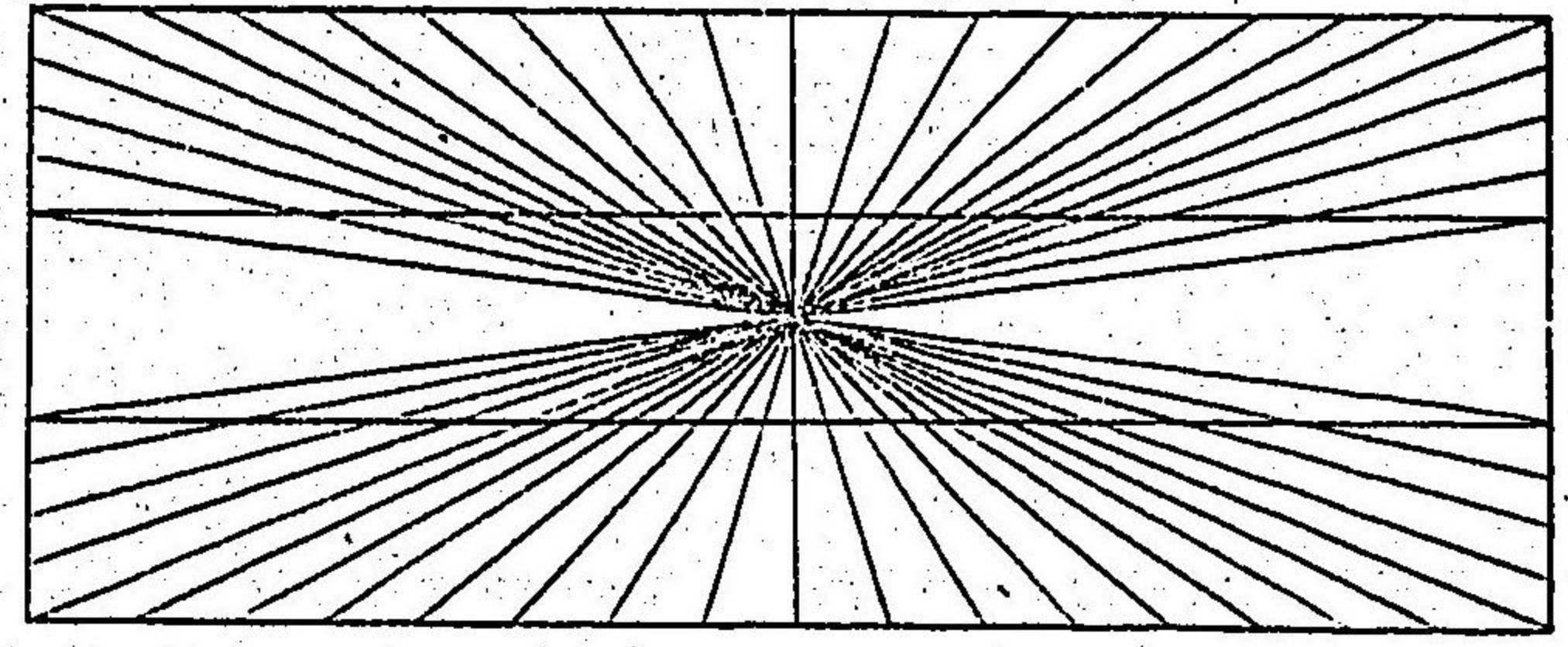
第十圖三



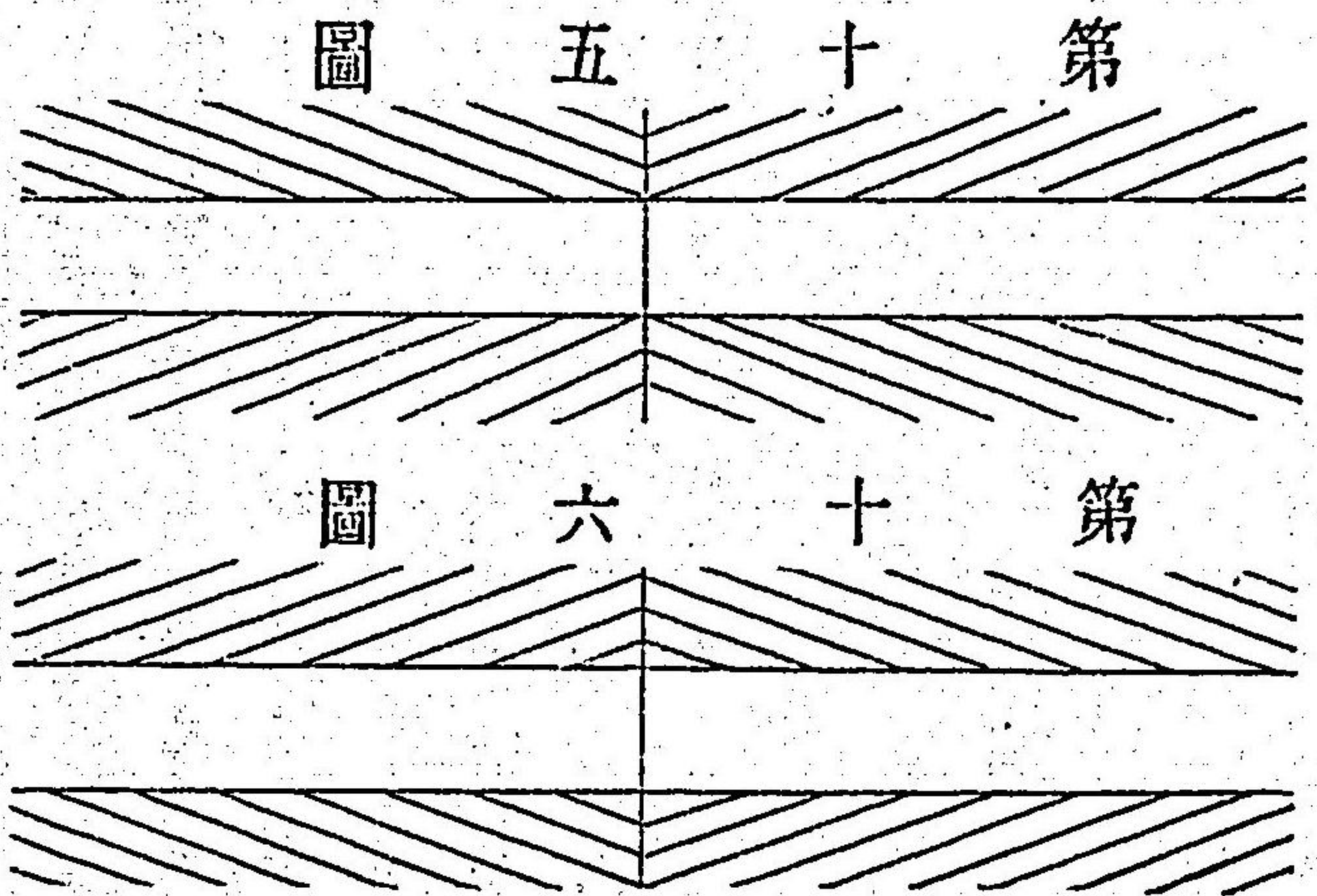
テ斜ナル多クノ棒ヲ置キ其上ニ車ヲ挽クガ如シ常ニ右ノ方ニ引キ去ラレントス  
 ルノ傾キアルガ故ニ直線ニ動カントスルニハ少シク左ノ方ニ傾クノカナカルベ  
 カラズ故ニ眼球ヲ運動サスル筋肉作用ニヨリ少シク眼ヲ左ノ方ニ引キ付クルノ

圖附録モ亦同理ナリ又第十三圖モ  
 之ト相似タル理ニシテ斜ナル直線  
 ハ各平行線ナリト雖モ平行セサル  
 如キ誤リタル感覺ヲ生セシムルモ  
 ノナリ其故ハ此平行線ヲ認識セン  
 トスルニハ眼ハ絶ヘズ線ニ添フテ  
 動クモノナリ例ヘバ(イ)ノ線ニ添  
 フテ眼ガ(イ)ヨリ(ロ)ノ方ニ動クトキ  
 ニ其レヲ横切リタル斜ナル線ノ爲  
 ニ眼ハ常ニ知ラズ識ラズ右ノ方ニ  
 引キ去ラレントス恰モ道ヲ横切リ

第十圖四

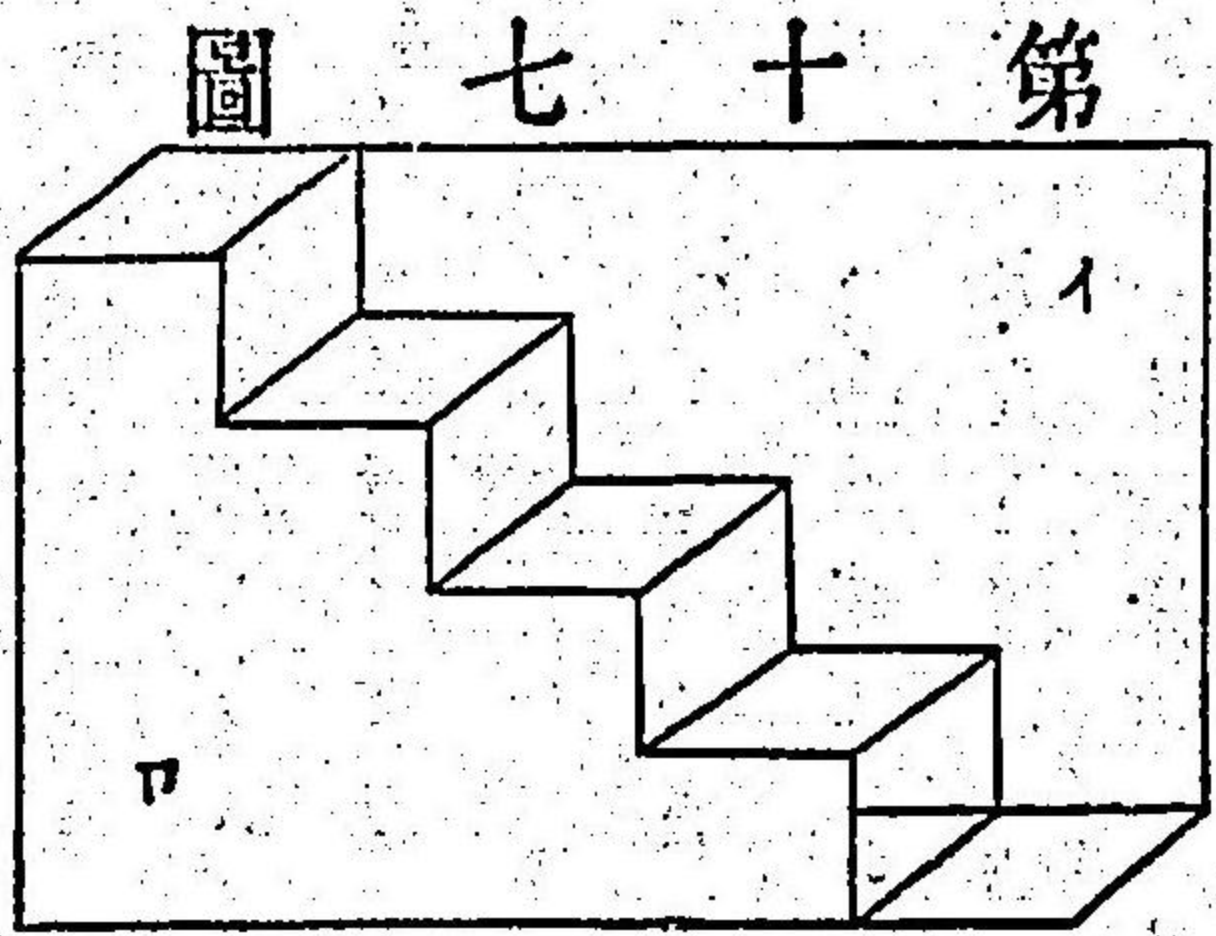


傾キアルガ爲メニ(イ)ノ直線ヲ少シク右ノ方ニ傾  
 キタルノ感覺ヲ生ズルナリ是レ感覺結合ノ章ニ於テ  
 既ニ論ジタル如ク筋肉ノ感覺ト網膜ノ感覺トノ結合  
 ニヨリテ生ジタル者ナリ而シテ眼ガ(ハ)ニノ線ニ添フ  
 テ動クトキハ斜ニ横切リタル線ガ(イ)ト其位置ヲ反  
 對ニスルガ故ニ(ハ)ハ右ノ方ニ傾キタル如キ感覺ヲ  
 生ズ斯ノ如クシテ全體ノ圖ガ誤リタル感覺ヲ惹キ起  
 スモノナリ第十四十五及第十六圖モ同ジ理ニテ起リ  
 タル誤リナレバ別ニ其説明ヲ要セズト信ズ試ミニ電  
 氣ヲ以テ一瞬間之ヲ照シテ認識シ眼ノ運動スル時  
 間ヲシテ無カラシメバ是等ノ誤リヲ除去スベシト云  
 フ(へるむはるづ)是ヲ以テ之ヲ觀レバ是等ハ皆ナ眼ノ  
 運動ヨリ來リタル誤リナルコト知ルベキナリ判断ノ  
 誤リニ依テ幻影ヲ生ズルコト大凡斯ノ如シ



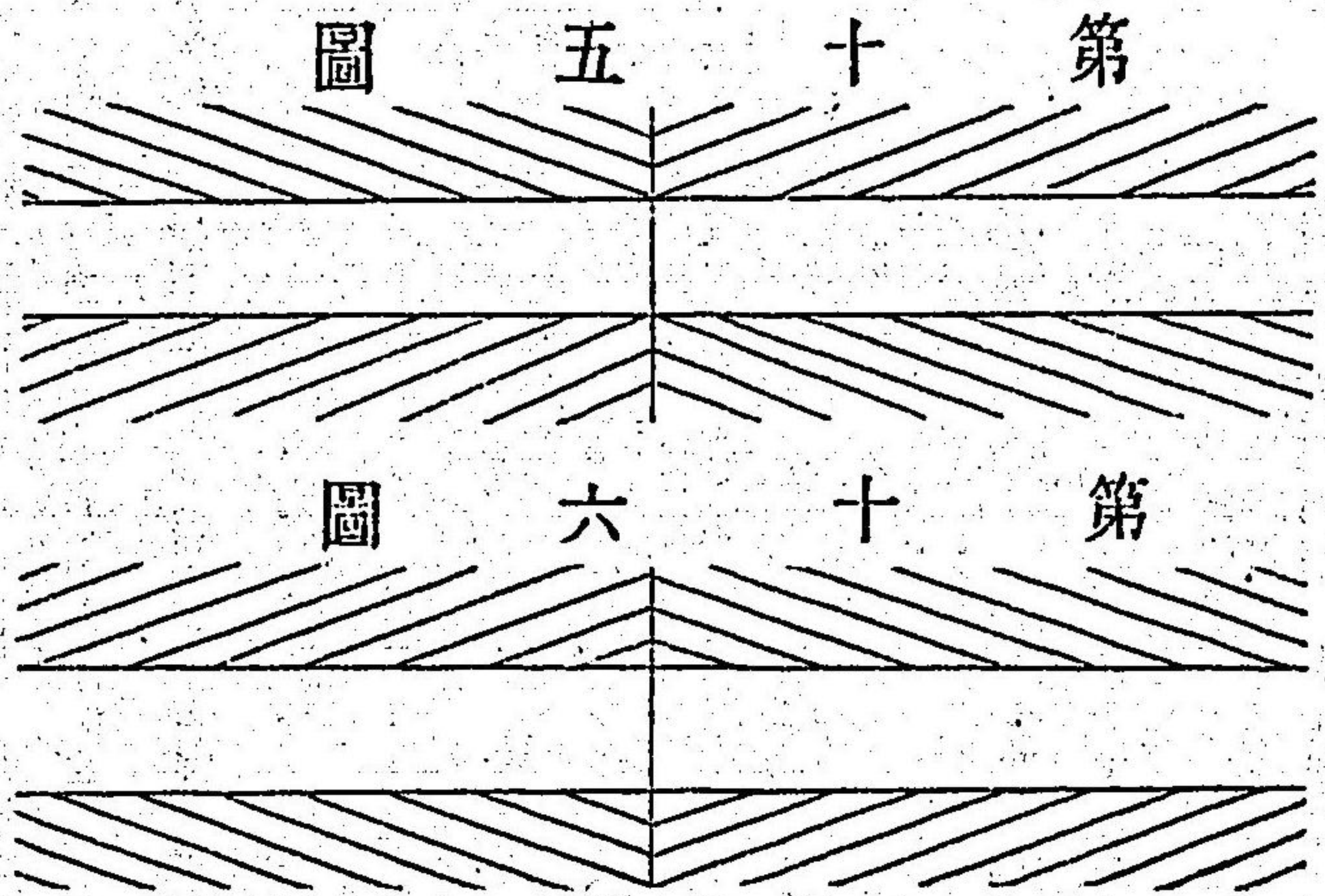
幻影ノ種類大凡如斯シト雖モ是等ノ二種相合シテ幻影ヲ生ズルコトアルナリ、即チ誤リタル判斷ト主觀的心像ト合シテ外界ニ現ハル、コト是ナリ、例ヘバ第十七圖ノ如キハ奇ナリト云フベシ之ヲ久シク見詰メルトキハ(イ)ノ所高クシテ(ロ)ノ所低ク見ユルコトアリ、又之ニ反シテ(ロ)ノ所高クシテ(イ)ノ所低ク見ユルコトアリ、又其人ノ思ヒヨリテ自由ニ之ヲ變ズルコトヲ得ルナリ、又大岡氏ノ裁判ニ奇談アリ、曾テ人殺シノ件起リシガ罪人強情ニシテ白狀セザルヨリ大岡氏ハ手ヲ廻ハシテ事實ヲ調ベタルニ其人ノ仕業ナルコトハ慥ニ分リタリ、唯當人ノ白狀セザルヨリ一策ヲ圖ラシ之ヲ欺キ其目ヲ眩マシ彼ノ殺サレタル人ハ其實殺サレタルニ

非ズ今尙生存ヘルナリト云ヒテ他ノ人ヲ其前ニ連レ來レリ、コレ品川宿の馬士其方は去年十七屋の飛脚を乗せ鈴ヶ森に於て切られし所汝の運好くも命助かりしが其時の盜人は爰に居る段右衛門と云ふ者ならん……馬士のヘイ御意ニ御坐ります……成程此者又相違の御坐りません云々、罪人ハ固ヨリ心中ニ恐レアルガ故ニ全ク欺カレテ曰ク「然らば其時の馬士めで有たか扱々運の強き奴かな頭から梨割又して其上又後日の爲めと思ひ留め迄刺たるよ助かると云ふの汝の餘程高運な者なり」云々(以上ノ説話政談時倉重四郎)、又詩人が想像ニ依テ故意ニ幻影ヲ造ルコトアリ、誰謂水無心、濃艶臨兮波變色、誰謂花不語、輕漾激兮影動唇、云々(菅原文時(大日本史卷二百十四、六)固ヨリ水ニ



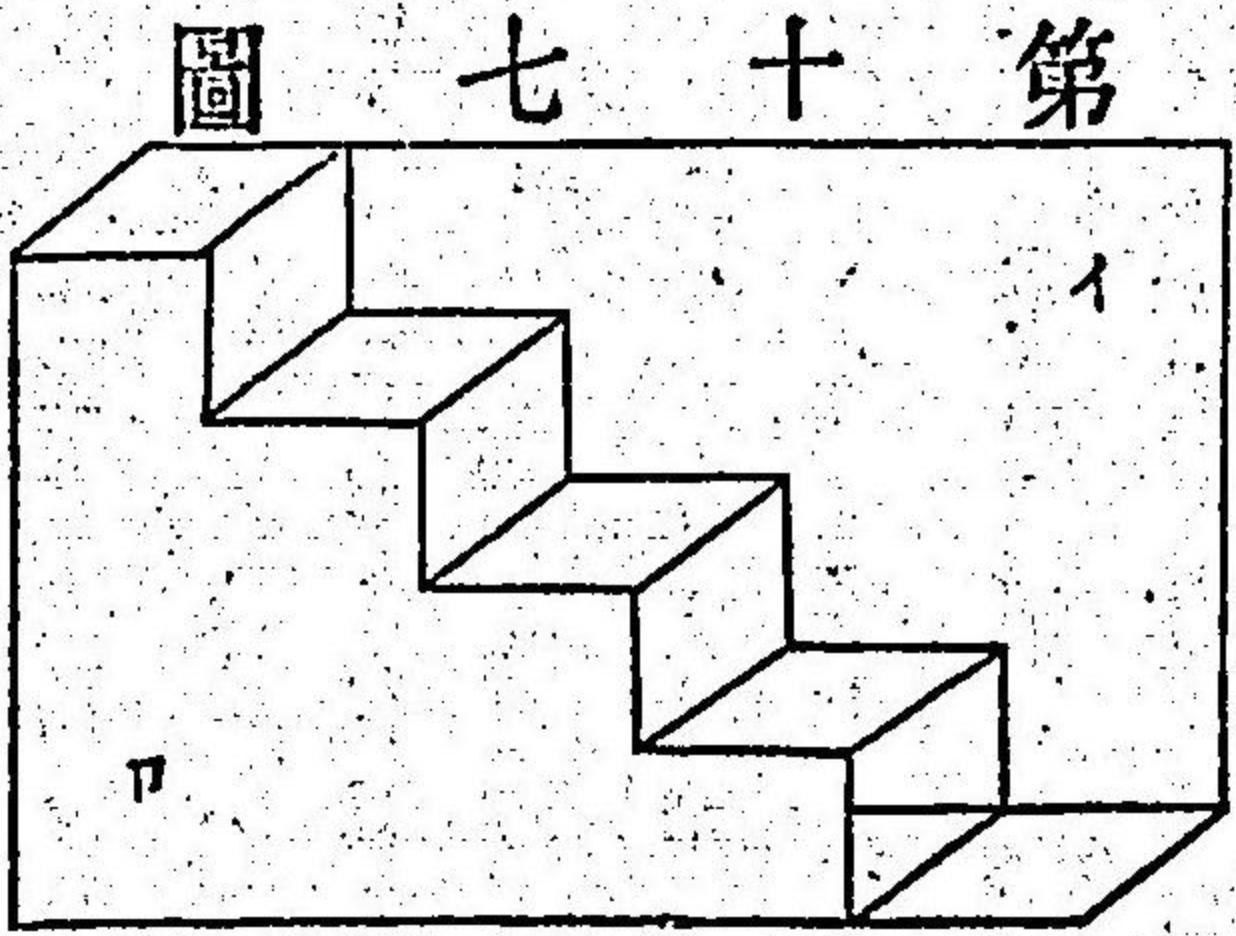
ハ心ナシ花ハ語ラズ唯天然ノ實ニ情アルニ似タル有様ヲ形容シタルモノナレバ一種ノ幻影ト云フモ亦不可ナカルベシ。

墨繪ハ其種類甚ダ多シト雖モ我邦ノ墨繪ト云ヒ文人畫ト云ヘルモノハ東洋ニ



幻影ノ種類大凡如斯シト雖モ是等ノ二種相合シテ幻影ヲ生ズルコトアルナリ、即チ誤リタル判斷ト主觀的心像ト合シテ外界ニ現ハル、コト是ナリ、例ヘバ第十七圖ノ如キハ奇ナリト云フベシ之ヲ久シク見詰メルトキハ(イ)ノ所高クシテ(ロ)ノ所低ク見ユルコトアリ、又之ニ反シテ(ロ)ノ所高クシテ(イ)ノ所低ク見ユルコトアリ又其人ノ思ヒヨリテ自由ニ之ヲ變ズルコトヲ得ルナリ、又大岡氏ノ裁判ニ奇談アリ、曾テ人殺シノ件起リシガ罪人強情ニシテ白狀セザルヨリ大岡氏ハ手ヲ廻ハシテ事實ヲ調べタルニ其人ノ仕業ナルコトハ慥ニ分リタリ、唯當人ノ白狀セザルヨリ一策ヲ圖ラシ之ヲ欺キ其目ヲ眩マシ彼ノ殺サレタル人ハ其實殺サレタルニ

非ズ今尙生存ヘルナリト云ヒテ他ノ人ヲ其前ニ連レ來レリ、コレ品川宿の馬士其方は去年十七屋の飛脚を乗せ鈴ヶ森に於て切られし所汝の運好くも命助かりしが其時の盜人は爰に居る段右衛門と云ふ者ならん……馬士のヘイ御意ニ御



坐ります……成程此者又相違ハ御坐りません云々、罪人ハ固ヨリ心中ニ恐レアルガ故ニ全ク欺カレテ曰ク「然らバ其時の馬士めで有たか扱々運の強き奴かな頭から梨割として其上は後日の爲めと思ひ留め迄刺たるよ助かると云ふの汝の餘程高運な者なり」云々(以上ノ説話政談呼倉重四郎)、又詩人が想像ニ依テ故意ニ幻影ヲ造ルコトアリ、誰謂水無心、濃艶臨兮波變色、誰謂花不語、輕漾激兮影動唇、云々(菅原文時大日本史卷二百十四、六)固ヨリ水ニハ心ナシ花ハ語ラズ唯天然ノ實ニ情アルニ似タル有様ヲ形容シタルモノナレバ一種ノ幻影ト云フモ亦不可ナカルベシ。

墨繪ノ繪畫ハ其種類甚ダ多シト雖モ我邦ノ墨繪ト云ヒ文人畫ト云ヘルモノハ東洋ニ

固有ノモノナルガ如シ、美術ノ點ヨリ之ヲ評論スルコトハ後章ニ譲リ今少シク幻影ノ一種トシテ説明セントス、抑モ墨繪ハ油繪ニ比スレバ甚タ粗糲ナリト雖モ些少ノ線ヲ以テ實物ノ形象ヲ畫クコト又妙ナリト云フベシ、既ニ論ジタル如ク腦中ニハ前ニ經驗シテ得タル多クノ心像ヲ有セリ、之ヲ以テ外物ノ刺激アリテ腦中ノ心像ヲ惹キ起ストキハ内部ノ心像ト外部ノ刺激者ト相合シテ實物ノ形象ヲ造ルモノナレバ墨繪ヲ客觀的ニ見ルトキハ甚タ不完全ナレドモ其不足ナル所ハ主觀的ノ心像ヲ以テ之ヲ補フモノナリ、故ニ其繪畫ハ寫真或ハ油繪ノ如ク客觀的ニ緻密ナルニ非ズ實ニ過半ハ主觀的ノ補助ナリ、彼ノ西洋人ガ日本ノ墨繪ヲ見テ其快ヲ得ザルハ全ク腦中之ニ應ズルノ心像ナキニ依ラズンバアラズ、否ナ西洋人ノミナラズ日本人ト雖モ屢々其真意ノ存スル所ヲ了解シ得ザルコトアルナリ、爰ニ一奇談アリ一日一休和尚ノ讚辭ヲ乞ハントテ秘藏セル一畫ヲ持テ來レルモノアリ、其繪畫タルヤ唯水中ニ一黒點アルノミニシテ何ノ形象ナルヤ誰モ解明スル能ハズ、一休直チニ筆ヲ取り「水中ニ一物アリ其何ナルヲ問フニ書キ手モ知ラズ持主モ知ラズ讚スル我ハ尙ホ知ラズ」ト記セリト云フ、是極端ナル其一例ナリ、是ヲ以テ之

第十八圖



ヲ觀レハ油繪トハ大ニ異ナリ墨繪ノ要素ハ主觀的ニシテ同伴法ニヨリテ惹キ起サレタル心像ニ存スルコト明カナリ、蓋シ墨繪ノ妙且快ナルハ此主觀的ノ元素ニ存スルナリ第十八圖ハ北齋ノ一筆畫譜中ヨリ取リタルモノナリ、見ヨ其形不完全ニシテ殆ト解シ難シト雖モ讀者若シ上ニ記セル歌ト其繪ヲ相合シテ考慮セバ必ズヤ一ノ觀念ヲ腦中ニ生スルコトナラン、其果シテ何ナルヤハ讀者ノ判斷ニ任スベシ、一般ニ墨繪ノ主觀的性質斯ノ如キモノナリ、是レ心像ノ外物ト相合シテ客觀的ニ現ハレタルモノナレハ一種ノ幻影ト云フモ不可ナキナリ。

以上ニ於テ述ヘタル理ヲ尙繁雜ナル事柄ニ推及センニ社會上及ビ宗教上ノ事ニ就キ幻影ノ生ズルコト最モ多シ、俗ニ僻見トハ殆ント皆此幻影ノ一種ナリ、例ヘバ國家ニ就テ之ヲ説明センニ自由主義ノ人アリ又干涉主義ノ人アリ、而シテ自由主義ノ人ハ已ニ自ラ信ズル主義ノ善良ナルコトヲ前定スルガ故ニ社會ノ事實ヲ廣ク經驗スルモ自由主義ノ利益ノミ心中ニ現ハレテ干涉主義ノ利益ヲ見ル能ハズ、恰モすこつとガ壁ニ懸ケタル衣類ヲ見テ其衣類ナルヲ見ズばいろんナリト誤想シタルガ如シ。

社會  
上ニ  
應用ス

干涉主義ノ僻見ヲ有スル人モ亦斯ノ如シ、宗教ニ於テモ僻見ヲ有スル人甚々多シ、又俗ニ所謂洋僻ナル人ハ西洋ノ事物ノミヲ利益多シト見テ本國ノモノ、利益多キヲ見ズ之レ亦一種ノ幻影ナリ、實ニ是等ハ主觀的ノ僻見ヲ交ヘテ社會ノ事實ヲ見ルガ故ニ事實ヲ其儘ニ認識セズシテ主觀的ノ觀念ヲ客觀的ノ事實ノ如ク誤想スルモノナリ。

第六章 概念

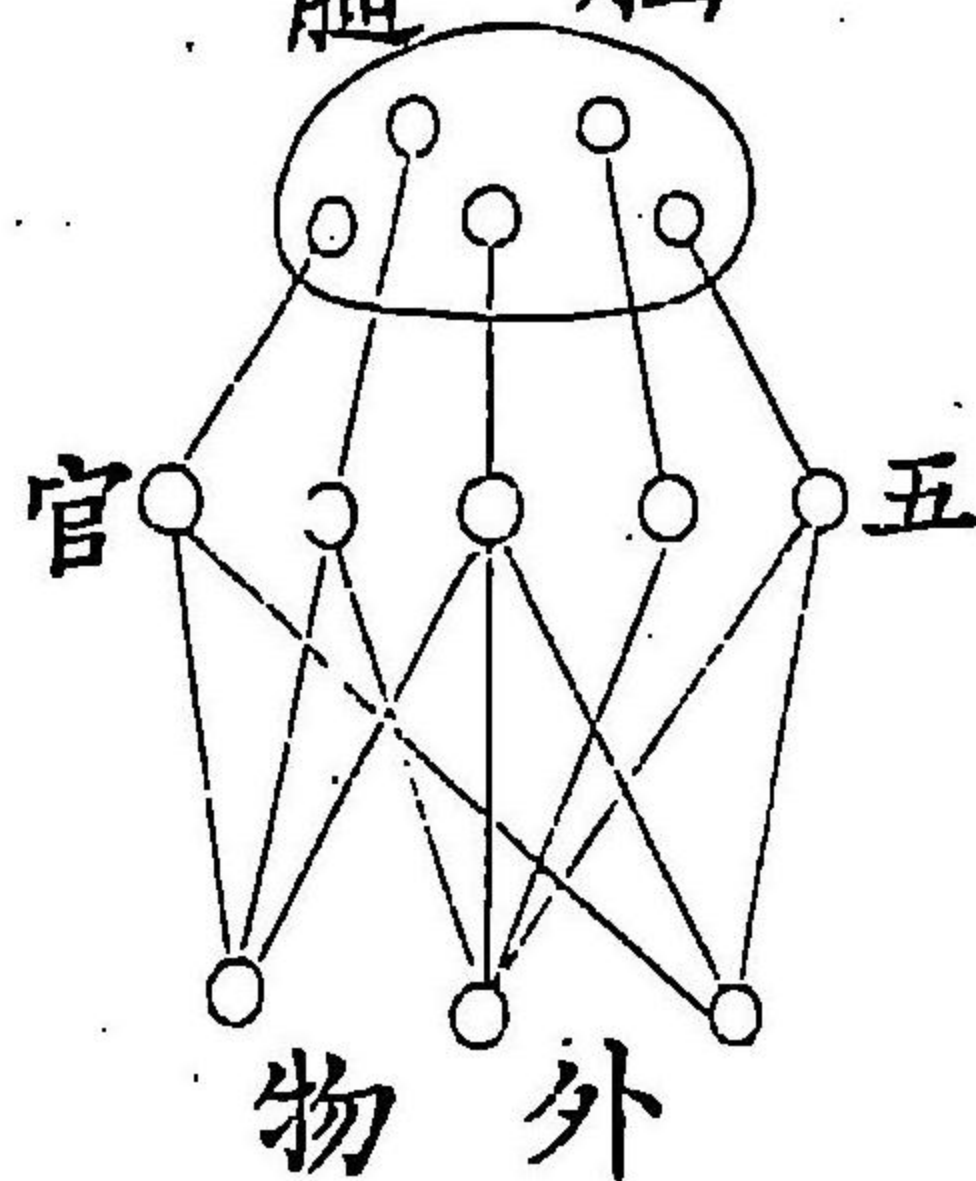
既ニ前章ニ於テ論シタル所ヲ以テ考フレバ世界ノ物其數巨多ナリ、而シテ彼等ノ觀念ノ類ガ始メ我等ノ五官ヲ刺激シテ感覺ヲ生ゼシメ其感覺積ンテ知覺ヲ生ゼシメ知覺又積ミ重サナリテ腦中ニ存シ後チ再生シテ現ハル、トキハ記憶トナルナリ、是即チ我等ノ精神現象ヲ組織スルノ元素ナリト云フ可シ、斯ノ如クシテ得タル所ノ觀念タル其種類ノ數多キコト又彼ノ外物ニ異ナルナシ、固ヨリ是等ノ觀念ノ起因スル所悉ク五官ニ外ナラズ、左レバ斯ノ如キ異類ナル觀念ヲ生スルハ我等ノ五官ヲ刺激スルモノ、異ナルニ因ル乎或ハ刺激スルモノ、異類ノ存スルニ非スシテ其ヲ受クル處ノ五官ノ種類異ナルニ因ル乎是レ哲學者及ヒ心理學者ノ説明ニ苦ム

處ナリ左レバ到底其理ヲ説キ盡シ能ハスト雖トモ心理學者及ヒ哲學者ノ通常考  
フル處ヲ大畧左ニ述ヘントス。

外物  
五官  
及感

今爰ニ一物アリト假定セシ目ヲ以テ之ヲ見レハ黒シ、手ヲ以テ之ニ觸ルレバ堅  
シ、之ヲ叩ケバ音ヲ生ジ、之ニ固有ノ香アリ、又味アリ、今假リニ之ヲ主觀的ニ考フル  
トキハ黒色ノ感覺、堅キコトノ感覺、音ノ感覺、香ノ感覺、味ノ感覺、腦中ニ存スルナリ、  
此等ハ復雜ナルモノナリ、然ルニ一方ヨリ又考フルトキハ是等復雜ナル感覺ハ一  
物ヨリ來ルモノナリ、是ニ由テ之ヲ觀レバ同一物ナリト雖トモ種々ナル外官ヲ刺  
激シ之ヲ受クル五官ハ斯ノ如ク復雜ナル感覺ヲ生セシムルコトヲ知ルナリ、今又  
注意ヲ内ニ轉シテ彼ノ復雜ナル觀念中ノ一即チ堅キコトノ感覺ニ就テ考フルニ  
堅キコトハ種々ナル物體ニ普通ノモノナリ、石、金、木等ノ如シ、左レハ一物ニシテ復  
雜ナル感覺ヲ生シ能フコトアリ、又多クノ物質ニシテ同一ノ感覺ヲ生シ能フモノ  
アリ、換言スレバ同一ノ感覺ヲ惹起スベキ性質ガ種々ナル物體ニ存在スルモノナ  
リ。

第十圖  
腦 髓



然リ而シテ前ニ論ズル如ク内界ト云ヒ外界ト云フハ唯相關的ノ語ナルニ過ギ  
ズト雖モ空間ニ存在スル物體ヲ外界ト名ツケ我等ノ意識中ニ存スル現象ヲ内界  
ト名ツクル時ハ外界ト内界トハ第十九圖ノ如キ關係ヲ有スルモノナリ、而シテ兩

者ノ關係ヲ尙細論センニ時間的性質ヨリ論ズル  
トキハ外界ハ先キニ存在シテ觀念ハ後ニ現出シ  
タルコト明カナリト雖トモ其心理的性質ヲ究メ  
ザル可カラズ、例ヘハ外物ガ五官ヲ刺激シテ感覺  
ヲ生シ之レニ因テ我等ノ觀念ヲ生シ始メテ觀念  
ノ活動ヲ現ハスモノナリ、然リト雖トモ斯クシテ  
觀念ノ活動スル前ニ存在スル世界ハ我等ニ對シ

テハ全ク無キモノニ等シ、何トナレバ假令世界アリトモ我等之レヲ認識スル能ハ  
ザルガ故ニ其ノ世界ハ我等ト全ク關係ナキモノナレバナリ、左レハ我等ガ世界ト  
稱スル世界ハ觀念ノ活動ニヨリテ認識シ得ル世界ニシテ觀念活動ノ後ナラデハ  
存在スルモノニアラズ、例ヘハ目ヲ以テ物ヲ見ルニ外物ハ既ニ存在シテ其影象網



膜ニ寫リ之レヲ刺激シテ感覺ヲ生ゼシムルモノナリ、而シテ目ノ爲メニハ外物ノ存在ハ恰モ虛無ナルガ如シ唯彼ノ網膜上ノ形象ハ目ニ關シテ實在物トナル、斯ノ如ク外物アリテ我等ノ感覺ヲ生ジ次テ精神ノ働キニ依リテ外物ノ存在ヲ認識スル者ナレバ精神ニ對シテハ其外物ニ惹キ起サレタル感覺及ヒ知覺ガ即ハ其實在ノ外物トナルナリ、砂糖ハ人ノ口ヲ放レテ何處ニ甘キコト存在スルヲ得ルヤ、樂器ハ人ノ耳ヲ放レテ何處ニ調音存在スルコトヲ得ルヤ、人ノ目ヲ放レテ何處ニ色ノ存在スルコトヲ得ルヤ、是等ハ人ノ感覺アリテ始メテ存スルモノナレバ或ハ之ヲ精神現象ト云ハソ乎、將又物理的現象ト云ハソ乎殆ンド孰レニ定ムルヲ苦シムモノナリ、固ヨリ或心理學者ハ區別ヲナセリ其一ハ上ニ述ベシ如キ精神ニ相對シテ存在スルモノナリ、其二ハ物體ノ重量、堅キコト、廣カリ、等ノ如ク精神ノ存在ニ關セズ獨立ニ物體ニ屬スルモノナリ、著者モ亦是ニ同意スルモノナリト雖トモ前ニ論ジタル如ク彼ノ視覺ノ比喻ノ如ク目ヨリ獨立シテ外物存在スト雖トモ視覺ニ關シテハ網膜上ニ寫リタル影象ヲ除キテ外ニ實物アルコトナシ、彼ノ物體ノ重量、堅キコト、廣カリ、等ノ物質ニ關スル性質モ亦人ノ精神ノ有無ニ關セズ獨立ニ存在ス

ルモノナリト雖トモ人ノ智識ニ關シテ論ズルトキハ實物ノ存在ハ其ニ就テノ觀念ヲ別レテ存在スル唯無用物ナルノミ、故ニ此點ヨリ外物ヲ考フルトキハ唯心論者ノ云ヘル如ク「外物ハ觀念ノ外ニ現出シタルモノニシテ物體ノ性質ハ其觀念ノ類ヲ小分シタルモノニ過キズ」故ニ外物ヲ客觀的觀念ト云フ、例ヘハ砂糖ハ一ノ觀念ナリ之ヲ小分スレバ甘キコト、白キコト、目方ト廣ガリ等ノ觀念トナルモノナリ、水ハ冷タキコト、無色ナルト目方ト廣ガリ等ノ集合シタルモノナリ、外物ハ凡テ斯ノ如ク多クノ觀念ノ結合シテ一ツノ觀念トナリタルモノナレバ又想像ノ上ニ於テ此等ノ物體ヲシテ其素ナル單一ノ觀念ニ分解スルコトヲモ得ルコトナルベシ、而シテ種々ナル物質ヲ箇様ニ分解スルトセン乎、斯クシテ得タル單一ナル觀念ハ其類ニ依リテ之ヲ分類シ得ルモノナリ、例ヘバ砂糖ニモ白キコトノ性質アリ紙ニモ白キコトノ性質アリ雪ニモ亦白キコトノ性質アリ、是等ハ異ナリタル物體ニ屬スルモノナリト雖トモ同一ノ觀念ナルガ故ニ凡テ皆白ト云フ一言ニ含有セラレテ一種ノ觀念トナルナリ、又水ハ流ル、ノ性アリ水銀ニモ亦流ル、ノ性アリ、亞兒哥爾ニモ亦流ル、ノ性アリ、故ニ是等ハ皆流動性ナル一種ノ觀念トナルナ

リ、個様ニシテ觀念ヲ分類スルハ丁度化學家が物質ヲ分析シテ之ヲ元素トナシ而シテ其元素ヲ分類シテ萬物皆六十四元素トナスガ如ク心理學者ハ物體ノ觀念ヲ其單一ナル觀念ニ分解シテ其數多キ觀念ヲ分類スルナリ、唯化學家ノ如ク六十四元素ト斷言スル能ハザルノミ、箇様ニ分類シテ異類ヲ分チ同類ヲ集ム、而シテ後者ヲ觀念ト云フ。

五及  
念及

是ヲ以テ之ヲ觀レバ多クノ異類ナル觀念アルハ五官ニ異類アリテ異類ナル感覺ヲ生ズルニ依ルモノナルガ如シ、蓋シ五官ヲ離レテ存在スル外物ニ付テハ我等全ク無識ナルモノナレバナリ。

概念  
延及  
内包

概念ノ性質ハ既ニ述ベタルガ如キモノニシテ多クノ物體ニ普通ナル觀念ヲ其物質ヨリ抽キテ共ニ集メタルモノナリ、而シテ其概念ニ種々アリ即チ謂ユル物體ニ普通ナルモノアリ又サマデ普通ナラザルモノアリ、例ヘバ物ノ廣カリナル觀念ノ如キハ外界ニ存在スル萬物ニ普通ノモノナリ、然レトモ堅キコト透明ナルコトノ如キ概念ハ或ル少數ノ如キモノニノミ限ルモノナリ、而シテ此等ノ概念ノ中ニ最モ單一ナルモノアリ、或ハ又稍複雑ナル概念アルナリ、而シテ單一ナル概念ハ其

範圍廣シ、複雑ナルモノハ其複雑ナルコトノ度増加スルニ從ツテ範圍狭クナルナリ、又前ノ例ニ依テ廣カリナル概念ハ單一ニシテ萬物ヲ含有ス故ニ範圍廣シ、然レトモ物體ナル觀念ハ前者ニ比スレバ稍複雑ニシテ其中ニハ廣カリ重量等ノ概念ヲ含有ス、爰ニ於テ乎其範圍ニ至リテハ少シク狭キカ如シ、何トナレバ廣カリナル概念ノ中ニハ空間ヲ含有シ能ハザレバナリ、又固形物ナル概念ハ其中ニ廣カリト重量ト堅キコトノ概念ヲ含有スルガ故ニ物體ナル概念ヨリモ尙繁雜ナルト同時ニ其範圍モ亦大ニ狭クナルナリ、斯ノ如クシテ概念ノ上ニ概念ヲ積ミ重ヌルニ從ヒ概念ハ尙複雑トナリテ其範圍ヲ狭メ其上尙々概念ヲ重ヌル時ハ概念ヲシテ複雑ニナシ其範圍ヲ狭ムルノ極端ニ達シ即チ一個ノ物體トナル、爰ニ於テ概念ハ最早概念ニ非ス一物ニ對スル觀念ニ過キサレノミ、而シテ反對ノ極端ニアリテハ概念ハ最モ單一ニシテ且其範圍ハ廣シ、即チ「廣カリ」ナル概念ナリ尙其概念ヲ廣ムル時ハ「存在」ナル概念トナル是即チ精神界及物質ヲ含有スルナリ、爰ニ我等ノ注意スベキ二點アルヲ見ル、即チ概念ノ範圍及概念ノ複雑ナルコトノ度是ナリ、論理學者ハ前者ヲ外

概念  
ト知  
ト知  
關係

延ト名ツケ後者ヲ内包ト名ツク、而シテ外延ノ大小ハ内包ノ大小ト互ニ轉比例ノ關係ヲ有スルモノナリ、抑モ客觀的ニ存在スル事業ハ凡テ一個々々ノ物體ニシテ是ニ對スル觀念ハ概念ニ非ス、其物體ヲ有リノ儘ニ認識スルハ知覺ナリ、之ヲ分析シテ種々ナル單一ナル觀念ヲ分類シテ主觀的ニ得タルモノヲ概念ト云フコトナレバ概念ハ主觀的現象ナリ、而シテ知覺ト概念トハ孰レカ先キニ存在スルヤ素ヨリ最初ニ知覺アリテ之ヲ分析シテ概念ヲ得ルハ時間的ノ順序ナリト雖トモ又一方ヨリ云ヘバ概念アリテ他ノ事實ヲ認識シ知覺ヲ得ルノ助ケトナル事實ヲ認識スルコト多ケレバ隨テ又概念其範圍ヲ廣クシ尙他ノ事實ヲ發見スルコトヲ助ク、例ヘバ我等日々ニ種々様々ナル草木ヲ見ルト雖トモ植物學ヲ研究セサルトキハ之ニ格段ノ注意ヲ用ヰルコトナキガ故ニ見逃スモノ甚タ多シ、然レトモ一度植物學ヲ研究スルトキハ種々ナル草木ノ性質ヲ分析シ之ヲ分類シテ草木ニ種々ナル名稱ヲ與ヘ即チ種々ナル概念ヲ形造ルナリ、故ニ其後草木ヲ見ルル片ハ前ニ目ニ觸レテ之ヲ認識セザリシモノ迄モ今ハ凡テ之ヲ認識シ或ハ此草木ヲ此分類ノ中ニ入レ彼ノ草木ヲ彼ノ分類中ニ入レ斯ノ如クニシテ種々ナル草木ヲ觀察シ或ハ前

概念ノ二發達

ニ人ノ知ラザリシ草木マデモ發見ズルニ至ルコトナラソ、斯クテ一ノ新シキ草木ヲ發見シテ之ヲ何々ナル分類ノ中ニ入ル、トキハ其分類ノ範圍ヲ其レ丈ケ廣メタル譯ナリ、而シテ又他ノ草木ヲ發見スルノ手段トナルナリ、動物學ニ於テモ亦同シ、其他凡テ、何ノ學問ニ於テモ論ズル所ノ事實ヲ知ルコト多ケレバ從テ其概念廣クシテ且ツ明瞭ナリ、概念廣クシテ明瞭ナレバ又從ツテ他ノ事實ヲ猶容易ニ認識スルコトヲ得ルナリ、故ニ概念廣クナレバ事實ヲ認識スルコト易ク認識シタル事實多ケレバ概念從ツテ明カニナルナリ、斯ノ如キモノナルガ故ニ概念ノ發達ハ智識ノ發達ト共ニ相助ケ合フモノナリ、例ヘバ、人ト云フ概念ハ小兒ノ心ニ存スルモノト又世界ヲ旅行シタル學者ノ心ニ存シタルモノトハ大ニ相ヒ違フモノナリ、小兒ノ心ニ存スル人ト云フ概念ハ自分ノ兩親兄弟、僕婢、朋友等纔カ自分ニ直接ニ關係スルモノ、ミヲ材料トシテ造リ得タル概念ナリ、故ニ單一ニシテ狹ナリ、然ルニ世界ヲ旅行シタル學者ハ種々様々ナル人間ニ出逢ヒ其性質ヲ研究シテ得タル知識ヲ材料トシテ形ヲ造リタルモノナレバ其概念甚タ廣クシテ複雜ナリ、尙精密ニ之ヲ論ズルトキハ概念ノ發達ハ二様ニ現ハレザルヲ得ズ、一方ニ於テハ人間ノ經

驗ノ進ムト共ニ概念ノ範圍尙々廣カリテ世界ヲ旅行シタル彼ノ學者ノ如キハ人ナル概念ノ中ニ含有スルモノ多キナリ是レ概念ノ外延的發達ナリ、他ノ一方ニハ人ナル概念尙々其意味ニ於テ繁雜トナリ小兒ノ心ニ於テ思フ所ノ人ニ比スレバ學者ノ考フル所ノ人ナル概念ハ其意味深キコト明カナリ、是レ概念ノ内包的發達ナリ。

注意、前ニ外延ト内包トハ其大小互ニ轉比例ナリト云ヘリ、然レトモ是ハ發達ノ度同シキトキニ行ハル、事ニシテ此所ニ論ズルハ兩者共ニ發達ノ順序ヲ云フモノナレバ前ノ規則ヲ應用スル能ハス、故ニ前ニ論スル所ト矛盾スル如キノ觀アルモ其實決シテ然ラザルナリ。

然リ而シテ概念或ハ事實ヲ比較シ其間ノ關係ヲ定ムルヲ物ノ判斷ト云フ、判斷ニ種々アリ合式的、約結的、離接的、是レナリ、左ニ一々之ヲ説明セントス、先ツ合式的判斷ヲ説明センニ社會ハ有機物デアル、或ハ人ハ精神的ノ動物ナリ、或ハ馬ハ犬ニアラズ等ノ如ク物ノ然否ヲ定ムルコトナリ、抑モ合式的判斷ヲナズニ注意スベキ三點アリ、主位、賓位、連辭是ナリ、先キニ述ベタル判斷ニ三ツノ異形アルハ即チ連辭

判斷ノ種類  
合式的  
約結的  
離接的

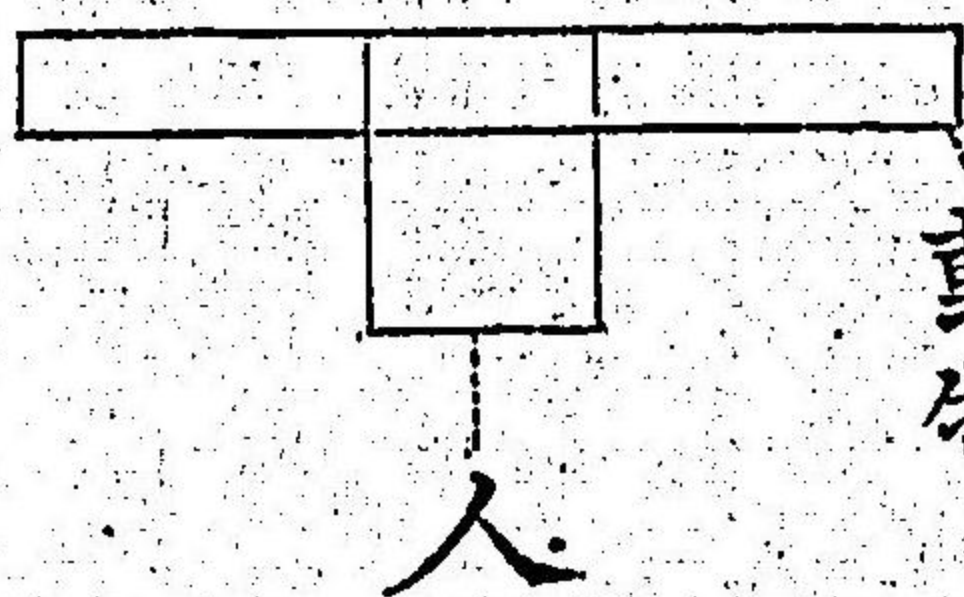
ノ性質ニ依テ起ルモノナルハ漸次説明スル所ニ依テ明カナルモノナリ、即チ合式的判斷ニ於テハ此連辭ハ「ハ……デアル」或ハ「ハ……ナリ」或ハ「ハ……ニ非ズ」等ノ語ナリ、而シテ主位ト賓位ノ性質ニ至テ尙説明スベキモノアリ。

凡ソ物ヲ判斷スルニハ主位ト賓位ノ關係ヲ定ムルコトニアリ、而シテ主位モ賓位モ各獨立ノ概念ナリ、即チ連辭ヲ以テ之ヲ結合セシモノナリ、之ヲ結合セシムル所以ノモノハ果シテ何所ニアルヤ、爰ニ於テ哲學者種々ノ派ニ分ル、實驗派ノ說ニヨレバ是レ經驗ノ然ラシムル所ナリト云ヒ、先天派ノ說ニヨレバ心意ノ然ラシムル所ナリト云フ、其孰レカ是孰レカ非ナルヲ此ニ論スル能ハズ、唯僅カニ一二ノ例ヲ舉ゲテ判斷ノ働キヲ分解シ其性質ヲ明ニセンコトヲ欲スルノミ、通例論理學者ノ論ズル所ニヨレバ主位ト賓位ノ關係ハ物ノ全體ト部分ノ關係ノ如クニ論シ輪ヲ以テ兩者ヲ現ハシ兩者互ノ大サヲ比較スルニ過キサルガ如クニ論ズルモノナリ、坪井九馬三氏論理學講義百七五頁乃至百七十九頁ヲ看ヨ、論理學者ノ論ズル所ハ一理ナキニ非ズト雖トモ心理學上ヨリ判斷ノ性質ヲ考フルトキハ此ノ輪ノ大小ヲ比較スルヲ以テ判斷ノ性質ヲ盡シタリト云フ能ハザルナリ、例ヘバ人ハ動物

ナリト云フ合式的命題ヲ取テ之ヲ分解セシニ論理學者ノ現ハス所ヲ以テスレバ動物ナル概念ヲ大輪ニテ現ハシ人ナル概念ヲ小輪ニテ現シ前者ヲ後者ノ範圍中ニ畫キテ以テ主位ト賓位ノ關係ヲ現ハスナリ之レおいらノ時ニ始マリ後チはえとりーせばんモ之ヲ採用シ我國ノ譯書ニモ見當ル所ナリ若シ人ノ概念ヲシテ薄キ煎餅ノ如キモノナラシメバおいらノ發明實ニ大ナリト云フ可シ然リト雖トモ已ニ論シタル如ク人ノ概念ニハ二性質アリ外延及内包是レナリ或ハ之ヲ稱シテ概念ノ廣カリ及ビ概念ノ深サト云フ此兩者ノ關係ハ轉比例ナルコトモ已ニ論シタル所ナリ果シテ然ラバ輪ヲ以テ之ヲ現ハスハ一方ニ於テハ視覺ニ訴ヘテ概念ノ關係ヲ現ハスニ大ナル便利アルニモ拘ラズ人々ニ誤想ヲ懷カシムルノ憂ナキ能ハザルナリ故ニ前ノ例ヲ以テスルトキハ人ナル概念ハ動物ナル概念ヨリモ其範圍狭シト雖トモ其深サ大ナリ余ハ之ヲ以テ主位ト賓位ノ不變ノ法則ナリト信ズ主位ハ常ニ範圍狭クシテ深シ而シテ賓位ハ主位ヨリモ範圍廣クシテ淺シ故ニ範圍ヨリ之ヲ論ズルトキハ主位ハ賓位ノ中ニ合マルト雖トモ深サヨリ之ヲ論ズルトキハ賓位ハ主位ノ中ニ合マレサルヲ得ス即チ人ナル概念ハ動物ナル

概念ノ中ニ含有サルト雖トモ其深サニ於テハ動物ナル概念ハ人ナル概念ノ中ニ含有セザルヲ得ズ兩者ノ數理上ノ關係斯ノ如シ然レトモ連辭ノナス所必ズ數理ノ關係ヲ言ヒ現ハスニ非ズ唯主位タル所ノ概念ト賓位タル概念カ同一物ニ附屬スルコトヲ指示スルモノナリ故ニ前ノ例ヲ以テスレ

動物



第十二圖

ハ人ナル概念ト動物ナル概念トハ人間ナル同一物ニ屬スルガ故ニ人ハ動物ナリト云フ命題チ生ズルモノナリ故ニ二ツノ輪ヲ以テ之ヲ現ハスコトノ代リニ第二十圖ノ如キ圖ヲ以テ現ハスハ適當ナラント信ズ爰ニ於テ縦線ハ概念ノ深サヲ現ハシ横線ハ其範圍ヲ現ハスモノナレバ連辭ノ役ハ其二者ガ同一物ヲ現ハスモノニシテ第二十圖ヲ以テ見レハ人ナル概念ト動物ナル概念ト相重サナリ合フコトヲ示スモノナリ合式的命題ノ性質大凡

斯ノ如シ

約結的命題

約結的命題ニ於テハ少シク前ト異ナリ先キニハ主位ト賓位ノ關係ヲ連辭ニヨ

心理學

リテ結合セシメタルモノナリト雖トモ約結的命題ニ於テハ二ツノ命題アリテ一ノ命題ト他ノ命題トノ關係ヲ示スモノナリ故ニ明日雨が降ルナラバ木ノ芽が出ツルナラント云フ命題ニ就テ論ズルニ此コニツノ命題存スルナリ即チ明日雨が降ルト云フコト、木ノ芽が出ルト云フコトナリ而シテ木ノ芽ノ出ルト云フコトノ有無ハ明日雨が降ルト云フコトノ有無ニ關スルモノナリ爰ニ於テ連辭トナルモノハフルナラバ……イザルナラント云フコトニテ即チ此ニ命題ハ互ニ原因結果ノ關係ヲ現ハスモノナリ、あづさ弓おして春雨けふふりぬ明日さへふらばわがなつみてむ(古今集卷ノ一 歌人不知)斯ノ如キ例ハ已ニ同伴ノ中ニ數多ケレバ此ニ略ス、此命題ノ定ムル所ハ原因結果ノ關係ガ外界ニ實在スルトキニミ其功力ヲ有スルモノニシテ、若シ一度誤リテ其實在ノ有無ヲ忘レ唯主觀的ノ意斷ヲ以テ此命題ヲ用ヰルトキハ過チニ陷ルコト屢之アルナリ故ニ斯ノ如キ命題ハ已ニ發見シタル事實ヲ陳述スルノミニ用ヰテ可ナリト雖トモ已ニ知リタル事實ヲ以テ未タ知ラレザル事ヲ論究スルガ如キ場合ニ用ユルトキハ甚ク危險ノ憂ナキ能ハズ、是レ昔ヨリ哲學者ノ爲シタル誤リニテ今日ニ至ル迄世人ヨリノ非難ヲ免レサル所以ナリ、

列續後

離接的命題ハ其公式(イ)ガ(ろ)デアアルカ然ラザレバ(ハ)デアアルト云フ形ニシテ主位ガ二ツノ賓位ニ關係スル者ナリ而シテ其二ツノ賓位ノ中(ろ)カ然ラザレバ(ハ)ガ必ズ主位ニ關係スルコトヲ示セルモノナリ、例へハ古歌ニ「かたみこぞ今は仇なれ是なくば忘るゝ事のあらまじもの」をトアリ、此意ハ之ヲ論理學ヨリ論ズルトキハ「かたみハ故人ノコトヲ記憶サセテ快樂ヲ與フルカ然ラザレバ之ヲ記憶スルコトガ却テ悲ミヲ生ズルノ原因トナル而シテ此歌ニ於テハ「かたみガ悲ミヲ生シタルコトヲ願ハシタルコトナラシ故ニ寧ロ故人ノ事ヲ忘レタランニハ悲ムコトモ亦少ナキコトナリト讀メリ、此命題ハ賓位互ノ關係ニ於テ一種特別ノ關係ヲ現ハスモノナリ、(イ)ナル主位ニ對シテ賓位トナルベキモノハ其數如何ニ多シト雖トモ悉ク之ヲ數ヘ盡サザルヲ得ズ、若シ前ノ命題ニ於テ(ろ)ト(ハ)ノ外ニ尙賓位トナルモノアリトシ、假リニ之ヲ(ろ)ト定ムルトキハ(イ)ハ(ろ)カ(ハ)カ(ニ)ナリト云フベキナリ、餘ハ之ニ準ズ然レトモ(イ)ナル主位ニ對シテ賓位トナルベキモノハ數多キガ故ニ悉ク斯ノ如クシテ數ヘ盡ス能ハザルモノナレバ實際上斯ノ如キ命題ハ無用物トモノナリ、例へバ法律ヲ以テ説明センニ先ツ刑法ヲ以テ之ヲ考フルトキハ一方ニ於テ主

位トナルベキモノハ罪ノ種類ナリ然レドモ社會ノ現象千差萬別ナレバ社會ニ起  
ラントスル人ノ罪惡ヲ前以テ悉ク定ムルコトノ難キハ言フ俟タズシテ明カナリ  
又之ニ加フルニ賓位トナルベキモノ即チ其罪ニ對スル適當ナル刑罰ニモ種々ア  
リ日本ノ如ク法律ノ文面ヲ以テ之ヲ定メタル國ニ於テハ罪已ニ定マルトキハ直  
ニ之ニ對スル罰ヲ定ムルコトヲ得ルト雖トモ罪ノ類ヲ定ムルコト易キコトニ非  
ズ英吉利ノ如キハ日本トハ違ヒ法官ノ判斷ニ依テ其罪ヲ定ムルコト多キガ故ニ  
同罪ヲ犯シタルモノト雖ドモ屢罰ニ於テハ大ニ輕重アリテ人民ノ不満足ヲ來ス  
コト往々之アルナリ此等ヲ以テ考フルトキハ離接的命題ヲ實際ニ應用スルノ難  
キコト知ルベキナリ

例論ノ

上ニ述ベタル約結的及ビ離接的命題ヲ合シテ之ヲ憶斷ニテ用ユルトキハ詭辨  
論ノ器械トナリテ功力亦大ナリト云フベシ昔時希臘ニ於テ詭辨論ノ隆ノナル時  
代ニ行ハレタル詭辨ハ之ニ基スルモノナリ二三ノ例ヲ舉ゲンニ病人ニ就テ話ス  
ニ若シ此病氣ニテ死スベキモノナラバ假令醫者ヲ呼ブモ其運命ヲ免ル能ハズ  
若シ此病氣全快スベキモノナラバ醫者ヲ呼ブニ及バズ故ニ何レヨリ論ズルモ醫

者ヲ呼ブハ無益ナリト云ヘリ又名高キぶろたごらすニ就テ奇談アリ彼ハ詭辨家  
ノ王ト呼バレタル人ナリ愛ニいわすらすナル青年アリテ氏ノ門ニ入レリ當時ノ  
風ニ依レバ門人ハ莫大ノ金ヲ出シテ先生ノ術ヲ學ビ受ケタルモノナリ而シテい  
わすらすハ門ニ入リシトキコ拂フベキ金ノ半額ヲ拂ヒ他ノ半額ハいわすらすガ  
業ヲ卒ヒ法庭ニ出デ初メテ訴訟ニ勝チタル時ヲ期シテ拂ハシコトヲ約セリ然  
ルニいわすらすハ殆ンド其業ヲ終ルニ當テ大ニ勉強ヲ怠リタリ蓋シ彼ノ半額ノ  
金ヲ拂フコトヲ好マザリシニ依ルナラン而シテぶろたごらすハ之ヲ不當ナリト  
思ヒいわすらすヲ被告トシテ訴訟ヲ起シタリぶろたごらすハ法庭ニ於テいわす  
らすニ對テ曰ク恐ナル青年汝如何コシテモ我ニ拂フヲ拒ム能ハザルノ理アリ若  
シ法官ノ判斷ニヨリ汝勝ヲ得ハ是レ汝ガ法庭ニ於テ最初ニ勝ヲ得タルノトキナ  
レバ我ニ金ヲ拂フハ既ニ約束セシ所ナリ若シ夫レ我勝ヲ得ルトキハ法律ノ權ヲ  
以テ汝ニ金ヲ拂ハシムベシトいわすらす之ニ答ヘテ曰ク如何ニシテモ我レ汝ニ  
金ヲ拂フノ理ナシ若シ裁判ニ於テ勝ツトキハ法律ノ保護ニ依テ我之ヲ拂ハズ若  
シ我レ此裁判ニ於テ勝タザルトキハ彼ノ條約ニ背反スルガ故ニ我レ之ヲ拂ハズ

ト、爰ニ於テ法官ハ其何レニ決スベキヤヲ知ラズシテ無限ノ延期ヲ爲シ終ニ之ヲ決セザリシト云フ、斯ノ如キ詭辨ハ其極端ナリト雖、ドモ世ニ所謂水掛論ハ即チ之ニ異ナルナシ、世人言葉ハ我等ノ觀念ヲ外ニ現ハスノ器械ニ過ギズトスル時ハ誤ルコトナシト雖、ドモ往々言葉ヲ以テ真理ヲ發見シ或ハ事ノ眞偽ヲ決スルノ器械ナルガ如クニ思フハ大ニ誤レリト云フベシ、是等ノ真理ハ皆實驗ト深キ考ニ依ラズンバ發見シ能ハザルコトナリ。

第七章 想像

前キノ第六章ニ於テハ觀念ノ起因及ビ其單一ナル性質ヲ論シタリ、本章ニ於テハ其觀念ノ實際ニ活用スル所ノ法則及ビ其性質ヲ論ゼントスルモノナリ。

想像ノ解語

抑モ想像ナル語ハ種々ナル意味ニ用ヰラル、ハコトアリ、極メテ之ヲ廣ク用ユルトキハ凡テ眼前ニ無キ者ニ付テ考フルコトナリ、又今少シ狭キ意味ニ之ヲ用ユルトキハ美術的ノ觀念ヲ有スル人ヲ指シテ想像的ノ人ト呼ブコトアリ、又或ル時ハ實際存在シ能ハザル如キコトヲ考フルニ用ユルコトアリ、例ヘバビトます、むわノ「ユートピア」ヲ指シテ想像國ト云フガ如シ、斯ノ如ク其用ユル所ノ場合ニ因テ想像ナル言語ノ意味變更スルガ如キニ似タレトモ是等凡テ想像ノ枝葉ニ就テ起ルコトナリ、其本體ノ性質ヲ知ラザルベカラズ、左ニ此ヲ説明セン。

智情ノ關係

想像ノ性質ヲ充分ニ説明セントスルニハ其前一ノ注意スベキコトアリ、心理學者ハ通例精神ヲ分テ智情意ノ三トナス、著者モ亦此區別ヲ採用セリ、然レドモ是レ素ヨリ説明ノ便宜ヲ計リテ分テタルモノヨシテ實際ニ於テハ三者相共ニ働クモノナレハ或ハ説明ニ於テモ智情意相引照シテ始メテ明白ナルモノナリ、前ノ六



章ニ論シタル所ハ重ニ精神ノ智性ニ關スルコトニシテ情意ノ如キハ餘リ關係ナ  
 キモノナリシト雖トモ此想像ニ至リテハ智情意ノ三ツニ密着ノ關係ヲ有スルモ  
 ノナリ、故ニ今論セントスル所ハ重ニ智性ノ點ヨリ之ヲ考フルコトナレドモ之レ  
 唯想像ノ性質一片ヲ論ズルノミニテ尙後章ヲ引照シテ其全體ヲ解スルヲ得ルモ  
 ノナリ。

意識ノ組織

既ニ前章ニ論ズル所ヲ以テ見レバ精神ノ現象ハ意識中ニ觀念ノ現ハレタルモ  
 ノナリ、而シテ此觀念ガ意識中ニ新陳代謝スルノ順序ニ至リテハ同伴法ノ定ムル  
 モノナリ、然レドモ同伴法ノ外ニ意識中ニ他ノ法則アリ、則チ彼ノ多ク意識中ニ現  
 ハル、觀念中ヨリ或者ヲ撰出シ其他ノ者ヲ捨ツルノ法則アリ、此新法則ハ法則ト  
 云フ可キカ或ハカト云フベキカ著者ハ之ヲ知ラズ、著者ノ憶説ニ依レバ是レ亦意  
 識ノ結合性ノ一種ナリト信ズ、故ニ之ヲ稱シテ意識ノ組織法ト云フ。

觀念ニ至リテ  
 異形ノ

左レバ觀念ガ意識中ニ現ハル、ニ就テハ同伴法ノ法則ニ從テ新陳代謝スルモ  
 ノアリ、又意識ノ組織性ニ從テ新陳代謝スルコトアリ、從テ觀念ノ現ハル、仕方ニ  
 就テ三ツノ區別ヲ生ズ、(第一)前キニ經驗シタルマ、ニ觀念ガ再生スルトキハ之ヲ

ヲ記憶ト云フ、此時ハ意識ハ受身ニナリテ觀念ヲ認識スルナリ、(第二)先キニ經驗ニ  
 依テ得タル觀念ガ互ニ分離シ、或ハ又新ニ互ニ結合シテ意識ノ組織性ノ定ムル所  
 ニ從ツテ新ナル結合ヲ爲ス、其時理性的ノ順序ニ從テ現ハル、コトアリ、(第三)又  
 美術的ノ順序ニ從テ現ハル、コトアルナリ、第一ハ已ニ論シタル所ナレバ第二ト  
 第三種ノ者ヲ順序ニ從ツテ左ニ證明セントス、

理的想像性

觀念ガ理性ノ順序ニ從テ現ハル、トキハ其現ハレタル觀念ノ性質ノ種々異ナ  
 ルニ依テ又種々ニ區別スベキ現象ヲ生スルナリ、即チ其觀念ガ抽象的ノ概念ナル  
 トキハ論理的想像トナリ、又其觀念ガ客觀的ノ事實ナルキハ科學的想像トナリ、又  
 其觀念ガ數ニ關スルキハ即チ數理的想像トナリ、器械ニ關シタルキハ器械的想像  
 トナリ、或ハ又格段ニ人間社會ノ事實ニ關シタル觀念ガ斯ノ如キ順序ニ現ハル、  
 并ハ或ハ經濟的想像トナリ、或ハ理財的想像トナリ、政事的想像トナリ、商工業的想  
 像トナル、斯ノ如ク觀念ノ類ノ異ナルニ依テ其現ハル、所ノ形像種々様々ナリト  
 雖トモ要スルニ上ニ云ヘル如キハ凡テ觀念ガ皆ニ記憶トナリテ現ハル、ハノミニ  
 非ズシテ經驗ニ依テ得タル觀念ヲ俗ニ所謂能ク精神中ニ消化シテ再ビ理性的ノ

美術的想像

順序ニヨリ意識中ニ再生スルモノナリ、而シテ想像ノ此ノ類ニ關シテハ其形ノ如何ナルヲ問ハズ彼等ハ凡テ左ノ普通性質ヲ有ス即チ既ニ經驗シタル事實ヨリ推シ考ヘテ未來ニ起ラントスルコトヲ前定スルカ或ハ新工夫ヲ以テ既ニ存在スルモノ、缺點ヲ補ハントスルカニアルナリ、物理學者ガ數理ヲ應用シ或ハ化學者ガ化學ノ理ヲ應用シ醫者ガ醫學ノ理ヲ應用シテ既ニ來ラントスル事實ヲ前定スルハ即チ其一例ナリ、又機械家ガ新機械ヲ發明シ政治家ガ新法律ヲ造リ、理財家ガ貨幣或ハ紙幣ヲ發行シテ既ニ存在スル有様ノ不完全ナルヲ改良セント計ルハ即チ他ノ例ナリ、此類ノ想像ニ於テ其目的トスル所ハ主觀的ヨリ寧ロ客觀的ニシテ其前定ガ果シテ事實ニ適フトキハ又新奇ノ工夫ヲ以テ舊來ノ缺點ヲ實際補フコトヲ得ルトキハ其想像ハ價值アルモノニシテ誰レモ求メベキ想像ナリ、而シテ其前定又ハ新工夫ガ事實ニ適ハザルトキハ斯ノ如キ想像ハ無用ノモノトス、故ニ此類ノ想像ニ於テハ其標準トスル所ハ客觀的ノ事實ニ適フヤ否ヤニアリ、

觀念ガ美術的ノ順序ニ現ハル、時ニ於テモ其觀念ノ異ナルニ依テ種々ノ現象ヲ生ズ、此ノ類ノ想像ニ於テ現ハル、觀念ハ重ニ情性ヲ有スルモノナリ、而シテ耳

想像的別

ノ感覺ニ於テハ音樂トナリ、目ノ感覺ニ於テハ繪畫トナリ、鼻口ノ感覺ニ於テハ料理法トナリ、筋肉ノ感覺ニ於テハ舞蹈トナリ、言語ニ發シテ詩歌トナリ、凡テ是等ノ觀念ハ其目的トスル所客觀的ノ事實ニ附合スルヤ否ヤヲ問フニ非ズ、唯主觀的ノ美妙性ヲ満足セシムルニ在リ、客觀的ニ考フルトキハ人ノ精神ヲ高尚ナラシムル實ニ教育上無限ノ價格ヲ有スルモノナリ、

上ニ述ヘタル二種ノ想像ハ通例心理學者ノ想像ト唱フル所ナレトモ、カンド及ヒはみるどんノ如キハ想像ナル語ヲ極メテ廣キ意味ニ用非抽象的ノ觀念ニ對シ實形的ノ觀念意識中ニ現ハル、凡テ想像ト呼ベリ、此點ヨリ考フルルキハ記憶モ亦想像ノ一種ト云ハザルヲ得ズ、此說ニヨレバ想像ハ過去ト未來ニ廣カリ、人間ノ存在ヲシテ當コ現在ノミナラズ過去ト未來ニ之ヲ廣ケ、丁度宇宙ノ萬物ガ空間ニ存在スル如ク精神界ハ過去、現在、未來ナル時間ノ大海ニ浮ブモノナリ、著者ハ先キニ意識ト空間ノ比喻ヲ取リタルコアリ、而シテ意識ハ大時間ノ一部分ニ存シテ時間ニ廣カルモノナルカ故ニ觀念ト時間ノ關係ヲ再ヒ物体ト空間トノ關係ニ譬フ

ルモ亦不可ナリ、斯ノ如ク精神現象ハ時ノ大海ニ廣カルモノナリ而シテ著者ハ既ニ經驗シタル事實ガ其儘再生スルモノヲ記憶ト名ケ其他過去、現在、未來ニ拘ハラズ凡テ觀念ガ理性的ノ順序或ハ美術的ノ順序ニ現ハル、キ之ヲ想像ト云フ。

左レバ想像ト記憶トガ共ニ精神中ニ現ハル、トキハ即チ過去、現在、未來ヲ完フスルモノナリ、既ニ論シタル如ク人間ノ生涯或ハ悲ミアリ、喜ビアリ、世ノ有様ノ常ナキハ詩人ノ常ニ云フ所ナリト雖トモ、今十年或ハ二十年或ハ六十年間ノ苦ト樂ヲ平均スルトキハ如何ナル結果ヲ得ルヤヲ知ラズ、恐クハ佛法ノ所謂涅槃ニ至ルコトナラン、其レハ兎ニ角此記憶ト想像ニ依テ人ハ過去ノ十年或ハ二十年ヲ未來ノ十年或ハ二十年ト結合セシメテ其中ニ起ルベキ苦ト樂ヲ幾分カ平均セシムルヲ得ルナリ、故ニ苦ミアルトキニハ過去ノ快樂ヲ思ヒ出シ或ハ未來ノ快樂ヲ樂ンテ心ヲ慰ムルコトアリ、又人ガ快樂ヲ得ルトキハ過去ノ事ヲ思ヒ出シ或ハ未來ノ事ヲ想像シテ其人ガ一時ノ慾ニ耽リ或ハ奢侈ニ流ル、ヲ防クコトアリ、此點ヨリ考フルトキハ人ノ精神ヲ線リ未來ニ起ラントスル事ノ觀念ヲ精神ノ眼前ニ浮バシムルハ德育上大切ナルコトナリ、教育家タルモノ爰ニ注意セザルベカラズ。

### 第八章 理想

天然人

天然トハ通常宇宙ニ存在スル萬物ヲ指シテ云フモノナリト雖トモ或ハ其意味ヲ狭ク限リ精神界ト對照シテ物質世界ヲ指シ天然ト云フモノナリ、故ニ天然ノ働キト人造トヲ相對シテ用ヰルコトアリ、而シテ天然ノ働キニ人意ヲ交ユルトキハ天然ノ清潔ヲ汚スコトアリ、故ニ天然ノ美ヲ樂マントスルトキハ人ノ働キヲ交ヘズシテ之ヲ樂ムニ若カズ、萩の露玉にぬかんと折れなきぬよしみ、人は枝ながら見よ(古今集、讀然リト雖トモ又一方ヨリ考フルトキハ天然ニ存スルモノ果シテ皆完全ナルモノニ非ズ、若シ天然ガ凡テ完全ナルモノナラン時ハ野蠻ノ人民ハ天然ニ近キガ故ニ開化シタル人民ヨリハ完全ナラザルヲ得ズ、斯ノ如キハ理ニ於テ無キコトナリ、故ニ人意ハ屢々天然ノ清潔ヲ汚スルコトアリト雖トモ又天然ノ美ヲ維持シ天然力ヲ使用シテ其缺點ヲ補ヒ人間ノ高尚ナル性質ノ望ニ應セシメントスルモノナリ。

開化如何

之ヲ以テ是ヲ觀レバ人ハ天然ノ働キヲ見テ己レガ過失ヲ悟リ之ニ倣ハザルヲ得ザル場合アリ、或ハ又精神ノ働キヲ以テ天然ノ缺點ヲ補フ場合アリト雖トモ後

者ハ其働キノ範圍前者ヨリモ遙カニ大ナルモノナリ、世界開化ノ歴史ハ即チ人ガ天然力ヲ使用シテ天然ノ缺點ヲ補フタルノ歴史ナリ、又世ニ社會力或ハ國家力ナル一種ノ力存在スルトセバ是レ即チ天然力ニ人意ヲ結合シタル一種ノ結果ナルモノナリ。

變化  
不中變

抑モ我等物ノ完全或ハ不完全ヲ論ズルニハ標準ナカルベカラズ、此標準ニ照シテ或ハ完全ト云ヒ或ハ不完全ト云フ、天命ヲ指シテ不完全ナリト云フハ果シテ何ノ標準ニ依ル乎、天然ノ中ニ不易ノ標準アル乎、天然ハ皆變化シテ常ナキモノナリ、千早ふる神のいがきにとふくずも秋にはあへずうつろいにけり(古今集)此歌ノ意ハ神のいがきにアルくす即チ神ノ保護ヲ受ケテ居ルモノモ天然變化ノ法則ニハ堪へ難キコトヲ讀メルモノナリ、又古昔希臘ノ哲學者ふるたごらすハ人ハ凡テノ物ノ標準ナリト斷言セリ、氏ハ詭辨家ノ王ニシテ此言ハ詭辨ノ極端ト云フベキナリ、何トナレハ氏ハ各一己人ガ萬物ノ標準タルヲ斷言シタルモノナレハ其結果タル自儘主義ニ陥ルノ外ナカルベケレバナリ。

古昔ヨリ哲學者世ニ出テ、天然ノ理ヲ考へ眞理ヲ發見セントセシハ即チ此圓滿不易ノ標準何處ニアルヤヲ定メントシタルニ過ギス、佛法ハ涅槃ヲ以テ其標準トナセリ、老子ハ道德ヲ以テ標準ト爲セリ、ばいさごらモハ數理ヲ以テ其標準ト爲セリ、孔子ハ之ヲ國ノ歴史ニ求メテ先祖ノ例ヲ崇べり、そくらてすハ論シテ云へリ、天然モ常ナク又人ノ心モ變リ易ク何レカ不變ノモノナルヲ知ラザルガ如シト雖ドモ少シク注意シテ精神ノ現象ヲ觀察スルトキハ精神中ニ概念ノ存在スルヲ見ル、此概念ハ其中ニ多クノ觀念ヲ含有シテ此一個ノ觀念ハ常ニ新陳代謝スルト雖ドモ之ヲ總括スル概念ハ變化ヲ受クルコト大ニ少シ、例へバ春過ギテ夏來リ夏過ギテ又秋來リ時候變遷シテ常ナラザルガ如シト雖ドモ春夏秋冬ヲ概シテ之ヲ一期ト見做ス時ハ即チ毎年同ジ春夏秋冬ヲ探返シ年々同ジ年ニテ又變化スルコト少ナシ、又水ハ雨トナリテ山ニ降り川ト成リ流レ海ニ入り又蒸發氣トナリテ空ニ上リ其有機常ナキガ如クニ見ユレドモ其雲カ復再ビ雨トナリテ降り川ニ流ル、モノチレハ世界中ノ水ヲ概シテ考フルトキハ又水ノ増減ナキコトニテ開闢以來常ニ同シ水ガ唯同シ道ヲ巡回スルニ過ギザルノミ斯ノ如ク概念ハ精神中ニアリテ

者ハ其働キノ範圍前者ヨリモ遙カニ大ナルモノナリ、世界開化ノ歴史ハ即チ人ガ天然力ヲ使用シテ天然ノ缺點ヲ補フタルノ歴史ナリ、又世ニ社會力或ハ國家力ナル一種ノ力存在スルトセバ是レ即チ天然力ニ人意ヲ結合シタル一種ノ結果ナルモノナリ。

變化  
不中  
變ノ

抑モ我等物ノ完全或ハ不完全ヲ論ズルニハ標準ナカルベカラズ、此標準ニ照シテ或ハ完全ト云ヒ或ハ不完全ト云フ天命ヲ指シテ不完全ナリト云フハ果シテ何ノ標準ニ依ル乎、天然ノ中ニ不易ノ標準アル乎、天然ハ皆變化シテ常ナキモノナリ、千早ふる神のいがきにさふくすも秋にはあへずうつろいにけり古今集此歌ノ意ハ神のいがきにアルくす即チ神ノ保護ヲ受ケテ居ルモノモ天然變化ノ法則ニハ堪へ難キコトヲ諷メルモノナリ、又古昔希臘ノ哲學者ふるたごらすハ人ハ凡テノ物ノ標準ナリト斷言セリ、氏ハ詭辨家ノ王ニシテ此言ハ詭辨ノ極端ト云フベキナリ、何トナレハ氏ハ各一己人ガ萬物ノ標準タルヲ斷言シタルモノナレハ其結果タル自儘主義ニ陥ルノ外ナカルベケレバナリ。

古昔ヨリ哲學者世ニ出テ、天然ノ理ヲ考へ眞理ヲ發見セントセシハ即チ此圓滿不易ノ標準何處ニアルヤヲ定メントシタルニ過ギス、佛法ハ涅槃ヲ以テ其標準トナセリ、老子ハ道德ヲ以テ標準ト爲セリ、ばいさごらむハ數理ヲ以テ其標準ト爲セリ、孔子ハ之ヲ國ノ歴史ニ求メテ先祖ノ例ヲ崇べり、そくらてすハ論シテ云へリ、天然モ常ナク又人ノ心モ變リ易ク何レカ不變ノモノナルヲ知ラザルガ如シト雖ドモ少シク注意シテ精神ノ現象ヲ觀察スルトキハ精神中ニ概念ノ存在スルヲ見ル、此概念ハ其中ニ多クノ觀念ヲ含有シテ此一個ノ觀念ハ常ニ新陳代謝スルト雖ドモ之ヲ總括スル概念ハ變化ヲ受ルコト大ニ少シ、例へバ春過ギテ夏來リ夏過ギテ又秋來リ時候變遷シテ常ナラザルガ如シト雖ドモ春夏秋冬ヲ概シテ之ヲ一期ト見做ス時ハ即チ毎年同ジ春夏秋冬ヲ探返シ年々同ジ年ニテ又變化スルコト少ナシ、又水ハ雨トナリテ山ニ降り川ト成リ流レ海ニ入り又蒸發氣トナリテ空ニ上リ其有様常ナキガ如クニ見ユレドモ其雲カ復再ビ雨トナリテ降り川ニ流ル、モノチレバ世界中ノ水ヲ概シテ考フルトキハ又水ノ増減ナキコトニテ開闢以來常ニ同ジ水ガ唯同ジ道ヲ巡回スルニ過ギザルノミ、斯ノ如ク概念ハ精神中ニアリテ

現行概念ノ  
佛學ノ  
涅槃ノ

多クノ觀念ヲ總括シタルモノナレバ種々ナル觀念ガ意識中ニ新陳代謝スルトキニ其變化ノ中ニ存シテ變化セザルモノナリ故ニそくらてすハ概念ヲ以テ萬物ノ標準トスベキヲ論ジタリ。因ニ云フ、概念ナル語ハモソくらてをノ門弟モといク

既ニ論ジタル如ク概念ニハ内包ト外延アリテ彼等互ニ轉比例ニ變スルモノナリ、而シテ概念ノ内包最小ニシテ外延最大ナルトキハ其内ニ含有スル一個ノ觀念ノ數最も多キガ故ニ觀念ハ新陳代謝スレドモ其概念ニ於テハ變化ヲ受クルコト最モ少ナシト云フベシ、前ノ例ヲ以テ春夏秋冬ナル觀念ヲ總括シテ一年ナル一個ノ概念ト見做ストキハ年々ノ變化ハ春夏秋冬ノ變化スルコトニ比スレバ大ニ少シ、尙其時間ヲ押シ廣ケテ五年ヲ總括シテ之ヲ一期ト假定シテ此五年ヲ次ノ五年ニ比較スルトキハ變化大ニ少ナシ、斯ノ如クシテ其期ヲ漸々廣メ遂ニ六十年ヲ一期トスルトキハ此六十年ハ次ノ六十年ト比較シテ變ルコトナク殆ント同一ノ出來事ヲ生スルナリト云フ、其レト同ジク概念モ其外延ヲ擴張スルニ從テ變化スルコト少ナク例ハ萬有ノ存在、或ハ萬有ノ大原因、或ハ善、或ハ美等ノ概念ハ萬古不易ノモノニシテ只其中ニ含有サル、多數ノ觀念ハ常ニ變ズルモノナリ、希臘時代

ニアリテノ善ト云フ、觀念ト羅馬時代ニアリテノ善ト云フ、觀念ハ此十九世紀ノ善トハ大ニ相違スル所アルナリ、而シテ又歐羅巴人ノ善ノ觀念ト日本人ノ善ノ觀念トハ種々異ナル所アリ、斯ノ如ク其小細ニ至リテハ種々異ナル所アレドモ大體ノ善ハ爲スベキコトナリト云フ、確言的觀念ハ萬古不易ナルガ如シ、斯ノ如キ觀念ハ素ヨリ漠然タル考ナリ、即チ内包最も小ナル概念ナリ、然レドモ外延最も廣ク且ツ不易ノ點ヨリ論ズルトキハ是レ倫理ノ標準ト云フモ可ナリ、是レをくらてすノ發見シタル概念ニシテ氏ノ哲學ハ倫理哲學ニシテ其發見シタル概念モ亦倫理的ノ概念ナリキ、而シテ佛法ノ所謂涅槃ハ萬物活動ノ理ヲ論理的ニ考へ此ノ移リ變ル世界ノ中ニ不變ノ概念ヲ求メタルモノニシテ凡テノ變化ヲ打越へタル存在ニテ即チ内包最小ニシテ外延最大ナル存在ヲ指シテ涅槃ト云フ、生ト死ノ區別ヲ打越へタル概念ナリ。

然リ而シテ佛法ノ涅槃ハ論理的ニ考へタルモノニシテそくらてすノ概念ハ倫理的ニ考へタルモノナリ、論理ト倫理甚々大切ナルモノナリト雖ドモ是未ダ人間精神ノ神髓ト云フニ足ラズ、之ニ美麗ノ感覺ヲ合シテ始メテ精神ノ神髓ト云ハル

ルモノナリ、時代變リ人種ノ異ナルニ依リ好ム所ノモノ異ナリト雖ドモ人間トシテ美麗ノ感ナキモノナシ、此美麗ト云フ概念ハ佛法ノ涅槃ノ如クそくらてすノ概念ノ如ク此等ト并ヘテ絕對的ニ存在スルモノナリ、此三ツヲ合セテ圓滿ナル概念トセシハふれド一即チ其人ナリ、氏ハ哲學者ニシテ且ツ詩人ナリキ、故ニ氏ノ哲學深遠ニシテ且ツ壯快ナルモノナリ、氏ハそくらてすノ門弟ニシテ氏ノ哲學ヲ受驗セシト雖ドモ哲學ヲ繪畫ニ譬フルトキハそくらてすヨリ墨繪ヲ受取リテ之ヲ油繪ニ爲シタル如キモノナリ、そくらてすノ概念ハ墨繪ノ如シふれド一ハ是ニ美術ノ感覺ヲ加ヘテ之ヲ「概念」ト呼ベリ、ふれド一ノ所謂概念ハ油繪ノ如シ、蓋シ氏ノ用ヒタル概念ナル語ハ今日我等ガ用ユル理想ナル語ト符合スルガ如シ。

左レハ理想トハ精神中ノ一現象ニシテ論理的、倫理的及ビ美妙的ニ完全ト認ムルモノヲ合シタル絕對的觀念ニシテ世ノ變化ノ上ニ立チ世ノ不完全不潔及ビ不正ノ上ニ立チテ萬物ノ標準トナリ萬物進化スルノ目的トナル、完全無缺萬古不易ノ觀念ナリ、之レ人間ノ精神中ニアリテ人ヲシテ高尚ナラシムルニ缺クベカラザル觀念ナリ、此ノ如キ觀念ヲ養正スルハ即チ德育ノ目的トスル所ナリ、理想ノ大意

理想ノ原意

ハ斯ノ如シト雖トモ世人往々此語ヲ狹隘ナル意味ニ用非ルコトアリ、即チ物ノ比較的完全ナルコトヲ云フ故ニ「理想的」ノ學校「理想的」ノ國家「理想的」ノ人、「理想的」ノ家等ノ如シ、或ハ理想ハ宇宙萬物ノ標準ナルガ故ニ之ヲ日常ノ事物ニ應用シ、物ノ摸範トナルモノヲ理想ト云フコトアリ、例ヘバ彼ノ人ヲ理想トシテ云々ノ如キ是ナリ、然レモ理想ナル語ヲ其原意ニ於テ用非ルトキハ世界萬物一トシテ理想的ノモノアルコトナシ、理想ハ唯教育ノアル人ノ精神中ニ存スル觀念ニ過ギザルナリ。

苦樂ノ感

第九章 苦樂ノ學理

總論

苦樂ノ感ハ精神中ニアリテ大切ナル現象ナリ、心理學者ハ通例苦樂ノ感ヲ以テ精神ノ三大部(智情意)ノ一部ト爲ス、而シテ著者ガ之ヲ苦樂ノ感ト稱スルハ敢テ新奇ヲ好ム處ヨリ出デタルニ非ズ、蓋シ今ヨリ論セントスル處ノ精神現象ハ「情」ナル語ヲ用ユルヨリハ「苦樂ノ感」ナル語ヲ用ヒテ能ク適當ニ言ヒ顯ハスコトヲ得レバナリ、故ニ左ニ先ツ其ノ學理ヲ論ジ次ニ苦痛ヲ生スル物ト快樂ヲ生スル物トノ區別ヲ爲サントス、而シテ此章ニ於テハ苦樂ノ學理ヲ説明セントスルナリ。

苦ト  
樂ト  
係ノ

抑モ苦樂ハ世ノ中ニアリテ種々様々ノ現象ヲ生スルコト恰モ水ニ寒暖アリ、宇  
 宙ニ明暗アリ陰陽アリ積極消極アリテ相俟ツテ互ニ其存在ヲ保ツモノナルガ如  
 シ、然レトモ尙ホ之ヲ精密ニ考フルニ水ニハ寒暖アルニ非ス熱ノ多量ナルヲ暖ト  
 云ヒ熱ノ少量ナルヲ寒ト云フ、又明暗モ之レト同シク宇宙ニ明暗ナルモノ存在ス  
 ルニ非ズ、光ノ多量ナルヲ明ト云ヒ光ノ少量ナルヲ暗ト云フ、然ルニ積極ト消極ハ  
 ニツナガラ存在スルガ如シ、假令ハバ電氣ノ如キハ積極的ノ電氣ト消極的ノ電氣  
 トアリテ互ニ反對ノ方向ニ流ル、モノナリトノ説一時行ハレタルニ拘ハラズ現  
 今ニ至テハ電氣學者ガ積極的ノ電氣ノミ流ル、モノト見做シテ之ヲ計算スルニ  
 至レリ、左レハ精神中ニハ苦樂ナルニ原素ノ存在スルモノナルヤ、或ハ一原素ノミ  
 存在スルモノナルヤ、而シテ其一原素ハ苦痛ナルヤ將タ快樂ナルヤ、或ハ苦痛ニモ  
 アラズ又快樂ニモ非ル一種特別ノモノナルヤ、今之ヲ一々研究セントスルナリ。

第一、歴史ニ溯テ之ヲ考フルニ、ふれどーノ説ニヨレバ苦痛ハ實在スルモノニシ  
 テ快樂ハ實在スルモノニ非ズ、即チ苦痛ノナキヲ快樂ト云フ。ふれどーノ「フヒード  
 」ヨリ抄譯シテ其説ヲ明カニセン、そくらてモノ末日ニ於テ其朋友ふひーどー（門

人）くりどー（あせんす）ノ財産家ニシテ大ニそくらてモヲ助ケシ人及ビ二三ノ人々  
 ハ半屋ニ於テそくらて見舞ヒタリ、ふひーどーガ朋友ニ語リタル言ニ左ノ如  
 ク云ヘリ、曰ク「我等ガ入リシトキそくらてモハ鎖ヲ解カレ、而シテ汝ノ知ルざん  
ちつぶ（そくらてモノ妻）ハ小兒ヲ抱キナガラ彼レノ側ニ坐スルヲ見タリ、ざんちつ  
ぶハ婦人ノ通例トシテ我等ヲ見テ叫ソテ云ヘリ、噫そくらてモヲ見テ曰ヘリ、誰カ我妻ヲ家  
 共ニ語ルノ終リナリト、時ニそくらてハくりどート見テ曰ヘリ、誰カ我妻ヲ家  
 ニ送ルモノアルヤト、直ニくりどーノ僕一人ガ彼ノ婦人ヲ連れ去レリ、其時そくら  
てハくりどーノ上ニ窟ミナガラ手ヲ以テ脚ヲ擦スリテ云ヘリ、快樂ト苦痛ノ關係ハ  
 實ニ奇妙ナルモノナリ、人之ヲ反對ノ者ナリト思フ、ソハ苦痛ト快樂ハ決シテ同時  
 ニ來ルモノニ非ザレバナリ、然リト雖トモ人其一ヲ得レバ必ズ又他ノ物ヲモ得ザ  
 ル能ハズ、夫等ハ二ツナリト雖トモ一ツノ軸ヨリ出テタルガ如シ、若シいそつぶガ  
 此事ヲ考ヘタリシナラバ必ズ物語リヲ造リタルナラン、即チ神ガ甲乙ノ喧嘩ヲナ  
 ダメントシテ能ハズ故ニ甲乙二人ノ頭ヲ共ニ合シタリト、是レ苦樂常ニ相伴フノ  
 所以ナリ、余ハ經驗ニ依テ之ヲ知ル、鎖ノ爲メニ苦痛ヲ受ケタリト雖トモ今其レニ



反シテ大ニ快樂ヲ感スルナリト。

「フヒレハス」ニ於テ又左ノ如ク論ゼリ。

そくらてーす曰ク動物ノ體ニ於テ調和ヲ缺クトキハ其組織ニ於テ損害ヲ生シ  
其レニ依テ苦痛ヲ來スコトナラン。

ぶろたーかす曰ク汝ノ言葉眞實ナルガ如シ

そ曰ク然ルニ其調和ヲ恢復スルトキハ快樂ガ又來レリト云ハズヤ。

そ曰ク食物ノ欠乏ガ動物ノ體ニ損害ヲ生シ飢ユルコトノ苦痛ヲ生ズルニ非ズ

ヤ。

ぶ曰ク然リ。

そ曰ク食物ガ其ノ損害ヲ補フトキハ快樂ヲ生ズ。

ぶ曰ク然リ。

其他ノ論ヲ以テ考フルコトハ常ニ苦痛ヲ先キニシテ立論シ其苦痛ヲ除  
去スルトキニ快樂ノ來ルヲ云フ、換言スレバ快樂ハ即チ苦痛ノ無キコトノ意ナリ  
ト信ズ、然ルコトありすと一とるハ之ニ反シテ快樂ナルモノハ常ニ苦痛ヲ逃レタル

はみ  
るこ  
説ん

モノノミナラズ實在スルモノナルコトヲ主張セリ、其大意ヲ擧ケレバ快樂ハ勢力  
ニ同伴スルモノナリ、身體精神共ニ壯健ニシテ其活動調和シ凡テ完全ナル生活ヲ  
保チ一ツモ之ヲ妨クルモノナキトキハ之ヲ快樂ト云フ、一言ニ之ヲ言ハバ完全ナ  
ル活動即チ是レ快樂ナリ、近世ニ至リテはみるとんハ苦樂ノ感ヲ論シテ其要素ヲ  
左ノ數ケ條ニ分テリ。

第一、人ノ此世ニ生活スルハ身体ト精神ヲ共ニ運動セシムルニアリ、(注、當時ノ物  
理學ニ由レバ物質ノ本体ハ運動ニアリ、生物ノ本體ハ生活ニアリ、故ニ人間生存ノ  
本體手亦人ノ心身活動ニアルヤ明カナリ)第二、人ノ活動力ハ有限ナルモノナリ、(注、  
此ノ有限ナルヨリシテ苦樂ヲ生スルナリ)第三、人ハ苦樂ノ受ケ手ナリ、(注、人存在ス  
レバ必ズ活動ス、而シテ其活動スルノ方法ニヨリテ苦痛ヲ生スルコトアリ、或ハ快  
樂ヲ生スルコト有ルナリ)第四、生活力ニ種々アリ、而シテ各其特性ヲ有ス、故ニ夫等  
ヲ概括シタル一般ノ法則ヲ定メザルベカラズ、(注、耳目鼻口各其特別ノ活動ヲ有ス、  
故ニ耳ノ苦樂ハ目ノ苦樂トハ自ラ異ナラザルヲ得ズ、然レドモ總テヲ概括シタル  
法則アリヤ)第五、答、活動力完全ナルコトノ度ニ從テ快樂多ク、其不完全ナルコトノ

度ニ從テ苦痛多シ(注之ハ活動力ノ完全、不完全ト快樂苦痛ノ關係ヲ抽象的ニ示シタルナリ、前後對照シテ考フベシ)第六、活動力ノ完全ナルコトヲ定ムルニ二種ノ標準アリ、主觀的及客觀的標準之レナリ、第七、主觀的標準トハ活動ノ精神ニ充滿シ過不及ナキコトヲ云ヒ、而シテ其活動ガ妨ケラルカ或ハ外物ノ爲メニ強ヒラレテ活動スルトキハ之ヲ不完全ナル活動トハ云フナリ、第八、客觀的標準ハ主觀的ニ第七ノ如キ活動ヲ生セシムルモノヲ云フ、第九、故ニ苦樂ノ定義ヲ與フレバ快樂ハ調和ノ結果ニシテ苦痛ハ不調和ノ結果ナリ、次ニモペンサーノ説ハはみるとんノ説ト大同小異ニシテ快樂ハ有機體ノ活動及ヒ其ノ發達ニ伴ヒ苦痛ハ其ノ活動及ヒ發達ノ損害ニ伴フモノナリ、右ニ云ヘルハ苦樂ノ學理ニ就テ哲學者ノ考フルモノハ大意ニシテ之ヲ概シテ云ヘバ樂天主義ナリ、其他ノ細論ハ哲學ノ範圍ニ涉ルモノナレバ爰ニ論スルハ本書ノ許ス所ニ非ズ、今少シク著者ノ思フ所ヲ左ニ述ヘントス。

著者ノ説

夫レ人ノ精神活動ハ繁雜ナルモノニシテ之ヲ一概ニ論ズルハ甚ダ難キコトナリ、抑モ快樂ニ種々アリ、苦痛ニモ亦様々アリ、例ヘバ安心立命ヲ以テ快樂トスルカ或ハ戰爭ニ出テ、敵ヲ亡ボスコトヲ以テ快樂トスルカ、又閑靜ナル田舎ニ不足ナク財產ヲ有シ花鳥風月ヲ友トスルヲ快樂ト云フカ、或ハ又政事社會ニ奔走シ國家ノ大權ヲ振り日夜心身ヲ勞スルヲ以テ快樂トスルカ、是等ノ快樂相矛盾セザルヲ得ズ、安心立命或ハ閑靜ナル田舎ニ花鳥風月ヲ樂ムハ身心ノ爲メニ健全ナルコトト信ズ、然ルニ戰フテ敵ヲ討チ或ハ國家ノ政權ヲ握ル等ノ如キハ快樂其ノ中ニアリト雖モ身心ヲ損害スルコト亦大ナリト云フベシ、其他人々ニ依テ苦樂ノ感大ニ異ナルナリ、又甲ノ苦痛ト思フコト乙ノ快樂トナリ、甲ノ快樂ト思フコト乙ノ苦痛トナルコトアリ、はみるとん、すべんサーノ如キハ其中ニ樓閣ヲ畫キテ論ズルモノナルガ如ク見ユルナリ、蓋シ彼等ノ所謂快樂トハ何ノ種類ノ快樂ヲ指シテ云フモノナルヤ、快樂ノ中ニ其種類ヲ分チ、はみるとん、すべんサーノ所謂快樂ト、然ラザル快樂トノ區別ヲ爲サルヲ得ズ、斯ノ如キ漠然タル論ノ如キハ著者ノ解シ能ハザル所ナリ。

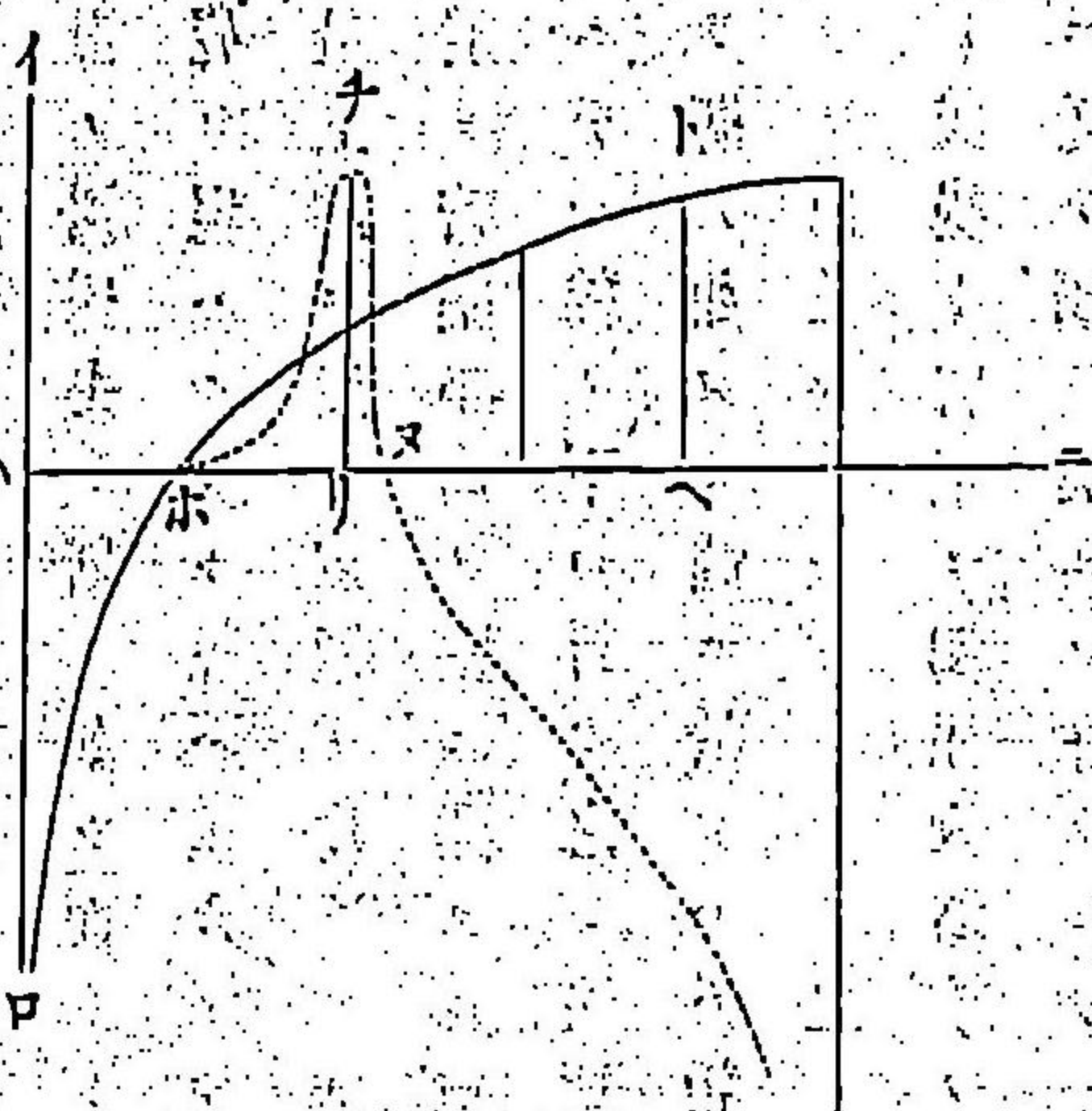
偕テ斯ノ如ク先哲ノ論ヲ打テ挫クハ破壊主義ナル如クニ似タレドモ決シテ然ラザルナリ、蓋シ著者ハ快樂ト苦痛ハ身心活動ノ調不調ニ符合スルモノアリ、或ハ

符合セザルモノアリト信ズ、夫レ人ニハ種々ノ情慾様々ノ習慣アルモノナレバ其快樂ニ任セテ之ヲ満足セシムルトキハ身體ヲ害スルコト屢々之レアルナリ、論者アリ或ハ云ハン夫等ノ如キハ其格段ナル情慾或ハ習慣ニ取テハ之ヲ満足セシムルコトガ其情慾或ハ習慣ノ調和ヲ爲スコトナラズヤト、夫レ或ハ然ラソ、然リト雖ドモ其説到底臆斷ノ範圍ヲ脱スル能ハザルナリ、故ニ著者ノ考フル所ニ依レバ快樂ト苦痛ハ決シテ身心活動ノ調不調ヲ知ルノ標準トナル能ハズ、身心活動ノ調不調ヲ定ムルニハ他ニ其標準タルモノナカルベカラズ、是レ如何ナル標準ナルヤ、廣キ經驗ニ基キタル智識即チ是レナリ、此標準ニ照ラシテ快樂ヲ限リ又苦痛ト雖ドモ甘シテ之ヲ受クベキナリ、苦樂ノ哲理ヲ考フルハ甚ダ壯快ニシテ且ツ大切ナルコトナリト雖ドモ臆斷ヲ以テ之ヲ定ムルハ古人ニアリテハ或ハ爲スベキモ今日ノ心理學者ニ於テ許ササル所ナリ、故ニ著者ノ後章ニ論ゼントスル所ハ重モニ苦樂ヲ生ズル物體ト其レニ由テ精神中ニ生シタル苦樂トノ關係ニ止マリ、身心活動ノ調不調ノ如キニ至テハ後ノ識者ヲ待クントスルノミ。

苦樂ト感ノ關係

終リニ感覺ノ大小ト苦樂トノ關係ニ就テ一言セザルヲ得ズ、感覺ノ大小ハ夫レヲ惹キ起ス外物ノ刺激ノ大小ニ關スルモノナリト雖トモ、感覺ノ度ハ刺激ノ大小ト直比例ニ増減スルモノニ非ズ、今第二十一圖ヲ以テ之ヲ示サンニ、(イ)ノ方向ニ引キタル線ヲ以テ感覺ノ大小ヲ表ハシ、(ハ)ニノ方向ニ引キタル線ヲ以テ刺激ノ大小ヲ表ハストキハ、圖ニ示シタル曲線ハ感覺

第 二 十 一 圖



ノ増加スル割合ヲ示スモノナリ、(ハ)ニナル線ノ上ハ積極的ノ感覺ニシテ其線ノ下ハ消極的ノ感覺即チ無意識ナル腦ノ働キニテ、今將サニ意識中ニ現ハレ出デントスル前ノ有様ヲ示スモノナリ、(ホ)ノ所ニ於テ始メテ腦ノ活動ガ意識中ニ現ハレ以テ感覺トナルモノナリ、而シテ(ホ)ヨリ(ニ)ノ方ニ刺激ノ度ヲ増加スルトキ例ヘハ(ハ)ノ所ニ於テ感覺ノ度ハ(ハ)トナル線ヲ以テ示サルハナリ、斯ノ如クシテ

刺激ノ増加スルニ從テ感覺ノ度ハ曲線ノ示ス如ク漸々ニ増加スルモノナリ、感覺ト刺激ノ關係夫レ斯ノ如シ、而シテ苦樂ノ感ハ點線ヲ以テ示シタルモノニシテ、始メ感覺ガ現ハル、トキハ縱カノ快樂ヲ表ハシ、夫レヨリ漸々昇リテ終ニ(チ)所ニ於テ最上點ニ達シ、刺激ノ度(リ)ヨリ増ストキハ、彼ノ快樂ハ速カニ消失シ終ニ(ヌ)所ニ於テ苦樂平均ノ點ニ達スルナリ、刺激尙ホ夫レヨリ増加スルトキハ、彼ノ點線ハ(ハ)(ニ)ナル線ノ下ニ行ク、之レ快樂ノ消極ナルガ故ニ今ハ此點線ハ苦痛ヲ示スモノナリ、斯ノ如ク此圖ニ於テハ外物ノ刺激ト、夫レヨリ生セラレ、感覺ト、其感覺ノ苦樂トヲ比較シタルモノナリ、之レ即チ現今ノ生理的心理學者ノ意見ナリトス、夫レ感覺ト苦樂ノ關係大略右ノ如シト雖モ、感覺コハ程度アリテ竟ニ機關ノ異ナルコ從テ類ヲ異ニスルノミナラズ、味感中ニモ甘苦酸鹽等ノ差アルナリ、而シテ甘キ感覺ハ一般ニ快樂ヲ與ヘ、苦ガキ感覺ハ一般ニ不快ヲ與フルハ人ノ知ル所ナリト雖モ、尙ホ深ク之ヲ推究スルトキハ、是唯俗說ニ過ギザルコトヲ發見スベシ、俗ニ水ハ流動體ニシテ鐵ハ固形體ナリト云フ、然リト雖トモ熱ノ増減ニ依テ水モ鐵モ流動體トナリ、或ハ固形體トナルモノナリ、唯兩者通常ハ其熱度ヲ異ニスルツミ、

甘苦モ之レト同ク兩者共ニ快樂ヲ與フルコトアリ、或ハ不快ヲ與フルコトアルナリ、即チ砂糖ト機那鹽トハ、彼(ト)ナル點ノ位置ノ違フノミニシテ、機那鹽モ快樂ヲ與フルコトアリ、砂糖モ亦不快樂ヲ與フルコトアルナリ、斯ノ如ク耳目鼻口ニ種々ノ感覺アリテ各其適度ヲ得レバ、凡テ快樂ヲ生シ、其度ヲ失ヘバ不快樂ヲ生ズルモノナルヲ知ルベシ、一々其適度ヲ試驗的ニ定メントスルハ、生理學者及ビ精神物理學者ノ義務ナリト雖トモ、現今ノ智識ニシテ之ヲ斷言スル能ハザルナリ、然レバ苦樂ノ感ノ發スル甚ダ繁雜ニシテ其ノ直接ノ原因即チ腦中ノ活動ヲ想像シテ、如何ナルトキ快樂ヲ生ジ、如何ナルトキ苦痛ヲ生スルヤヲ定ムル能ハザルガ故ニ、唯我等ガ苦樂ノ原因ヲ知ラント欲セバ、其腦髓ヲ活動セシムル所ノ刺激及ビ其刺激ヲ與フル外物ノ性質ヲ詮索シテ以テ苦樂ノ原因ヲ客觀的ニ求ムルニ若カズ、

第十章 音樂

發音ノ理

音樂ハ或ル點ヨリ云ヘバ、美術ノ一種トモ云フベキモノニシテ、人ニ快樂ヲ與フルモノナリ、昔ニ溯リテ考フレバ、下等動物ニ於テモ、調音ヲ好ムノ感アルハ人々ノ

知ル所ナリ調音ノ感ガ快樂ヲ與フルト同時ニ不調音ハ不快樂ヲ與フルモノナリ。我等ハ何ヲ調音ト云ヒ何ヲ不調音ト云フヤ其性質ヲ研究セザルベカラズ。抑モ音樂ヲ生ズルニハ發音器ナカルベカラズ。咽喉カ發音器トナルコトアリ、或ハ又他ニ音樂器アルコトアリ、而シテ其音響空氣ニ波動ヲ與ヘ其波動ヲ受ケテ活動スル機械ハ即チ耳ナリ。然ルニ今一ツノ問題アリ、即チ音樂ノ調音ヲ生ズル直接ノ原因ハ樂器ニアルカ、將カ耳ノ構造コアルカ、へるむはるつノ説ニ從ヘバ、耳ノ構造ニアルナリ、左ニ之ヲ説明セシム。

調和

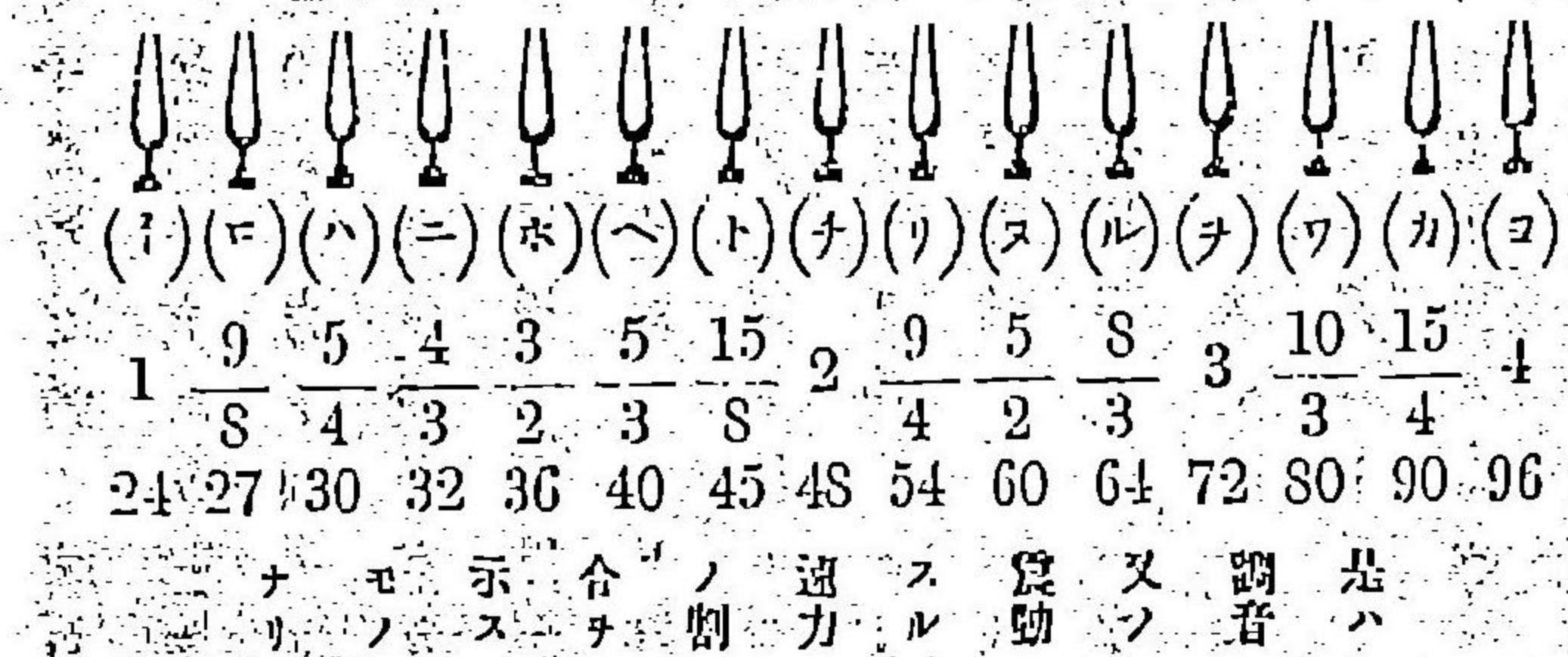
夫レ音樂ノ快樂ヲ生ゼシムル所以ハ、音響ノ調和及ビ其節ノ存スルニ由ルモノナレバ、音樂ハ音ニ音響ノ集合シタルモノニ非ルヤ明カナリ、而シテ其調和及ビ節ヲ生ゼシムル所以ハ、直接ニ耳ノ構造ニ關スルモノニシテ、發音器ノ構造ニハ間接ノ關係ヲ有スルノミ。其理ヲ知ラントスルニハ、先ツ音響ノ理ヲ論ジ、次ニ耳ノ構造ヲ知ラザルベカラズ。

調音

音響トハ空氣ノ動搖ニシテ、始メ物體震動シ、夫レヨリ空氣ヲ動搖セシメ、其空氣ノ動搖ハ調音又ノ如キモノニ當ルトキハ、之ヲ又震動セシムルナリ、然リト雖トモ

其調音又ノ震動ノ速力ハ之ヲシテ震動セシムル空氣ノ震動ノ速力ト相等シキカ、或ハ其二倍ナルカ、三倍ナルカ、或ハ其二分ノ一ナルカ、ナラザル可カラズ。若シ空氣ノ震動ノ速力ト調音又ノ速力トカ五ト七トノ如キ、互ニ割リ切レザル數ノ關係ヲ有スルトキハ、假令空氣ノ震動ガ調音又ニ當ルト雖トモ、之ヲシテ震動セシムルコト能ハザルナリ、今試ミニ爰ニ多クノ調音又アリ、チ小ヨリ始マリ漸々大ナルモノヲ順序ニ整列スルト假定セヨ、而シテ第二十二圖ノ如ク、(イ) (ロ) (ハ) (ホ) (ヘ) (ト) ヲ以テ之ヲ表ハシ、其間ノ互ノ關係ハ圖ノ如キ數ニ依テ表ハサル、ナリ、今他ノ發音器ヨリ(イ)ナル音響ヲ發セシメ、此調音又ノ列ニ當ラシムルトキハ、其調音又ノ中(イ)ハ之レガ爲メニ震動シ、(チ)ハ其二倍ナルガ故ニ又震動シ、(ヲ)ハ其三倍ナルガ故ニ之レ亦震動シ、(ヨ)ハ其四倍ナルガ故ニ又震動ス、而シテ(イ)ナル音響ヲ元音ト稱ス、其(チ) (ヲ) (ヨ)ハ部音ト稱シテ、次第ニ其勢力弱クナルモノナリ、左レバ五倍六倍ノ調音又ニ至リテ震動ナキニ非スト雖トモ、又彼々ナルノミ、爰ニ讀者ノ注意ヲ請ハントスル一點アリ、即チ此部音ノ震動速力ニ必スシモ、元音ノ二倍、三倍、或ハ五六倍ナルニ限ルニ非ズ、二分ノ一、三分ノ一、四分ノ一倍等ノ部音モ亦アルナリ、素ヨリ其倍數ガ分數ニナ

圖二十二第



ルトキハ其符ハ元音ヨリモ低キコト知ルベキナリ而シテ  
 彼ノ(イ)ト同時ニ又(ホ)ナル音響モ發セシムルトキハ前ト等  
 シク(ホ)ナル調音又ヲ震動セシメ(ヲ)ハ其二倍ナル故共ニ震  
 動シ又(ツ)ハ其三倍ナル故之レ亦震動ス今(イ)ヨリ刺激サレ  
 タルモノヲ數フレバ(イ)(チ)(ヨ)ナリ又(ホ)ヨリ刺激サレタル  
 モノハ(ホ)(ヲ)(ツ)ナリ之ヲ比較スレバ(ヲ)ハ(イ)ノ三倍ニシテ(ホ)  
 ノ二倍ナリ故ニ此部音ハ兩方ニ普通ナルコトヲ發見ス此  
 理ヲ以テ推ストキハ如何ナル音ト雖トモ其速力ノ最小公  
 倍数ノ所ニハ普通ナル部音アルノ理ナレトモ其部音ガ元  
 音ヨリ遙カニ隔ルコトアリ例ヘバ(イ)ト(ト)ノ如キハ二者ノ  
 最小公倍数三百六十ナル之レ(イ)ノ十五倍ノ部音ニシテ  
 (ト)ノ八倍ノ部音ナリ故ニ微々タルモノニシテ實際上(イ)ト  
 (ト)ト相合スル所ナキニ等シ而シテ實際上(イ)ト(ホ)ノ如キ音  
 響ガ同時ニ發スルトキハ彼ノ(ヲ)ナル部音之等ト共ニ響キ

耳ノ構造

テ(イ)(ホ)ヲ助クルナリ此ノ(イ)(ホ)ヲ調音ト名ツケ二者引キ續キテ發スルトキハ之ヲ  
 節ト名ツク之ニ反シテ(イ)ト(ト)ノ如キハ不調音ト稱セラレトナリ  
 是ヲ以テ之ヲ觀レバ發音器ヨリ來ル音響ハ彼ノ調音又ノ列ニ當リ其調音又ハ  
 中ニ於テ「イ」「ト」「ホ」ノ如キ音響ハ調音トナリ「イ」「ト」「ト」ノ如キモノハ不調音トナル所  
 如ツシテ音樂ニ所謂調音不調音ト生ズルモノナリ此調音又ノ列ハ即チ耳中ノ神  
 經ヲ表ハスモノナリ耳ノ構造甚ダ錯雜ナルモノナリト雖トモ之レ大小ノ調音又  
 ヲ順序ニ並べタルモノト異ナラズ而シテ耳コアリテハ調音又ノ代リニ大小ノ神  
 經列彼ノ蝸牛殼ノ中ニ存在スルモノナリ故ニ此神經ガ彼ノ調音又ト同シク外物  
 ノ刺激ヲ受ケテ震動シ而シテ調音不調音ノ差異ヲ生ズルモノナリ左レハ調音ガ  
 快樂ヲ生ズル所以ハ元來異種ナル符者ヲシテ共ニ結合セシムルヨリ生ズルナリ  
 右ニ論ジタルハ異種ナル音響ガ同時ニ發スルトキ耳中ニ入りテ神經ニ刺激ヲ  
 與ヘ其ヨリ高キ部音が互ニ結合スルヨリ快樂ヲ與フルナリ然リト雖トモ先キニ  
 言ヘル如ク音響ハ必ズシモ元音ヨリ高キモノニ限ラルニ非ズ故ニ今ヨリ論ゼン  
 トスル所ハ元音ヨリ低キ部音ノ結合是レナリ例ヘバ前ノ第二十二圖ニ歸リテ先

調音ノ細説

キニ論ジタルモノ、反對ノ關係ヲ示サシニ、(イ)ナル音響ヲ生ズルトキハ、其ノ音響  
 彼ノ調音又コ中リ其ノ調音又ハ(イ)ナル符ノ音響ヲ再生ス。是レ即チ元音ナリ。夫レ  
 ト同時ニ(ホ)ナル調音又ハ(イ)ノ二分ノ一ノ調音又ナルガ故ニ之レト同時ニ震動シ  
 テ部音トナル又(イ)ナル調音又ハ其三分ノ一ナルガ故ニ又部音トナリテ震動ス。爰  
 ニ於テ(イ)ナル一ノ元音ノ爲メニ(ホ)ト(イ)ガ同時ニ震動スルナリ。カクノゴトクシテ  
 一ノ元音ガ二種ノ部音ヲ生ジ、其部音ガ元音ト調和ヲナシ、元音ヲシテ尙ホ壯快ナ  
 ラシムルモノナリ。カクノゴトキハ一音ヨリ異種ノ符音ヲ生ジ、夫レガ爲メニ快樂  
 ヲ生ゼシムルノ適例ナリ。是ニ由テ之ヲ觀レバ、音樂ノ精神ニ快樂ヲ與フル所以ハ  
 異種ノ符音ガ結合ヲナシ、又一ノ符音ガ異種ノ符合ヲ生ゼシムルニアルモノナリ。  
 而シテ此二十二圖ノゴトキハ音樂ノ符ノ唯一部分ヲ表ハシタルモノナルガ故ニ  
 例ヘバ(イ)ナル符音ヲ中心ト假定スルトキハ、二十二圖ハ(イ)ヨリ高キ符音ヲ表ハシ  
 タルモノナリト雖トモ、今想像ヲ以テ(イ)ヨリ低キ符音ノ列ヲ考フルコトヲ得ルナ  
 リ而シテ(イ)ヨリ低キ符音ノ列ガ十五段下ヨリ始ムルト假定シ、其ノ始メノ符音ヲ  
 (イ)ヲ以テ表ハストキハ、(ロ)ト漸々數々遂ニ(ヨ)ノ所ニ彼ノ(イ)ニ當ルナリ。而シテ其

割合第二十三圖ト少シモ異ナルロトナシ。左レバ(イ)ナル元音ヲ生ズルトキハ、上ノ  
 部音ニ於テハ(イ)ヲ生ジ、下ノ部音ニ於テハ(ロ)ト(イ)ノ二分ノ一ナルガ故ニ部音ト  
 ナリ。(イ)ハ三分ノ一ナルガ故ニ又震動ス。斯ノ如ク(イ)ノ元音ニ就イテ上下ニ部音ア  
 リ又之レト同時ニ(ホ)ナル元音ヲ生ズルトキハ、上ニハ(イ)及ヒ(ロ)ナル部音ヲ生ズ、(イ)及  
 ビ(ロ)ハ各(ホ)ノ二分ノ一及ビ三分ノ一ナルガ故ニ下ノ部音トナル。斯ノ如クナルト  
 キハ、上ノ(イ)及ヒ(ロ)ニ道スル部音ナリ、又(イ)ハ(イ)ノ二分ノ一、(ホ)ノ三分ノ一ニシ  
 テ各通ス。故ニ(イ)ハ上ノ結合、(ロ)ハ下ノ結合ナリ、其ノ他ノ結合推シテ知ルベシ。斯ノ  
 如クニシテ調音が精神ニ快樂ヲ生ズルモノナリ。  
 異種ノ中ニ結合點アリ。一種ノ中ニ又種々ノ異類ヲ含ムコトアリテ、人心ニ快樂  
 ヲ與フルハ獨リ音樂ニ止マルモノニ非ズト雖トモ、音樂ニ於テハ斯ノ如ク著ルシ  
 ク其ノ理ノ存スルコトヲ發見セシハ、へるむほるのの榮譽ニシテ、音樂ノ快樂ヲ與  
 フル所ノ明カナル原因ト云フベシ。

第十一章 繪畫

繪畫モ亦精神ニ快樂ヲ與フルノ原因トナル。抑モ繪畫ハ視覺ヨリ來ルモノニシテ一種ノ幻影ナリトハ既ニ論シタル所ナリ。其幻影ノ精神ニ快樂ヲ與フル所以ニ至テハ、今ヨリ論ゼントスル所ナリ。

嗜好ノ異

夫レ人ノ精神ニ快樂ヲ與ヘシムルモノ種々アリ。蓋シ各自ノ性質、習慣、嗜好等ニ依テ快樂トスル所ノモノ異ナレバナリ。之レ獨リ繪畫ノ快樂ニ止マラズト雖トモ、繪畫ニ於テ各自嗜好ノ差異甚ダ明カナルモノナリ。山水畫、錦繪ヲ好ムモノアリ。文人畫ヲ好ムモノアリ。漢畫ヲ好ムモノアリ。又油繪ヲ好ムモノアリ。蓋シ各自嗜好ニ差異アルハ、精神ノ構造各自ニ於テ異ナルニ非ズ。甲ノ快樂トスル所ハ乙モ亦快樂トセザルニ非ズ。唯各自ノ殊ニ快樂トスルモノガ少ク異ナルナリ。故ニ錦繪ヲ見テ快樂ヲ覺ユル人ガ、文人畫ヲ見テ亦快樂ヲ感セザルニ非ズト雖トモ、甲ハ文人畫ヨリモ錦繪ヲ見テ尙ホ多クノ快樂ヲ覺ヘ乙ハ錦繪ヨリモ猶文人畫ヲ好ムナリ。今日美術ノ盛ナル世ニアリテ此小冊子ニ繪畫ノ事ヲ論セントスルハ不適當ナルガ如シト雖トモ、著者ハ決シテ美術ノ理ヲ説明スルニ非ズ。唯心理學上ヨリシテ繪畫

繪畫ノ念同

ノ快樂ヲ與フル所以ノ概略ヲ論セントスルノミ。夫レ繪畫ノ精神ニ快樂ヲ與フル所以ハ、概シテ是ヲ云ヘバ、其ノ繪畫ノ爲メニ同伴法ニ由テ精神中ニ惹キ起サレタル觀念ノ種類如何ニ由ルモノナリ。小兒ガ錦繪ヲ見テ快樂ヲ感スルハ獨リ同伴法ノ作用アルニ非ズ。彩色ノ麗ハシキヲ見テ重モニ其ノ知覺ヨリ快樂ヲ得ルモノナリ。是等ハ最モ單一ナル快樂ナリ。而シテ其ノ知覺ノ外ニ紙カノ觀念ガ同伴スルコト明カナリ。例ヘバ八九ヶ月ノ小兒ガ狗犬ノ繪ヲ見タルトキハ、肖像ノ繪ヲ見タルトキトハ感覺異ナルガ如シ。肖像中ニ於テモ未ダ見ザル人ノ顔ト、一度見テ覺ヘタル人ノ顔トハ、小兒ニ與フルノ感覺ニ於テ大ナル差アリ。是レ小兒ノ精神中ニ惹キ起サレタル觀念ノ作用ニ非ズシテ何ヤ。大人ガ繪畫ヨリ得ル所ノ快樂ニ三種ノ區別アリ。第一、模擬ノ巧拙。第二、繪畫ノ選擇。第三、畫工ノ意匠之レナリ。左ニ一々其ノ説明ヲ試ミントス。

第一、模擬ノ巧拙。猿ハ人ノ真似スル動物ナリト云ヘリ。人ノ真似スル豈猿ノミナランヤ。人モ亦模擬スル動物ナリ。而シテ畫工ガ模擬スルニ二様ノ區別アリ。既ニ前キノ畫工ガ畫キタル繪ヲ模擬スルコトアリ。又天然ヲ模擬スルコトアリ。我

模擬ノ巧拙



國從來ノ畫ノ如キハ重モニ古キ繪ヲ模擬スルニ止マリタルモノナリ。彼ノ有名ナル狩野派ノ如キモ此類ニシテ天然ヲ模擬スル如キコトナク前キノ畫ヲ見テ之ニ模擬スルニ止マリト聞ク。爰ニ一ノ奇談アリ。或ル畫工偶然夜半ニ目ヲ覺マシ見ルニ月已ニ西ニ傾キテ障子ヲ照ラシ庭前ノ竹ハ其ノ障子ニ寫リ居レリ。彼レ之ヲ見テ大ニ感シタリ。而シテ筆ヲ取り其障子ニ寫リタル物ヲ手本トシテ竹ヲ畫キテリ。而シテ此畫工ハ殆ンド非凡ナル人ノ如キ譽ヲ得タリト云フ。(其小細ハ著者之ヲ知ラズ)蓋シ此畫工ハ他ノ畫ヲ模擬シタルニ非ズ。天然物ノ障子ニ寫リタルモノヲ手本トシタルガ故ナリ。斯ノ如キ智慧ハ西洋ニ於テ又當時ノ日本ニ於テハ八九歳ノ童子ト雖トモ有スル所ナリ。然ルニ斯ノ如キ名譽ヲ得タルハ以テ當時ノ畫工社會ノ風俗ヲ推察スルニ足ル。然リト雖トモ何レノ國ニ於テモ斯ノ如キ風俗ノ行ハレザルナシ。唯我國其極端ニ至リタルノミ。

天然ヲ模擬スルハ繪畫中最モ一般ニ行ハル、モノナルガ如シ。天然ヲ其儘模擬スルコトアリ、又少シク想像ヲ交ヘテ天然ノ景色ヲ畫クコトアリ、以太利ニ於テ繪畫ノ盛ンナリシハ豈ニ偶然ノコトナランヤ、之レ其時候風景ノ繪畫ニ適セルニ由ルナリ。

因ニ云フ、若シ此ノ風景ヨキ我國ニ於テ天然ヲ模擬スルノ風俗流行シ居タランニハ、我國美術ノ有様ハ大ニ其面目ヲ異ニシタルモノナランカ。

模擬ノ圖

抑モ天然ヲ模擬スルコトカ理想ノ美術ナルヤ否ヤ、若シ天然物ガ悉ク完全無缺ナルモノニシテ美術的ノ思想ヲ以テ造ラレタルモノナラバ、天然ヲ模擬シテ最も高尙ナル美術ヲ得ルコトアルベシ。然リト雖モ既ニ理想ノ章ニ於テ論ジタル如ク、天然ニ理想ナシ、理想ハ唯人ノ精神中ニ存在スルノミ、故ニ理想ノ美術ハ天然ヲ模擬シテ得ル能ハズ、偶々我國富士山ノ景色ノ如キ米國なやがらノ瀧又ハあるふす山ノ如キモノヲ巧ミニ畫クトキハ、天然ノ模擬ニシテ或ハ高尙ナル繪畫ヲ生ズルコトナラン、然リト雖モ天然ヲ模擬シテ到底理想ニ達スル能ハザルヤ明カナリ。模擬ノ巧拙ヲ以テ畫工ノ技量ヲ判斷スルハ、審査員ガ畫ヲ評スルニ當リ大切ナ

ル要素ナリト雖モ、又一方ヨリ考フルトキハ、純粹ニ天然ヲ模擬スルコトハ器械的ニ爲スベキコトニシテ、人ノ手が如何ニ巧ミニ模擬スルモ、何ゾ寫眞師ト競争スルコトヲ得シヤ、寫眞ノ術追々進歩スルトキハ、天然ヲ其儘寫スコトヲ得ルモノナリ、又近頃速カニ運動スル物ニテ肉眼ニ見能ハザル如キモノヲモ寫眞スルノ術發明サレタリ、米國ニテ電氣學ニ有名ナルえぢそんハ空中ヲ飛ブ彈丸ヲモ寫眞スルコトヲ發明セリ、左レバ模擬ノ術ハ後來器械的ノ術ニ讓リ、畫工ノ技量ヲ表ハスハ尙ホ他ノ所ニアルガ如シ。

繪畫ノ撰

第二、繪畫ノ撰擇—前ニ云ヘル如ク天然ニハ偶々美麗ナルモノアリト雖モ、亦然ラザルモノアリ、美麗ナルモノガ人ノ視覺ニ快樂ヲ與フルノ理由ハ後編ニ讓リ、爰ニハ畫工ガ天然中ノ美麗ナル所ヲ畫クカ或ハ然ラザルルノ點ニ就テ一言セントスルノミ、例ヘバ貧乏德利ヲ畫カンヨリ古代ノ德利ヲ畫クニ若カズ、藝娼妓ノ如キ野卑ナルモノヲ畫カンヨリ優美ナル婦人ヲ畫クニ若カズ、洋服造リノ勇士ヲ畫カンヨリ甲冑ヲ服セシムルニ若カズ、夏樹鬱蒼ヲ畫カンヨリ秋山落葉ニ若カズ、左レハ貧乏德利強チ不可ナルニ非ズ、洋服造リノ勇士モ亦可ナリ、夏樹鬱蒼ノ場亦畫クベシ、甲モ可ナリ、乙モ不可ナシト雖モ、題目ノ可否ニ由テ繪ノ良否ノ幾分ガ支配セラ

ル、コト疑フベカラズ、文學者ガ其文ノ旨意ヲ撰ビ、演說家ガ演題ヲ定ムルト等シク、甚ダ大切ナルモノニシテ、其撰擇ノ時ニ於テ後來ノ繪ノ出來不出来ノ幾分ヲ定ムルモノナリ、左レバ是レ亦繪ヲ審査スルモノ、腦中ニ在リテ繪ノ巧拙ヲ定ムルノ一要素タルナリ。

畫工ノ意

第三、畫工ノ意匠—繪畫ノ繪畫タル所以ハ天然ヲ模擬スルニ止マラズ、即チ精神中ノ無形ノ觀念ヲシテ有形ノ物ト爲シ視覺ニ訴フルモノナリ、詩人文學者ハ言語ヲ以テ思想ヲ通セントス、是レ思想ヲ通ズルノ簡便ナル方法ニシテ、又繪畫ノ及バザル所アリト雖モ、繪畫ハ思想ヲ他人ニ傳フルニ最モ壯快ニシテ、且ツ諸人ノ解シ易キ方法ナリト云フベシ、此點ヨリ之ヲ觀ルルハ繪畫ノ巧拙ハ其物ガ天然物ニ似タルヤ否ヤニ關セズ、其物ガ畫工ノ精神中ニアリテ言語ニ云ヒ現ハシ難キ高尙ナル多クノ觀念ヲ現ハシ、且ツ見ルモノ、精神中ニ多クノ高尙ナル觀念ヲ惹キ起スヲ以テ標準ト爲スモノナリ、ろすさん云ヘルコトアリ、曰ク、美術ノ廣大ナルハ其看客ノ精神ニ廣大ナル思想ノ最大數ヲ生ゼシムルニ有ルヤ、或ハ天然物ニ類似セシ

ムルニ有ルヤ、若シ後者ヲシテ果シテ眞ナラシメバ、古來諸大家ノ手ニ作リタル美術ヲシテ其價值ヲ失ハシムルモノ甚ダ多シト云ハザルヲ得ズ、美術ニハ種々ノ目的アリ、或者ハ物ヲ教ユルヲ以テ、或者ハ人ヲ喜バシムルヲ以テ、或者ハ天然ニ似セラルコトヲ以テ、或者ハ新工夫ヲ以テ、各目的ト爲スコトナレドモ、其目的ト方法ト如何ナルヲ問ハズ、精神中ニ廣大ナル思想ノ最大數ヲ生ゼシムルハ、即チ美術ノ廣大ナルコトノ要素ト云フベキナリ、<sup>ト云</sup>此レ繪畫ノ最モ高尚ナル目的ニシテ主觀的現象ノ客觀的ニ現ハルルモノナリ、尙ホ美術ヨリ來ル苦樂ノ性質ニ付テハ、次ノ章ニ明カナリ。

第十二章 美ノ學理

何ヲ美ト云フ

世ノ中ニ美麗ナルモノト美麗ナラザルモノアリ、美麗ナルモノヲ見レバ快樂ノ感ヲ生ジ、美麗ナラザルモノハ不愉快ヲ惹キ起ス、而シテ我等其快樂ナルト不愉快ナルトヲ感ズルト雖モ、美ノ美タル所以ヲ知ルモノ甚ダ少ナシ、既ニ苦樂ノ學理ニ就イテ哲學上ノ理論ヲ述ベタレドモ、其論思辨的ニシテ、我等ハ其眞理ニ適スルヤ

否ヤヲ知ル能ハズ、蓋シ美ノ感覺ハ甚ダ複雑ナルモノナレバ從テ之ヲ組ミ立ツル要素モ亦甚ダ多シ、然リ而シテ美ノ感覺銳ナルガ如ク又鈍ナルガ如シ、其要素ノ二三ヲ増減スルトキハ直ニ之ヲ知ル能ハズ、然リト雖モ又一ノ要素ダモ之ヲ缺クトキハ、知ラズ識ラズ不完全ナルコトノ感覺何時シカ腦中ニ入りテ美ノ感覺ヲ損フモノナリ、斯ノ如クナルガ故ニ美ナルモノト美ナラザルモノトノ間ノ區別甚ダ漠然トシテ定ムル能ハズ、唯我等ハ其極端ニ於テ美ナルモノト美ナラザルモノトヲ知ルモノナリ、夫レ斯ノ如シ、而シテ美ノ感覺ガ快樂ヲ生ゼシムル所以ノモノハ其數多シト雖モ、之ヲ大別スルトキハ左ノ三要素中ニ含有セラル、モノナリ、第一、眼球筋肉ノ感、第二、色ノ調和、第三、同伴法ニ由テ惹キ起サレタル主觀的ノ觀念是レナリ。

眼球筋肉ノ感

第一、眼球筋肉ノ感、前キニ(第二章平面ノ知覺ヲ論ズ)論シタル如ク、眼ニ由テ物ヲ見ルトキハ、網膜ノ中央小窩ガ運動スルコトニ由テ廣キ平面ヲモ明カニ見ルコトヲ得ルモノナリ、故ニ眼ノ筋肉ノ感覺ガ視覺ニ結合シテ分ツベカラザルヤ明カナリ、而シテ又幻影ノ章(第十五圖)ニ於テ論シタル如ク、短キ線ガ長キ直線ヲ横切ルト

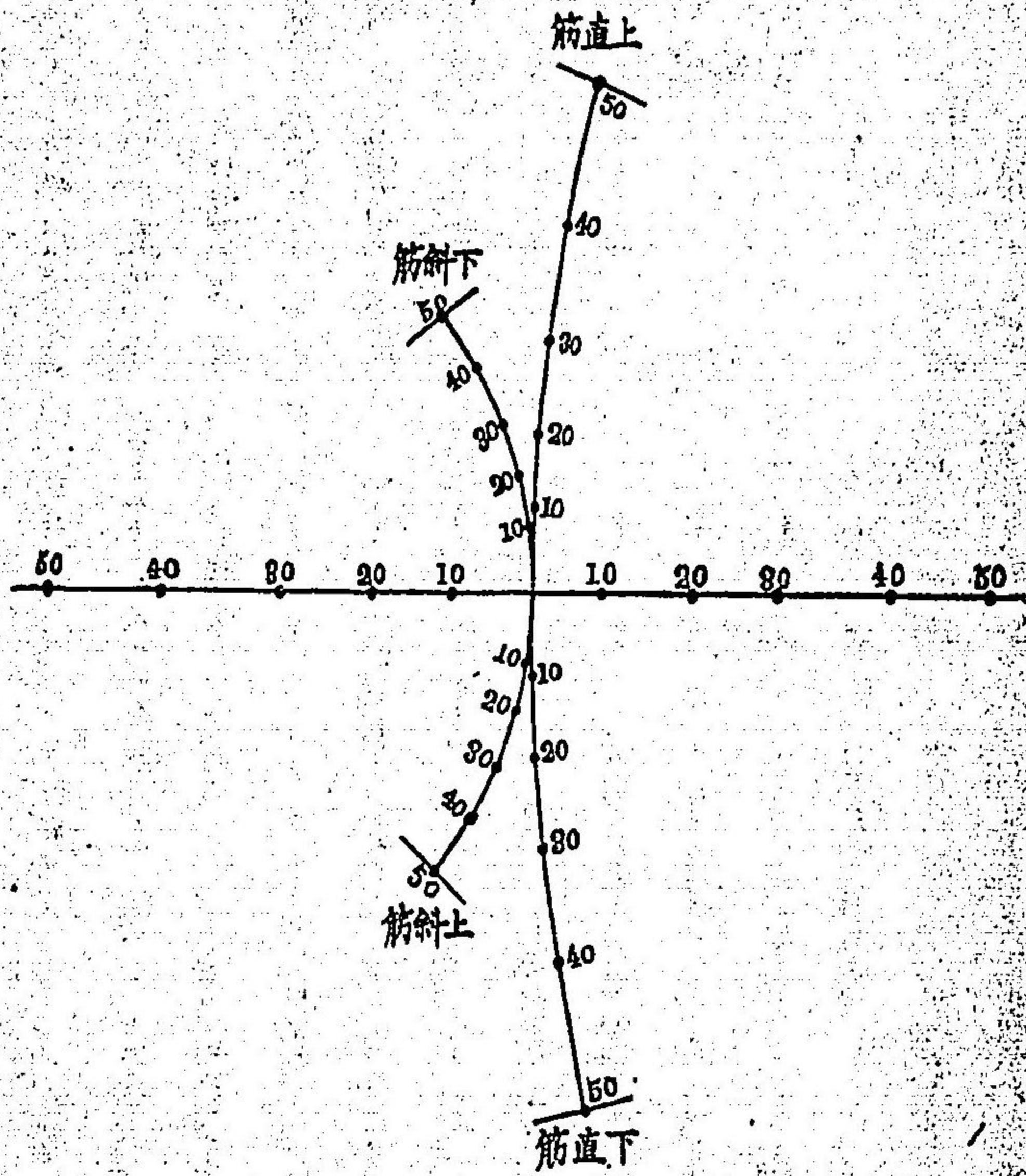
キハ眼ガ長キ直線ニ添フテ運動スルニ妨ゲテ與ヘ夫レガ爲メニ平行線ヲシテ平  
 行ナラザルガ如クニ見セシムルモノナリ是ヲ以テ之ヲ觀レバ我等ガ物ヲ見ルニ  
 ハ眼ハ絶ヘズ運動シ且ツ見ルモノハ像チニ由テ眼ノ運動滑カナルモノアリ又然  
 ラザルモノアリ而シテ運動滑カナルトキハ感覺モ亦愉快ニシテ運動滑カナラザ  
 ルトキハ之ニ反スルモノナリ斯ノ如ク眼ノ運動ノ滑カナルトナラザルト恰モ手  
 ニテ物ニ觸ルトキニ其物ノ滑カナルト然ラザルニヨリテ快樂ト不快樂ノ差ア  
 ルガ如シ

筋肉ノ運動

然レハ眼ノ筋肉ト其運動ノ關係ヲ尙ホ明カニセザルヲ得ズ抑モ眼球ヲ運動サ  
 スルニハ一眼球ニ六個ノ筋肉アリ内外上下直筋及ビ上下斜筋是レナリ此六個ノ  
 筋肉共ニ合シテ眼球ヲ運動セシムルモノナリト雖モ之ヲ三對ニ分ツ上下直筋内  
 外直筋及ビ上下斜筋是レナリ今假リニ其一對ノ筋肉ヲノミ殘シテ他ノ筋肉ノ働  
 キヲ止メシメ斯クシテ始メニ上下直筋次ニ内外直筋次ニ上下斜筋ヲ別々ニ働カ  
 シメ而シテ網膜ノ中心ト眼球ノ中心ヲ通ジテ一ノ想像線ヲ引キ其線ヲ紙ノ表面  
 ニ達セシメ又想像線ノ先キニ筆ヲ付ケテ紙ノ表面ニ眼ノ運動ヲ記セシムルトキ

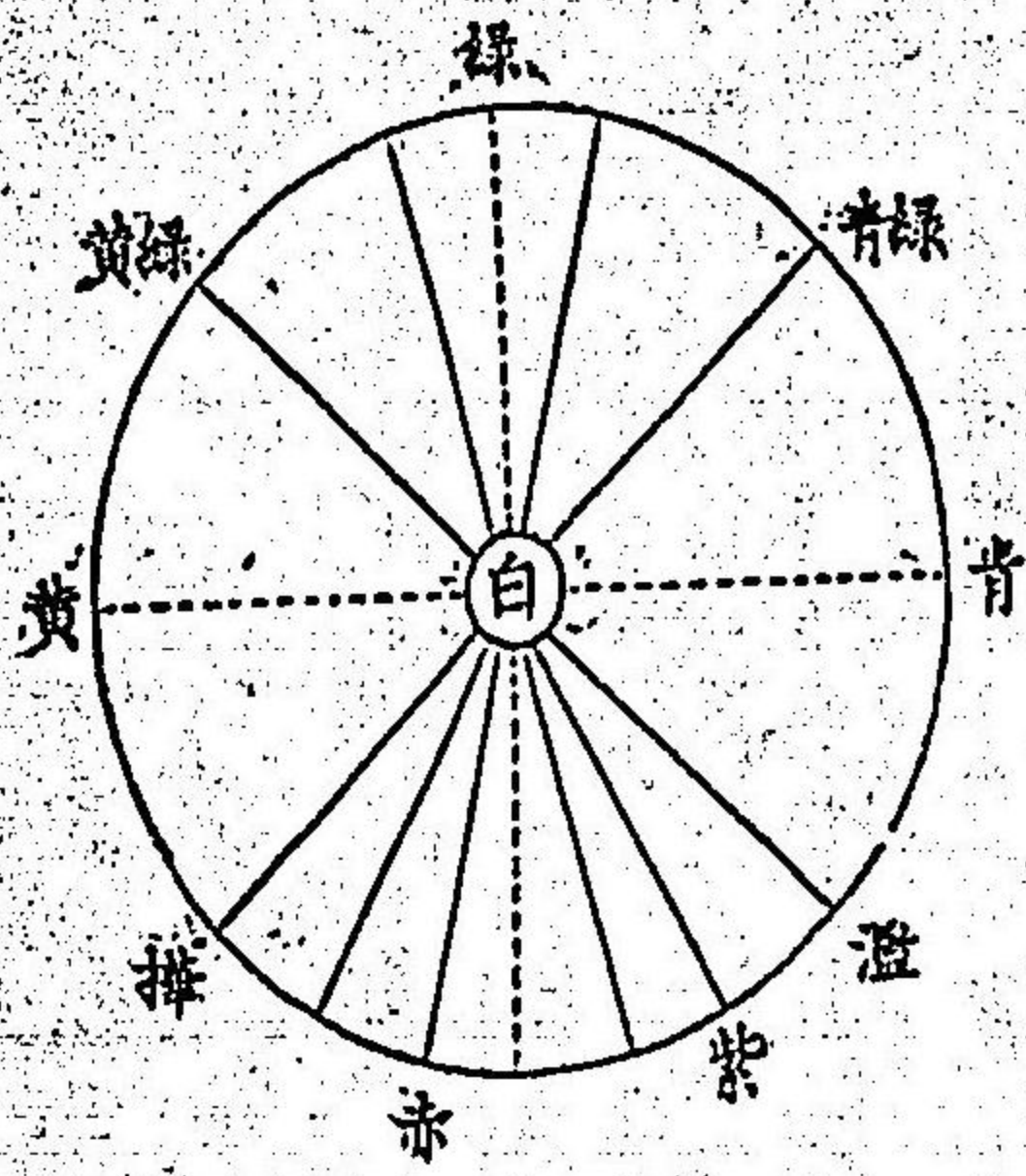
ハ右ニ云ヘル各對ノ筋肉ノ働キニ由テ眼球ヲ運動セシメタルノ結果ハ第二十三  
 圖ニ見ユルナリ眼ノ運動スル斯ノ如キモノナレバ地平ニ添フテ眼ガ左右ニ運動  
 スル眼ノ運動ハ直線ナルガ故ニ滑カニシテ易シ蓋シ是レ内外直筋ノ働キノミニ  
 由ルモノナリ然リト雖モ鉛直線ヲ見ルニハ上下斜筋及ビ上下直筋共ニ働カザル  
 ヲ得ズ故ニ少シク繁雜ナルモノナリ然レドモ鉛直線ヲ見ルニハ兩眼ノ働キ相合  
 スルガ故ニ互ニ鈞合フテ之ヲ見ルニ便ナラシムルモノナラシ然リ而シテ地平線  
 ニモアラズ又鉛直線ニモ非ズ家ノ軒ノ如ク或ハ天井ノ線ノ如ク高キ所ヨアル直  
 線ヲ見ルニハ眼ノ運動甚ダ複雑ナルモノニシテ此小冊子ニ於テ一々之ヲ説明ス  
 ルコト能ハズト雖モ概シテ之ヲ云ヘバ斯ノ如キ所ニアル線ハ直線ヨリモ纒カ曲  
 線ニナリタルモノヲ以テ最モ麗ハシトス是レ眼ノ運動スルニハ直線ニ添フヨリ  
 モ纒カ曲線ニナル所ニ於テ最モ滑カナルガ故ナリ其他並行シタル線ヲ見ルハ快  
 樂ニシテ不規則ナル線ヲ見ルハ不快樂ナリ是等ハ一々分析シテ其快樂ナルト不  
 快樂ナルノ原因ヲ夫ノ筋肉ノ感覺ニ求ムルコト雖モ非ズト雖モ此書ニ於テ爲  
 シ能ハザル所ナリ

圖三十二第



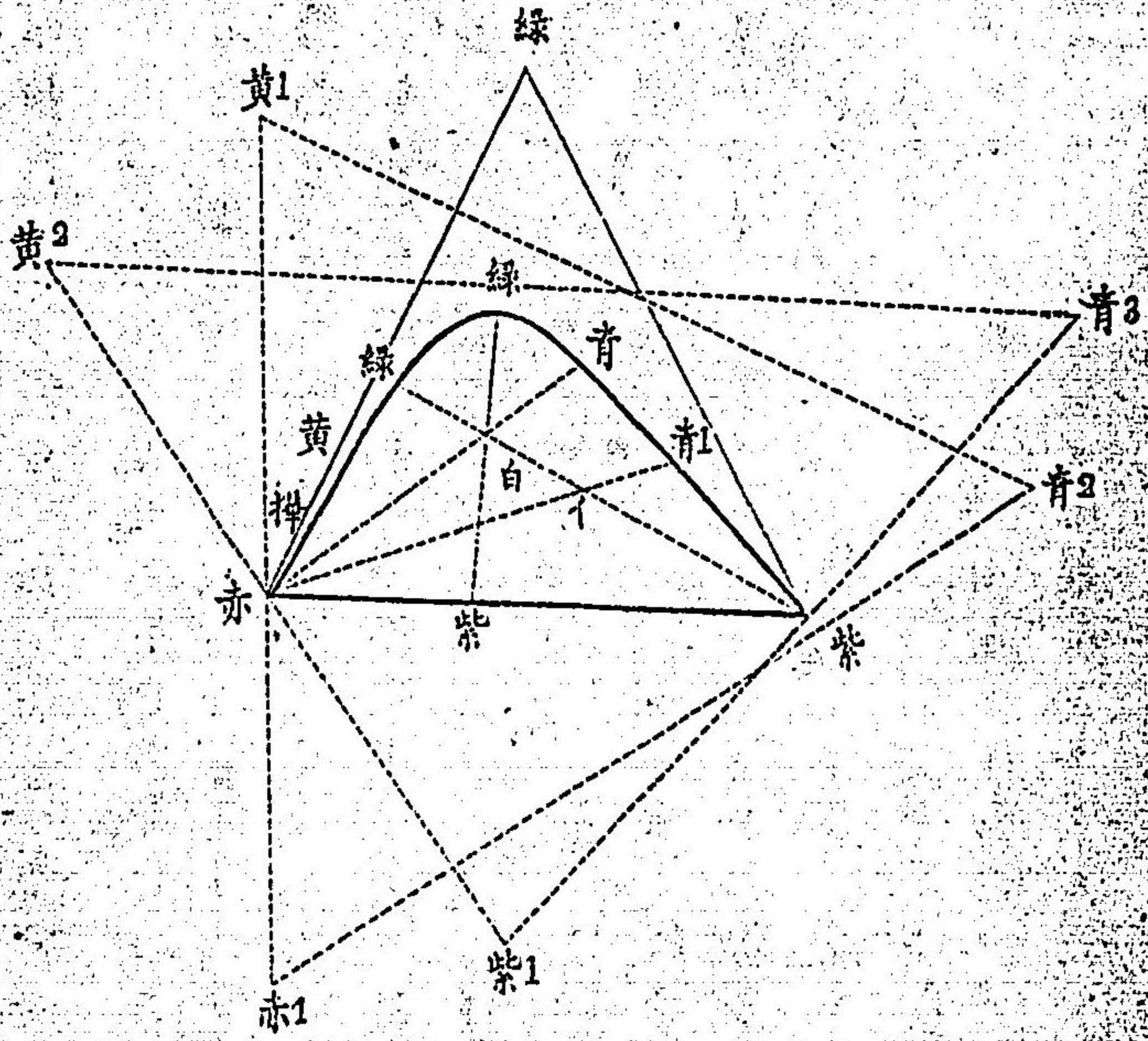
第二、色ノ調和、色ノ調和ニ就イテハ之ヲ分析シテ其學理ヲ見出スコト甚ダ難シ、余ハ未ダ此學理ヲ見出セシ人アルヲ知ラズ、唯經驗的ニ種々ナル色ヲ交ヘテ畫工ガ繪ヲ彩色シ、婦人ガ身ヲ飾ルニ於テハ實驗的ノ暗指ナキニ非ズ、例ヘバ黒ト青ノ如ク、白ト黒ノ如ク、青ト金色ノ如ク、深紅ト樺ノ如ク、青ト樺ノ如キハ、殆ンド完全ナ

圖四十二第



ル調和ナリトハ、婦人ノ身ヲ飾ルニ就イテ云ヘルコトナリ、然レドモ其學理ニ至テハ他日ノ發明ヲ俟タザルヲ得ズ。色ハ其類多シト雖モ、是皆夫ノ白色ヲ分析シタルモノニシテ總テ之ヲ合スルトキハ復々元ノ白色トナル、而シテ第二十四圖ハ輪ノ中心ヲ白ト定メ、輪ノ周圍ニ種々ノ色ヲ置キ、相對スル色ヲ合スルトキハ常ニ白色ヲ生ズルコトヲ表ハシタルモノナリ、而シテ第二十五圖ハ第二十四圖ト同理ヲ示スモノナレドモ少シク精密ナルモノナリ、例ヘバ赤、綠、紫ノ三角ハ此三色ヲ合スレバ白色ヲ生ズルコトヲ表ハシタリ、而シテ中央ノ白ノ所ヨリ其距離ノ大小ハ其色が白色ヨリ異ナルノ度ヲ表ハシタルモノナリ、而シテ此三角ハ理想的ニ造リタルモノナリト雖モ、實際太陽ノ光線ヲ七色ニ分ツトキニ綠、青ノ如キハ赤、紫ヨリモ大ニ白色ニ近シ、故ニ夫ノ三角ハ變ジテ圖ノ如キ曲線トナル、而シテ

圖五十二第



合ノ割合ヲ表ハシタルモノナリ、是等ノ如キハ或ハ後日色ノ調和ヲ發見スルノ基

赤ト青ハ合シテ白ヲ爲スモノナリ、其混合ノ度ニ至テハ、左ノ比例ニ由テ之レヲ知ルベシ。  
 紫ト青ハ合シテ白ヲ爲スモノナリ、其混合ノ度ニ至テハ、左ノ比例ニ由テ之レヲ知ルベシ。  
 黄ト赤ハ合シテ白ヲ爲スモノナリ、其混合ノ度ニ至テハ、左ノ比例ニ由テ之レヲ知ルベシ。  
 黄ト青ハ合シテ白ヲ爲スモノナリ、其混合ノ度ニ至テハ、左ノ比例ニ由テ之レヲ知ルベシ。  
 赤ト黄ハ合シテ白ヲ爲スモノナリ、其混合ノ度ニ至テハ、左ノ比例ニ由テ之レヲ知ルベシ。  
 赤ト青ハ合シテ白ヲ爲スモノナリ、其混合ノ度ニ至テハ、左ノ比例ニ由テ之レヲ知ルベシ。  
 黄ト紫ハ合シテ白ヲ爲スモノナリ、其混合ノ度ニ至テハ、左ノ比例ニ由テ之レヲ知ルベシ。  
 青ト紫ハ合シテ白ヲ爲スモノナリ、其混合ノ度ニ至テハ、左ノ比例ニ由テ之レヲ知ルベシ。  
 赤ト紫ハ合シテ白ヲ爲スモノナリ、其混合ノ度ニ至テハ、左ノ比例ニ由テ之レヲ知ルベシ。

同伴  
基法  
觀念

本トナルヤモ計リ難シ、故ニ記シテ以テ讀者ノ參考ニ供ス。

第三、同伴法ニヨリテ惹キ起サレタル主觀的ノ觀念、繪畫ノ章ニ於テ既ニ云ヘル如ク我等美麗ナルモノヲ見ルトキハ、其物ト同伴法ノ働キトノ結合ニヨリテ主觀的ニ種々ナル觀念ヲ惹キ起スモノナリ、而シテ觀念ノ結合ハ各自ノ過去ノ經驗ニ基ヒスルモノナルガ故ニ、同シ物ヲ見テモ甲ノ精神ニ現ハル、觀念ト、乙ハ精神ニ現ハル、觀念トハ全ク同シキコト能ハズト雖モ、又一方ヨリ考フルトキハ、人ノ精神ノ構造ニ於テハ定限アルモノナレバ、高尚ナル繪畫或ハ彫刻ヲ見ルトキハ、自然精神中ニ奥深キ快樂ヲ感ズルモノナリ、素ヨリ甲ノ快樂ト乙ノ快樂ヲ比較スルコトハ決シテ能ハザルコトナリト雖モ、概シテ之ヲ云ヘバ甲モ乙モ快樂ヲ感ズルノ點ニ於テハ差異ナキノミナテズ、其快樂ヲ概括シテ之ニ一名ヲ與フルナリ、即チ美妙ノ感ト云フ、然リ而シテ演劇或ハ小説ニ於テ現ル、感覺ハ必ズシモ喜バシキコトノミコト非ズ、悲哀アリ、失望シタル愛情アリ及ビ人殺等アリテ、是等ノ事柄ヲ其レノミ考フルトキハ、悲ムベキコト、雖モ、之レ亦看客ノ精神中ニ一種ノ快樂ヲ惹キ起スモノナリ、是レ決シテ演劇小説ニノミ止マルニ非ズ、美術一般ニ普通ノ感覺ヲ

リ、故ニ美術ニ於テハ管ニ麗ハシキコトノ感覺ノミナラズ、悲哀、驚愕、恐怖等其類ノ如何ナルヲ問ハズ、奥深く且ツ多量ノ感覺ヲ惹キ起スヲ以テ美術ノ高尚ナルモノ「ラオトス」第二十六圖ヲ以テ之ヲ説明セントス、其(イ)ハ「ラオコン」ト稱シテ希臘ノ神代記「ラオトス」ニ出ヅル人物ナリ、彼ハ「アポロ」神ノ祭司ナリシガ不正ノ婚姻ヲ爲シタリ、其兩側ニアルハ其妻ニ由リテ得タル二人ノ子供ナリ、彼レ一日祭リヲ爲サントテ宮ノ前ニ其子ト共ニアリシ片、大蛇來リテ之ヲ捕ヘタレバ彼ト其次男ハ之ガ爲メニ生命ヲ失ヘリ、此話ハ甚ダ名高キモノニテ夫レノミヲ記シタル一冊ノ書物アリ、而シテ羅馬ノ隆盛ナル時代ニ之ヲ大理石ニ彫刻セリ、此圖ニ出セシハ其彫刻ヲ復寫シタルモノナリト雖モ、之ニハ種々看客ノ注意ヲ惹クベキ點アリ。

抑、此「ラオコン」ハ蛇ニ捲カレテ左ノ手ヲ以テ之ヲ除キタレドモ力大ニ弱リテ最早之ニ抗抵スルノ勢ナクナリタル有様ハ、其顔ノ容貌及ビ全身体ノ像(二十六圖イ)チニ由テ見ラル、ナリ、長男(ロ)ハ勢力未ダ弱ラズ、足ヲ捲キタル蛇ヲ取り去リ殆ンド其ノ災難ヲ逃ル、ニ至リタレドモ、自分ノ父ト弟ガ蛇ノ爲メニ最早死ナントスル有様ヲ見テ大ニ怖レ慄キ聲高ク叫ビ居ル有様ナリ、又次男(ハ)ハ蛇ニ捲カレテ最

第二十六圖



早援カルノ道ナシト雖モ未ダ父ノ如ク弱ラズ尙ホ援カラントノ望ミヲ以テ抵抗  
シ居ルナリ然リ而シテ次男ノ右手ハ元物ニ非ズシテ其缺ケタルモノヲ後ニ補ヒ  
タルモノナレバ其彫刻者ノ元ノ思想ト或ハ違ヘルコトナラン看客其手ノ拙ナキ  
ヲ見テ之ヲ了解スベシ。

フコ  
ン見  
テ  
コ  
ン  
テ  
見  
ス  
ル  
感  
覚

此彫刻ノ思想夫レ斯ノ如シ其有様實ニ恐ロシク且ツ誰ニテモ若シ斯ノ如キコ  
トニ出逢フトキハ或ハ氣絶スルヤモ計リ難シ斯ノ如クナルガ故ニ此彫刻ヲ見ル  
モノ、精神中ニハ實ニ恐ロシク且ツ不愉快ナル感覺ヲ生ズベキナルニ之ニ反シ  
テ美妙的ノ快樂ヲ惹キ起スハ何故ナル乎一説ニ由レバ總テ他人ガ殺サレ或ハ害  
サレ或ハ苦ミ居ルヲ見テ快樂ヲ生ズルハ詰マリ私慾心ニ基ヒスルナリト云フ何  
トナレバ人ノ身ト己ノ身ヲ比較シ人ハ斯ノ如ク苦ムコモ拘ラズ己レハ其危難ニ  
逢ハズシテ害サレザルコトヲ思フテ快樂ノ感覺ヲ有スレバナリト然レドモ著者  
ノ憶説ニ由レバ人ハ左マデニ私慾的動物ニ非ズ此ノ彫刻ニ關シテハ己レノ損害  
ヲ受クルト受ケザルトニ關セズ多量ノ觀念活動スルニヨリテ快樂ヲ生ズルモノ  
ナラン曾テ佛蘭西ノ碩學バすかる云ヘルコトアリ曰ク人ハ平和ヲ求ムルガ如ク



人ハ好<sup>△</sup>ニ思ヘドモ其實ハ騷擾ヲ求ムルモノナリト、其意最モ深シ、人ハ活動物ニシテ又活動ナリ好ムモノナリ、而シテ五管ノ活動ハ起リ易クシテ又直ニ過ギ去ルモノナリ、觀念ノ活動ニ至テモ種々ノ階級アリ、下等ノ快樂ニ就イテ想像スルモノ一種ノ活動ナリ、戰爭記ヲ讀ンテ其有様ヲ想像シテ激スルモノ亦觀念ノ活動ナリ、詩歌ヲ讀ンテ想像ヲ惹キ起スモノ亦觀念ノ活動ナリ、天然ノ景色ニ就イテ又ぶれど一ノ想像國ノ如ク、へげるノ論理學ノ如ク、孔孟ノ仁義五常ノ如ク、物ノ完全無缺ニシテ所謂理想的ノ觀念ヲ精神中ニ活動セシムルモノ、又一種ノ觀念活動ナリ、爰ニ於テ著者ハ斷言ス、最モ高尚即チ理想的ノ觀念ノ活動ヲ精神中ニ惹キ起スハ、美術ノ最モ高尚ナルモノナリト、言語ヲ以テ人ノ思想ヲ交換スルガ如ク、美術ハ人ノ理想ヲ互ニ交換セシムルノ器械ナリ、而シテ又言語ハ人ノ思想ヲ紙ノ上ニ表ハシタルモノナルガ如ク、美術ハ人ノ理想ヲ像ニ表ハシタルモノナリ、故ニ彼ノ像チノ滑カナルコト及ビ色ノ調和ノ如キハ、唯美術ノ方便トナル可キ織カノ器械ニ過ギズ、美術ノ美術タル要素ハ言語ニモ表ハス能ハズ、又身振ニモ表ハス能ハザル精神ノ高尚ナル理想ノ物質的ノ像チニ發表看客ノ精神中ニ同様ノ感覺ヲ生ゼシムルコトナリ。

第十三章 「リズム」

万<sup>リ</sup>物<sup>ア</sup>ス

世界ノ萬物一トシテ「リズム」ヲ有セザルハナシ、天体ノ運動ヨリ小分子ノ運動ニ至ルマデ全ク滑カナル運動アルコトナシ、古人ハ天体ノ運動ヲ以テ全ク滑カナルモノト爲シ、之ヲシテ完全無缺ナルコトノ適例ト爲サンコトヲ試ミタレドモ星學ノ進歩スルニ從ヒ天体ノ運動ハ其軌道ヲ運動スル中ニ始終夫ノ波ノ如ク震ヘル所ノ運動之ニ同伴ス、又古來光線ハ純一ナル物ノ如ク考ヘタレドモ當今ノ物理學者ノ説ニ由レバ精氣ノ波動ヨリ生ズルナリト云フ、又音響ハ空氣ノ波動ニ基ヒス、我等ガ手ニ觸ル、所ノ物質中ニテ休ミ居ル固形体ノ如キハ全ク運動ナキニ似タレドモ當今ノ物理學者ハ之ヲ分子ノ見ル可カラザル波動アリテ其形ヲ保存スルモノナリト云フ、斯ノ如ク波動ハ物体ノ存在及ビ運動ノ基本トナルモノナリ、此ノ波動ヲ指シテ「リズム」ト云フ、左レバ「リズム」ハ世界萬物ニ普通ナル法則ト云フモ不可ナカルベシ。

精<sup>リ</sup>神<sup>ム</sup>

抑モ精神ノ現象ハ物質世界ノ現象ト比較シテ種々區別スベキ點アリ、然リト雖モ「リズム」ノ法則ニ至テハ物質世界ト精神世界ノ區別ナク萬有ノ存在一トシテ此

法則ヲ逃ル、モノナキガ如シ。人ノ精神ノ活動スルヤ決シテ始終一樣ニ活動スルモノニ非ズ。既ニ第一章ニ於テ論シタル如ク精神現象ノ根本ハ五官ヨリ入り來ル無數ノ刺激ニ基クモノナリ。然リ而シテ今精神ノ「リズム」的性質ヲ明カニ知ラント欲セバ二枚ノ色硝子ヲ取り(例ヘバ一ハ赤他ノ一ハ青ノ如シ)之ヲ兩眼ニ當テ明ルキ方ヲ見ルトキハ諸物一時ハ赤ク見ヘ數秒ノ後青赤混合シテ見ヘ又タ數秒ノ後凡テ青ク見ヘ又赤ニ變ズルナリ。是ヲ以テ之ヲ觀レバ我等兩眼ヲ以テ物ヲ見ルトキハ兩眼同等ノ働キヲ爲スモノニ非ズ。右ノ目ノ力強キコトアリ又左ノ目ノ力強キコトアリ。斯ノ如ク兩眼互ニ爭フガ如ク或ハ兩眼互ニ補フガ如ク甲ト乙ト秒々相交代スルヲ知ル。蓋シ此兩眼アルハ各互ニ相助クルノ便利アルモノナラン。又我等音響ヲ聞クニ種々ノ調音ガ「リズム」ヲ爲シテ耳ニ入ルトキハ音樂ノ快樂ヲ生ズ。又物ヲ食スルニ當テ如何ニ美味アルモノモ唯夫レノミヲ食スルトキハ直チニ其快樂ノ感ヲ失フモノナリ。故ニ種々ナル味ヒ相混シテ始メテ愉快ヲ生ズ。又我等ノ筋肉收縮スルニ就イテモ筋肉ガ絶ヘズ收縮シ居ルトキハ疲ル、コト甚ダ速カナリ。然リト雖モ伸縮相和スルトキハ快樂ヲ覺ユルナリ。夫ノ舞蹈及ビ行軍ノ快樂等

ハ之ニ基ヒスルコトナラン。音樂ト舞蹈或ハ行軍ト相離レザル豈ニ偶然ノコトナランヤ。蓋シ是等ハ皆其類異ナリト雖モ其「リズム」ノ法則ニ從フ點ニ至テハ同一ノモノナレハナリ。精神ノ「リズム」的活動斯ノ如シ。而シテ其性質ヲ試驗的ニ定メント試ミタルニ其結果左ノ如シ。

注意ノリズム

第一、注意ノ「リズム」ニ就イテランゲルノ爲シタル試驗ニ由レハ注意ノ浮沈スルハ三秒乃至三四秒毎ニアリ。然リト雖モ感覺ノ類ノ異ナルニ由リテ其浮沈ノ時間ニモ僅カノ差異ヲ生ズ。而シテ又此「リズム」ハ音ニ注意ニ止マラズ此浮沈ト同伴セテ記憶ノ「リズム」アリ。精神ニ外物ノ知覺ヲ得ルヤ夫レガ爲メニ幾分ノ精神力ヲ費スガ故ニ其知覺ヲ受ケタル後チハ暫時記憶力少シク衰ヘタル有様ニテ殆ソド四秒ノ後チ少シク其力ヲ回復シ爲メニ夫ノ知覺ハ記憶トナリテ再生シ。再ビ明カニ意識中ニ現ハレ又沈ミ殆ソド八秒ノ後チ再ビ意識中ニ浮ビ出デ又沈ミ。全体ニ云ヘハ時間ヲ經ルニ從テ再生スル印象ハ其明白ナルコトノ度ヲ減ズルト雖モ右ニ云ヘル如ク浮キ或ハ沈ミ即チ「リズム」的ニ現ハル、モノナリ。尙ホ此外哲學會雜誌三十九號及ビ四十號精神物理學ヲ參考スヘシ。

文字

「リズム」ハ文學ノ進歩ニ大關係ヲ有スルモノナリ。文學ノ始メテ世ニ出ツルヤ、散文ヲ以テ先トスル乎、韻文ヲ以テ先トスル乎、世人ハ韻文ノ散文ニ先ツコトヲ知ル。韻文ト散文ノ區別何處ニアル乎。散文ニハ「リズム」明カナラス。韻文ニハ「リズム」明カナリ。故ニ韻文ハ文學上ノ「リズム」ナリ。又我邦ニ於テ讀書スルトキ、一様ノ音聲ヲ以テ讀書スルモノナシ。或ハ聲高ク或ハ低ク自儘勝手ノ「リズム」ヲ以テ讀書スルモノナリ。而シテ其故如何ヲ問フニ、一様ナル音聲ヲ以テ音讀スルトキハ直チニ疲ルト雖モ「リズム」ヲ以テ音讀スルトキハ長ク疲レサルモノナリト云フ。

和歌

西洋ノ詩ニ「リズム」アリ。和歌ニモ亦「リズム」アリ。西洋ノ詩ニ現ハル「リズム」ハ元ト「ギリシヤ」及ビ「ラテン」文學ニ始マリ、歐米ノ韻學ニ至リテ種々ナル「リズム」發達セリ。其基ク所ハ言語ノ音節（アクセント）ニアルナリト雖モ日本語ニハ音節甚ダ少ナシ。而シテ其音節ハ地方ニヨリ又人々ノ習慣ニヨリテ違フモノナリ。例ヘバ「カキ」ト云フニ柿モアリ、蠟モアリ、垣モアリ。又東京ニテハ火氣モ同音ニテ呼ブナリ。是等ノ言葉ハ話ノ前後ニヨリテ其意ハ解サル、トナリト雖モ其ノ一言ノミヲ別ニ離シテ語ルトキニハ東京人ノ柿ハ、京人ノ垣ナリ。又東京ノ火氣ハ西京ノ蠟ト相混スル

如キ愛ナキ能ハズ。是レ日本語ニ一定ノ音節ナキガ故ナリ。書ヲ讀ミ歌ヲ詠ズルニ至リテハ各自ノ好ミニ任セテ種々様々ノ音調ヲ用ユ。然レドモ概シテ之ヲ云ヘバ音節ノ變化甚ダ少ナクシテ亦一定ノ法則ナキガ故ニ。此點ヨリ「リズム」ノ性質ヲ研究スルコト難シ。然レドモ和歌ニハ又五文字七文字ノ法アリテ一種ノ「リズム」ヲ作セリ。抑モ和歌ノ五文字七文字ハ數學ノ規則ノ如ク又論理ノ法則ノ如ク機械的ノモノニ非ズ。種々ニ變化シ得ベキモノニテ五、七、五、七、七ノ三十一文字ノ歌ノ如キハ種々ナル「リズム」中ニ於テノ一種ナルノミ。而シテ五、七、五ノ發句ノ如キ又三十一文字ノ歌ノ如キ簡單ナル「リズム」ガ本邦ニ發達セシハ蓋シ偶然ノコトニハ非ルベシ。本邦人衣食住ヨリ美術、文學、宗教、風俗ニ至ル迄、淡白ナラザルハナシ。豈ニ特リ和歌ノ「リズム」ノミナランヤ。

和歌

然リ而シテ本邦ノ歴史ニ溯リテ、其發達ノ順序ヲ考フルニ古事記、日本紀等ノ歌ハ種々様々ニテ管ニ三十一文字ノ規則ニ違フノミナラズ、五、七ノ規則ニモ違フコト屢々ナリ。例ヘバ「イマハヨ、イマハヨ、イマハヨ、ア、シヤナ、イマダニモ、アゴヨ、イマダニモ、アゴヨ、」日本紀ノ如キハ今日之ヲ讀ム人殆ンド其意ヲ解セズ何ツ精神ニ快樂ヲ與フ

ルヤト怪シム人少ナシトセズ然リト雖モ古人ニモ亦リズムノ感覺アリ諸ヒテ悦ビ悦ビテ踊リタルハ歴史ノ判然我等ニ告グル所ナリ然レバ今世ノ人古歌ヲ讀ミテ快樂ヲ感ゼザルハ之ヲ全ク古歌ノ拙ナルニ歸スル能ハザルヤ明カナリ古人ハ之ヲ如何ナル音調ニテ謠ヒタルヤ今日其リズムノ性質ヲ知ラズ何ツ其歌ヲ評スルヲ得ンヤ

是ニ由リテ之ヲ觀レバ本邦ノ歌ト雖モ古來ニアリテハ五文字七文字ニ限リタルニ非ズ三文字アリ四文字アリ又六文字ノ句モ無キニ非ズ之ヲ見テ或ハ古歌ニ一定ノリズムナキヲ尤ムル人ナキニ非ズ斯ノ如キハリズムニ五七ノ外類ナシト思フヨリ來ルコトナリ然リト雖モ素ヨリリズムニハ種々アリ最モ簡單ナルモノハ僧侶ガ木魚ヲ打ツトキノ如ク又小兒ガ音讀スルトキノ如ク高音ト低音ト(低音ハ時々無音ノコトアルベシ)引キ續ヒテ發スルモノナリ又一音ト二音引キ續キ繰返スコトアリ又二音ト三音ノリズムアルナリ本邦言語ノ如キハ二音或ハ三音ヨリ成ルモノ最モ多シ而シテ偶々四音ノ言葉ハ二音ノ合シタルモノナリ之ニ加フルニ國語固有ノテニヲハアリテ言語本体ニ加ヘテ別ニ一、二、三、或ハ四ノ音聲ヲ生

ズ散文ニハ何々スルモノナリ歌ニ於テハ何々ナルヲ等ノ如シ是等ノ言葉相合シテ五文字或ハ七文字ノ結合體ヲ爲スト雖モ其結合體ヲ尙ホ小分スルトキハ五文字ト雖モ二、三、或ハ二、二、一、ノ如ク分ル、ナリ七文字モ亦小分サル、モノナリ今素盞鳴尊ノ歌ヲ以テ之ヲ例センニヤクモタツ「ハ、イ、ヤ、シ、ミ、タ」ト成ル「イ、ツ、モ、ヤ、エ、カ、キ」ハ三四ニ分レ而シテ八重垣ハ四文字ナレドモ其レハ「ヤ、エ、ト」カキトヨリ成ルモノナレバ此四ハ二、二、ニ分ル、ナリ「ツ、マ、コ、メ、ニ」ハ二、二、一、トナル「ヤ、エ、カ、キ、ツ、ク、ル」ハ二、二、三、トナル「ソ、ノ、ヤ、エ、カ、キ、ヲ」ハ二、二、二、一、トナル故ニ我等之ヲ讀ムトキ一様ノ音響ヲ以テ讀ミ或ハ又其句キリ宜シカラザルトキハ其意ヲ解セズ或ハ又大ニ其意ヲ誤ルコトアルナリ左レバ一文字ニ文字或ハ三文字毎ニ多少ノ句切りヲ爲シテ讀ムコトヲ要ス而シテ五七ノリズムノ基ハ一、二、三、ノリズムニアルナリ故ニ「イ、マ、ハ、ヨ」ナル四文字句ノ如キハ「イ、マ、ハ、ヨ」ナル二、一、一、ト分ル、ナリ又「ク、メ、ノ、コ、ラ、ガ」即チ「久米之子等ガ」ナル六文字句ハ二、一、二、一、トナル斯ノ如ク四文字ノ句アリ六文字ノ句ハ五文字七文字ノ法ニハ合セズト雖モ是等ハ單一ナルリズムヨリ成リタルモノニシテ敢テリズムノ法則ニ違フモノニハ非ルナリリズムノ性質夫レ斯ノ如

シ、而シテ現今西洋ノ音樂本邦ニ入り來リシ以來日本ノ言葉ヲ西洋ノ符ニ合ハセ  
 ン爲メニハ五文字七文字ノ法則ヲ守ル能ハズ三文字四文字及ビ其他ノ句ヲ生ズ  
 ルノ必要アルナリ。且又萬葉集及ビ古今集中ノ純然タル和歌中ニモ六文字或ハ八  
 文字ノ句ニ出逢フコトアルナリ。和學者ハ「アイウエオ」ハ一字多キモ妨ケナシト云  
 フ。然リト雖モ若シ是レ「リズム」ノ天然法ノ範圍内ニ非ルトキハ何ツ和學者又之ヲ  
 許スコトヲ得ルヤ。故ニ和歌ノ五文字七文字ハ鐵器ノ如キ法則ニ非ズ、其基本タル  
 「リズム」ノ法則中ノ一種ニシテ文學及ビ音樂ノ進歩ト共ニ變化スルモノナリ。

リズム  
應用

夫レ斯ノ如シ而シテ又此「リズム」ハ管ニ秒々ニ現ハル、ノミナラズ、時々日々又  
 長クハ年々現ハル、モノナリ。故ニ人同ジコトヲ久シク爲スチ好マズ。仕事ヲ代ヘ  
 ルコトニ由テ快樂ヲ生ズ、是レ皆「リズム」ノ理ニ基クモノニシテ物ノ善惡正不正ヲ  
 問ハズ。唯變化ヲ好ミ新奇ヲ好ムモノナレバ斯ノ如キ時ニ於テハ決シテ快樂ヲ以  
 テ事ノ正不正ヲ判斷スルコト能ハズ。蓋シ「リズム」的性質ニ基ク快樂ハ一時ノモノ  
 ニシテ其同物が暫時ノ後ハ又不愉快ノ根本トナルコトアレバナリ。ねぎとをさの  
 み聞けむ、やしろこそ、はてと、なげきの森となるらめ「古今集さぬき」

第十四章 笑

人ハ  
動物  
ナリ

人ハ笑フ動物ナリ。下等動物ニアリテハ笑フコトナシ。口ノ形チ顔ノ容貌ヲ見テ  
 判斷スルトキハ笑ヒニ似タルコトナキコト非ズト雖モ其笑ヒナルヤ否ヤ判然セザ  
 ルナリ。笑ヒハ精神上ノ高尚ナル活動ニ基ヒスルモノナレバ恐クハ人ノミニ限ル  
 モノナラン。笑ヒノ原因種々アリト雖モ概シテ之ヲ云ヘハ笑ヒハ快樂ノ外ニ現ハ  
 レタルモノナリ。此笑ヒヲ惹起スルニ四ツノ原因アリ。

微笑

第一、精神ノ高尚ナル快樂ヨリ起ル笑ヒアリ。例ヘバ麗ハシキ景色ヲ見テ喜ビチ  
 感ジタルトキ、或ハ我が愛スル人ニ逢ヒ愛情ノ滿ツルヨリ微笑ヲ來スコトアリ。是  
 偽笑  
 等ノ如キハ實ニ高尚ナル笑ヒニシテ又人ノ麗ハシキ性質ト云フベシ。第二、偽笑。既  
 ニ第一ニ於テ云ヘル如ク精神ノ快樂ノ外ニ現ハレ微笑トナルハ恰モ花ノ開キタ  
 ルガ如ク管ニ其笑フ人ノ快樂ナルノミナラズ、之ヲ見ル人ニモ亦快樂ヲ與フルナ  
 リ。故ニ交際上ニ於テハ互ノ關係ヲ滑カニシ人々互ニ相引キ合フノ基トナルベキ  
 モノナリ。然リト雖モ屢偽リノ笑ヒヲ以テ他人ノ歡心ヲ買ハントスルコトアリ。之  
 ヲ稱シテ諂笑ト云フ。斯ノ如キハ笑ノ最モ甚ダシキ誤用ニシテ社會ニ毒害ヲ流ス

嘲笑ノ根本トナルモノナリ。第三、嘲笑。己レト他人ヲ比較シテ自身ガ他人ニ勝リテ決シテ又再ビ他人ニ降参スルノ必要ナキヲ明カニ知ルトキハ他人ヲ目シテ一種ノ快樂ヲ感シテ笑フモノナリ。之ヲ嘲笑ト云フ。是レ倫理上大ニ嫌フモノナリト雖モ又普通一般ニ存スル人性ナリト云フベシ。第四、滑稽ノ笑。抑モ滑稽トハ其原因何所ニアルヤ。概シテ之ヲ云ヘバ思ハザルモノ、現ハレ出ツルコトナリ。若シ其現ハレ出ダタルモノガ自身ノ危難ニ關スルカ或ハ精神ニ苦痛ヲ與フルトキハ之ヲ驚愕ト云フ。左レドモ危難ナク又苦痛ナキトキハ之ヲ滑稽ト云フ。例ヘバ夫ノ一休和尚ノ歌ニ「極樂はいづくの程と思ひしに杉葉立てたる又六が門」ノ如キ又西行上人ノ「たのしきは夕がは棚の下すゝみをとこてゝら女は二布して杯ノ如キハ思ハザル關係ヲ表ハシタルモノニシテ實ニ滑稽ナルモノト云フベシ。滑稽ノ笑ヒハ多クハ倫理ニ反スルコトナク却テ精神ノ疲レタルトキハ之ヲ快活トナシ爲メニ大ニ益スルコトアルナリ。(尙ホ表出ノ章ヲ參考ス可シ)

第十五章 愛情

總論 愛情ハ人ト人トノ間ニ發スル一種ノ感情ニシテ快樂ノ原因トナルコトアリ或

ハ悲哀ヲ生ズルコトアルナリ。愛情ノ種類一ナラズ。兩性ノ間、朋友ノ間、君臣ノ間等ニ發スル愛情ハ各其性質同シカラズ。而シテ憐ム可キ者ヲ見レバ一種ノ感情ヲ發ス之ヲ憐憫ノ情ト云フ。又一個人ガ社會全體ニ對シテ發スル一種ノ感情アリ之ヲ愛國心ト云フ。斯ノ如キハ總テ之ヲ惹キ起スベキ物ノ類一ナラザルヨリ異種ノ愛情ヲ發スルモノナリ。然リ而シテ右ニ述ベタル各愛情ノ性質ヲ究メントスルニハ先ヅ此愛情ノ要素タル同情、欽仰、及ビ固着ノ性質ヲ究メザルベカラズ。左ニ之ヲ説明セシ。

同情 同情ハ其字義ニ由リテ明カニ解サル、如ク他人ノ感情ノ外ニ現ハル、ヲ觀テ自身ノ精神中ニ之レト同様ナル感情ノ發スルヲ云フ。故ニ他人ノ悦ビヲ見レバ自ラ快樂ヲ覺ヘ他人ノ苦痛ヲ觀レバ自ラ不愉快ヲ感ズルナリ。愛ニ於テ私欲心始メテ他愛心ト結合シ人ヲシテ社會的動物タルヲ得セシムルモノナリ。比喻ヲ以テ之ヲ云ヘバ愛ニ三個ノ小キ圓筒アリ。其大サ一様ニシテ各直立ス。而シテ此レニ水ヲ注入スルニ其分量一様ナラズ。甲ハ深サ二尺、乙ハ三尺、丙ハ四尺ナリ。然ルニ今細キ管ヲ以テ彼ノ甲乙丙ノ底ヲ互ニ通ズルトキハ最早三管ノ水不同ナル能ハ

大筒底平均シテ各三尺ノ高サトナル。其後ハ甲ニ水ヲ灌クトキハ乙丙ノ水モ亦同時ニ増加シテ三管ノ水量必ズ一樣ナラザル可カラズ。人ノ精神中ニアル同情ノ感ハ彼ノ三管ノ底ヲ鎖キタル細キ管ノ如シ。私利私欲ヲ満足セシメントスル人ト雖モ我子弟ノ非常ニ困難シ居ルヲ見ルトキハ之ヲ見捨テ置キ唯自己一身ノ安樂ヲ以テ快樂トスル如キ人ハアラズ。通常ノ人ハ其愛スル兄弟及ビ愛子ノ困難ヲ見ルニ忍ビズ自己ノ快樂ヲ幾分カ犠牲ニシテ以テ子弟ノ困難ヲ救ハントスルハ彼ノ同情ノ然ラシムル所ナリ。

然リト雖モ又一方ヨリ考フルトキハ人ハ殆ンド同情ナキモノナルガ如シ。開化ノ進歩スルニ隨テ貧富ノ別益甚ダシキハ今日歐米社會ノ有様ニ徴シテ明カナリ。然シテ若シ之レヲ人間自然ノ情ニ任ジテ少シモ制限スル所ナキトキハ富者ハ奢リヲ極メ榮譽榮華殆ンド至ラザル所無キガ如シ。然ルニ其隣リニ住ム貧者ハ日夜身心ヲ勞シ漸ク肉體ノ生活ヲ維持スルノミニシテ一ノ快樂ヲモ有セザルノミナラズ富人ノ爲メニ尙々強迫セラル、有様ナリ。斯ノ如キ有様ヲ見レバ富人ト貧人トノ間ニハ少シモ同情ナキガ如シ。

同情ノ範圍

是ニ由テ之ヲ觀レバ社會ニハ同情ヲ以テ連合シタル家族アリ。又無情ノ競争者ナル富人ト貧人ト別アリ。是等ハ其兩極端ナリ。然レバ同情ノ行ハル、範圍ノ界限何所ニアルヤ我等之ヲ究メザルヲ得ズ。抑モ同情ノ行ハル、範圍ヲ定ムルハ易キニ非ズ。同情ニモ種々強弱ノ度アリ。同情ノ強ク行ハル、範圍甚タ狭シト雖トモ些細ノ同情ハ廣キ範圍ニ行ハル、ガ如シ。概シテ之ヲ云へバ同情ハ自己ト同等以下ノ人々ニ對シテ發スルモノ多シ。爰ニ於テ第一ノ制限アルヲ知ル。又同情ハ自己ニ敵スルモノニ對シテ發スルモノニ非ズ。之レ第二ノ制限ナリ。之ニ加フルニ同情ハ全ク無知ナル人ニ對シテ發スルコトナシ。之レ第三ノ制限ナリ。是等ノ制限ハ全ク同情ノ行ハレザル區域ヲ示シタルモノナリ。尙ホ進ンデ同情ノ度ヲ増加スル原因ヲ究メントス。左ノ數ヶ條ハ同情ノ度ヲ強ムルモノナリ。第一其人ヲ知ルコトノ親密ナルコト。第二其人ト同様ノ位置ニ在ルコト。例へバ商人ハ商人ト感テ同フシ。文人ハ文人ト感テ同フス。殊ニ同シ不幸ニ陥ルモノハ互ニ相憐ムコト最モ強シ。第三已レト目的ヲ同フスルコト。第四血統ノ近キハ父母ヲ共ニスル兄弟ヨリ同人種ニ屬スル一國民ニ至ル迄多少ノ同情ナキコトナシ。第五親子ノ間ニ存スル本能。第

六兩性ノ間ニ存スル本能等此レナリ。而シテ同情ノ實ニ存スルヤ否ヤニ關シテハ之ヲ定ムルコト能ハサルノ場合屢々アルナリ。否、自カララ欺キテ同情ナキトキニ同情アルカ如ク思フコトナキニアラズ同情ノ存スルヤ否ヤハ甲ガ乙ト共ニ喜ビ又乙ト共ニ悲ミ必要アルトキハ喜ビテ乙ノ爲ニ自己ノ快樂ヲ犧牲ニスルコトニ由リテ明カニ知ラル、ナリ。右ニ述ベシハ自然精神ニ發スルノ同情ナリト雖トモ尙ホ一種ノ同情アリ之ヲ倫理的同情ト云フ。倫理的同情ハ之ヲ心理的ニ考フルトハキハ感情の性質最モ少ナクシテ理性及ビ實行的性質ヲ有スルモノナリト雖トモ外貌的性質ニ至リテハ他ノ同性ト類似スルモノナリ例ヘバ自然ノ情ニ依レハ恨ムベキ所ニ愛情ヲ發スルコトナリ即チ敵ヲ愛スルコトナリ右近ノ歌ニ忘らるる身を以テ思はずらかいてし人の生命のをしくもゐる哉ハ倫理的同性ヲ能ク顯ハシタルモノナリ

欽仰 欽仰ハ一種ノ美妙的感情ニシテ總テ美麗ナルモノヲ見テ發スル所ノモノナリ然リト雖トモ愛ニ論セントスル所ハ殊ニ他人ノ容貌品行及ビ人トナリヲ見テ發スル所ノ感情ナリ夫レ精神ノ活動ハ其類甚々多シ故ニ甲ナル人ト乙ナル

人ヲ比較セントスルニハ一點ヲ比較シテ甲乙ノ優劣ヲ定ムル能ハズ此ノ點ニ於テハ甲ハ乙ニ劣ルコトアリ故ニ斯ノ如キ比較ニ於テハ人ト人トヲ比較スルニアラズシテ甲ナル人ノ精神活動ノ一部分ヲ乙ノ精神活動ノ一部分ト比較スルナリ抑モ欽仰ハ自己ト他人ヲ比較スルヨリ生ズルモノナリ自己ニ比シテ優リタル身體及健康ヲ有スル人アレバ其人ヲ欽仰スルハ自然ノ情ナリ又智力ノ點ニ於テ徳義ノ點ニ於テ或ハ勇氣ノ點ニ於テ或ハ其他自ラ得ント欲シテ未ダ得ザル所ノ點ニ於テ自己ヨリ秀ツル人アルトキハ亦其人ヲ欽仰スルノ情自ラ發スルナリ然リ而シテ既ニ人ヲ欽仰スルトキハ自ラ其人ノ行爲ニ倣ハントスルハ亦自然ノ結果ト云フ可キナリ爰ニ於テ愛情ヲ發スルニ至ル

固着 固着ハ人ト人ト或ハ人ト物ト互ニ相引キ合フノ力ニシテ其性質甚々複雑ナルモノナリ例ヘバ人ハ誰ニテモ其故郷ニ固着シ親ク家ニ固着シ親ハ子ニ固着シ又兩性相固着スルモノナリ其依テ來ル所種々アリ今一々之ヲ解明スル能ハズ唯愛情ヲ惹キ起スニ斯ノ如キ要素ノ存スルヲ示スノミ夫レ然リ而シテ愛情ヲ惹キ起スニハ右ノ三要素共ニ存スルコトアリ或ハ其中



一二ノ要素ノミ存スルコトアルナリ。左レバ此三要素ノ結合ニヨリテ愛情ヲ生ズル其有様ヲ左ニ述ベントス。

情ノ兩性

兩性ノ間ニ發スル愛情ニ就イテハ男子ヨリ婦人ニ對スルトキト婦人ヨリ男子ニ對スルトキトハ愛情ノ發スル原因同シキコトアリ又同シカラザルコトアリ。同情ト固着ノ點ニ於テハ兩者相同シキモノナリト雖トモ欽仰ノ點ニ於テハ同シカラズ。男子ハ婦人ノ美ヲ愛シ婦人ハ男子ノ勇氣ヲ慕フ。(六合雜誌第百號愛情論ノ篇ヲ參考スベシ)

情ノ親子

親子ノ愛情モ亦親子ニ對スルコト、子ノ親ニ對スルコト、ヲ區別セザルベカラズ。親子ニ對スル愛情ハ心理的ニ考フルトキハ甚タ單一ナリ。即チ本能的固着及本能的同情ニ基クモノナリ。欽仰ノ情全ク無キガ如シ。而シテ其本能ハ如何ニシテ生ゼシモノナルヤニ就イテハ學者ノ論未タ一定セザルガ如シ。子ノ親ニ對スル愛情ハ固着ニ基クコト最モ強シ。其原因ハ親ノ子ニ與フル衣食住及ヒ其他ノ愛情ニ由ルコトナラン。欽仰ノ情亦少シク存スト雖トモ同情ニ至リテハ小兒ノ精神中ニ存スルコトナシ。而シテ追々成長スルニ及ンデ親子ノ差漸ク減ズルニ從フテ

情ノ朋友

同情自ラ増加スルモノナルガ如シ。

朋友ノ愛情ニハ同情ト固着最モ多クシテ欽仰ノ情ハ存スルコトアリ或ハ存セザルコトアルナリ。君臣間ノ愛情主僕間ノ愛情等ハ重モニ同情及ビ欽仰ニ基キ。些カノ固着モ亦存スルコトアルナリ。憐憫ノ情ハ愛情ト少シク違フ所アリ。蓋シ愛情ハ双方ノ間ニ發スルモノナリト雖トモ憐憫ハ慈惠者ヨリ被惠者ニ對シ發スルモノニシテ被惠者ヨリ慈惠者ニ對スル感情ハ感謝ノ情ナリ。而シテ憐憫ハ重モニ同情ニ基クモノニシテ感謝ノ情ハ固着ヨリ來ルコトアリ。或ハ欽仰ヨリ來ルコトアリ。又倫理的同情ニ基クコトアルナリ。

心愛國

愛國心モ亦愛情ノ一種ナリト雖トモ其感情ノ度ハ強カラズ。其範圍廣ク且ツ他ノ感情ノ爲メニ動サル、コト少シ。固着ハ重モナル要素ニシテ同情ノ感及欽仰モ亦大ニ之ヲ助クルモノナリ。愛國心ヲ惹キ起ス要素ハ大略左ノ如シ。第一、自然故郷ニ固着スルノ情即チ先入主トナルノ理ニ基クモノナリ。第二、父母親族朋友ニ固着スルコト。第三、故郷ノ山川風月ハ殊ニ慕ハシキコト。第四、言語ノ同一ナルコト。ハ人ヲシテ結合セシムル大要素ナルコト。第五、風俗習慣ノ同一ナルガ爲メ同情ヲ生ズ

ルヲ太ニ助クルコト第六同人種ナルコト第八爵位財産名譽及ビ國民ヨリ其人ニ對スル信用ハ愛國ノ情ヲ強ムルモノナリ(大日本教育會雜誌第八十八號愛國ノ心理ノ篇ヲ參考スベシ)

愛情ノ性質大略斯ノ如シ

第十六章 社會

總論

前章ニ於テ論ズル所ノ愛情ハ人間固有ノ情ニシテ必ズ此情ノ發セザル人ナキモノナリ然リ而シテ愛情ノ發スルニ就テ強弱ノ差アリ。一個人ト一個人ノ間ニ發スル愛情ハ最モ強キモノニシテ其ノ愛スル人ノ數増加スルニ從テ愛情ノ度漸々減少スルト共ニ又一種ノ感覺ヲ生ズ其ノ感覺ノ性質ハ夫ノ強キ愛情ヨリ發スル快樂トハ類ヲ異ニスト雖モ一種格段ナル快樂ヲ與フルモノナリ之ヲ尙ホ廣ク推シ及ボシテ一種族或ハ一國民ニ應用スルキハ一種ノ社會的感覚ナルモノヲ生ズ。抑モ社會的感覚ナルモノハ如何ナル性質ヲ有スルモノナルカ社會的感覚ハ一社會ヲ爲シタル人民中ニハ必ズ存スルモノニシテ英人ニハ英人ノ感覺アリ佛人

社會  
有性

ニハ佛人ノ感覺アリ。米人ニハ米人ノ感覺アリ。日本人ニハ日本人ノ感覺アリ俗ニ所謂太和魂ナルモノアリ。如ク此キ感覺ノ存在スルハ決シテ偶然ノコトニ非ズ是レ人ノ奧妙ナル性質ニシテ心理學者ノ研究ヲ免レザル所ナリ。社會的感覚ハ愛國心トハ少シク其趣キヲ異ニスルガ如シ蓋シ愛國心トハ外國ニ對シテ自國ヲ思フノ情ナリト雖トモ社會的感覚ハ必ズシモ外國ニ對シタル時ノミナラズ内國人互ニ交際スル時ト雖トモ現ハルモノニシテ其國ノ風俗習慣ヲ像チ造ルモノナリ。一個人ニ各特有性アリ其特有性ニ由テ各人ノ舉動ニ又種々ノ差異ヲ生ズ短氣ナル人アリ氣長キ人アリ寛大ナル人アリ物事ニ精密ナル人アリ蓋シ是等ハ其人ノ精神ノ特有性ガ身體ニ現ハレ出デタルモノナリ。之ト同シク社會的感覚ナルモノハ一社會或ハ一國家ノ特有性ナリ而シテ此ノ感覺ハ固ヨリ一個人ノ亡ブルト共ニ亡ブルモノニ非ズ永ク社會ノ存在セシ以來漸々ニ發達シタルモノニシテ今日ニ於テ存在スルモノハ其發達ノ結果タルガ故ニ又此後モ我等ノ死スル後永ク社會ト共ニ存在スルモノナリ。

社會的  
感覺  
何ハ如ク

此社會的感覚ナルモノガ人民ノ心ヲ離レテ別ニ存在スルモノナルヤ或ハ又各

心理學

ノ精神中ニアル感覺ヨリ抽象シタル總名ナルヤ之レ亦研究セザルヲ得ズ或ル心理學者ノ説ニ由レバ一種族ニハ必ズ種族精神ナルモノアリ之レハ一個人ノ精神外ニ存在スルモノニシテ種族ト共ニ發達シ又其種族ノ存在スル間永ク生存スルモノナリト云フ又社會ノ活動ハ時代ノ經過スルト共ニ變遷スルモノニシテ其時ニ時ノ精神(サイトガイスト)ナルモノ、存在スルコトヲ主張スル人アリ又他ノ心理學者ノ説ニヨレバ斯ノ如キ精神ハ一個人ヲ離レテ別ニ存在スルモノニ非ズ唯一個人ノ寄り集マリタルモノヲ指シタル抽象的ノ總名ニ過キストスルモノナリト是等ノ説ハ即チ兩極端ナリト云フベシ一個人ヲ離レテ種族魂ノ存在スルコトナシ又種族魂或ハ時ノ精神或ハ社會的的感覺等ノ如キ當ニ抽象的ノ總名ニモアラズ左ニ其性質ヲ説明セントス。

社會的  
感覺  
ノ  
説明

爰ニ二人ノ朋友アリト假定センニ此二人ハ互ニ相愛スルコト深シ而シテ其二人未ダ逢ハザルトキニ於テハ決シテ經驗セザリシ所ノ快樂ヲ覺ユ爰ニ於テ其愛情ハ二人ノ精神中ニアリ又其レヨリ來ル處ノ快樂モ二人ノ精神中ニアルナリ然リト雖トモ今斯ク相愛スル所ノ朋友互ニ分レ又再ビ逢フコトナキニ於テハ假令

夫ノ愛情ハ幾分カハ存スルト雖トモ快樂ヲ感スルコト漸々減少シテ前ト同ク快樂ヲ永久ニ續クル能ハザルハ自然ノ勢ナリト云フベシ左レバ此ノ愛情ハ二人ノ精神外ニ存スルモノニ非ズト雖トモ亦二人ノ精神ノ現象ヨリ抽象シタル總名ニモ非ズ即チ甲ト乙ガ互ニ一ノ格段ナル關係(互ニ相接近スルコト)ニアリテ其愛情ヲ惹キ起スモノナレバ愛情ハ一個人ノ精神ノ性質ト其甲乙ノ格段ナル關係トニ基ヒシタル一種ノ感覺ナリ故ニ愛情ハ甲ノ精神ト乙ノ精神ノ中ニノミ存スルモノニ非ズシテ甲ト乙ノ夫ノ格段ナル關係ニ存スルモノナリト云フヲ得ベシ例ヘバ火ノ燃ユルハ酸素ノミノ性質ニ非ズ又水素ノ性質ノミニモ非ズ酸素ト水素ト相合スル格段ナル關係ニ基クモノナリ又蒸氣力ガ社會ノ爲メニ驚クベキ仕事ヲ爲スモ之ヲ以テ蒸氣力ノミノ働キニ歸スル能ハズ蒸氣力ト機械ノ構造ト相俟ツテ始メテ働キヲ爲スモノナリ之ト同シク種族魂或ハ社會的的感覺ナルモノハ固ヨリ一個人ノ精神中ニ存スルモノナリト雖トモ之ニ加フルニ一個人互ニ相集リ且ツ彼等ガ社會ヲ組織スルコトニヨリテ始メテ夫ノ種族魂或ハ社會的的感覺ヲ生スルヲ得ルモノナリ。

社會的感  
覺的要素

然レバ其要素ハ如何此感覺ヲ發セシムルモノハ一種族ニ就イテ之ヲ云ヘバ種々アリト雖トモ其重モナルモノヲ舉グレバ第一遺傳ニ依テ多少性質ノ相似タルコト第二同一ナル言語ヲ有スルコト第三思想ヲ交換スルノ密ナルコト是ナリ。一社會ニハ必ズシモ同種族ナルニ限ルモノニ非ズ又一社會中同シ言語ヲ有スルニモ限ルモノニ非スト雖トモ畢竟一社會ハ互ニ思想ヲ交換スルコトノ密ナルヲ要ス又尙政府ヲ有スルコト或ハ同シ敵ヲ有スルコト等ナリ然ルニ日本國ノ如キハ一種族ガ一社會ヲナシ又一ノ國家(法律的社會ヲ云フ)ヲ爲スモノナルガ故ニ社會的感覺ノ非常ニ發達シテ夫ノ大和魂ヲ生シタルハ豈ニ偶然ノ事ナランヤ。

他ノ感  
覺ト比  
較ス

左レバ社會的感覺種族的感覺及ニ國家的感覺ハ相互ニ密ニ關スルモノニシテ種族ノ性質社會ノ組織等ニ原因スルモノナルヤ明カナリ而シテ社會ノ風俗習慣文學國家ノ組織等ハ此社會的感覺ノ客觀的ニ現出シタルモノニシテ又之ニ由テ尙ホ此社會的感覺ヲ養成スルコトヲモ爲シ得ルモノナリ。抑モ音樂ハ聽神經ニ由テ來リ美術的感覺ヲ惹キ起スモノナリ彫刻繪畫ノ如キハ視神經ニ由テ來リ美術的感覺ヲ惹キ起スモノナリ然リト雖トモ社會的ノ感覺

倫理  
ノ原理

ニ至テハ殊ニ之ヲ通ズル所ノ外官アルニ非ズ此感覺ノ性質タル甚ダ複雑ナルモノニシテ種々ナル感覺思想等ノ相合シテ始メテ生ズルモノナリ然レトモ音樂及ビ繪畫ト同シク人ノ高尚ナル美術的及倫理的感覺ニ基ヒスルモノニシテ社會ノ組織ガ夫ノ社會的慾望ヲ満足サスルトキハ精神中ニ大ナル快樂ヲ與ヘ然ラザルトキハ大ニ不愉快ノ感覺ヲ生ズ古代ヨリ種々哲學者世ニ輩出シ此社會的慾望ヲ満足サスル爲メニ理想的ノ國家ヲ想像シタルモノハ「レ」ノ共和政治「ベ」コ「ン」ノ新アトランタ「島」「び」「わ」ノ「ユ」「ー」ト「ビ」「ヤ」等ニシテ是等ハ皆畫工ガ理想的ノ美人ヲ畫カントシ音樂者ガ理想的ノ調音ヲ生セントシ倫理家ガ理想ノ德義ヲ想像スルト均シク夫ノ社會的慾望ヲ満足セシメントノ觀念ヨリ生シタルモノナラン。

倫理ノ原理ニ就テハ哲學者中其說種々アリト雖トモ要スルニ左ノ二種ニ分カ  
ル、モノナリ。一個人ヲ以テ倫理ノ基本トスルコト、及ビ社會ヲ以テ其基本トスル  
コト是ナリ第一ノ說ニ由レバ人ノ生存スル最モ高尚ナル目的ハ一個人ノ精神ノ  
能力ヲ充分ニ發達セシメ各能力ガ互ニ相調和シテ圓滿ノ活動ヲ爲シ從テ其人ヲ  
完全ナルモノト爲スコトニアリト云フ此說誤謬ナラズト雖トモ唯倫理ノ一部ニ